財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第408集

長野原一本松遺跡(2)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第15集

2007

国　土　交　通　省
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

長野原一本松遺跡（２）正誤表

	誤	正
Ｐ 11、上から 8 行目	およそＢＰ 1,800 ～	およそＢＰ 18,000 ～
Ｐ 24、下から 15 行目	比較的依存状態の	比較的遺存状態の
Ｐ 43、下から 5 行目	比較的依存状態の、	比較的遺存状態の、
Ｐ 196、上から 17 行目	106 は刺突文を有す、	105 は刺突文を有す、
同、上から 18 行目	三十稲葉式。	三十稲場式。
Ｐ 198、上から 15 行目	三十稲葉式を一括	三十稲場式を一括
Ｐ 205、上から 15 行目	～ 421 は三十稲葉式	～ 421 は三十稲場式

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第408集

長野原一本松遺跡(2)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第15集

2007

国　土　交　通　省
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

5・95・96区全景（南より）

5区全景（西より）

5区全景（南より）

5－559号土坑遺物出土状態

序

長野原一本松遺跡は、山間を深く刻んで流れる吾妻川を望む段丘上に営まれた遺跡です。昭和27年、この吾妻川を堰き止め、洪水調整、水利用の八ッ場ダムの建設計画が発表され、平成６年度よりダム工事に係わる発掘調査が本格的に開始されました。

長野原一本松遺跡は、八ッ場ダム建設に伴う発掘調査として行われた最初の遺跡であり、平成17年度までの足かけ12年に渉って継続調査が実施され、多くの遺構・遺物が検出され、群馬県内においても有数な、縄文時代の集落遺跡であることが明らかになりました。

長野原一本松遺跡の発掘調査は平成17年度をもって一応の終了となり、発掘された多量の遺構・遺物の整理作業が本格的に開始される事となりました。

すでに、平成６～８年度の調査報告は『長野原一本松遺跡(1)』2002として刊行されております。今回の報告は平成９～11年度に調査された遺構・遺物の報告となります。遺跡全体から見ればわずかな範囲ではありますが、一部は集落中心部分にあたる場所でもあり、集落構造の一端を窺い知る資料を提示することができました。今後継続して平成12年度以降の調査成果を刊行の予定です。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

本書が長野原町、吾妻郡内、ひいては群馬県における縄文時代研究の新たな資料として活用されることを願い序といたします。

平成19年３月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　　高　橋　勇　夫

例　言

1．本書は八ッ場ダム建設工事に伴い発掘調査された、長野原一本松遺跡の発掘調査報告書である。平成13年度に、平成６～８年度までの発掘調査成果について報告を行った「長野原一本松遺跡(1)」を刊行しており、本書は第２冊目であり、平成９～11年度の調査成果を報告する。

2．本書で報告する平成９～11年度の調査期間は以下のとおりである。

平成９年度　平成９年４月１日～平成10年３月31日

平成10年度　平成10年４月１日～平成11年３月31日

平成11年度　平成11年４月１日～平成12年３月31日

3．長野原一本松遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字一本松地内に所在する。

4．発掘調査は建設省（現国土交通省）の委託を受け、群馬県教育委員会が財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施された。

5．本報告書に関係する平成９～11年度までの発掘調査組織は以下のとおりである。

平成９年度　理事長　小寺弘之、　常務理事　菅野　清、　事務局長　原田恒弘、　副事務局長兼調査研究第1部長　赤山容三、　管理部長　渡辺　健、　調査研究第2課長　能登　健、　総務課長　小渕淳、　総務課総務係長　笠原秀樹、　経理係長　井上　剛、主任　須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、主事　岡島伸昌、宮崎忠司

平成10年度　理事長　菅野　清、常務理事兼事務局長兼調査研究第1部長　赤山容三、　管理部長　渡辺健、調査研究第2課長　能登　健、総務課長　坂本敏夫、　総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　小山建夫、係長代理　須田朋子、主任　吉田有光、柳岡良宏、岡島伸昌、主事　宮崎忠司

平成11年度　理事長　小野宇三郎、常務理事兼事務局長　赤山容三、管理部長　住谷　進、調査研究第1部長　神保侑史、　調査研究第1課長　能登　健、総務課長　坂本敏夫、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　小山建夫、係長代理　須田朋子、吉田有光、主任　柳岡良宏、岡島伸昌、主事　片岡徳雄

6．本報告書に関する平成17・18年度の整理組織は以下のとおりである。

平成17年度　理事長　高橋勇夫、常務理事　木村裕紀、事業局長　津金沢吉茂、管理部長　矢崎俊夫

八ッ場ダム　調査事務所長　巾　隆之、調査研究部長　佐藤明人、調査研究課長　中沢　悟

庶務係長　町田文雄　　主事　富澤よねこ

平成18年度　理事長　高橋勇夫、常務理事　木村裕紀、事業局長　津金沢吉茂、総務部長　萩原　勉、資料整理部長　中東耕志、　調査研究部長　西田健彦　総務部長　萩原　勉

総務Ｇ　笠原秀樹、　須田朋子、今泉大作、栗原幸代

経理Ｇ　石井　清、斉藤恵利子、柳岡良宏、佐藤聖行

八ッ場ダム調査事務所長　巾　隆之、調査研究部長　佐藤明人、庶務ＧＬ　吉田有光

7．発掘調査期間　平成９年度　平成９年４月１日～平成９年12月31日

平成10年度　平成10年４月１日～平成10年12月31日

平成11年度　平成11年４月１日～平成11年12月31日

8．発掘調査担当者　平成９年度　山口逸弘・関　俊明・諸田康成・石田　真

平成10年度　山口逸弘・児島良昌・石田　真・田中　雄

平成11年度　小野和之・大西雅広・石田　真・田村　博・田中　雄

9．整理期間　平成17年度　平成17年10月１日～平成18年３月31日
　　平成18年度　平成18年４月１日～平成19年３月31日

10．報告書作成担当
編集担当　小野和之（平成17・18年度）
本文執筆　小野和之・大西雅広（中・近世遺物観察表）
遺物写真撮影　佐藤元彦
遺物保存処理　関　邦一、土橋まり子、小材浩一、津久井桂一、森田智子
獣骨鑑定　楢崎修一郎
石材鑑定　渡辺弘幸
整理補助員　石村千恵美　水出礼子　竹潤勝子　黒岩扶美枝　富岡美代子（平成17年度）
石村千恵美　黒岩扶美枝　篠原麻衣　加辺保晶　安ヵ川京美　吉田美雪（平成18年度）

11．出土遺物および図面・写真等の記録は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

12．発掘調査および本書の作成にあたっては下記の機関、諸氏よりご教示、ご指導をいただいた。記して感謝の意を表する。（敬称略）
国土交通省関東地方建設局八ッ場ダム工事事務所、長野原町教育委員会、
白石光男　富田孝彦

凡　例

１本書で使用した方位は、国家座標の北を示す。
２等高線・遺構断面図等に記した数値は海抜標高を示す。
３付図を含む遺構図の縮尺は、原則として以下の通りである。
遺構全体図１／1000　各区別遺構全体図１／200
住居跡１／60　炉１／30　カマド１／30　埋設土器１／20　配石・土坑１／40
４遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。
・土器　完形・半完形1／4または1／6　破片類1／3
・石器　石皿、台石、丸石等の大形品1／4または1／6　打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石等1／3
石鏃、石錐等4／5　垂飾品等の小形品1／2
・鉄製品・古銭1／2
５遺構・遺物図に使用したスクリーントーンは以下のことを示す。
遺構　焼土
遺物(石器)使用面(磨石等)　摩耗面(打製石斧)
(土器)赤彩痕

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
写真図版目次
表目次
第１章　長野原一本松遺跡の発掘調査 …… 1
　第１節　発掘調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘調査の方法 …… 2
　第３節　調査経過 …… 3
第２章　地理的及び歴史的環境 …… 6
　第１節　地理的環境 …… 6
　第２節　歴史的環境 …… 6
第３章　検出された遺構と遺物 …… 11
　第１節　基本層序 …… 11
　第２節　遺構・遺物の概要 …… 13
　第３節　縄文時代 …… 21
　１住居跡 …… 21
　２柱穴列 …… 111
　３焼甕 …… 113
　４炉 …… 116
　５配石 …… 118
　６土坑・ピット …… 119
　７遺構外出土遺物 …… 194
　（１）土器・土製品 …… 194
　（２）石器・石製品 …… 276
　第４節　弥生・古墳時代 …… 301
　第５節　平安時代 …… 301
　１住居跡 …… 301
　第６節　中・近世 …… 304
　１土坑 …… 305
　２遺構外出土遺物 …… 305
第４章　自然化学分析 …… 307
第５章　まとめ …… 310

挿図目次

第 1 図　長野原一本松遺跡位置図……1
第 2 図　長野原一本松遺跡調査区及び経過図……5
第 3 図　周辺の遺跡　折込み
第 4 図　基本層序……12
第 5 図　3・4区全体図　折込み
第 6 図　4・5区全体図　折込み
第 7 図　5区・6区・95区・96区全体図　折込み
第 8 図　5−10号住居跡(1)……21
第 9 図　5−10号住居跡(2)……22
第 10 図　5−10号住居跡出土遺物(1)……23
第 11 図　5−10号住居跡出土遺物(2)……24
第 12 図　5−19号住居跡……25
第 13 図　5−19号住居跡出土遺物……26
第 14 図　5−20号住居跡……27
第 15 図　5−20号住居跡出土遺物(1)……28
第 16 図　5−20号住居跡出土遺物(2)……29
第 17 図　5−21号住居跡……30
第 18 図　5−21号住居跡出土遺物(1)……31
第 19 図　5−21号住居跡出土遺物(2)……32
第 20 図　5−22号住居跡……34
第 21 図　5−22号住居跡出土遺物(1)……35
第 22 図　5−22号住居跡出土遺物(2)……36
第 23 図　5−23号住居跡……38
第 24 図　5−23号住居跡出土遺物……39
第 25 図　5−24号住居跡……40
第 26 図　5−24号住居跡出土遺物……41
第 27 図　5−25号住居跡(1)……42
第 28 図　5−25号住居跡(2)……43
第 29 図　5−25号住居跡出土遺物(1)……44
第 30 図　5−25号住居跡出土遺物(2)……45
第 31 図　5−26号住居跡……46
第 32 図　5−26号住居跡出土遺物(1)……47
第 33 図　5−26号住居跡出土遺物(2)……48
第 34 図　5−27号住居跡……49
第 35 図　5−27号住居跡出土遺物……49
第 36 図　5−30号住居跡(1)……51
第 37 図　5−30号住居跡(2)……52
第 38 図　5−30号住居跡出土遺物(1)……53
第 39 図　5−30号住居跡出土遺物(2)……54
第 40 図　5−30号住居跡出土遺物(3)……55
第 41 図　5−30号住居跡出土遺物(4)……56
第 42 図　5−30号住居跡出土遺物(5)……57
第 43 図　5−31号住居跡(1)……58
第 44 図　5−31号住居跡(2)……59
第 45 図　5−31号住居跡出土遺物(1)……60
第 46 図　5−31号住居跡出土遺物(2)……61
第 47 図　5−31号住居跡出土遺物(3)……62
第 48 図　5−33号住居跡……64
第 49 図　5−33号住居跡出土遺物(1)……65
第 50 図　5−33号住居跡出土遺物(2)……66
第 51 図　5−34号住居跡……67
第 52 図　5−34号住居跡出土遺物(1)……68
第 53 図　5−34号住居跡出土遺物(2)……69
第 54 図　5−34号住居跡出土遺物(3)……70
第 55 図　5−35号住居跡……71
第 56 図　5−35号住居跡出土遺物(1)……72
第 57 図　5−35号住居跡出土遺物(2)……73
第 58 図　5−36号住居跡(1)……74
第 59 図　5−36号住居跡(2)……75
第 60 図　5−36号住居跡(3)……76
第 61 図　5−36号住居跡出土遺物(1)……77
第 62 図　5−36号住居跡出土遺物(2)……78
第 63 図　5−36号住居跡出土遺物(3)……79
第 64 図　5−36号住居跡出土遺物(4)……80
第 65 図　5−36号住居跡出土遺物(5)……81
第 66 図　5−37号住居跡(1)……82
第 67 図　5−37号住居跡(2)……83
第 68 図　5−37号住居跡出土遺物(1)……84
第 69 図　5−37号住居跡出土遺物(2)……85
第 70 図　5−38・39号住居跡(1)……86
第 71 図　5−38・39号住居跡(2)……87
第 72 図　5−38・39号住居跡(3)……88
第 73 図　5−38号住居跡出土遺物……89
第 74 図　5−39号住居跡出土遺物(1)……90
第 75 図　5−39号住居跡出土遺物(2)……91
第 76 図　5−39号住居跡出土遺物(3)……92
第 77 図　5−39号住居跡出土遺物(4)……93
第 78 図　5−39号住居跡出土遺物(5)……94
第 79 図　5−39号住居跡出土遺物(6)……95
第 80 図　5−39号住居跡出土遺物(7)……96
第 81 図　5−39号住居跡出土遺物(8)……98
第 82 図　5−40号住居跡……99
第 83 図　5−41号住居跡……100
第 84 図　5−41号住居跡出土遺物……101
第 85 図　5−42号住居跡……102
第 86 図　5−43号住居跡……103
第 87 図　5−43号住居跡出土遺物……103
第 88 図　5−44号住居跡……104
第 89 図　5−44号住居跡出土遺物……104
第 90 図　5−53号住居跡……106
第 91 図　6−9号住居跡(1)……107
第 92 図　6−9号住居跡(2)……108
第 93 図　6−9号住居跡出土遺物(1)……109
第 94 図　6−9号住居跡出土遺物(2)……110
第 95 図　6−9号住居跡出土遺物(3)……111
第 96 図　5−1号円形柱穴列……112
第 97 図　5・96区概要……113
第 98 図　5−1号埋要……114
第 99 図　5−6号埋要　96−1号埋要……115
第100図　5区　炉……116
第101図　4−1号・5−4号炉跡出土遺物……117
第102図　5−2号配石……118
第103図　土坑(1)……120
第104図　土坑(2)……121
第105図　土坑(3)……122
第106図　土坑(4)……123
第107図　土坑(5)……124
第108図　土坑(6)……125
第109図　土坑(7)……126
第110図　土坑(8)……127
第111図　土坑(9)……128
第112図　土坑(10)……129
第113図　土坑(11)……130
第114図　土坑(12)……131
第115図　土坑(13)……132
第116図　土坑(14)……133
第117図　土坑(15)……134
第118図　土坑(16)……135
第119図　土坑(17)……136
第120図　土坑(18)……137
第121図　土坑(19)……138
第122図　土坑(20)……139
第123図　土坑(21)……140
第124図　土坑(22)……141
第125図　土坑(23)……142
第126図　土坑(24)……143
第127図　土坑(25)……144
第128図　土坑(26)……145
第129図　土坑(27)……146
第130図　土坑(28)……147
第131図　土坑(29)……148
第132図　土坑(30)……149
第133図　土坑(31)……150
第134図　土坑(32)……151
第135図　土坑(33)……152
第136図　土坑(34)……153

第137図　土坑(35)……154
第138図　ピット(1)……155
第139図　ピット(2)……156
第140図　土坑出土遺物(1)……158
第141図　土坑出土遺物(2)……160
第142図　土坑出土遺物(3)……161
第143図　土坑出土遺物(4)……163
第144図　土坑出土遺物(5)……165
第145図　土坑出土遺物(6)……166
第146図　土坑出土遺物(7)……168
第147図　土坑出土遺物(8)……169
第148図　土坑出土遺物(9)……171
第149図　土坑出土遺物(10)……173
第150図　土坑出土遺物(11)……175
第151図　土坑出土遺物(12)……176
第152図　土坑出土遺物(13)……178
第153図　土坑出土遺物(14)……180
第154図　土坑出土遺物(15)……181
第155図　土坑出土遺物(16)……183
第156図　土坑出土遺物(17)……184
第157図　土坑出土遺物(18)……186
第158図　土坑出土遺物(19)……187
第159図　土坑出土遺物(20)……189
第160図　遺構外出土器(1)……206
第161図　遺構外出土器(2)……207
第162図　遺構外出土器(3)……208
第163図　遺構外出土器(4)……209
第164図　遺構外出土器(5)……210
第165図　遺構外出土器(6)……211
第166図　遺構外出土器(7)……212
第167図　遺構外出土器(8)……213
第168図　遺構外出土器(9)……214
第169図　遺構外出土器(10)……215
第170図　遺構外出土器(11)……216
第171図　遺構外出土器(12)……217
第172図　遺構外出土器(13)……218
第173図　遺構外出土器(14)……219
第174図　遺構外出土器(15)……220
第175図　遺構外出土器(16)……221
第176図　遺構外出土器(17)……222
第177図　遺構外出土器(18)……223
第178図　遺構外出土器(19)……224
第179図　遺構外出土器(20)……225
第180図　遺構外出土器(21)……226
第181図　遺構外出土器(22)……227
第182図　遺構外出土器(23)……228
第183図　遺構外出土器(24)……229
第184図　遺構外出土器(25)……230
第185図　遺構外出土器(26)……231
第186図　遺構外出土器(27)……232
第187図　遺構外出土器(28)……233
第188図　遺構外出土器(29)……234
第189図　遺構外出土器(30)……235
第190図　遺構外出土器(31)……236
第191図　遺構外出土器(32)……237
第192図　遺構外出土器(33)……238
第193図　遺構外出土器(34)……239
第194図　遺構外出土器(35)……240
第195図　遺構外出土器(36)……241
第196図　遺構外出土器(37)……242
第197図　遺構外出土器(38)……243
第198図　遺構外出土器(39)……244
第199図　遺構外出土器(40)……245
第200図　遺構外出土器(41)……246
第201図　遺構外出土器(42)……247
第202図　遺構外出土器(43)……248
第203図　遺構外出土器(44)……249
第204図　遺構外出土器(45)……250
第205図　遺構外出土器(46)……251
第206図　遺構外出土器(47)……252
第207図　遺構外出土器(48)……253
第208図　遺構外出土器(49)……254
第209図　遺構外出土器(50)……255
第210図　遺構外出土器(51)……256
第211図　遺構外出土器(52)……257
第212図　遺構外出土器(53)……258
第213図　遺構外出土器(54)……259
第214図　遺構外出土器(55)……260
第215図　遺構外出土器(56)……261
第216図　遺構外出土器(57)……262
第217図　遺構外出土器(58)……263
第218図　遺構外出土器(59)……264
第219図　遺構外出土器(60)……265
第220図　遺構外出土器(61)……266
第221図　遺構外出土器(62)……267
第222図　遺構外出土器(63)……268
第223図　遺構外出土器(64)……269
第224図　遺構外出土器(65)……270
第225図　遺構外出土器(66)……271
第226図　遺構外出土器(67)……272
第227図　遺構外出土器(68)……273
第228図　遺構外出土器(69)……274
第229図　遺構外出土器(70)……275
第230図　石器組成グラフ……276
第231図　遺構外出土石器(1)……277
第232図　遺構外出土石器(2)……278
第233図　遺構外出土石器(3)……279
第234図　遺構外出土石器(4)……280
第235図　遺構外出土石器(5)……281
第236図　遺構外出土石器(6)……282
第237図　遺構外出土石器(7)……283
第238図　遺構外出土遺物……301
第239図　5－29号住居跡……302
第240図　5－29号住居跡出土遺物……303
第241図　5－32号住居跡……304
第242図　5－32号住居跡出土遺物……304
第243図　5－490・491号土坑……305
第244図　中・近世遺構外出土遺物……305
第245図　出土土器集成図(1)……312・313
第246図　出土土器集成図(2)……314
第247図　出土土器集成図(3)……315
第248図　器種別出土分布図(1)……316
第249図　器種別出土分布図(2)……317
付図　長野原一本松遺跡全体図

表目次

表1　周辺の遺跡一覧表……8
表2　住居・柱穴列・土坑・ピット一覧表……190
表3　出土石器一覧表……284
表4　5－29号住居跡遺物観察表……303
表5　5－32号住居跡遺物観察表……304
表6　中・近世遺構外出土遺物観察表……306

写真図版目次

PL1　5・95区全景（上空より）
6区全景（東より）
5区全景（南より）
PL2　5区全景（西より）
PL3　5－10号住居跡全景（南より）
5－10号住居跡炉（東より）

5－10号住居跡堀方全景（南より）
5－19号住居跡全景　南より
5－19号住居跡炉（西より）

PL4　5－20号住居跡全景（東より）
5－20号住居跡遺物出土状態（東より）
5－20号住居跡遺物出土状態（南より）
5－20号住居跡炉（北より）
5－20号住居跡炉堀方（南より）

PL5　5－21号住居跡全景（南より）
5－21号住居跡遺物出土状態（南東より）
5－21号住居跡遺物出土状態（南より）
5－22号住居跡全景（東より）
5－24号住居跡炉（東より）

PL6　5－20・25号住居跡全景（南より）
5－25号住居跡遺物出土状態（西より）
5－25号住居跡炉（東より）
5－25号住居跡埋妻出土状態（東より）
5－26号住居跡遺物出土状態（東より）

PL7　5－26号住居跡埋妻検出状況（東より）
5－26号住居跡掘方全景（東より）
5－27号住居跡炉（南より）
5－27号住居跡掘方全景（東より）
5－20・25・6－9号住居跡全景（東より）

PL8　5－30号住居跡全景（南より）
5－30号住居跡遺物出土状態（南より）
5－30号住居跡遺物出土状態（南より）
5－30号住居跡炉遺物出土状態（西より）
5－30号住居跡炉（北より）

PL9　5－30号住居跡埋妻検出状況（南より）
5－30号住居跡埋妻セクション（南より）
5－31号住居跡全景（南より）
5－31号住居跡炉（南より）
5－31号住居跡炉堀設土器（南より）

PL10　5－33号住居跡全景（南より）
5－33号住居跡炉（南より）
5－33号住居跡炉（北より）
5－33号住居跡埋妻（西より）
5－33号住居跡遺物出土状態（北より）

PL11　5－34号住居跡遺物出土状態（南より）
5－34号住居跡全景（南より）
5－35号住居跡遺物出土状態（南より）
5－35号住居跡全景（南より）
5－36号住居跡遺物出土状態（南より）

PL12　5－36号住居跡全景（南より）
5－36号住居跡炉体土器（南より）
5－36号住居跡2号炉（東より）
5－36号住居跡2号炉埋設土器（南より）
5－36号住居跡2号炉掘方（南より）
5－37号住居跡全景（南より）
5－37号住居跡遺物出土状態（南より）
5－38号住居跡全景（南より）

PL13　5－38号住居跡ピット1遺物出土状態（南より）
5－39号住居跡全景（南より）
5－39号住居跡遺物出土状態（南東より）
5－39号住居跡ピット2遺物出土状態（東より）
5－39号住居跡炉検出状況（南東より）
5－40号住居跡全景（南より）
5－40号住居跡炉（南より）
5－41号住居跡全景（南より）

PL14　5－41号住居跡炉セクション（南より）
5－41号住居跡炉遺物出土状態（南より）
5－41号住居跡炉埋設土器（南より）
5－42号住居跡全景（南より）
5－43号住居跡遺物出土状態（東より）
5－43号住居跡全景（南西より）
5－43号住居跡炉（南より）
5－44号住居跡全景（南より）

PL15　5－44号住居跡炉（西より）
5－44号住居跡炉堀方（西より）
5－53号住居跡全景（南より）
5－53号住居跡炉（南より）
6－9号住居跡全景（南より）

PL16　6－9号住居跡遺物出土状態（西より）
6－9号住居跡炉（南より）
5－1号円形柱穴列全景（南より）
4－1号炉（南より）
5－2号炉（東より）

PL17　5－4号炉（南より）
5－1号埋妻セクション（北より）
5－2号埋妻セクション（西より）
5－3号埋妻検出状況（北より）
5－5号埋妻セクション（南より）
5－6号埋妻セクション（東より）
96－1号埋妻セクション（南西より）
5－2号配石下土坑遺物出土状態（西より）

PL18　5－2号配石下土坑骨片出土状態（南より）
3区全景（南より）
3区全景（西より）
3－4号土坑全景（西より）
3－5号土坑全景（南西より）

PL19　3－6号土坑全景（南西より）
3－7号土坑全景（南より）
4区全景（東より）
4－32号土坑セクション（南より）
4－33号土坑全景（北より）

PL20　4－34号土坑全景（東より）
4－35号土坑全景（東より）
4－36号土坑全景（北より）
4－37号土坑全景（北より）
4－38号土坑全景（北より）
4－39号土坑全景（東より）
4－40号土坑全景（東より）

PL21　4－41号土坑全景（南より）
4－42号土坑全景（南より）
4－43号土坑全景（南より）
4－44号土坑全景（南より）
5－373号土坑全景（南より）
5－374号土坑全景（西より）
5－381号土坑全景（東より）
5－382号土坑全景（東より）

PL22　5－383号土坑全景（東より）

5－384号土坑全景（東より）
5－385号土坑全景（北東より）
5－386号土坑全景（東より）
5－393号土坑全景（南より）
5－394号土坑全景（南より）
5－395・396号土坑全景（東より）
5－418号土坑遺物出土状態（南より）

PL23　5－419号土坑遺物出土状態（南より）
5－461号土坑全景（北より）
5－461号土坑遺物出土状態（北より）
5－493号土坑全景（西より）
5－494号土坑遺物出土状態（西より）
5－495号土坑全景（西より）
5－496号土坑全景（南より）

PL24　5－497号土坑全景（北西より）
5－498号土坑セクション（北東より）
5－498号土坑全景（北東より）
5－499号土坑全景（東より）
5－500号土坑セクション（南より）
5－500号土坑全景（南より）
5－501号土坑セクション（西より）
5－501号土坑全景（西より）

PL25　5－502号土坑セクション（南より）
5－502号土坑全景（南より）
5－503号土坑全景（東より）
5－504号土坑全景（東より）
5－505号土坑全景（南より）
5－506号土坑全景（南より）
5－507号土坑全景（東より）
5－508号土坑大形礫出土状態（南より）

PL26　5－509号土坑全景（南より）
5－510号土坑全景（南より）
5－509号・510号土坑全景（西より）
5－511号土坑全景（東より）
5－512号土坑セクション（東より）
5－513号土坑全景（北より）
5－514号土坑全景（北より）
5－515(左)・516(右)号土坑セクション（東より）

PL27　5－515・516・519号土坑全景（南より）
5－517号土坑全景（南より）
5－520号土坑全景（南より）
5－521号土坑全景（南より）
5－522号土坑全景（南より）
5－523号土坑全景（北より）
5－524号土坑全景（南より）
5－525号土坑全景（南より）

PL28　5－526号土坑大形礫出土状態（南より）
5－526号土坑全景（南より）
5－527号土坑全景（南より）
5－528号土坑全景（南より）
5－529号土坑全景（南より）
5－530（左）・531号土坑全景（南より）
5－532号土坑全景（東より）
5－533号土坑遺物出土状態（東より）

PL29　5－533号土坑全景（東より）
5－534号土坑全景（南より）
5－535(左)・536号土坑全景（南より）
5－537号土坑全景（東より）
5－538号土坑全景（東より）
5－539号土坑全景（北より）
5－540号土坑全景（東より）
5－541号土坑全景（東より）

PL30　5－542号土坑（5－1号円形柱穴列）全景（東より）
5－543号土坑全景（南より）
5－544号土坑全景（南より）
5－545号土坑全景（南より）
5－546号土坑全景（西より）
5－547(奥)・548号土坑全景（東より）
5－549号土坑全景（南より）
5－550(右)・574(左)号土坑（東より）

PL31　5－551号土坑セクション（東より）
5－552号土坑全景（南より）
5－553号土坑全景（南より）
5－554号土坑全景（南より）
5－555号土坑（5－1号円形柱穴列）全景（北より）
5－556号土坑全景（南西より）
5－557号土坑大形礫出土状態（東より）
5－558号土坑全景（南より）

PL32　5－559号土坑セクション（南東より）
5－559号土坑遺物出土状態（南東より）
5－559号土坑遺物出土状態（東より）
5－559号土坑全景（東より）
5－560号土坑全景（西より）

PL33　5－561号土坑全景（南より）
5－562号土坑（5－1号円形柱穴列）全景（南より）
5－563号土坑全景（南より）
5－564号土坑全景（東より）
5－565号土坑全景（南東より）
5－567号(手前)・570号土坑全景（南より）
5－568号土坑全景（南より）
5－569号土坑全景（南より）

PL34　5－571号土坑全景（西より）
5－572号土坑全景（南より）
5－573号土坑全景（南より）
5－575号土坑遺物出土状態（南より）
5－576号土坑全景（南より）
5－577号土坑全景（南より）
5－578号土坑セクション（南より）
5－579号土坑全景（南東より）

PL35　5－580号土坑全景（南より）
5－582号土坑全景（南より）
5－583号土坑全景（南より）
5－584(右)・585号土坑全景（南より）
5－586号土坑セクション（南より）
5－587号（手前）土坑全景（南より）
5－589号土坑全景（東より）
5－590号土坑全景（東より）

PL36　5－591号土坑セクション（南より）
5－592号土坑セクション（南より）
5－593号土坑全景（西より）
5－594号土坑セクション（東より）
5－595号土坑全景（南より）
5－596号土坑全景（西より）
5－597号土坑全景（東より）
5－598(左)・599号土坑全景（西より）

P L37　5－600号土坑全景（南東より）
5－601号土坑全景（東より）
6－131号土坑全景（西より）
6－132号土坑全景（北より）
6－133号土坑全景（西より）
6－134号土坑セクション（南より）
6－135号土坑全景（南より）
6－136号土坑全景（北より）

P L38　6－137号土坑全景（南より）
6－138号土坑セクション（南より）
6－139号土坑全景（東より）
6－140号土坑全景（南より）
6－141号土坑全景（南より）
6－142号土坑セクション（南より）
6－143号土坑全景（北より）
6－144号土坑全景（南より）

P L39　6－145号土坑全景（南より）
6－146号土坑全景（南より）
6－147号土坑全景（南より）
6－148号土坑全景（南より）
6－149号土坑セクション（南より）
6－150号土坑遺物出土状態（西より）
6－151号土坑全景（南より）
6－152号土坑セクション（南より）

P L40　6－153号土坑全景（西より）
6－154号土坑全景（南東より）
6－155号土坑遺物出土状態（南より）
6－156号土坑全景（南東より）
6－157号土坑全景（南より）
6－158号土坑全景（東より）
6－159号土坑全景（北より）
6－160号土坑全景（南より）

P L41　6－161号土坑セクション（東より）
6－162号土坑遺物出土状態（東より）
6－163号土坑全景（南より）
6－164号土坑全景（東より）
6－165号土坑セクション（南より）
6－166号土坑セクション（南より）
6－167号土坑全景（南より）
6－168号土坑全景（南より）

P L42　6－169号土坑全景（東より）
6－170号土坑全景（東より）
6－171号土坑全景（南より）
6－172号土坑全景（南より）
6－173号土坑（東より）
6－174(左)・175号土坑全景（東より）
6－176号土坑全景（南より）
6－177号土坑全景（南より）

P L43　95－1号土坑全景（北より）
95－2号土坑全景（東より）
96－4号土坑全景（南より）
96－5号土坑全景（南より）
96－6号土坑全景（南より）
96－8号土坑全景（南東より）
96－9号土坑全景（東より）
96－10号土坑全景（北より）

P L44　5区礎石?（南より）
5－29号住居跡全景（西より）
5－29号住居跡かまど（北西より）
5－29号住居跡裾方全景（南より）
5－32号住居跡全景（南より）
5－32号住居跡遺物出土状態（南より）
5－490号土坑遺物出土状態（南より）
5－491号土坑全景（南より）

P L45　5－10・19号住居跡出土遺物
P L46　5－19・20号住居跡出土遺物
P L47　5－21号住居跡出土遺物
P L48　5－22号住居跡出土遺物
P L49　5－23・24・25号住居跡出土遺物
P L50　5－25・26号住居跡出土遺物
P L51　5－26・27・30号住居跡出土遺物
P L52　5－30号住居跡出土遺物
P L53　5－30号住居跡出土遺物
P L54　5－30・31号住居跡出土遺物
P L55　5－31・33号住居跡出土遺物
P L56　5－33・34号住居跡出土遺物
P L57　5－34・35号住居跡出土遺物
P L58　5－35・36号住居跡出土遺物
P L59　5－36号住居跡出土遺物
P L60　5－36号住居跡出土遺物
P L61　5－36・37号住居跡出土遺物
P L62　5－38・39号住居跡出土遺物
P L63　5－39号住居跡出土遺物
P L64　5－39号住居跡出土遺物
P L65　5－39号住居跡出土遺物
P L66　5－39・41号住居跡出土遺物
P L67　5－43・44・53・6－9号住居跡出土遺物
P L68　6－9号住居跡、5・96区埋要出土遺物
P L69　96区堀要、4・5区炉、4・5区土坑出土遺物
P L70　5区土坑出土遺物
P L71　5区土坑出土遺物
P L72　5区土坑出土遺物
P L73　5区土坑出土遺物
P L74　5区土坑出土遺物
P L75　5区土坑出土遺物
P L76　5・6区土坑出土遺物
P L77　6区土坑出土遺物
P L78　6・95区土坑出土遺物
P L79　95・96区土坑出土遺物
P L80　4区遺構外出土土器
P L81　4区遺構外出土土器
P L82　4・5区遺構外出土土器
P L83　5区遺構外出土土器
↓
P L97　5区・6区遺構外出土土器
P L98　6区遺構外出土土器
P L99　95区遺構外出土土器
↓
P L108　96区遺構外出土土器
P L109　96区遺構外出土土器
↓
P L121　96区遺構外出土土器
P L122　5区遺構外出土石器
↓
P L134　5区遺構外出土石器
P L135　6・95区遺構外出土石器
P L136　95区遺構外出土石器
↓
P L138　95区遺構外出土石器
P L139　95・96区遺構外出土石器
P L140　96区遺構外出土石器
↓
P L144　96区遺構外出土石器

第１章　長野原一本松遺跡の発掘調査

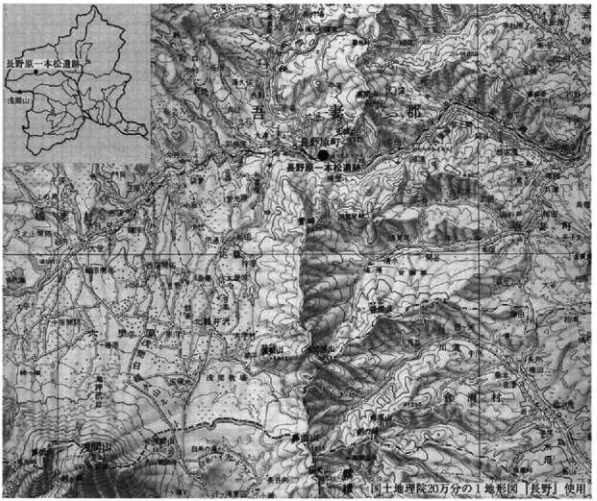
第１節　発掘調査に至る経緯

八ッ場ダム建設に伴う発掘調査は、平成６年度より開始され長野原一本松遺跡では、長野原地区の代替地造成に伴う発掘調査として行われた。平成９年度は代替地東部分を、平成10年度は代替地東端部分、平成11年度は代替地中心部の一部、および東側谷地部分の調査を実施した。

平成９年度の調査は、代替地調査予定地の南西部（５区および95区の西側に掛かる部分から96区に掛かる谷地部分）の調査を実施、住居跡は土坑等との切り合いが多く、堆積する黒色土も厚く、さらに大小の礫が遺構の確認を困難にしていた。このため住居跡の多くが明瞭な形では検出できなかった。96区の谷地部分では黒色土中より多くの土器・石器が出土、遺物の廃棄場的様相を呈す。

平成10年度の調査は工事用の進入路関連の調査である。３区および４区にまたがる細長い調査区で、面積はおよそ1,000㎡である。南に谷を擁す傾斜地で、土坑10基、及びピットを検出した。

平成11年度の調査は工事用進入路関連の５区から４区にまたがる。５区では住居跡18軒、土坑111基を調査した。住居については２棟が平安時代、他は縄文時代中期後半から後期のものである。6区では平成９年度に調査を行った東側部分と併せて全容が明らかになり、新たに住居跡１軒を検出した。土坑については45基を調査した。



第１図　長野原一本松遺跡の位置図

第２節　発掘調査の方法

長野原一本松遺跡の発掘調査は平成６年より開始され、調査にあたって調査区全体を覆う形でグリッド設定を行った。設定にあたっては、日本平面直角座標第Ⅸ系を使用し、１km方眼の大グリッド「地区」を設定しさらにこの中を100m方眼の中グリッド「区」に分けた。この区が調査区を表す名称として使用されている。

中グリッド「区」の中をさらに４m方眼で細分したものを最小グリッドとして使用している。このグリッドの呼称は、中グリッドの南東隅を起点とし、北方向に1・2・3・・・と数字を付し25まで、西方向へA・B・C・・・とYまで付した。こうして設定した最小グリッドの呼称は中グリッド「区」、小グリッドの南東交点（例えばA－１）を付け４m方眼名とした。

遺構番号は区毎に1から付し年度を超える場合でも、続き番号を使用している。このため年度をまたいで調査を行った遺構については同番号を用いている。

発掘調査の手順は調査対称区域を委託者側立ち会いの下で範囲および上物等の確認を行った。調査では、まず重機によって表土の除去を行い、遺構確認面を確定した。場所により２ないし３面調査が必要となる場合があり、特に谷地部分については黒色土の堆積状況により注意を要した。表土除去後遺構確認作業に入り、時期の新しい遺構から掘り下げを行った。また黒色土の堆積が厚く遺構の検出が難しい場所については、グリッド方眼を設定し、人力による掘り下げを行った。また遺物については極力出土位置に留めて掘削を行い、遺構等の確認ができない部分についてはグリッド毎に取り上げを行った。

確認された各遺構の調査は基本的に土層観察用のベルトを１ないし２本を設定し掘り下げた。この際遺物については原位置に留め、床面あるいは底面確認後土層観察を行い、写真、実測後ベルトの除去を行う。

ベルト除去後は遺物出土状態の観察、写真・実測を行い取り上げを行った。遺物取り上げ後は土坑等については底面の確認、精査を行い平面図、断面図、写真撮影を行う。また、住居については、床面の精査、柱穴、埋甕、炉の確認を行い、それぞれの断面図、平面図、写真撮影後掘り上げを行った。その後全体の写真、平面図、断面図を取り生活面の調査を終了する。最後に床面、炉、埋甕等の断ち割りを行い、堀方面の調査、検出を行い、床下土坑、重複等の確認をし調査を終了する。

各遺構調査後は全体図の作成、写真撮影を行なった。なお、発掘調査は4月から12月までとし、凍結等により１～３月の間は行っていない。

八ッ場ダム関連遺跡の略称として調査開始時に協議を行い下記の略号を付すこととなった。

１．八ッ場ダムの略称　　ＹＤ（Yanba－Dam）

２．遺跡番号　長野原町の５地区に１～５までの番号を付し、それぞれの地区内における調査順に1から始まる連番を用いることとした。

１－川原畑地区、２－川原湯地区、３－横壁地区、４－林地区、５－長野原地区である。ちなみに、長野原一本松遺跡はＹＤ（八ッ場ダムの略称）、５（長野原地区）、01（地区内における1番目の調査遺跡）となり、ＹＤ５－01が長野原一本松遺跡の略称となる。

調査時における取り上げ遺物のラベル、各図面には基本的にこの略称が付されている。但し、報告書作成時には基本的に遺跡略称は使用していない。

なお、住居、土坑等の遺構番号については100方眼の中グリッド「区」毎に、１から付番し、当該年度の調査では、前年度からの続き番号を使用している。

第３節　発掘調査の経過

本節では各年度毎に調査経過の概略を記す。調査は４月に開始し12月で終了となるが、平成10年度に関しては10月よりの開始となる。

平成９年度

４月

調査開始、５区、96区の表土除去後遺構の確認作業を行う。

５月

96区において陥し穴検出、黒色土中に多量の土器(大型品含む)及び石器出土。５区において住居、土坑を検出、重複多く調査難航。陥し穴調査、また単独の埋甕等を検出。

６月

住居跡は北端において重複する19・26号住居跡を検出。調査区の西端に検出した20・25号住居跡の調査。21号住居は掘り込みは確認できず、石囲い炉のみの検出。

22・23・27号住居は３軒が重複、検出した炉は23号住の炉か、堀方を行う中で最も古いと考えられる27号住の炉を検出。

５区、385号土坑全堀。８月末で96区の調査終了。

９月

５区住居跡の調査を継続、堀方の調査を行う。調査区一部拡張。１号埋甕取り上げ。

19・21・22・26号住居調査継続、遺物取り上げ、図面、平行し写真撮影後、堀方調査を行う。

10・11月

住居の調査継続、埋甕調査終了。

12月

住居堀方調査終了、全景写真撮影を行う。その後追加調査。

平成10年度

10月

本年度調査開始。３・４区表土掘削後遺構確認作業開始、土坑確認。

11月

３区４号土坑調査。

４区　33～39号土坑pit調査

12月

４区　40、41号土坑調査。試堀１、２号トレンチ土層図、写真、トレンチ平面図。４区　４、５号トレンチ埋め戻し。25日をもって本年度の調査を終了。

平成11年度

４月

３区表土除去後遺構確認作業、３区　谷部調査、土坑検出、調査。

３区土坑の調査継続、６、７号土坑半截、５号土坑図面、６号土坑セクション写真、７号土坑半截、写真

土坑調査終了後、全景写真撮影。4・5区　表土掘削開始後遺構確認作業開始。

5月

遺構確認作業、10号住調査開始、敷石住居と判明。374配石(117号土坑)セクション写真　490・491号土坑

490号土坑掘り込みなし、開元通宝、491・492号土坑調査。

6月

10号住遺物分布図掘り下げ、29号住確認後、掘り下げ、床面不確定、平安時代の住居と確認。

496号土坑セクション実測、掘り下げ、497号土坑掘り下げ、土坑調査。

10号住掘り下げ、29号住掘り下げ、セクション写真、実測

29号住遺物出土、写真、実測。497～506号土坑調査。5区全景写真撮影。

4区　減圧弁樹設置箇所調査。土坑1基検出。

7月

10号住居の調査を終了。30～35号住居調査。503～515号土坑セクション、写真、平面図作成。5・6号埋甕検出、調査。4区1号炉、5区2号炉検出、調査。住居は重複が著しく、また多くの土坑の重複が見られる。32号住居は平安時代、鉄鏃出土。

8月

30～34号住居の調査継続。515～534号土坑の調査。調査区北寄りに多く集中、後期の土器を伴出するものも多い。6号埋甕の調査。

9月

30～41号住居調査。35・36・37・38・39号住居は東西に並んで、それぞれが重複しあっている。東に新しい住居が作られている。530～563号土坑調査。559号土坑は完形の鉢形土器を出土、墓坑と考えられる、時期は後期。31号住居の埋甕検出。40号住居は南側のみの調査、遺物はほとんど見られず。39号住居遺物取り上げ、点数多い。北半分は調査区外。

10月

5区　全景写真撮影。35～41号住居調査。559～588号土坑調査。559号土坑遺物上げ。3号炉調査。

10号住敷石取り外し、エレベーション図、敷石下の精査。堀方。

4区谷地部の土坑(陥穴)調査。4号炉調査。4・5区　谷部分包含層調査、遺構確認調査(炉検出)

11月

30～53号住居調査。589～601号土坑調査。谷地部包含層調査。調査区北壁断面図、写真。

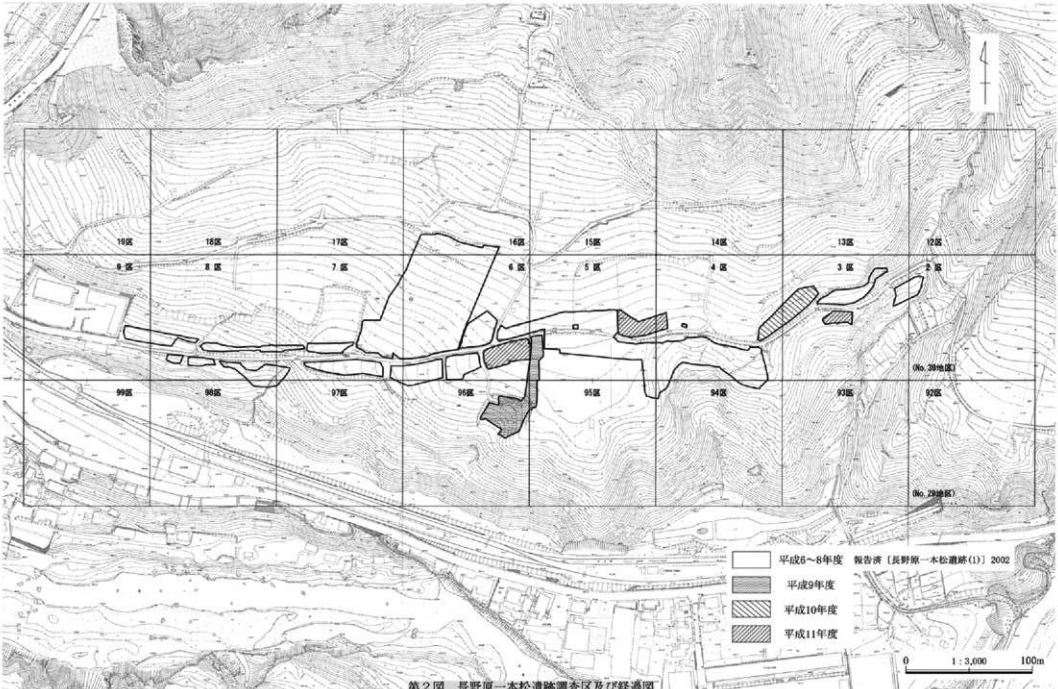
6区表土掘削、遺構確認。6区9号住居確認、調査。132～162号土坑調査。調査区西側に陥穴多く検出。

5区20・25号住居（平成9年度に東半分を調査）調査。

12月

5区　20・25号住調査。6区　163～177号土坑調査。縄文面の調査終了後旧石器試掘をもって本年度の調査を終了。

調査区埋め戻し。



第２図　長野原一本松遺跡調査区及び経過図

第２章　地理的及び歴史的環境

第１節　地理的環境

長野原一本松遺跡が所在する吾妻郡長野原町は、関東地方の北西奥部、群馬県吾妻郡域の南西部に広がる町である。町の北部を吾妻川が東流し、川の左岸を国道145号線が走る。この国道は渋川市で新潟に続く国道17号と分岐し、吾妻川に沿って長野原町に入り大津で草津と嬬恋方面に別れる。古くは草津道として川の右岸側を通っていた。

遺跡に立って周囲を臨むと南には川を隔てて須賀尾峠、丸岩を、遙か北西方向には草津白根山、南西には浅間山が位置している。いずれも現在も活動している日本でも有数の活火山として知られている。

町の北部を流れる吾妻川は、長野県境の鳥居峠付近に源を発して東に流れ、町域のほぼ中央で川幅をやや広くし、東端では第３紀層を深く刻んで吾妻渓谷を形成し、さらに東に流れ渋川市付近で利根川に合流している。この吾妻川には両側に迫る山地から流れ下る多くの支流が見られる。

長野原一本松遺跡が乗る台地は吾妻川左岸の河岸段丘上で、左岸側にあっては比較的平坦で開けた場所でもある。

遺跡地の地形は北側の山から傾斜する台地がやや南傾斜を持つ舌状地形を為し、東西および南側が谷地形となっており、下位段丘面には現在ＪＲの長野原草津口駅、長野原町立東中学校等があって、やはり比較的平坦な舌状地形となっている。吾妻川はこの台地の南を大きく迂回する形で流れている。

遺跡地内の地形をさらに詳細に見ると、集落の中心部分が位置する場所の標高は635m前後である、この集落のある舌状台地は南への張り出しに比して横幅を有す、東にもやや狭いながら同様の地形が見られるが、遺構の広がりはほとんど見られない。さらに東側には、この台地の東縁を区切る「とちのき沢」が谷を作り吾妻川に流れ込んでいる。この沢を隔てた東側が幸神遺跡である。

また、この付近は遺跡地の南側がかなり急崖であるのに対し、西側については平坦部分こそ幅狭となってはいるが、比較的緩やかな傾斜をもって続いており、現在でも遺跡地に入る道路はこの場所を通過している。

遺跡の西側約500mには、六合村方面から流れ下る白砂川が吾妻川に合流しており、流れ込む支流としては大きな河川の一つである。

第２節　歴史的環境

長野原町における遺跡調査の先駆けは昭和29年に行われた勘場木遺跡が挙げられる。同遺跡では中期後半の竪穴住居１軒が調査されており、「勘場木石器時代住居跡」として県指定史跡となっている。

その後、昭和30年代後半から40年代にかけて分布調査が行われ、昭和53年には川原畑地区に所在する石畑岩除遺跡が鉄道工事に伴い調査が行われている。昭和62年からは八ツ場ダム建設に関する埋蔵文化財詳細分布調査が、県および町教育委員会によって行われ、183カ所の遺跡（包蔵地）が報告されている。

また、昭和63年の櫛Ⅱ遺跡の調査をはじめとし多く発掘調査が町教育委員会によって行われている。

平成６年からは、当事業団による八ツ場ダム建設に伴う発掘調査が開始され、本遺跡を初め、対岸の横壁中村遺跡、久々戸遺跡、林楡木遺跡、中棚遺跡等々新たな遺跡の調査が実施され、縄文時代から近世にかけての調査が行われ現在に至っている。

以下、長野原一本松遺跡周辺の主な遺跡を概観しておきたい。なお、地図上の細線は遺跡の範囲を、太線

で囲まれた部分は各調査年次毎の調査区を示している。

旧石器時代

長野原町においては旧石器時代の遺物は現在のところ出土していない。しかし表採資料ながら横壁中村遺跡の石槍や川原畑石畑岩陰遺跡・林檜木Ⅱ遺跡の草創期の土器群などが見つかっており、その存在の可能性は決して低くはないと思われる。

縄文時代

長野原一本松遺跡の南側を東流する吾妻川は、八ッ場地区を南北に分ける大きな自然的な要因であったと考えられる。本遺跡を含め両岸の上下段丘上、さらには川に注ぐ沢筋に面した場所に多くの遺跡が所在する。

先述したように草創期、早期の遺物に関しては近年の調査で発見が相次ぐようになってきた。林檜木Ⅱ遺跡・立馬Ⅱ遺跡等で草創期後半の撚糸文土器や早期の押型文土器などが出土している。また岩陰遺跡等も知られ　石畑岩陰遺跡(注)などで多縄文系の土器が出土している。これらの遺跡では早期末から前期初頭の繊維土器なども見られる。右岸側の遺跡では現在のところ草創期、早期の遺跡はほとんど見られない。

前期については早期末から続く遺跡として立馬Ⅰ遺跡・三平遺跡において早期末の繊維土器、前期初頭から後半にかけての花積下層式、関山式、諸磯式土器等が出土している。

中期になると遺跡は拡大し、両岸の比較的広い地を求めて居住するようになる。初頭から前半にかけての遺跡は林檜木Ⅱ、立馬Ⅰ・Ⅱ遺跡で住居、土坑が検出されている。横壁中村遺跡においてもわずかではあるが遺構の検出が見られる。中葉から後半になると遺跡数、遺構数は増え本遺跡と横壁中村遺跡は吾妻川を隔てて対峙する大集落となる。この時期の遺跡としては他に左岸では上ノ平遺跡が右岸では横壁中村遺跡の上流に接して位置する山根Ⅰ、Ⅲ遺跡があるもののその規模は前述した2遺跡に比すれば小規模である。

後期に入ると前半くらいまでは長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡では引き続き集落の継続が見られ、林中原・同上原Ⅰ・Ⅳ遺跡で住居等が見られる。晩期については長野原一本松遺跡ではほとんど見られないが、横壁中村遺跡では多くの遺物が見られる。左岸では下原遺跡、立馬遺跡で、右岸では久々戸遺跡、下原遺跡で少量の土器が出土、川原湯勝沼遺跡では末から弥生前期の甕棺墓等が検出されている。

弥生時代の遺跡は少ないものの、前期の遺物は川原湯勝沼遺跡で見られ、中期については横壁中村遺跡、立馬Ⅱ遺跡で出土しており、今後その数は増えてゆくものと考えられる。長野原一本松遺跡においても若干の前期土器片が出土している。

古墳時代についてはこれまで明確な遺構が確認されていなかったが、下原遺跡、林中原遺跡で中期の住居跡が発見され注目される。古墳に関しては現在のところ確認はされていない。

奈良・平安時代の遺跡は長野原一本松、檜木Ⅱ、花畑、立馬、三平、川原湯勝沼、横壁中村遺跡等で住居が検出されている。時期は9世紀から10世紀を中心としている。この時期の遺構の調査数は近年増しており、沢沿いの奥まった場所にもかかわらず、集落が構成されている。

中世に関しては長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、中棚Ⅱ遺跡等で遺構・遺物が検出されている。周辺に見られる城郭跡としては西に白砂川を隔てて長野原城が位置し、川を挟んだ南には柳沢城が位置している。

近世の遺跡は両岸の下位段丘において久々戸、尾坂、中棚、下原、川原湯勝沼遺跡等において天明三年の浅間山噴火に伴う泥流に埋まった建物や畑が検出されている。

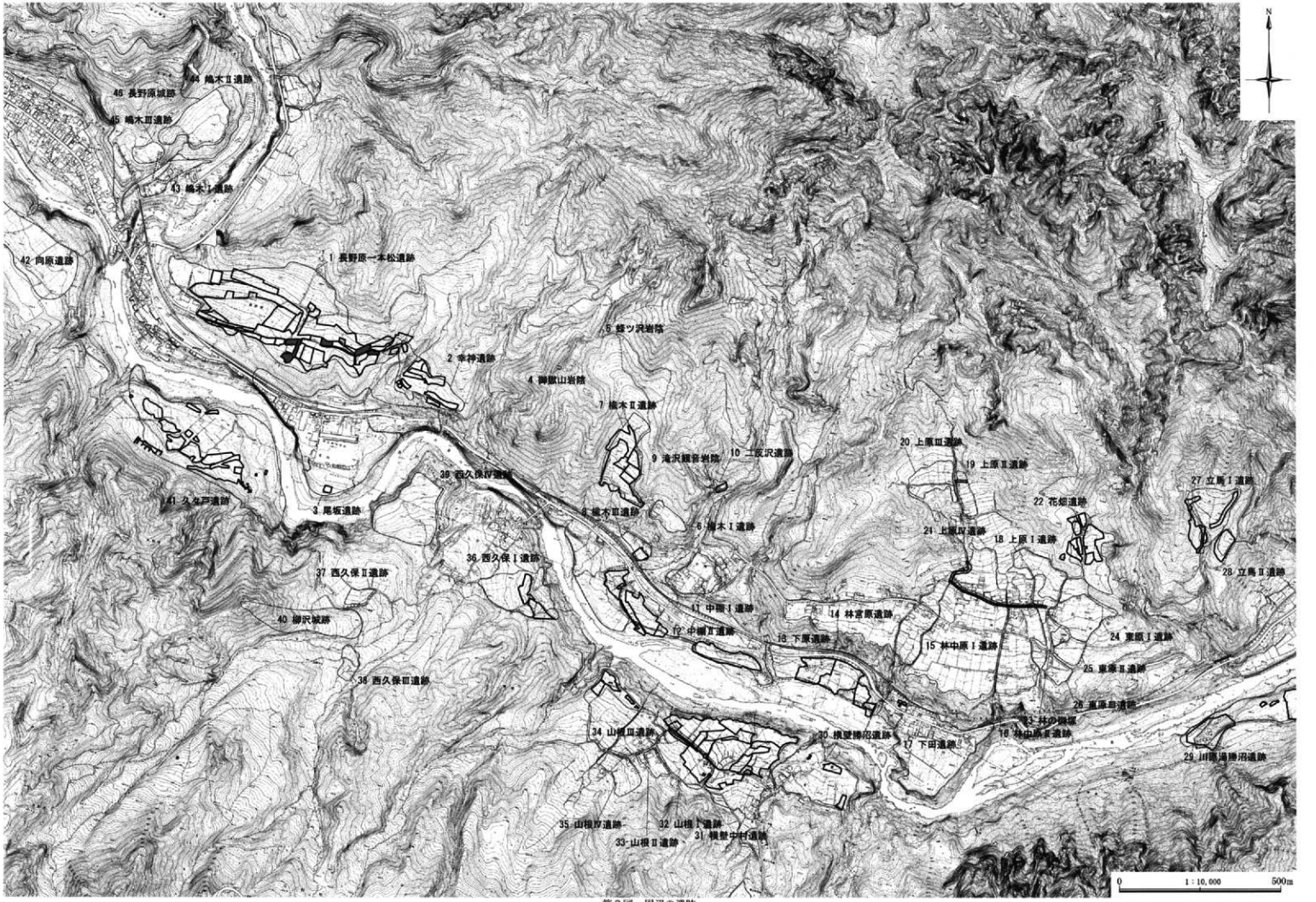
・参考文献　長野原町教育委員会　1990「長野原町の遺跡－町内遺跡詳細分布調査報告書－」

表1　周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
1	長野原一本松遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期～後期にかけての集落跡、大形の掘立柱建物、敷石住居などを検出、平安時代の住居、中世の掘立柱建物や多くの土坑等が検出されている。	平6～17年度、埋文事業団調査 本書は平9～11年度調査分の報告	2002(平6～8年度調査分)
2	金神遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の住居・土坑。陥し穴。	平8・9・17年度埋文事業団調査	
3	尾原遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年浅泥下の畑・建物跡。	平6・7・11・18年度、埋文事業団調査	
4	御嶽山岩陰	長野原町林	縄文・弥生	岩陰遺跡。		
5	綾ノ沢岩陰	長野原町林	縄文？	岩陰遺跡。打製石斧出土。		
6	愛本Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	散布地		
7	愛本Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の住居跡	平12・13年度、埋文事業団調査	
8	愛本Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文・弥生	縄文時代前期・後期、弥生時代の包含層。	平9年度、埋文事業団調査	
9	滝沢観音岩陰	長野原町林	中世・近世	岩陰遺跡。「滝沢観音」の堂宇と石仏群あり。		
10	二反沢遺跡	長野原町林	中世・近世	中世の石垣を伴う造成跡、近世水路、畑跡。（旧大乗院京跡）	平12年度、埋文事業団調査	⑪
11	中棚Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文・平安	散布地		
12	中棚Ⅱ遺跡	長野原町林	近世	天明二年浅泥下の畑、および安永丸年と考えられる堆肥畑等。	平11～13・15年度、埋文事業団調査	⑤④
13	下原遺跡	長野原町林	古墳・近世	天明三年(1783)浅泥下の畑、中世の畑、古墳時代の住居跡等	平12・16年度、埋文事業団調査	⑤
14	林宮原遺跡	長野原町林	古墳・平安	古墳時代の住居跡１、平安時代の住居跡６、土坑６。	平15年度、町教委調査	市教委2004
15	林中原Ⅰ遺跡	長野原町林				
16	林中原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期の敷石住居、晩期の土器片。	平15年度、町教委調査	
17	下田遺跡	長野原町林	平安・近世	散布地		
18	上原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期の敷石住居跡。	平15年度、町教委調査	
19	上原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	散布地		
20	上原Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文	散布地		
21	上原Ⅳ遺跡	長野原町林	縄文・近世	縄文時代後期の敷石住居、配石遺構。	平15年度、埋文事業団調査	
22	花塚遺跡	長野原町林	縄文・平安	平安時代の住居跡。陥し穴群。	平9・12年度、埋文事業団調査	
23	林の御塚	長野原町林	中世・近世	寛永二年(1625)に「稲大権都法印村信」の墳墓として築造されたと伝えられる。古墳の可能性も。	長野原町指定	
24	東原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代土器片、陥し穴。	平6・9年度、埋文事業団調査	
25	東原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期土器片、石器出土。	平10年度埋文事業団調査	
26	東原Ⅲ遺跡	長野原町林	平安・近世	散布地		
27	立馬Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期・晩期の住居跡。弥生時代中期後半の土器棺墓。	平13・14年度、埋文事業団調査	⑭
28	立馬Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代草創期・早期の土器・石器。中期初頭～前半の住居跡9軒、中期後半の住居跡1軒。平安時代前後の陥し穴等。	平14・15年度、埋文事業団調査	⑭
29	川原湯勝沿遺跡	長野原町川原湯	縄文・平安・近世	縄文時代晩期の環状土器、古墳時代の遺物、平安時代の住居跡、天明三年浅泥下の畑。	平15・16年度、埋文事業団調査	⑥
30	横壁柳沿遺跡	長野原町横壁		縄文時代中期～後期の土器片、敏元形尖頭器出土。	平6・7年度、埋文事業団調査	
31	横壁中村遺跡	長野原町横壁	縄文・弥生・平安・中世	縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落跡、縄文時代晩期、弥生時代の土器片、平安・中世の遺構・遺物。	平8～17年度、埋文事業団調査	①②④⑭
32	山根Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文・平安	散布地、磨製石斧、石鏃、石棒などの石器類出土。		
33	山根Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安・近世	散布地。		
34	山根Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	縄文時代中期後半の住居、土坑調査。	平10・13年度、埋文事業団調査	
35	山根Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	石器出土		
36	西久保Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代後期の住居、水場を検出	平6・10・12年度、埋文事業団調査	
37	西久保Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安	散布地。		
38	西久保Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文	散布地。		
39	西久保Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文	散布地。		
40	鞠沢城跡	長野原町横壁	中世	裏城一部が随と呼ばれる特異な構造、曲輪、堀、土居などを検出。柴書、鑑戸、柴遺、法洞地、さらには中田開山などが出土。	平5年度、町教委調査	
41	久々戸遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年浅泥下の畑、建物跡、縄文時代の土器片。	平9・10・15年度、埋文事業団調査	⑤④
42	向原遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・平安	縄文時代中期後半～後期後半の住居跡3軒・敷石住居2軒、土坑群。弥生時代中期の土坑、平安時代の住居跡10軒を検出。	平5年度、町教委調査	
43	鳴木Ⅰ遺跡	長野原町長野原	近世	天明浅泥下の畑跡、近世の掘建部片。	平16年度、町教委調査	市教委2004
44	鳴木Ⅱ遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期の土器片、石器出土。		
45	鳴木Ⅲ遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の石器、石斧等出土。		
46	長野原城跡	長野原町長野原	中世	土塁や堀切・物見台などが残る。長野原合戦の舞台となる。		

参考文献

①長野原町　『長野原町誌』上巻　1976
②長野原町　『長野原町の自然』　1988
③群馬県埋蔵文化財調査事業団　『長野原一本松遺跡(1)』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第１集　2002
④群馬県埋蔵文化財調査事業団　『八ッ場ダム発掘調査集成(1)』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第２集　2002
⑤群馬県埋蔵文化財調査事業団　『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第３集　2003
⑥群馬県埋蔵文化財調査事業団　『久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上野A遺跡』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第４集　2004
⑦群馬県埋蔵文化財調査事業団　『横壁中村遺跡(2)』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第５集　2005
⑧群馬県埋蔵文化財調査事業団　『川原湯勝沿遺跡(2)』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第６集　2005
⑨群馬県埋蔵文化財調査事業団　『横壁中村遺跡(3)』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第７集　2006
⑩群馬県埋蔵文化財調査事業団　『立馬Ⅱ遺跡』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第８集　2006
⑪群馬県埋蔵文化財調査事業団　『上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第９集　2006
⑫群馬県埋蔵文化財調査事業団　『横壁中村遺跡(4)』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第10集　2006
⑬群馬県埋蔵文化財調査事業団　『立馬Ⅰ遺跡』八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第11集　2006


N
46 長野原城跡
45 嶋木Ⅲ遺跡
44 嶋木Ⅱ遺跡
43 嶋木Ⅰ遺跡
42 向原遺跡
1 長野原一本松遺跡
2 幸神遺跡
4 神獄山岩陰
5 鮫ツ沢岩陰
7 嶋木Ⅱ遺跡
9 滝沢観音岩陰
10 二反沢遺跡
39 西久保Ⅳ遺跡
41 久々戸遺跡
3 尾坂遺跡
8 嶋木Ⅲ遺跡
6 嶋木Ⅰ遺跡
36 西久保Ⅰ遺跡
37 西久保Ⅱ遺跡
40 柳沢城跡
38 西久保Ⅲ遺跡
11 中原Ⅰ遺跡
12 中原Ⅱ遺跡
14 林宮原遺跡
13 下原遺跡
15 林中原Ⅰ遺跡
20 上原Ⅲ遺跡
19 上原Ⅱ遺跡
21 上原Ⅳ遺跡
18 上原Ⅰ遺跡
22 花畑遺跡
27 立馬Ⅰ遺跡
28 立馬Ⅱ遺跡
24 東原Ⅰ遺跡
25 東原Ⅱ遺跡
26 東原母遺跡
23 井の横塚
16 林中原Ⅱ遺跡
17 下田遺跡
29 川原湯勝沼遺跡
30 横壁勝沼遺跡
34 山根Ⅲ遺跡
35 山根Ⅳ遺跡
32 山根Ⅰ遺跡
33 山根Ⅱ遺跡
31 横壁中村遺跡
0
1：10,000
500m

第3図　周辺の遺跡

第3章　検出された遺構と遺物

第1節　基本層序

長野原一本松遺跡は、吾妻川の左岸に形成された河岸段丘上に立地する。この段丘は浅間山起源の「応桑泥流」堆積物を吾妻川が浸食して形成されたものと考えられており、この堆積物が本遺跡の基盤層をなしている。

「応桑泥流」下には泥流発生直前に降下したとされる、As－BP（浅間―板鼻褐色軽石）およそBP1,800～20,000が、さらに下位には始良火山灰（AT、BP25,000）層の存在が想定される。また、「応桑泥流」上層ローム中に観察される浅間山給源の軽石層は、浅間―白糸軽石（As－SP、BP18,000）、浅間―板鼻黄色軽石（As－YP、BP13,000～14,000）、浅間―草津黄色軽石（As－YPK、BP10,500～11,500）の軽石層が認められている。

本遺跡内で肉眼的に観察されるのは、As－YPKである。基本層序ではⅧ－１からⅧ－３層にあたる。このAs－YPK層中、Ⅷ－２層はほぼ純粋で発泡も良好（10mm～50mm）な軽石層で、１～２mの厚さで見られる。

Ⅵ（ローム層）上位は、黒褐色ないしは黒色土で台地上部分では４ないしは５層に分けられる。

Ⅰ層は表土層で、現耕作地部ではおよそ20～30cm、山林その他の場所では30cm前後である。下のⅡ層は部分的にAs－A〔浅間―A軽石、天明三（1783年）降下〕の混入が認められるⅡ－１と、Ⅱ－１を基調とするも、比較的安定したAs－Aをほとんど含まないⅡ－２とに分層される。そして、このⅡ－２層上層において灰褐色を呈するAs－Kk〔浅間―鎌川テフラ（1128年）〕の堆積も、極めて部分的にではあるが確認されている。また、As－B〔浅間B軽石、天仁元（1108年）〕およびAs－C（浅間C軽石、４世紀初頭）の存在も示唆されているが、現在のところ確認されていない。さらにAs－D（浅間D軽石、およそBP4,000）についても今後慎重に見てゆく必要がある。

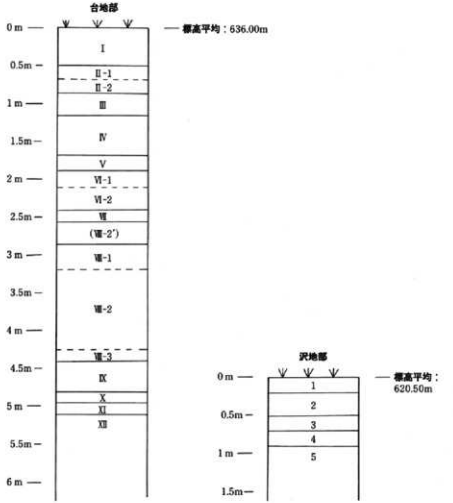
Ⅲ層は小軽石粒がわずかに含まれる黒色土で、かなり軟質である。このⅢ層において確認される遺構として陥し穴がある、平面形が楕円形を呈し底面が長方形を呈するト字状の穴で、覆土は軟質な土で埋まっている。ⅡおよびⅢ層は、台地上ではほぼ均一な堆積状況を示すが、谷部分においては急激に厚さを増すことが確認できる。本書中の95区の谷地部がその好例である。また、対照的に３区については谷地に向かう斜面部であるが、急傾斜地ということもあり、Ⅰ層表土下にⅡおよびⅢ層がほとんど認められないという状況であった、地形その他自然の作用による変化が看取される。

Ⅳ層は白色および黄色軽石を含む黒褐色土で、やや大粒の軽石なども混入する、本層は主に縄文時代の遺構検出面であるが、黒味が強く場所によっては極めて検出が困難であった。このため明確な検出面として、Ⅴ層まで下げなければならない場面も多々であった。

Ⅴ層はいわゆるローム漸移層で若干の軽石粒を含む比較的安定した層として認識される。色調は明るい黒褐色土で、比較的締まりがある。

以下Ⅵ層はローム層でⅥ－１（ソフトローム）、Ⅵ－２（ハードローム）に大別される。長野原一本松遺跡で検出されたほとんどの遺構構築面でもある。

参考文献　長野原町教育委員会　1990「長野原町の遺跡―町内遺跡詳細分布調査報告書―」



第４図　基本層序

基本層序

台地部

Ⅰ層　現表土　　As－Aを混入する耕作土。

Ⅱ－１層　暗褐色土　色調やや茶色がかる。As－Aを多量混入し、Ⅰ層に類似するが締まり強い。

Ⅱ－２層　黒褐色土　色調やや灰色がかる。シルト質土をブロック状に混入するが、他の混入物を殆ど含まない。土壌粒子が細かく、サラサラする。

Ⅲ層　黒色土　白色や黄色などの小軽石粒を微量混入する他は、全体的に混入物を殆ど含まない。締まりなく軟質。

Ⅳ層　黒褐色土　白色や黄色などを呈する粒径約１～５mm前後の小軽石粒やローム粒を多量混入する。層の上・下位で混入物の量に差が看取される部分がある。

Ⅴ層　暗褐色土　ローム漸移層。軽石粒を微～少量混入する。（一部にⅣ層との漸移的な層も含む。）

Ⅵ層　黄褐色ローム　（Ⅵ－１層）：ソフトローム
（Ⅵ－２層）：ハードローム

Ⅶ層　黄褐色砂質土　粒径約１～３mm前後の小軽石粒による砂質土。硬化しており、ブロック状の堆積部分も看取される。（Ⅶ－２'層As－YPk、軽石の二次堆積層。台地部の特定範囲で確認される。）

Ⅷ層　As－YPk
（Ⅷ－１層）　赤褐色・黄橙色・灰白色などの火山灰に分けられる。軽石に伴うもので、硬化しているアッシュ。
（Ⅷ－２層）　浅間－草津黄色軽石層。風化などにより、色調が白色がかる部分もある。粒径は概ね約10～50mm前後の幅が看取される。
（Ⅷ－３層）　橙色・赤褐色・灰色などの火山灰に分けられる。軽石に伴うアッシュ。

Ⅸ層　黄褐色ローム　Ⅹ層に類似するが、軽石の量が少ない。

Ⅹ層　黄褐色ローム　ロームを主体に、軽石粒を多量混入する。

Ⅺ層　黄褐色ローム　色調がやや白色がかる。Ａｓ－ＢＰと思われる軽石と小角礫を少量混入する。

Ⅻ層　「応桑泥流堆積物」　赤色・青色スコリアを多量混入する。

沢地部

１層　暗褐色土　色調がやや茶色がかる。現表土。

２層　黒色土　礫を少～多量混入する。土質は、台地部の１層に類似する。

３層　黒褐色土　植物質の遺伝子を多量混入する泥炭質土で、少量の湧水がある。

４層　礫層　小角礫を主体とする淡褐色土との混土層。淡褐色土は変質したローム で、台地部の Ⅵ層相当と思われる。

５層　砂礫層　砂礫を主体とする黒褐色土との混土層で湧水がある。

第２節　遺構遺物の概要

発掘調査は3年次に渉って行われた、調査区も第2図に示したようにやや離れており、地形的にもかなりの違いが見られる、このためそれぞれの区(100m方眼)においても遺構の時期に違いが看取される。

それぞれの調査区を遺跡地内における地形から見ると、95から96区部分は谷地に掛かかっており、特に96区についてはかなりの斜面部分にあたる。３・４区については集落中心部分からは東にはずれた位置に在り、土坑が見られたのみである。５区の調査区は東と西端にあたり、東側の調査区は遺構の集中度が高く、住居および多くの土坑が検出された。西側の調査区については、６区の調査区と連続しており、住居、土坑が検出されているが、ちょうど集落の西端部にあたると考えられる。

ここでは、長野原一本松遺跡において検出された遺構および遺物について、それぞれの時代毎にその概要を以下に記す。

旧石器時代

各調査区において試掘調査を実施したが、遺物は検出されなかった。

縄文時代

本遺跡において主体的な遺構の時期である。検出された遺構数は、住居跡が平成９年度９軒、平成11年度17軒である。この内３軒(5－10号住、5－20・25住)が複数年度に調査がまたがっている。

この他、円形柱穴列１棟、単独の埋甕３基、炉３基、土坑、ピットを検出した。また、配石とした遺構が１基ある。

住居跡は５区を中心とした緩やかに南に傾斜する台地の縁辺部に広がる様相を呈す。平成９年度の調査区は台地の西側縁辺部、および南に落ちる谷地部分を対象とした。住居は調査区の北側部分に南北方向への連続性を伺わせている。南側谷部分は台地上からの最大比高差11mを測る。住居集中部においては、多くの土坑も検出されている。遺構密度は谷に向かって薄くなり、谷部分においては陥し穴が検出されている。

但し、谷地部分においては土器の包含層が厚く堆積しており、完形品を含む多くの土器が出土している。平成10年度の調査は３区の南に向かって落ちる沢沿い斜面部にあたる。調査区は等高線に沿うような形で設定された。調査の結果土坑が検出されたが数は少なく、出土遺物もわずかであった。また平成11年度にも南側さらに下がった場所の調査を行い、陥し穴と思われる土坑３基を検出した。

平成11年度に調査を行った5区調査区は台地の東縁辺部にあたり、多くの住居跡、および土坑が検出されている。住居は中期後半が中心で、東西に並んで検出された住居は次々に建て替えられている様子が伺えた。

また、土坑も多く見られ、陥し穴をはじめ、総数100基以上を検出している。土坑の時期は、後期のものも多く、土坑墓と思われる副葬された完形品を伴っているものも見られた。

調査区の西端に検出された１号柱穴列は５－10号住居跡の周りを囲うように径１m、深さ１m以上の柱穴８本が検出された。これらの柱穴の内、西側５本は平成８年度に検出されていたが、今次の調査で東側の３本が追加され、ほぼ円形に１周することが確認された。この他、３基の屋外炉、３基の埋甕が検出されている。

検出された遺構の時期は、中期後半を中心とし、住居跡については５－10号住居跡が後期前半と見られる他はいずれも中期後半から末に比定される。その他、単独の埋甕や炉についても住居の時期とほぼ同じと見られる。

土坑は中期後半の他、後期に比定されるものが多く存在している。完形の土器を出土する墓坑と考えられるものも見られる。５区東側の調査区においてこうした土坑が集中して検出されている。土坑の形状は円形

ないしは長円形である。

検出された住居跡の分布状況を見ると、中心部台地の縁辺に沿って横方向に連続して作られている様子が窺われ、重複して作られている。

その他の遺構としては、５－10号住居跡を取り巻くように検出された５－１号円形柱穴列がある、径および深さが１ｍ程の柱穴がほぼ円形に７本(北側の１本は未調査)が検出されている。時期は後期と考えられるが、住居との関連もあり注目される遺構である。

ピットについてはほとんど遺物が見られないこともあり、時期が未確定なものが多いが、形状、掘り込み共に不明瞭なものが目立ち極めて新しくなる可能性が高い。

なお、今回の調査で検出された陥し穴に関しては、重複関係から明らかに住居よりも新しくなり、埋土も縄文時代の遺構とは異なっている。出土遺物においても、時期を確定できるようなものが見られず、現時点では時代の判断が難しい。平安時代あるいは中世にまで下る可能性もある。

弥生時代

遺構については検出されなかった。わずかに前期と思われる土器片3点が96区の谷地包含層より出土しているのみである。

古墳時代

遺構は検出されなかった。遺物は甕の口縁部と思われる破片１点が、96区の谷部分において出土しているのみである。

奈良・平安時代

５区東側において2軒の住居跡が検出されている。いずれも壁の立ち上がりがやや不明瞭な面があるものの、東および北壁に竈を持ち、住居の形状ははぼ方形を呈するものと思われる。５－29号住居跡の竈は石を組んで作られていたものと考えられる。５－32号住居跡の竈には石は見られなかった。出土遺物は両住居ともに少なく、少量の須恵器、土師器の杯、鉄鏃である。時期は10世紀末から11世紀と考えられる。

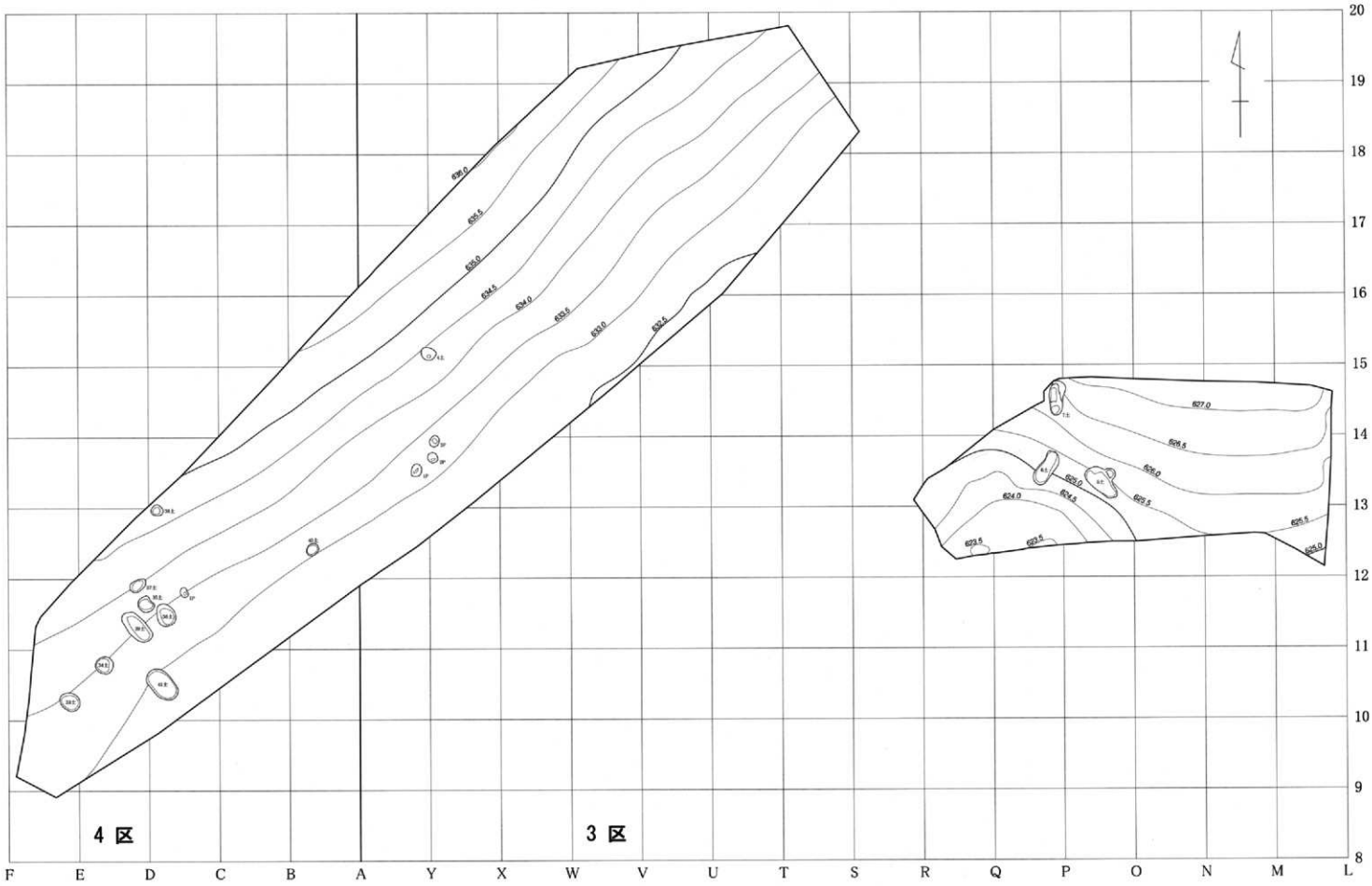
中世

明確にこの時期と比定された遺構に関しては少なかった。掘立柱建物や竪穴状遺構なども検出されていない。５区において集石を伴う土坑が２基見られたのみである。この内1基からは「開元通宝」が１点出土している。他の出土遺物に関しても極めて少ない。土器類については遺構外より青磁片、陶磁器片がわずかに見られるのみである。石器は石鉢の破片が4区において出土している。

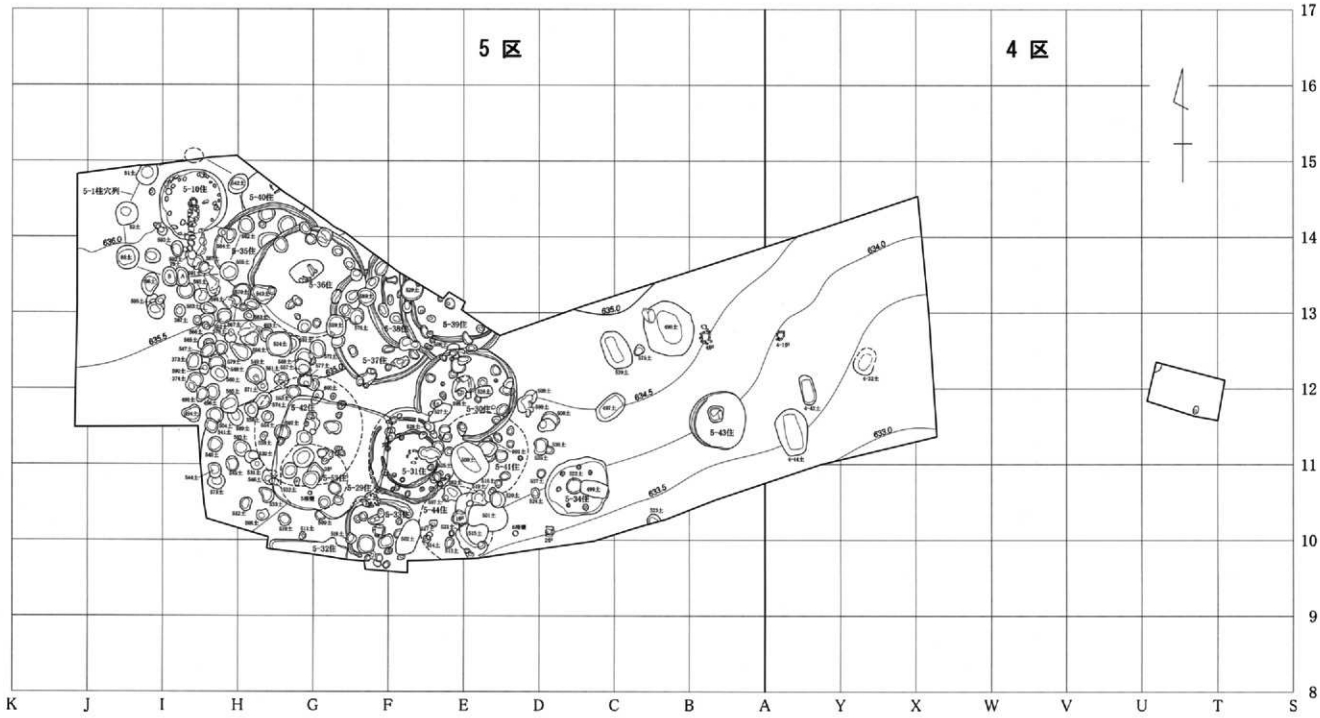
近世

建物跡などの遺構は検出されていない。土坑については近世あるいは近・現代に属すと思われる掘り込みが見られるが時期の確定されたものは少ない。

出土遺物はいずれも遺構外で、若干の陶磁器片が見られる、鉄製品としては火打ち金が１点出土している。また寛永通宝も４点出土している。

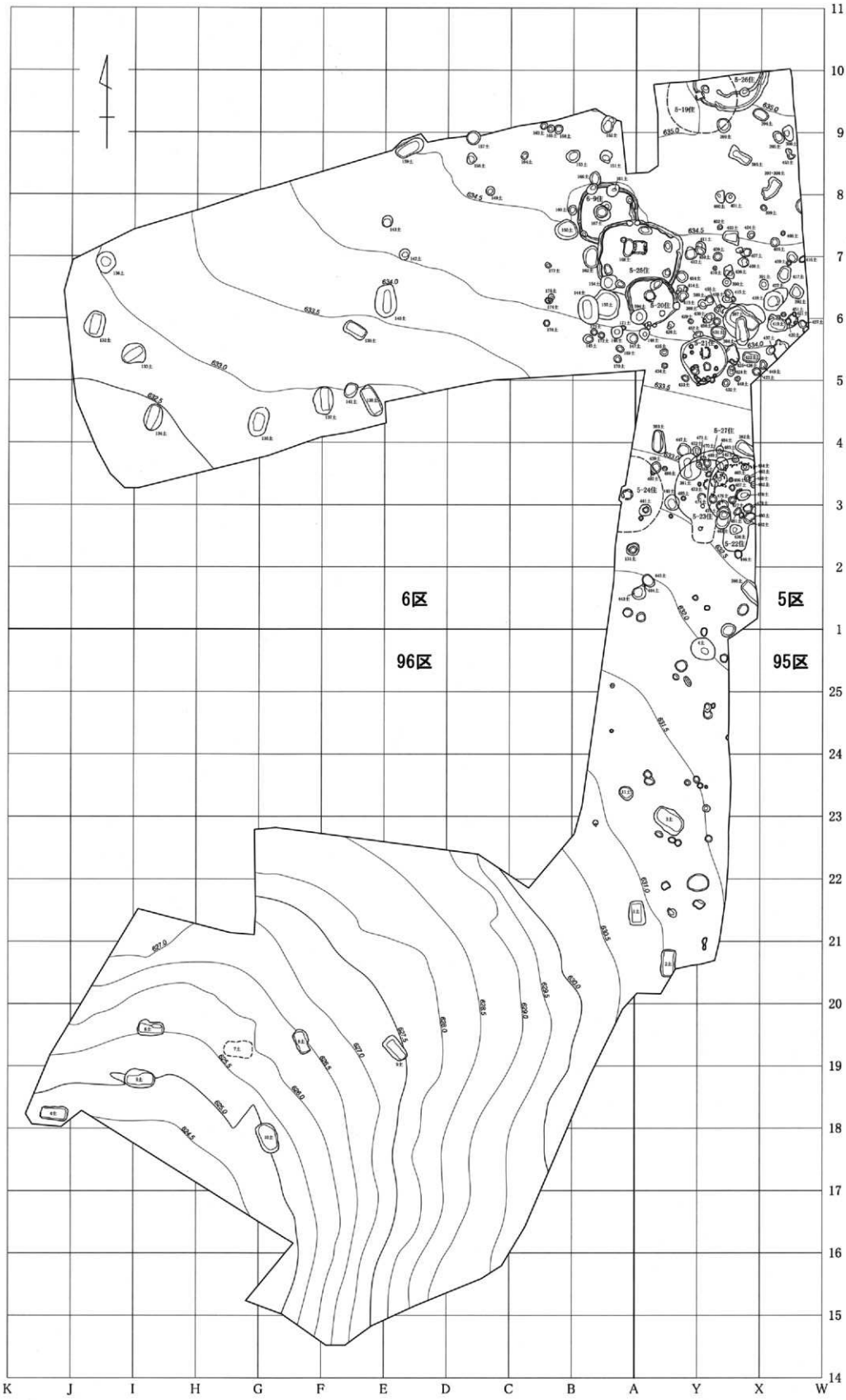

4 区
3 区
F E D C B A Y X W V U T S R Q P O N M L
20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8
0 1:200 10m

第5図　3区・4区全体図



第6図　4区・5区全体図

0　1:200　10m



第７図　5区・6区・95区・96区全体図

0　1：200　10m

第３節　縄文時代

１．住居跡

5－10号住居跡（第８・９図：ＰＬ３）

位置　５Ｈ－13・14グリッドに位置する。

重複　住居主体部上面で５－378号配石が検出されている。

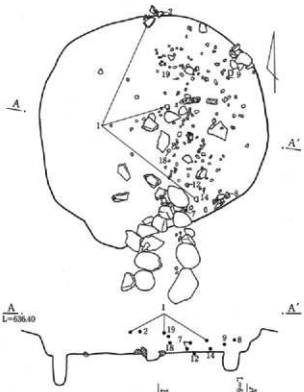
形状　南側に張り出し部を持つ柄鏡形を呈す。

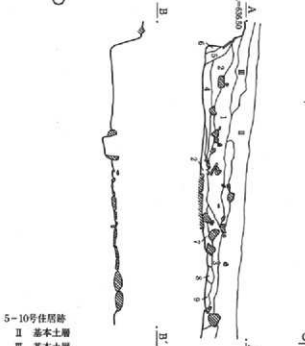
規模　長軸450cm、短軸350cm、深さ40cmである。

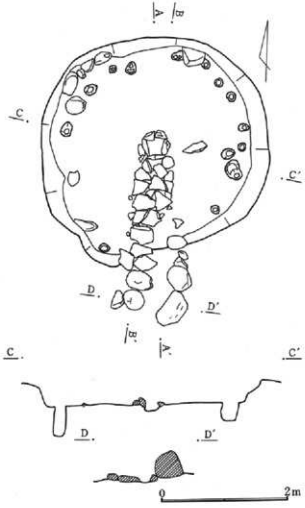
方位　Ｎ－0°

床面　中央に作られた炉から張り出し部に向かい、主体部内は２列、張り出し部には１列の石が敷かれている。また張り出し部を囲うように大型の石が横置きに配される。

炉　主体部ほぼ中央に四角に石を置き構築する。







5－10号住居跡
Ⅱ　基本土層
Ⅲ　基本土層
1　黒色土　黄色軽石少量含み軟質。
2　黒褐色土　黄色軽石多く含み黄色微細粒子目立つ、１より締まりあり。
3　黒褐色土　黄色軽石の混入少なく軟質。
4　黒褐色土　２と近似するが炭化物、ローム小ブロック混入。
5　黒褐色土　４と近似するがやや黄味を帯びる。
6　黒褐色土　地山ローム小粒多く含み粉質。
7　暗黄褐色土　ローム、ローム粒子多く含み細粒。
8　黄褐色土　地山ローム主体とする。
9　黄褐色土　地山ローム漸移土。

第８図　5－10号住居跡（1）

５－10号住居跡炉
1　黒褐色土　軽石、若干の炭化物含む。
2　黒褐色土　炭化物の混入多い。
3　黒褐色土　軽石、若干の小礫混入、下層に微量の焼土含む。
4　黒褐色土　ローム粒少量混入、軽石は含まない。
5　黄褐色土　ローム主体だが黒褐色土不均質に微量混じる。
6　地山ローム土。
7　黒色土　ローム粒、白色軽石わずかに含む。
8　黄褐色土　ローム主体で黒褐色土小ブロック、軽石少量含む。
9　黄褐色土　ローム主体で８より黒土の割合少なく軽石も含まない。

0　1m

第９図　５－10号住居跡(2)

柱穴　壁下に沿って径10～15cm、深さおよそ20cmのピットが12本確認された。

遺物出土状態　大型の破片としては１が北壁部分より出土している。他は小片が多い。

時期・所見　平成８年度の調査で西半分の調査を実施、報告も行っている。今回の調査では残り東半分を検出し、全容が明らかになった住居である。中央の石囲い炉から南に石が敷かれた柄鏡形敷石住居である。住居の北寄り、床面において炭化材が出土している。

後出の５－１号円形柱穴遺構は、本住居跡の周囲を囲うように柱穴が位置しており、同時存在していた可能性も考えられる。住居の時期は出土土器から後期前半、堀之内２式期と考えられる。

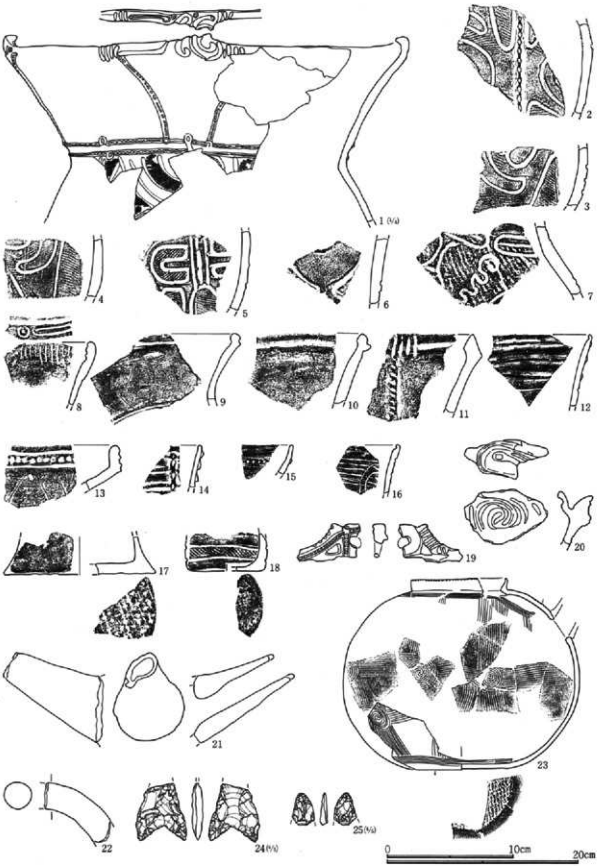
５－10号住居跡出土遺物（第10・11図：ＰＬ45）

１は金魚鉢型を呈す深鉢である、口径(42.0)cm。波状の口縁部で、上端はやや内折する。波状部には渦巻き文や弧状沈線による単位文を施し内面にも外面同様に沈線文を施しさらに円形の刺突文も見られる。波頂部文様の両端部から連続凹圧を持つ微隆帯を斜めに垂下させ頸部の横位隆線につながる。胴部には沈線による曲線文様を描き帯状に細縄文を充填する。口径(42.0)cm。

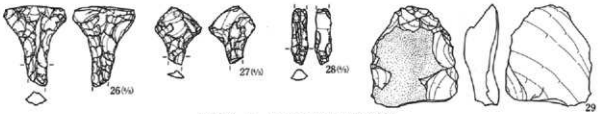
２～５は１の胴部片と思われる。沈線による組合せ曲線文様を描き縄文を充填する。２は縦位の隆線文が見られる。６は縄文は沈線文様のみで縄文見られず。７は地文縄文で縦、横にＵ字文様、波状の垂下文様が描かれる。８・９・10・13は口縁部が内屈する。８は縦の沈線が見られ、内面には横位沈線文、円径文。９・10・13は口縁に沿って沈線が巡る。13は口縁に沿って連続円形刺突文。11は縦位沈線と円孔を持ち、垂下隆線。12・14は同一個体片か、口縁下３本の横位隆線が巡りこれらを繋ぎ縦の隆線、隆線上には刺突文が見られる。薄手で内外面研磨された黒色土器。炭化物の付着が顕著である。別個体であるが15も同様の文様構成の土器である。16は口縁部片、沈線により平行線文・曲線文様が描かれる。口縁下に円孔あり。17・18は底部片、17は外に開く器形で内面黒色、底面に網代痕。18はやや丸みを持って立ち上がる小形鉢形土器、横位沈線間に縄文施文。19は口縁部の装飾把手片、円形と棒状文を繋げており、外側に刻みを有す細隆線を付す。

20はＳ字状に隆起した耳状の口縁部把手片で渦文を持つ。

21は注口土器の注口部分、外面研磨。22は注口土器の把手部分片、断面円形、外面研磨。23は注口土器である。口径7.5cm、器高14.9cm、底径7.0cm(推定)である。器肉は薄く、黒色で外面はていねいに研磨されている。胴中位やや上部分に注口が付き、その上側口縁部に飾り取っ手が付くと思われる。文様は櫛歯状の集合細線で描かれる。底部及び口縁部、さらに注口・取っ手基部下に一周させ、胴部全体は矩形に全面施文し、交差



第10図　5－10号住居跡出土遺物(1)



第11図　5－10号住居跡出土遺物(2)

部には渦巻き文が配される。口縁部は短く直立し口唇部に刻みを有す。長野原一本松遺跡（１）で報告されたものであるが今次報告分で若干の破片が追加されたため、器形を再復原し記載したものである。

24は先端部を欠く凹基無茎鏃である。両脚の端部は細く尖り、小斑晶を含む。25は黒曜石製石鏃の先端部片である。26・27・28は石錐である。26はつまみ部三角形を呈し、上端部に自然面残す。錐部の断面は楕円形で先端部を欠く。床下土坑より出土している。28は黒曜石製で基部を欠き、錐部の断面三角形。27は黒曜石製で、つまみ部は菱形を呈す、錐部の断面扁平で、先端部を欠く。29は掻器である。U字状の剥片縁辺部に急角度の刃部を作り出している。

５－19号住居跡（第12図：ＰＬ3）

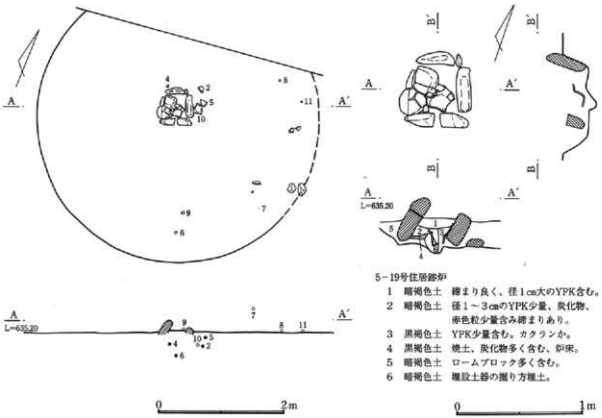
位置　5X･Y－9グリッドに位置する。　**重複**　5－26号住居の西側に重複して作られている。また、北側の約３分の１は現道路下に在る為未調査である。　**形状**　壁の立ち上がりは確認できなかった、ほぼ円形と思われる。　**規模**　推定径(450)㎝。　**方位**　N－20°－W　**床面**　炉の東側については５－26号住居の覆土上層中に構築されていたと思われるが、検出することができなかった。南および西側についても遺構確認面とほぼ同一面であったため、明確にはし得なかった。周溝等についても不明である。

炉　川原石をほぼ方形に組んで構築されている、西側の石は内側に倒れ込んだ状態で検出され、被熱によって割れた状況が伺えた。底面に若干の焼土層を認めた。炉の北に寄った場所に、口縁部、底部を欠いた炉体土器3が検出されている。　**柱穴**　確認できなかった。　**埋甕**　炉の東約1.5mのところに１基が確認されているが、明確に伴うかどうかは判断できなかった。　**掘方**　比較的依存状態の良かった南および西側についても土坑等の掘り込みは認められなかった。　**遺物出土状態**　出土した点数は少ない。住居東側の５－26号住居と重なった部分については床面を確定できず、遺物については明らかに本址に帰属すると判断できたものは少ない。

時期・所見　炉の存在から規模、形状等の推定を行ったが堀り込みは認められず、柱穴などの施設は検出されなかった。時期は炉内から出土している土器などから中期末と判断される。

５－19号住居跡出土遺物（第13図：ＰＬ45・46）

１は口縁部片、肥厚した部分から左右に連続の爪形文。２は頸部に横位平行線を巡らし間には連続の刺突文を配す。３は炉体土器である、２本の沈線により上下2段のU字沈線区画文が描かれ地文には縄文が施文される。器面はかなり摩滅している。４は底部片、縦位の沈線文端部が見える。５は胴部片、縦位区画の無文帯と縄文帯。６は全面縄文施文の胴部片。７は先端部および脚の一部を欠く石鏃。８は三角形を呈すスクレイパーである。９は磨製石斧の刃部片である。10は不定型な石を利用した石皿である、使用面の凹みはわずかである。11は大型の石棒であろうか、先端部は段を有し円形の高まりを持つ、全体に火を受けており、側面に一部磨り面が観察される。

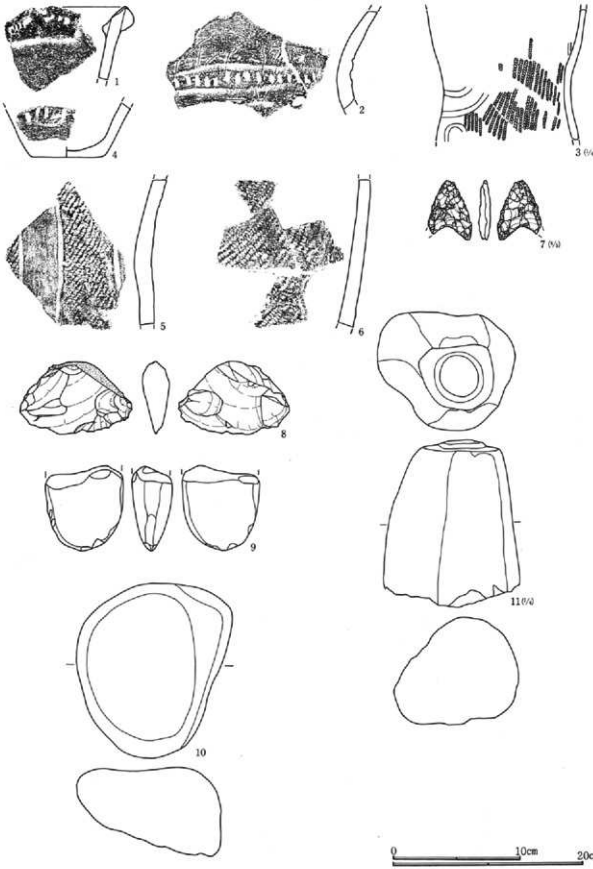


第12図　５－19号住居跡

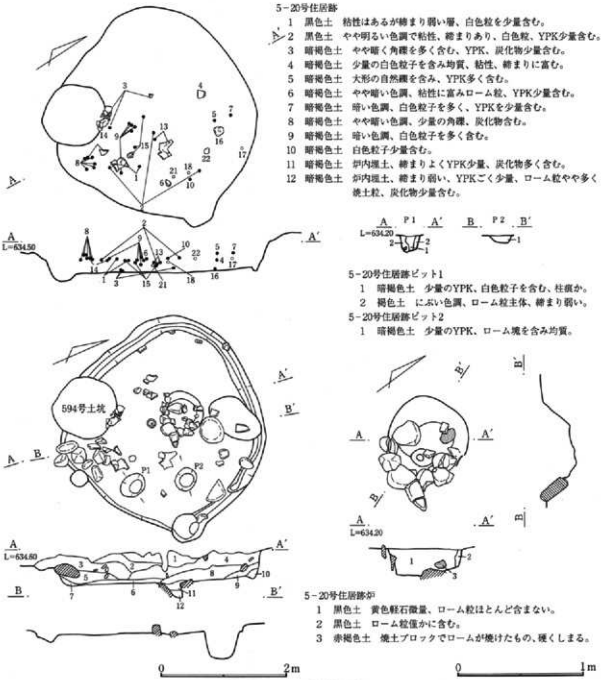
５－20号住居跡（第14図：ＰＬ4・6・7）

位置　５区の西端、５Ｙ－６グリッドに位置、西側の一部は６区に入る。　**重複**　５－25号住居の南に重複し、これを切っている。また、５－594号土坑が南側に重複している。　**形状**　やや小形で、弱い隅丸方形と見えるが、全体的にはほぼ円形を呈している、南側がわずかに突出する形状か。

規模　長軸330cm、短軸330cm。　**方位**　Ｎ－56°－Ｗ　**床面**　地山ローム面を床としている。締まりはあまり強くはなく、若干の凹凸が見られる。幅15～20cmの周溝が南側を除きほぼ全周している。　**炉**　中央やや北に位置する、円形の掘り込みを持ち、不定形な円礫および角礫を壁に沿って、やや外側に傾けて廻らして構築した石組み炉である。炉の北側半分は、石が取り除かれていた。西側についても抜かれたり崩落している。また、残っている石も元位置を留めていたものは少ない。多くの石は被熱によって割れた状態であった。覆土下位に若干の焼土塊が点在する。　**柱穴**　確定されるものは南側にＰ１・Ｐ２の２本を検出したが、西側については確認できなかった。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　貼り床等は確認されず、床下土坑も検出されていない。　**遺物出土状態**　炉の南側に比較的集中して見られた。深鉢の口縁部、胴部片が出土している。床面出土の遺物は少ない。　**時期・所見**　本址は平成９年度に東側半分の調査を行い、11年度に残った西側について調査を実施したものである。北側の壁は依存状態が良好であったが、南側はかなり削平されていた。住居の南側、および壁際に平坦な石が散見されている。時期は出土遺物から中期後半と判断される。



第13図　5－19号住居跡出土遺物



5－20号住居跡

1　黒色土　粘性はあるが締まり弱い層、白色粒を少量含む。
2　黒色土　やや明るい色調で粘性、締まりあり、白色粒、YPK少量含む。
3　暗褐色土　やや暗く角礫を多く含む、YPK、炭化物少量含む。
4　暗褐色土　少量の白色粒子を含み均質、粘性、締まりに富む。
5　暗褐色土　大形の自然礫を含み、YPK多く含む。
6　暗褐色土　やや暗い色調、粘性に富みローム粒、YPK少量含む。
7　暗褐色土　暗い色調、白色粒子を多く、YPKを少量含む。
8　暗褐色土　やや暗い色調、少量の角礫、炭化物含む。
9　暗褐色土　暗い色調、白色粒子を多く含む。
10　暗褐色土　白色粒子少量含む。
11　暗褐色土　炉内埋土、締まりよくYPK多量、炭化物多く含む。
12　暗褐色土　炉内埋土、締まり弱い、YPKごく少量、ローム粒やや多く焼土粒、炭化物少量含む。

5－20号住居跡ピット1

1　暗褐色土　少量のYPK、白色粒子を含む、柱痕か。
2　褐色土　にぶい色調、ローム粒主体、締まり弱い。

5－20号住居跡ピット2

1　暗褐色土　少量のYPK、ローム塊を含み均質。

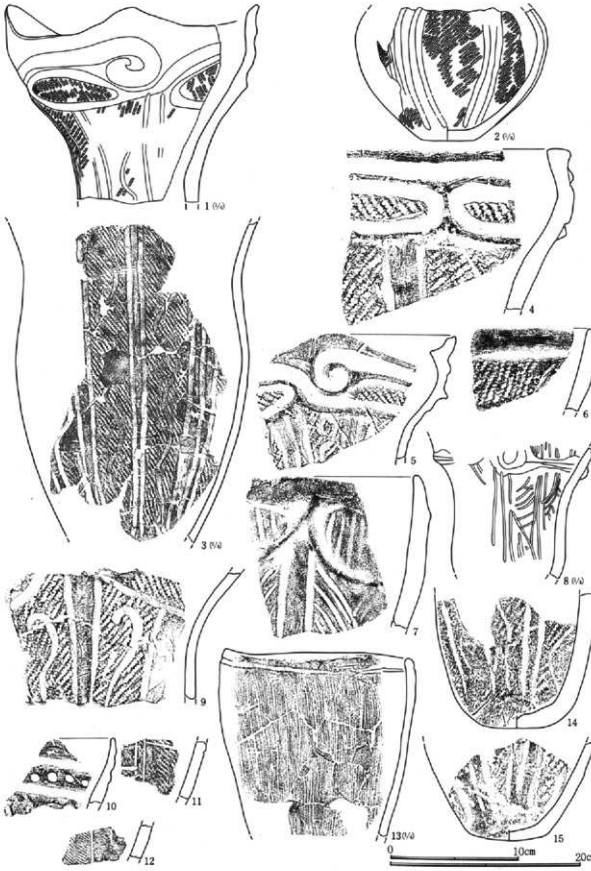
5－20号住居跡炉

1　黒色土　黄色軽石微量、ローム粒はとんど含まない。
2　黒色土　ローム粒僅かに含む。
3　赤褐色土　焼土ブロックでロームが焼けたもの、硬くしまる。

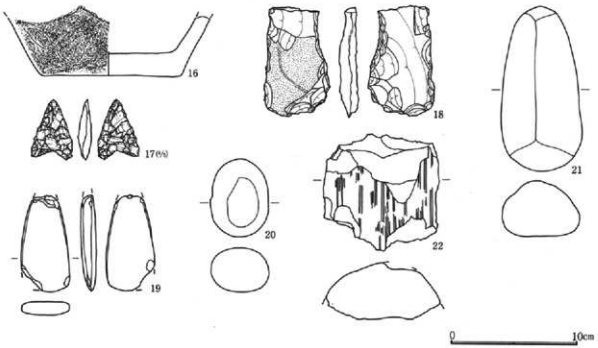
第14図　5－20号住居跡

5－20号住居跡出土遺物（第15・16図：ＰＬ46）

1は4単位の波状口縁を持つ深鉢で口径(26.2)cm、波頂部を繋ぐように太沈線による横S字文を描き、波頂下で渦巻きとし、渦巻き間には楕円文を描き縄文が充填される。胴部は沈線による併行懸垂文による縦区画、区画内は縄文地文とし蕨手文を描く。2は球形の胴部、太い沈線を垂下させ沈線間は隆起文とする、隆起文は1本と2本が見られる。隆起線間はRLの縄文を多方向施文により充填。3・15は同一個体と思われる。口縁部を欠き、長胴部に縦位の沈線による磨消し帯、縄文帯を持ち、縄文帯部分には垂下蕨手沈線文。胎土中に白色砂粒を多く含む。9も3と同様なモチーフを持つ、上位に横位沈線が見られ、楕円区画を描くものと見られる。



第15図　5－20号住居跡出土遺物(1)

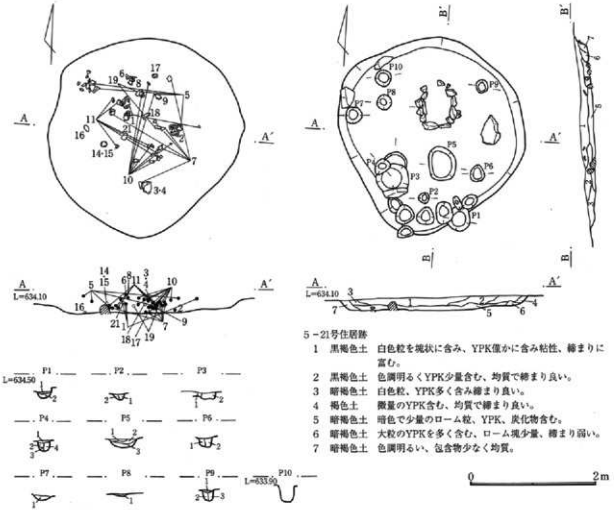


第16図　5－20号住居跡出土遺物(2)

4は深鉢の口縁部片、隆帯による楕円区画文を描き、区画内には縄文RLを施文。胴部は縦の縄文・無文帯が見られる。5は小波状口縁部、波頂下に太沈線で渦巻文、下位には縄文を持つ横S字文様。胴部は縦の磨り消し縄文帯を持ち、沈線による蕨手文を垂下させる。6は口縁部片、口縁にそって狭い無文部を持ち以下縄文施文、端に沈線文の一部が看取される。7は口縁部片、隆線により楕円文を画す、区画内には縦の集合沈線文。楕円文の接点部から沈線により縦の磨消し帯を描き、左右に斜方向の集合沈線文を描く。8は口縁部に隆線による円形文、横線文を持つ。胴部には沈線により3本単位の平行懸垂文、その間を不規則な綾杉状の集合沈線で埋めている。10は浅い2本の横位沈線を巡らし間に連続円形押圧文を付す。11は胴部片、細縄文施文後縦・横位の沈線文。12は磨消し縄文帯文様、器面は平滑。13は底部を欠く深鉢、口縁部に一本の沈線を巡らし、以下胴部には縦の集合沈線を施す。胎土中に白色を呈す砂粒が目立つ。口径(20.5)cm。14は深鉢の底部である、縄文を地文とし沈線による懸垂帯を持つ。16は無文の大型底部片である。欠け口が摩耗していることから、再利用品か。17は完形の小形凹基無茎鏃である。18は完形の打製石斧である、薄手で刃部摩耗。19は定角式の磨製石斧である。20・21は磨石である、20は火を受けている。22は大型石棒の欠損品で火を受けている。

5－21号住居跡（第17図：ＰＬ5）

位置　5Ｘ・Ｙ－5グリッドに位置する。　**重複**　北側に5－457号土坑が、東側に5－425号土坑が重複する。　**形状**　上部をかなり削平されいる。ほぼ円形であるが、南側がやや張り出している。あるいは柄鏡形を呈すか。　**規模**　長軸310cm、短軸300cm、深さ20cm。　**方位**　Ｎ－5°－Ｗ　**床面**　他の土坑等により削られた部分もあるが残っている面は比較的平坦で締まりを持つ。　**炉**　中央やや北に検出された、扁平な礫を方形に組んでいる。石は被熱により割れているものが多い。　**柱穴**　主柱穴は4本か、入り口部にも両側に複数のピットが検出されているが、明確なものは確認できなかった。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　貼り床、土坑等の検出は見られない。

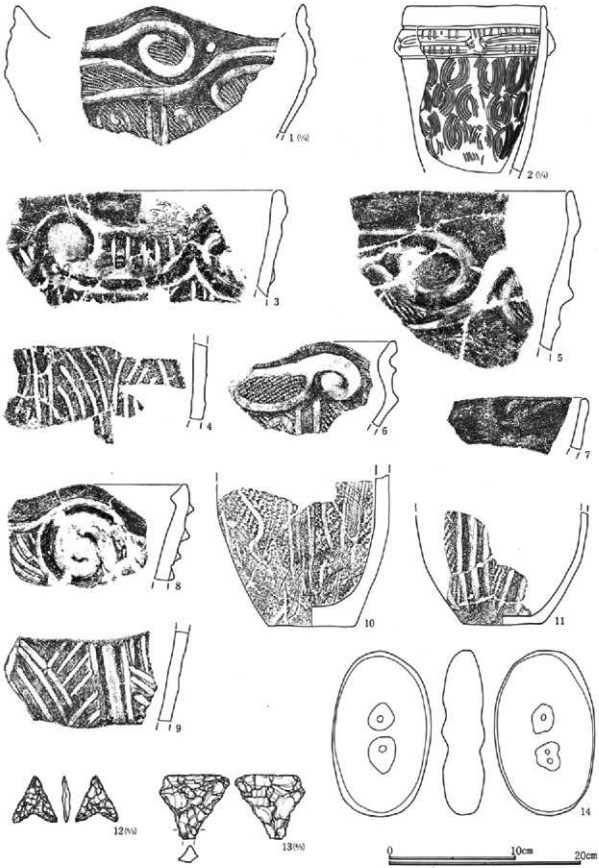


5－21号住居跡ピット1
1.暗褐色土　締まり良くYPKを少量含む。
2.黒褐色土　締まり良くYPKを多くロームブロック若干含む。
5－21住ピット2
1.暗褐色土　締まり良い、炭化物少量含む。
2.にぶい黄褐色土　やや軟質、YPK少量、ロームブロック多く含む。
5－21住ピット3
1.黒褐色土　締まり良い、軽石やや多く含む。
2.にぶい黄褐色土　YPK、ロームブロック多く含む。
5－21住ピット4
1.黒褐色土　締まり良く炭化物少量含む、YPKを少量含む。
2.暗褐色土　締まり良くYPK少量、ロームブロック若干含む。
3.暗褐色土　締まり良くYPKやや多く含む。
4.暗褐色土　締まり良くYPK少量含む、柱痕か。
5－21住ピット5
1.黒褐色土　締まりあり、YPK、ローム塊を少量含む。
2.暗褐色土　締まり良くYPK、ローム塊を多く含む。
3.暗褐色土　締まり良くYPK多く含む。
5－21住ピット6
1.暗褐色土　締まり良くYPK多く含む。
2.暗褐色土　1より暗色、やや軟質でYPK少量含む、柱痕。
5－21住ピット7
1.暗褐色土　締まり良くYPK少量含む、ローム粒やや多く含む。
5－21住ピット8
1.暗褐色土　締まり良くロームブロック、YPKやや多く含む。
5－21住ピット9
1.黒褐色土　締まり良く、YPKやや多く含み小炭化物粒を少量含む。
2.暗褐色土　締まり良く、YPK多く、ロームブロック少量含む。
3.暗褐色土　やや軟質、YPK少量含む、柱痕か。

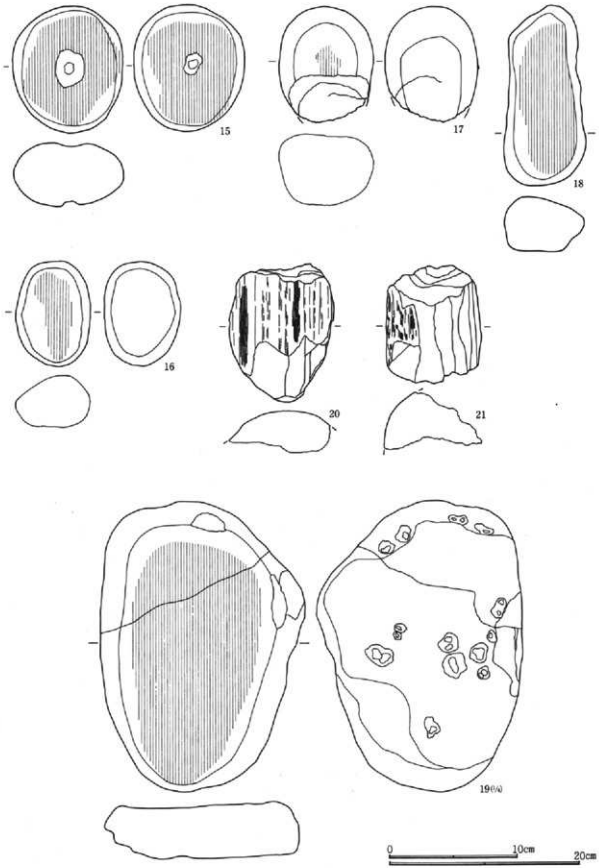
5－21号住居跡
1　黒褐色土　白色粒を微状に含み、YPK僅かに含み粘性、締まりに富む。
2　黒褐色土　色調明るくYPK少量含む、均質で締まり良い。
3　暗褐色土　白色粒、YPK多く含み締まり良い。
4　褐色土　微量のYPK含む、均質で締まり良い。
5　暗褐色土　暗色で少量のローム粒、YPK、炭化物含む。
6　暗褐色土　大粒のYPKを多く含む、ローム塊少量、締まり弱い。
7　暗褐色土　色調明るい、包含物少なく均質。

5－21号住居跡炉
1　黒褐色土　YPK若干多く、炭化物、焼土粒少量含む。炉床はロームが焼けて赤化している焼土の堆積は認められない。

第17図　5－21号住居跡



第18図　5－21号住居跡出土遺物(1)



第19図　5－21号住居跡出土遺物(2)

遺物出土状態　覆土中には多くの礫が入り込んでいた。遺物はやや大形の破片も含め、炉を中心にかなり集中した状態で出土しているがやや床面からは浮いたものが多かった。2は床面より出土している。
時期・所見　住居の南側部分がやや外側に膨らむ形状を呈し、縁辺部には敷かれた状態の平石が部分的に検出されている。時期は中期後半である。

5－21号住居跡出土遺物（第18・19図：ＰＬ47）

1は口径(30.2)cm、波状口縁の深鉢、波頂下に太い沈線による渦巻き文および楕円文を描く、区画内には縄文を充填、胴部は沈線による併行垂下文、蕨手文を持ち、地文に縄文LRを縦位施文。2は小形深鉢である、口径(14.4)cm、口縁部横位に併行する2本の刻みを持つ隆帯が巡る。4カ所で連結し瘤状に高まる。胴部は集合沈線による重( )状文を充填施文。床面より出土している。3は深鉢口縁部片、隆帯による楕円、渦巻きの区画文、区画内には縦位の沈線文。4は3の胴部片。5は口縁部片、隆線によって楕円区画文、胴部には縄文。6は波状口縁の深鉢、1と同様のモチーフを持つやや小形の土器である。7は無文の口縁部片。

8は波頂部片、波頂下に隆線による渦巻き文を描き、両側に太い集合沈線。9は胴部片、併行する隆線が垂下し、間は綾杉状の沈線で埋める。下辺欠口が摩耗。10は底部片、縄文地文とし、沈線による併行、波状の懸垂文が見られる。11は深鉢の底部、縄文を地文とし、沈線による懸垂帯を持つ。12は小形凹基無茎鏃の完形品である。13は石錐である、つまみ部は三角で厚みを持つ。14・15は凹石、両面に凹み穴を持ち、表面は使用により摩耗している。16・17は磨石である。表面摩耗している。18は敲石である、棒状で両端に打痕あり。19は石皿、使用面は浅く凹み、裏面に複数の凹み穴を持つ。20・21は大型石棒の欠損品、火を受けている。

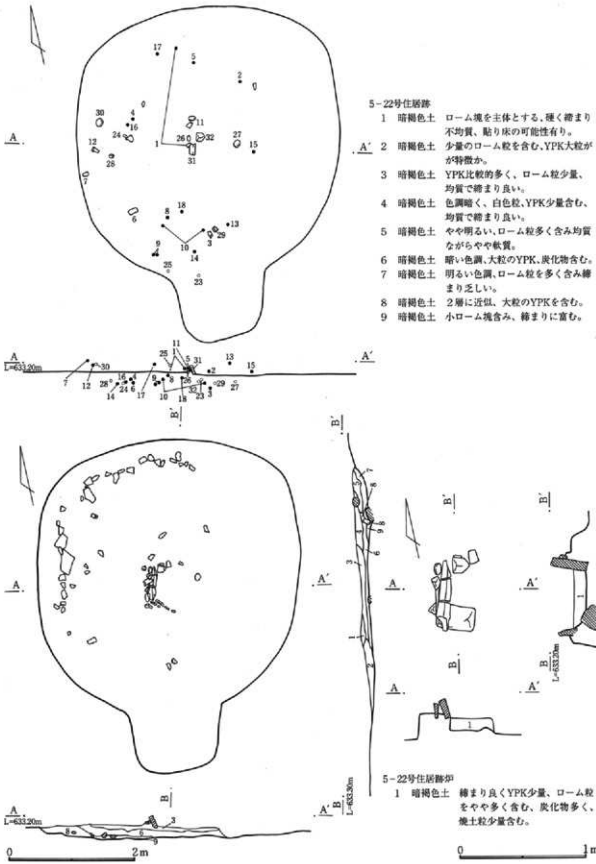
5－22号住居跡（第20図：ＰＬ5）

位置　5Ｘ－2・3グリッドに位置する。　**重複**　5－23・27号住居の東側に重複しこれらを切る。
形状　東および南側については極めて不明瞭であり、東側部分は調査区外となる。主体部やや角が丸みを持つ柄鏡形を呈するものと推定される。　**規模**　推定南北長530cm、短径420cm。　**方位**　Ｎ－12°－Ｅ　**床面**　扁平な石が炉の周辺および北・西壁際に沿って検出されているが、周礫は北および西側が部分的に残るのみである。明確な硬化面は認められなかった。　**炉**　炉は角礫を矩形に配して構築されていたものと思われるが、南側半分は壊されていた。炉石は被熱によってひび割れが著しい。覆土下層に若干の炭化物粒、焼土が見られる。　**柱穴**　検出されなかった。　**埋甕**　検出されていない。　**掘方**　床下土坑等は検出されなかった。
遺物出土状態　破片を衷心に出土している、レベル的に推定床面より下位に位置しているものも多く、混入品と判断される。　**時期・所見**　北西部分の、推定壁に沿って扁平な石の並びが検出されている。敷石住居と考えられるが、破損状態が著しく全容は明らかにできなかった。時期は後期前半と思われる。

5－22号住居跡出土遺物（第21・22図：ＰＬ48）

1は深鉢口縁部片、口径(27.4)cm。頸部で括れる器形で、口唇部は内屈する。併行沈線による曲線、渦巻き文様を描き縄文を充填する。胎土中に金雲母片目立つ。2は小形土器である、口縁に部に狭い無文部を有し以下全面にRL縄文が横位施文される。3は隆帯による渦巻き文。4は口縁部片、無文部有し縄文地文に沈線文様を有すと思われる。5は口縁部片隆帯で口縁部文様帯を区画し縦位短沈線文を付す。

6は無文の口縁部片、内外面磨かれ口唇部やや肥厚、横位隆帯が巡る。7は口縁部に無文帯を持ち、隆帯



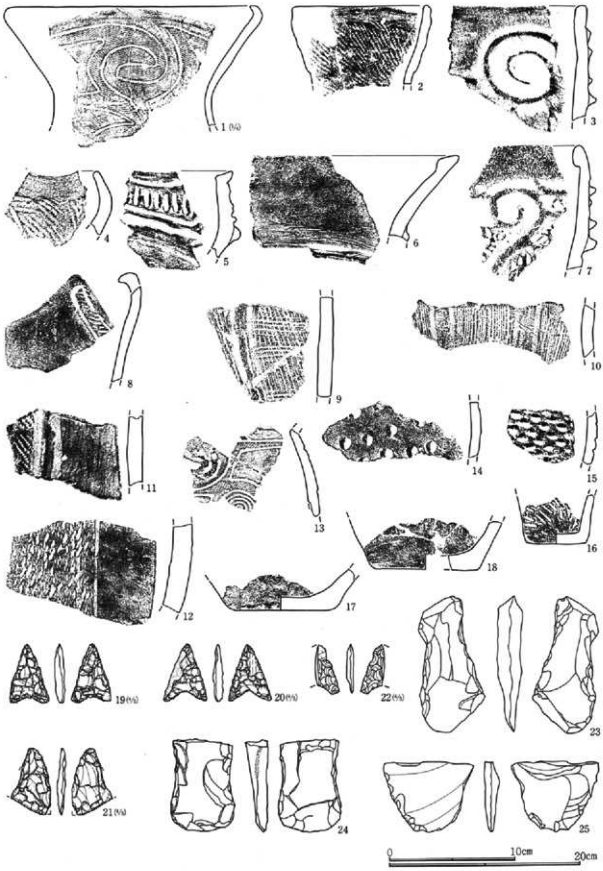
5－22号住居跡

1　暗褐色土　ローム塊を主体とする。硬く締まり不均質、貼り床の可能性有り。
2　暗褐色土　少量のローム粒を含む、YPK大粒が特徴か。
3　暗褐色土　YPK比較的多く、ローム粒少量、均質で締まり良い。
4　暗褐色土　色調暗く、白色粒、YPK少量含む、均質で締まり良い。
5　暗褐色土　やや明るい、ローム粒多く含み均質ながらやや軟質。
6　暗褐色土　暗い色調、大粒のYPK、炭化物含む。
7　暗褐色土　明るい色調、ローム粒を多く含み締まり乏しい。
8　暗褐色土　２層に近似、大粒のYPKを含む。
9　暗褐色土　小ローム塊含み、締まりに富む。

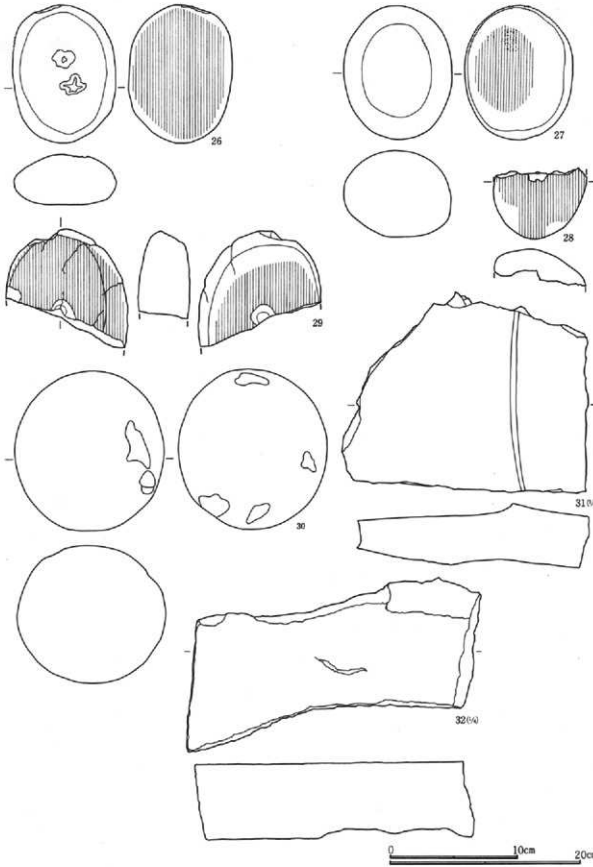
5－22号住居跡炉

1　暗褐色土　締まり良くYPK少量、ローム粒をやや多く含む、炭化物多く、焼土粒少量含む。

第20図　5－22号住居跡



第21図　5－22号住居跡出土遺物(1)



第22図　5－22号住居跡出土遺物(2)

による渦巻き文。8は波状を呈す口縁部片、口唇部内屈、口縁に沿って沈線による区画文を描き中は縄文を充填。9は浅い沈線文と格子状の条線文様。10は縦位併行懸垂文、間には縦の集合条線文。11は胴部片縦位隆帯で縄文、磨り消し帯を画す。12は幅広の無文帯を持つ、縄文は撚糸R。13は壺型土器の肩部片か、磨り消し縄文による渦巻き文矩形文を描く、刻みを持つ弧状隆線あり。14・15は爪形刺突文を有す、前者は粗く、後者は密に施文される。16は小形土器の底部片、斜位の集合沈線文。17・18は無文の底部片。19・20・21・22は石鏃である。19・20は完形で丁寧な作りである。21は基部を欠損、22は半分に割れている。

23は打製石斧である。撥形を呈し、刃部の一部を欠く。24は打製石斧である。基部を欠く撥形。25は半月状のスクレイパーである。26・27・28・29は磨石である。いずれも使用面の摩耗が顕著で火を受けている。30は丸石である。球形で表面は平滑、火を受けている。31・32は台石である。使用面は平滑で、31は炉石に転用されている。

5－23号住居跡（第23図）

位置　5X・Y－2・3グリッドに位置する。　**重複**　南東部に本址よりも新しくなる5－22号住居が重複し、5－27号住居の上に重複する。　**形状**　柄鏡形を呈すと考えられる。　**規模**　推定径約(400)cm。　**方位**　N－10°－E　**床面**　極めて不明瞭である。凹凸も著しく、使用面は確認できなかった。周溝も明確には検出できなかった。　**炉**　細長い角礫を用いた石組み炉であるが、東側部分の炉石の一部は5－22号住居によって壊されている。火床面に焼土層を認める。　**柱穴**　確認できなかった。

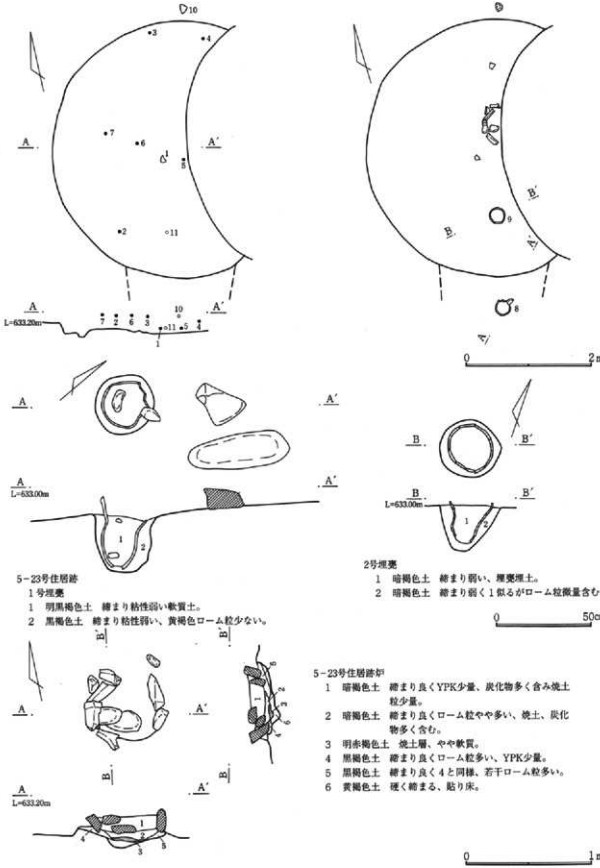
埋甕　炉を通る主軸上に主体部、及び張り出し部に1基づつ検出された。当初は単独の埋甕として調査した。8は炉の南約1mの所に在りやや傾いてはいるものの正位状態で埋められていた。底部を欠く。9は張り出し部に位置すると思われる8と同様やや傾いた正位状態で検出されている。　**掘方**　凹凸は認められたが土坑等の施設は無かった。　**遺物出土状態**　埋甕以外は小片が多かった。

時期・所見　東側は5－22号住居に壊されており、さらに削平が著しく掘り込み範囲は不明確である。時期は中期後半。

5－23号住居跡出土遺物（第24図：PL49）

1は口縁部片、隆帯により楕円、渦巻き区画文が重層する。2は隆帯による渦巻き文。3は1と同様の隆帯による渦巻文。4は口縁部片、口縁に沿って沈線が見られ以下縦の沈線文。5は口縁部片、横位、縦位の隆帯文、沈線により縦位、横位文様。6は口縁部片、沈線による楕円区画文を描き縄文を充填する。

7は垂下隆線、蛇行文が見られ、地文は斜位の集合沈線。8は口縁部の半分および底部を欠いている。住居の南側、張り出し部と推定される場所に埋設された埋甕と判断される。やや細身で頸部の括れは弱い。
口縁部は文様帯間に沈線画した幅狭の無文帯を有し、隆帯による連続弧状文が廻り、弧状間にはS字状の垂下文、さらに平行隆帯文。弧状文中央部からも蛇行垂下文。それぞれの垂下文は下端部で繋がっている。器面には斜位の集合沈線文が単位を持って充填される。9は小さい底部からやや膨らみをもって立ち上がり、胴中位でやや括れ、口縁部に向かってわずかに膨らみ、口縁部を欠く。沈線により上下にU状文を描く、文様内は縄文が充填される。炉の南に正位に埋設された埋甕。10は磨石である。円礫を利用、両面を使用面としている。台石として使用か。11は磨石である。やや扁平な円礫を利用している。

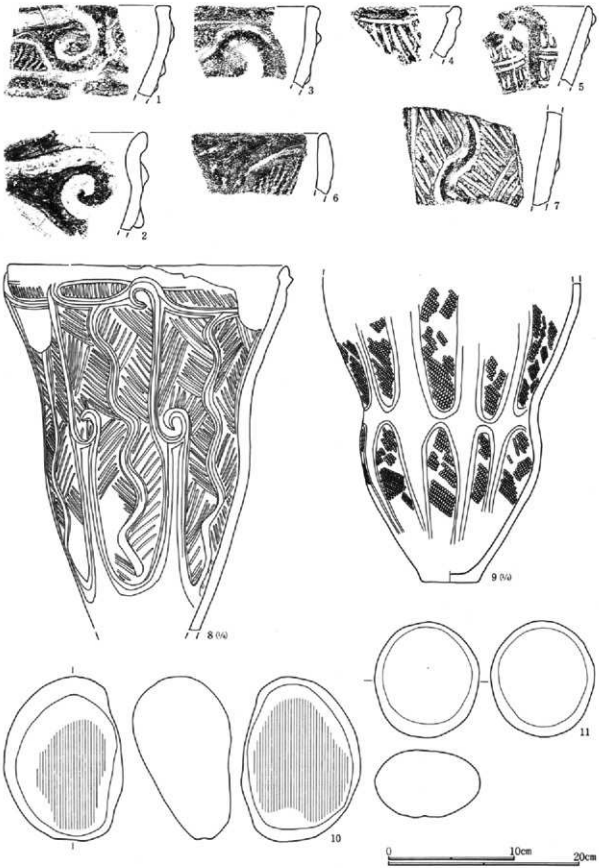


5－23号住居跡
1号煙突
1　明黒褐色土　締まり粘性弱い軟質土。
2　黒褐色土　締まり粘性弱い、黄褐色ローム粒少ない。

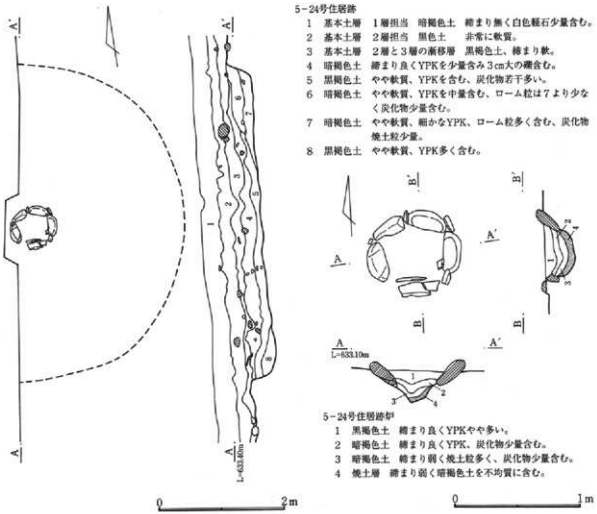
2号煙突
1　暗褐色土　締まり弱い、煙突埋土。
2　暗褐色土　締まり弱く１似るがローム粒微量含む。

5－23号住居跡炉
1　暗褐色土　締まり良くYPK少量、炭化物多く含み焼土粒少量。
2　暗褐色土　締まり良くローム粒やや多い、焼土、炭化物多く含む。
3　明赤褐色土　焼土層、やや軟質。
4　黒褐色土　締まり良くローム粒多い、YPK少量。
5　黒褐色土　締まり良く４と同様、若干ローム粒多い。
6　黄褐色土　硬く締まる、貼り床。

第23図　5－23号住居跡



第24図　5－23号住居跡出土遺物



第25図　５－24号住居跡

５－24号住居跡（第25図：ＰＬ5）

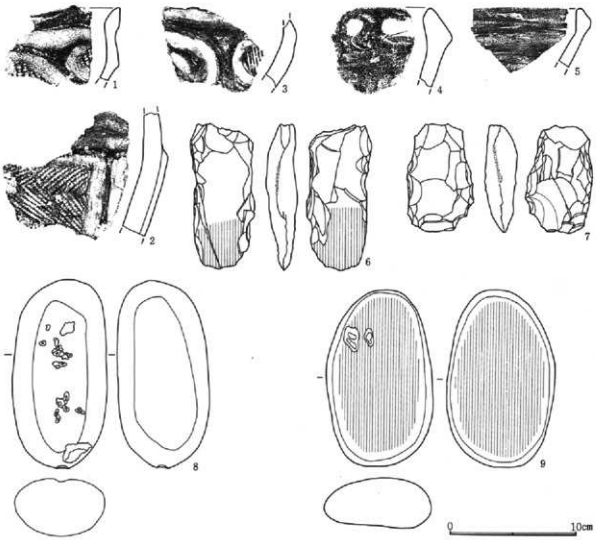
位置　５Ｙ－２・３、６Ａ－２・３グリッドに位置する。　**重複**　西側約半分は調査区外にある。

形状　円形と思われる。　**規模**　推定径480cm。　**方位**　Ｎ－83°－Ｗ　**床面**　明確な硬化面は検出されなかった、炉の周辺に貼り床の一部と見られるロームブロックが検出されているが、極めて部分的である。

炉　川原石をほぼ円形に配している。規模は南北75cm、東西65cmである。炉石はいずれも外側に開くように据えられており、掘り方面に接している。炉床には焼土と炭化物が検出されている。　**柱穴**　確認されなかった。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　不明である。　**遺物出土状態**　遺物は調査時に住居推定域内において出土したものである。　**時期・所見**　炉のみの検出、時期は中期後半か。

５－24号住居跡出土遺物（第26図：ＰＬ49）

１は波状口縁部片、隆線による楕円区画文。２は口縁部に無文部を持ち隆帯により横位、縦位の区画帯、胴部区画内には縄文が施文される。３は隆帯により口縁部楕円区画文。４は口縁部片、肥厚しやや内屈、沈線、円形刺突文が見られる。５は無文の口縁部片、口唇部くの字に内屈する。６・７は打製石斧である。６は基部を欠き刃部摩耗する、７は小形品。８・９は磨石である。炉に使われていた。

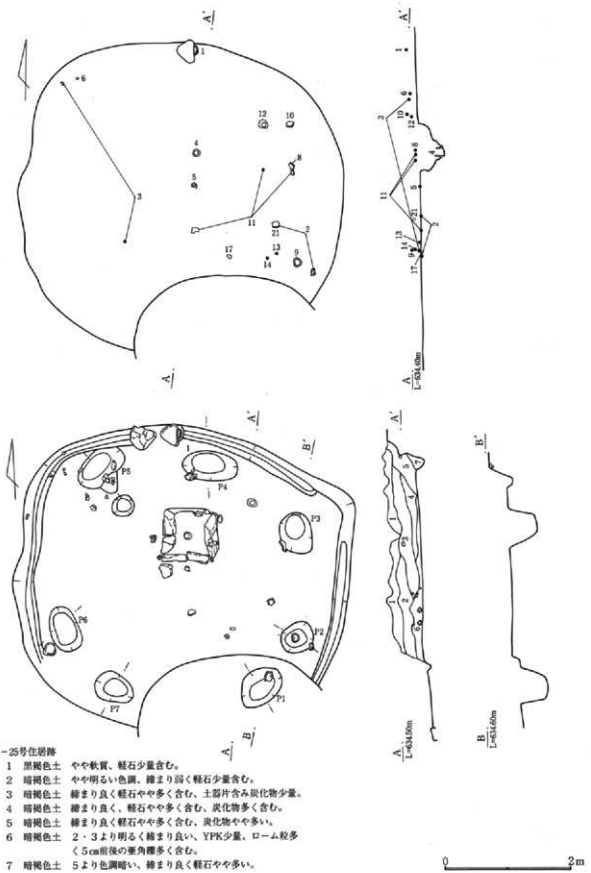


第26図　5－24号住居跡出土遺物

5－25号住居跡（第27・28図：PL6・7）

位置　5Y－6・7、6A－6・7グリッドに位置する。　**重複**　南側を5－20号住に切られる。また北に位置する6－9号住居の南東部に重複しこれを切っている。　**形状**　東西、南北辺がわずかに膨らみを持つやや丸みを持った矩形を呈する。南側については削平を受けており、壁の立ち上がりが不明瞭であった。　**規模**　長軸(520)cm、短軸(490)cm、深さ15cm　**方位**　N－3°－E　**床面**　やや凹凸が見られるが、炉を中心に締まりは良い。南側を除き幅15cm程の周溝が廻る。また北壁下の周溝は埋甕のところで終わっている。　**炉**　住居の中央やや北に寄った位置に作られていた。方形の石囲い炉である。規模は東西90cm、南北約80cmであるが、北側の石が抜かれている。残った炉石は火を受け割れた状態であった。炉の火床は中央が深くなっており、丸く焼土が見られ、中央に深鉢の胴部が逆位で埋設されている。

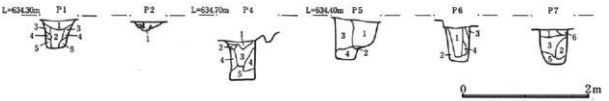
柱穴　壁に沿ってやや長円形を呈する7(6)本を検出した。いずれも長さ70～80cmの長円形を呈し、深さはP2を除き、50～70cmを測る。　**埋甕**　北側の奥壁やや西に寄った位置に、大型の川原石2個が並んで検出された、このうち右側の石の下に、底部を欠いた深鉢が逆位の状態で検出された。床面に径50cm、深さが30cm程の穴を掘り、底に平石を据えて土器を置き、土器の上に扁平な石が蓋のような状態で検出されている。断面図からも明らかなように、据えられた土器の半分以上が床面より上に出た状態である。埋甕と呼ぶよりは伏



5－25号住居跡

1　黒褐色土　やや軟質、軽石少量含む。
2　暗褐色土　やや明るい色調、締まり弱く軽石少量含む。
3　暗褐色土　締まり良く軽石やや多く含む、土器片含み炭化物少量。
4　暗褐色土　締まり良く、軽石やや多く含む、炭化物多く含む。
5　暗褐色土　締まり良く軽石やや多く含む、炭化物やや多い。
6　暗褐色土　2・3より明るく締まり良い、YPK少量、ローム粒多く5cm前後の亜角礫多く含む。
7　暗褐色土　5より色調暗い、締まり良く軽石やや多い。

第27図　5－25号住居跡(1)



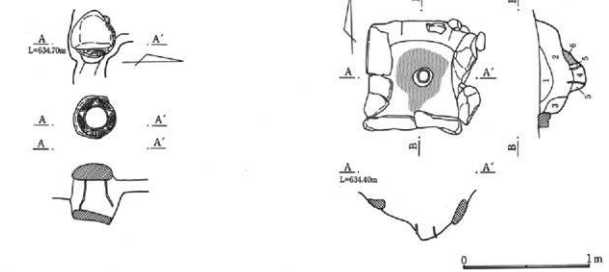
5－25号住居跡ピット1
1　暗褐色土　YPK、ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土　YPKを少量含み均質、柱痕か。
3　暗褐色土　大粒のYPK、ローム塊を含み締まり弱い。
4　暗褐色土　YPK少量含み締まり弱い。
5　暗褐色土　やや暗色、大粒のYPKを含む。

5－25号住居跡ピット2
1　暗褐色土　ローム粒、YPK多量に含む(土器の周囲に微)

5－25号住居跡ピット5
1　黒色土　黄色軽石僅かに含む。
2　黒色土　1と軽石層の混土。
3　黒色土　やや茶色を帯び黄色軽石を多く含む。
4　黒色土　軽石と3の混土。

5－25号住居跡ピット4・6・7
1　黒色土　ローム多く含み全体に黄味を帯びる。
2　黒色土　ローム多く含み、黄色軽石含む。
3　黒色土　黄褐色軽石多く含み、ローム小粒僅かに含む。
4　黒褐色土　黄色軽石多く含み、ローム混じり。
5　黒褐色土　ロームブロック多く含み、軽石は少ない。
6　黄褐色土　ローム小粒と1との混土、軟質。

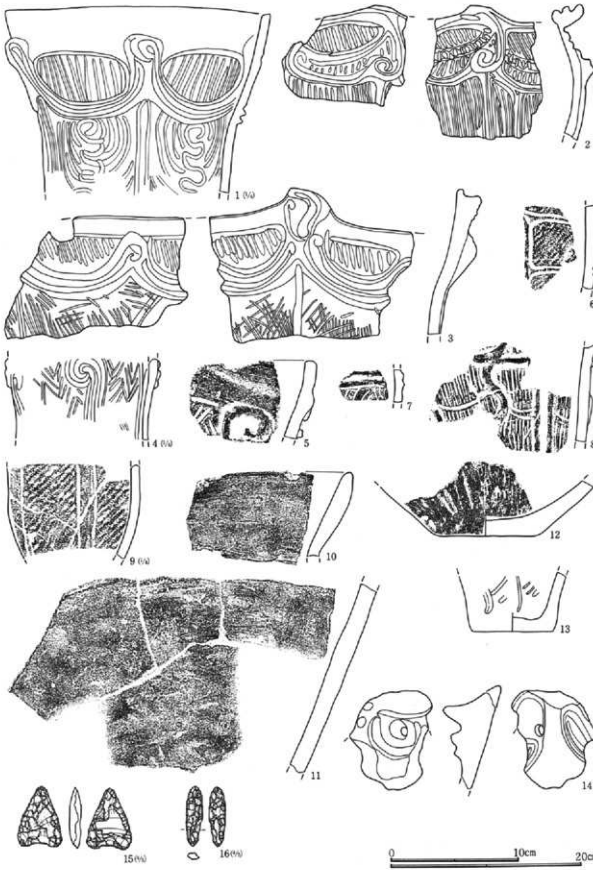
5－25号住居跡炉
1　黒色土　黄褐色軽石わずかに混入。
2　黒褐色土　軽石わずかに混じる他黄褐色軽石若干混入する。
3　黒色土　軽石、ロームは混入はとんど見られず。
4　黒色土　白色軽石わずかに含み、均質で締まりあり。
5　黒色土　軽石は含まず。
6　黄褐色土　炉の地山部分が焼土化したもの。



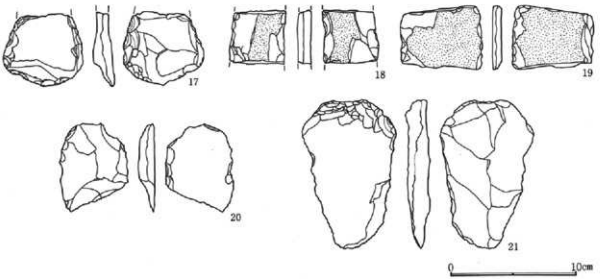
第28図　5－25号住居跡(2)

せ甕としたほうが良いかもしれない。　**掘方**　炉の西側に接して6－168号土坑が掘り込まれている。

遺物出土状態　出土した遺物はあまり多くはなかった。土器類は、住居奥の北壁下に検出された埋甕以外には、破片類が主で、住居東側に比較的多く点在していた。　**時期・所見**　本址は南東に重複した5－20号住居跡と共に、平成9年度に東側約半分の調査を行い、平成11年度に西側の残りの調査を実施している。周辺で検出された住居跡の中では、比較的依存状態の良いものである。大きさも径が5mと比較的大型であり炉、および床面も明確に検出されている。遺物の総量は少なかったが、堀(伏)甕や炉体土器などが出土している。住居奥壁で検出されたこの堀(伏)甕は住居内施設として、興味ある例として注目される。同様のものが5－30号住居跡においても見られる。本址の時期はこれらの出土土器などから中期後半と判断される。重複する住居との新旧関係は、6－9号住→本址→5－20号住の順に新しくなる。



第29図　5－25号住居跡出土遺物(1)

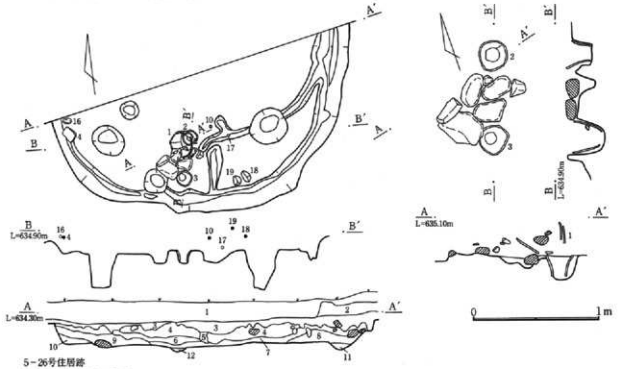


第30図　5－25号住居跡出土遺物(2)

5－25号住居跡出土遺物（第29・30図：ＰＬ49・50）

１は住居の奥壁部に逆位状態で検出されている。土器の上と下に石が置かれていた。口径27.5cm。口縁部文様は２本の隆帯で連続弧状文を描き連結部は瘤状に肥厚し口縁部無文帯につながる。弧状部には沈線による楕円文が描かれ斜位の沈線で埋められている。同部は連結部より垂下した併行懸垂文で５単位に分割、区画内には重弧文、曲線文様が描かれる。胴部の欠け口部分は丁寧に磨られていた。２は胴上半部分で丸みを持って内傾する器形である。口縁部に隆線による楕円文区画を持つ、区画文内は交互刺突文列を挟んで集合沈線で埋められる。口唇部には端が渦巻きとなる沈線が付される。胴部にも隆線が複数本垂下し、地文には集合条線文。胎土中に白色砂粒が目立つ。３は深鉢の口縁部片、口縁部に隆帯による半月状文区画を描き、隆帯の結合部から口縁に向かって渦巻き状の小突起を持つ。区画内には縦位沈線を充填。結合部から胴部にも隆線が垂下、胴部に細沈線により不規則な斜格子文様。４は炉体土器である、炉の中央に据えられていた。口縁、底部を欠く胴部である。隆帯による蕨手懸垂文が６本、区画間には縦位鋸歯状沈線文が充填される。５は口縁部片、口縁に無文部を持ち、隆線による渦巻き文が見られる、地文には矢羽根状沈線文が施文されている。６は地文に縄文を持ち、併行沈線によるパネル文様を描く。７は小片、半隆線と沈線による弧状文様が見られる。炉体土器内から出土している。８は胴部片、隆線による垂下、曲線文様を描く、地文は縦の集合条線で沈線による弧線文が見られる。９は炉体土器である。小形深鉢の胴下部を使用し、底は無い。沈線に画された幅狭の懸垂帯が6本、地文にはRL縄文が施文される。10は無文の口縁部片で中位がやや肥厚する。11は大型鉢の無文胴部片。12は浅鉢の底部片である。整形時のものか条線文様が見られる。13は底部片。垂下隆線と浅い沈線文様が見られる。底面には細い葉脈の木葉痕が見られる。14は波頂部に付く把手である。上端部は薄く円盤状を呈し、外面には沈線文、内面にも沈線による弧状文を描き、中に円孔を有す。石器は７点が出土している。15は抉りの浅い凹基無茎鏃である。16は小形棒状の石錐である。

20・21はスクレイパーである。20は打製石斧の基部片か、21は大形の縦型で作りは粗い。17・18・19は打製石斧である。17は刃部片、18・19は板状の礫を素材とし、両面に自然面を残している。いずれも欠損品である。



5－26号住居跡

1　表土（盛土　砕石）
2　暗褐色土　締まり良く白色軽石（As－Aｓｋ）を含む。
3　暗褐色土　締まりやや軟、YPKを少量含む。
4　暗褐色土　締まり良くYPKを多く含む、赤色土粒少量、土器、礫を多く含む。
5　暗褐色土　4より黒色味強い、YPKを多く含む。
6　にぶい黄褐色土　締まり弱くYPKを多く含み、ローム粒を若干含む。
7　にぶい黄褐色土　6より明るく、締まり良い、YPK、ローム粒多量に含む。
8　黄褐色土　締まり良くYPK多量に含みロームブロック多く含む。
9　にぶい黄褐色土　締まり良くYPK、ローム小ブロック多く、土器を多く含む。
10　黄褐色土　締まり非常に良くYPKをやや多く含む、2cm程のロームブロック多く含む。
11　黄褐色土　締まり非常に良い、YPK少量含む。(拡張前住居の周溝埋土)
12　暗褐色土　締まり良くYPK少量、ロームブロック少量含む。

第31図　５－26号住居跡

５－26号住居跡（第31図：ＰＬ6・7）

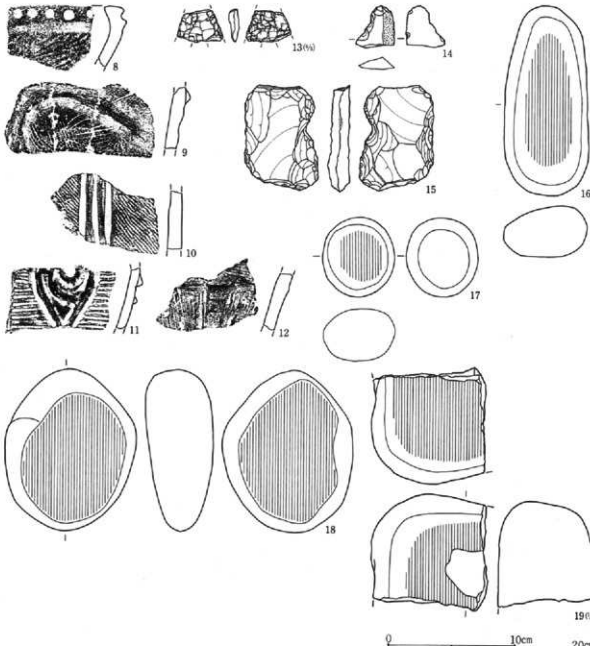
位置　５Ｘ－19グリッドに位置する。　**重複**　北側の約半分は道路下のため未調査、また西側に５－19号住が重複している。　**形状**　円形を呈すと思われる。　**規模**　径約500cm、深さ30cm。　**方位**　不明。　**床面**　中央に近い部分は平坦で比較的堅く締まった状況である。　**炉**　中央やや北寄りの未調査部分にあると思われる。　**柱穴**　南側に２本を確認した。　**埋甕**　南側出入り口部に２基が検出されている。約60cm離れて南北に位置する。間には平らな川原石が数個敷き込まれている。　**掘方**　貼り床、床下土坑等は見られない。

遺物出土状態　１は覆土中、２・３は敷石を伴う埋甕である。他は覆土中が多い。　**時期・所見**　北側の半分は道路下にあるため未調査である。炉も確認されなかった。住居の南側で内側に廻る周溝が検出されたことから、拡張が行われている可能性がある。

５－26号住居跡出土遺物（第32・33図：ＰＬ50・51）

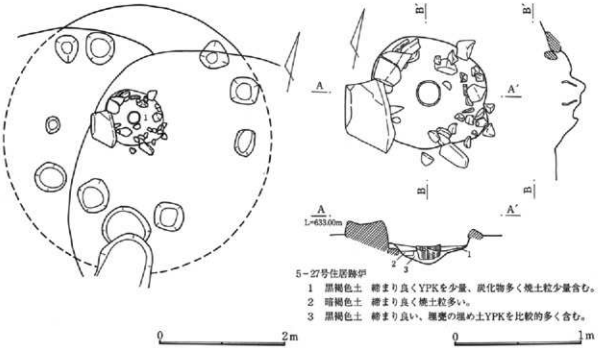
１は大型深鉢の上半部、口径37.8cm。口縁部には隆帯による横Ｓ字文、楕円文を配し縄文を充填する。胴部は縄文を施文し、沈線による幅広の磨り消しの状文を描く。２は１号埋甕である。キャリパー形の深鉢である。口唇部、底部を欠いている。口縁部文様は楕円文、同部は沈線による磨り消し懸垂帯で７分割し縄文が充填され懸垂蕨手文が見られる。３は２号埋甕である、深鉢の胴部で口縁、底部を欠く、上部には隆帯に

第32図　5－26号住居跡出土遺物(1)

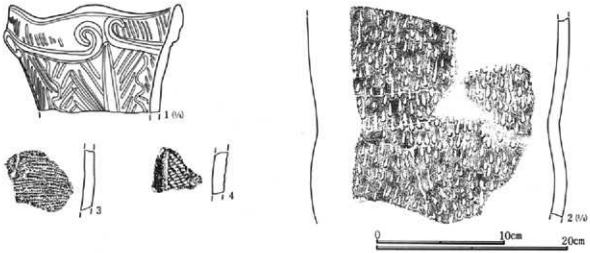


第33図　5－26号住居跡出土遺物(2)

よる横位区画文、胴部は2本の縦沈線で６区画とし、縄文を充填施文、さらに縦手状懸垂文を描く。４・５は深鉢の口縁部片、4単位の波状口縁となり、波頂下に隆帯による渦巻き文、左右には半月上の区画文を描く、区画内には縦の集合沈線を配す。胴部は併行垂下沈線、綾杉状沈線文を充填する。６は小波状口縁部片、隆帯による渦巻き文様。７は大型深鉢の胴部分である、沈線による渦巻き文、重弧文で埋めている。８は口縁部片、口唇部短く内屈し、口縁部に沿って円形押圧文が巡る。９は隆帯による楕円文、内部には不定方向の集合沈線文。10は三本の併行沈線による垂下無文帯、地文は無節Ｌ縄縄文を縦位施文。11は隆線による垂下渦巻き文、地文には横方向の集合沈線文。12は縦位無文帯と集合条線。13は平基無茎鏃で、先端部を欠く。14はスクレイパー、三角形を呈す。15は完形の打製石斧である。16は棒状礫を利用した磨石である。17は磨石、やや扁平な礫を利用する。18は扁平な円礫を利用した磨石である。19は破損した台石である。



第34図　5－27号住居跡



第35図　5－27号住居跡出土遺物

5－27号住居跡（第34図：ＰＬ７）

位置　５Ｘ－３グリッドに位置する。　**重複**　東側に５－22号住居が西側には５－23号住居の２軒が重複。**形状**　円形を呈すと思われる、北側がわずかに残っているが全容は不明である。　**規模**　不明。　**方位**　Ｎ－10°－Ｗ　**床面**　検出した部分はわずかであるため、明確な状況は不明である。　**炉**　石組み炉であるが、上部を５－22・23号住居によって削られている。西側に敷石の一部と考えられる大型の礫が置かれているが本址に伴うものか不明である。炉石は抜かれており残った石もほとんどが動いた状況であった。中央に深鉢の口縁部を利用した炉体土器が据えられていた。　**柱穴**　壁寄りに廻る６本が想定される。　**堰窪**　検出されなかった。　**掘方**　床下土坑等は見られなかった。　**遺物出土状態**　炉体土器以外にはほとんど見られない。　**時期・所見**　大部分を他の住居によって壊されていたため、構造は明確につかめなかった。時期は炉体土器から中期後葉である。

５－27号住居跡出土遺物（第35図：ＰＬ51）

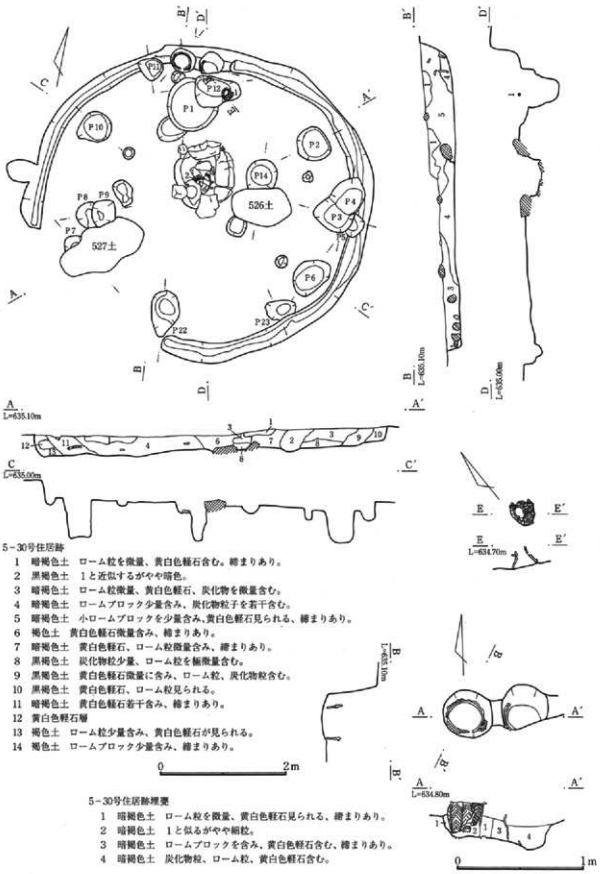
１は炉体土器である。深鉢の胴上半部、口径17.8cm。隆帯による横Ｓ字文と横長Ｃ地文を２単位で配す。口縁と隆帯の間には縦の集合沈線を、胴部は縦の併行沈線で４単位に画し、区画内には沈線による綾杉文、波状垂下文を描く。口縁部は火を受け劣化が著しい。２は胴部が括れる器形、全面に刺突文を有す。３は沈線文様帯を有す、縄文施文土器。４は垂下無文帯を有す、縦位縄文。

５－30号住居跡（第36・37図：ＰＬ8・9）

位置　Ｄ・Ｅ－11・12グリッドに位置する。　**重複**　北側で５－39号住居跡、南側に５－31号住居跡が重複する。また、住居内には５－526・527号土坑が重複する。　**形状**　ほぼ円形を呈す。　**規模**　長軸560cm、短軸500cm、深さ35cm。　**方位**　Ｎ－15°－Ｗ　**床面**　全体に凹凸が見られ、特に炉の前面がやや凹んでいる。壁周溝がほぼ全周しているが、５－31号住居跡が重複した部分については確認されなかった。　**炉**　大型の石を方形に組んだ石組み炉である。熱でかなり破損しており、西側の石は抜かれている。火床面から土器が1点潰れた状態で出土している。　**柱穴**　ピットは計23本を確認したが、主柱穴は６ないしは８本と考えられる。建てかえなどが想定される。　**埋甕**　炉を通る直線上の住居の北壁寄りに検出されている。口縁部および底部を欠く深鉢が正位状態で埋められている。また右側には土器片がやや堀まった状態で出土している。このような埋甕の検出例は５－25号住居跡でも確認されている。　**堀方**　貼り床、床下土坑等は確認されなかった。　**遺物出土状態**　住居の奥壁際に埋甕１が出土、２は炉の中で横倒しの状態で出土している。３はP12の脇に口縁部を下にした状態で出土している。他に多くの破片土器が見られたが、重複する後出土坑のものが多く含まれているようである。また、石器類も覆土中より多く出土している。　**時期・所見**　比較的大型の円形を呈す住居跡である。依存状態も良好であった。住居奥壁に検出した埋甕遺構は５－25号住居の遺構と併せて注目される。時期は出土土器から中期後半に比定される。

５－30号住居跡出土遺物（第38・39・40・41・42図：ＰＬ51・52・53・54）

１は埋甕である、口径(27.5)cm。口縁部、底部を欠いている。２本隆帯により端部が渦巻きとなる区画文を描く、区画内には縦位の沈線文、隆帯中央には２本を繋ぐ隆帯が付される。胴部には10単位の平行懸垂文、その間には綾杉状の沈線が充填される。２は炉体土器である、口径20.9cm。口縁部肥厚し、隆帯による端部渦巻きとなる連続横Ｓ字状区画文を持つ。区画内には縦位の集合沈線が付される。胴部は全面に縄文LRが施文されている。３は口縁が開く朝顔型を呈す、口縁部わずかに内屈し、２本の沈線が巡る。胴部は縦位の半隆起線文で充填され、３本の隆線で上端が渦巻き文となる垂下文が４単位見られる。またそれぞれの渦巻きの下位には縦長の横位集合沈線帯が見られる。口径(19.0)cm。４は口径(17.0)cm。横位隆帯と円形文で画され、口縁部は無文。隆帯下部に沿って刺突文、以下胴部にも円形の刺突文が全面に施文される。５は口縁部沈線で画された長円文を描き長円文間に隆帯による円形文が付く、円形文から上下に併行沈線による曲線文様を描く。地文は無節Ｌ縄文を施文。また口縁部やや内屈し、口唇部は平らで円形刺突文、長円文が描かれる。口径(19.0)cm。６は口縁部、片隆帯によって半円形の連続区画文を持つ、連結部は肥厚しやや捻れを持つ。区画内には短沈線による横綾杉状文が施文される。胴部は３本の垂下沈線と無節Ｌ縄文が縦位施文。７は波頂下に渦巻き文と集合沈線が充填される楕円文が重層する。８は胴部片、沈線による端が渦巻き状の縦位平行線文、左右に枝状に伸びる弧状文を描き、間には蕨手懸垂文が見られる。地文には縄文が施文される。大木系土器。９は楕円区画文で縦位の沈線文が充填される。８は２本の隆線が平行する。10は口縁部片、



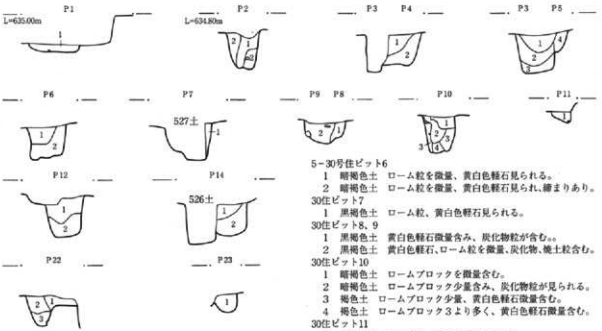
5－30号住居跡

1　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石含む。締まりあり。
2　黒褐色土　1と近似するがやや暗色。
3　暗褐色土　ローム粒微量、黄白色軽石、炭化物を微量含む。
4　暗褐色土　ロームブロック少量含み、炭化物粒子を若干含む。
5　暗褐色土　小ロームブロックを少量含み、黄白色軽石見られる、締まりあり。
6　褐色土　黄白色軽石微量含み、締まりあり。
7　暗褐色土　黄白色軽石、ローム粒微量含み、締まりあり。
8　黒褐色土　炭化物粒少量、ローム粒を極微量含む。
9　黒褐色土　黄白色軽石微量に含み、ローム粒、炭化物粒含む。
10　黒褐色土　黄白色軽石、ローム粒見られる。
11　暗褐色土　黄白色軽石若干含み、締まりあり。
12　黄白色軽石層
13　褐色土　ローム粒少量含み、黄白色軽石が見られる。
14　褐色土　ロームブロック少量含み、締まりあり。

5－30号住居跡埋要

1　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石見られる、締まりあり。
2　暗褐色土　1と似るがやや細粒。
3　暗褐色土　ロームブロックを含み、黄白色軽石含む、締まりあり。
4　暗褐色土　炭化物粒、ローム粒、黄白色軽石含む。

第36図　5－30号住居跡(1)



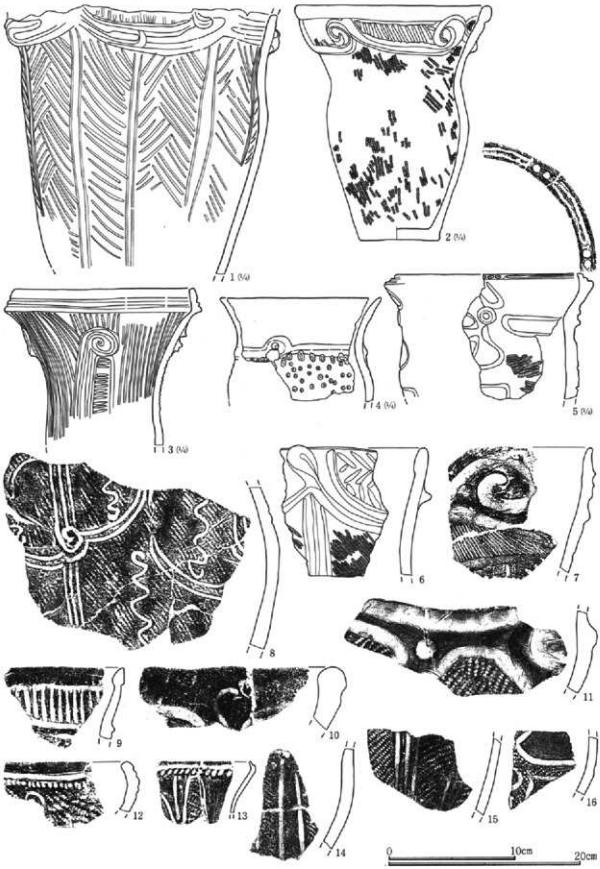
5－30号住ピット1
　1　黒褐色土　ロームブロック、炭化物粒を微量に含む。
5－30号住ピット2
　1　暗褐色土　炭化物粒を微量、ローム粒、黄白色軽石見られる。
　2　褐色土　ロームブロックを微量、黄白色軽石見られる。
5－30号住ピット3、4
　1　暗褐色土　黄白色軽石微量含む。
　2　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石見られる。
5－30号住ピット3、5
　1　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石見られる。
　2　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色パ軽石見られ、締まりあり。
　3　暗褐色土　ロームブロック少量含み、粘性なし。
　4　褐色土　黄白色軽石見られる。

5－30号住ピット6
　1　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石見られる。
　2　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石見られ、締まりあり。
30住ピット7
　1　黒褐色土　ローム粒、黄白色軽石見られる。
30住ピット8、9
　1　黒褐色土　黄白色軽石微量含み、炭化物粒が含む。。
　2　黒褐色土　黄白色軽石、ローム粒を微量、炭化物、焼土粒含む。
30住ピット10
　1　暗褐色土　ロームブロックを微量含む。
　2　暗褐色土　ロームブロック少量含み、炭化物粒が見られる。
　3　褐色土　ロームブロック少量、黄白色軽石微量含む。
　4　褐色土　ロームブロック３より多く、黄白色軽石微量含む。
30住ピット11
　1　黒褐色土　ローム粒、黄白色軽石見られる。
30住ピット12
　1　暗褐色土　ロームブロック微量、炭化物粒極微量含む。
　2　暗褐色土　ローム粒微量、炭化物粒、黄白色軽石見られる。
30住ピット14
　1　暗褐色土　黄白色軽石少量、ローム粒含む。。
　2　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色パ軽石見られ、締まりあり。
30住ピット22
　1　暗褐色土　黄白色軽石、小礫を含む。
　2　暗褐色土　ロームブロック、ローム粒を微量含む。
　3　暗褐色土　ローム粒含み、締まりあり。
30住ピット23
　1　暗褐色土　ローム粒微量、黄白色軽石、焼土粒が見られる。

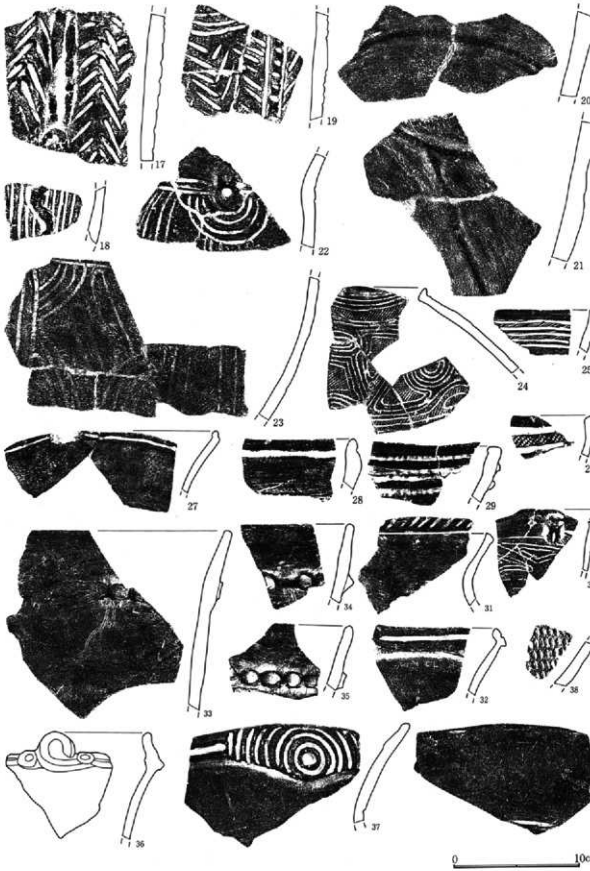
0　2m

5－30号住居跡炉
　1　黒褐色土　黄白色軽石微量、焼土粒、炭化物が見られる。
　2　黒褐色土　焼土粒、炭化物粒含む。
　3　焼土ブロック
　4　黒褐色土　黄白色軽石含み、締まりあり。
　5　黒褐色土　黄白色軽石やや多く含み、ローム粒若干含む、締まりやや強く粘性なし。
　6　黄褐色土　５よりローム含み赤味強い、黄白色軽石わずかに含む。
　7　黄褐色土　黒色土不均質に混入する。
5－7掘り方埋土

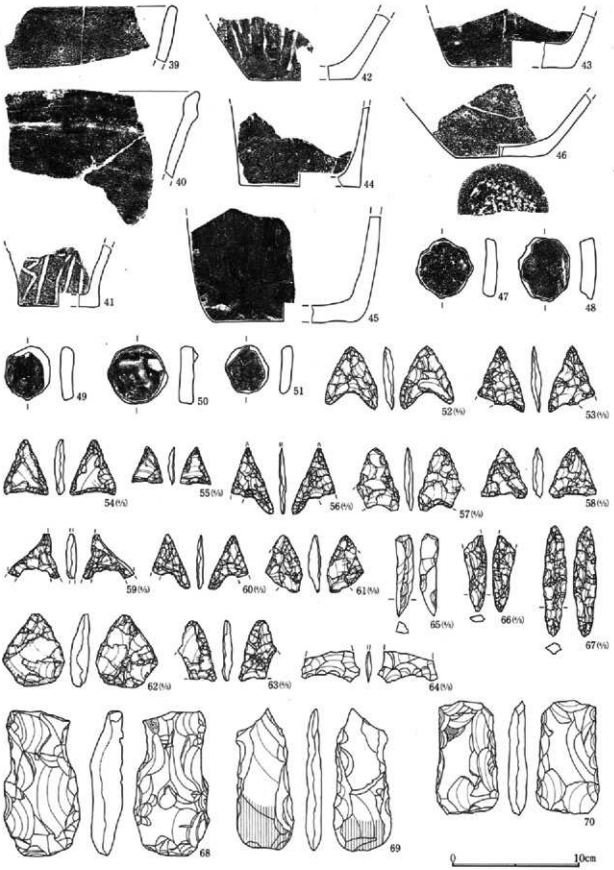
第37図　5－30号住居跡(2)



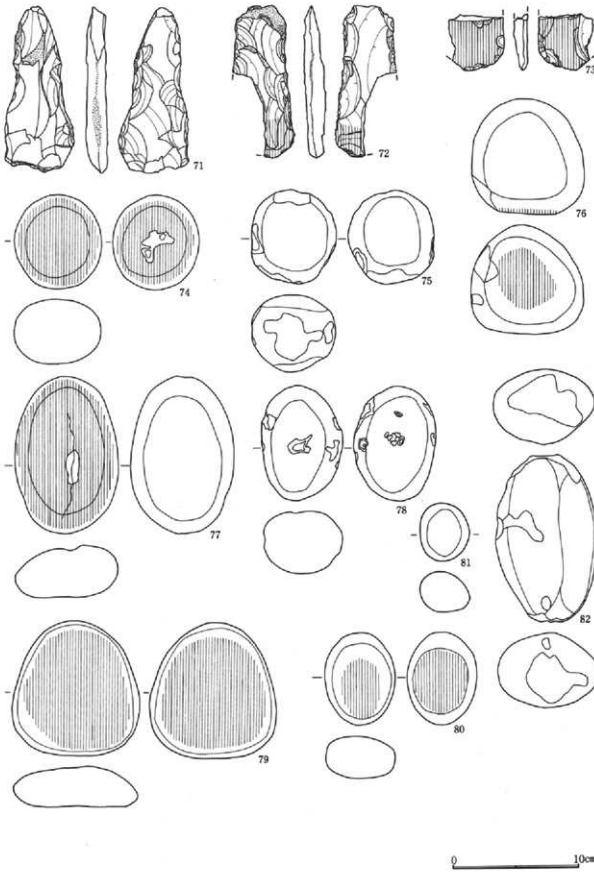
第38図　5－30号住居跡出土遺物(1)



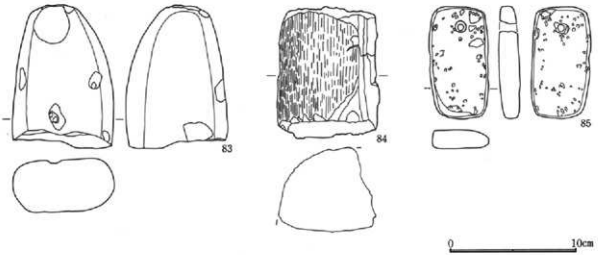
第39図　5－30号住居跡出土遺物(2)



第40図　5－30号住居跡出土遺物(3)

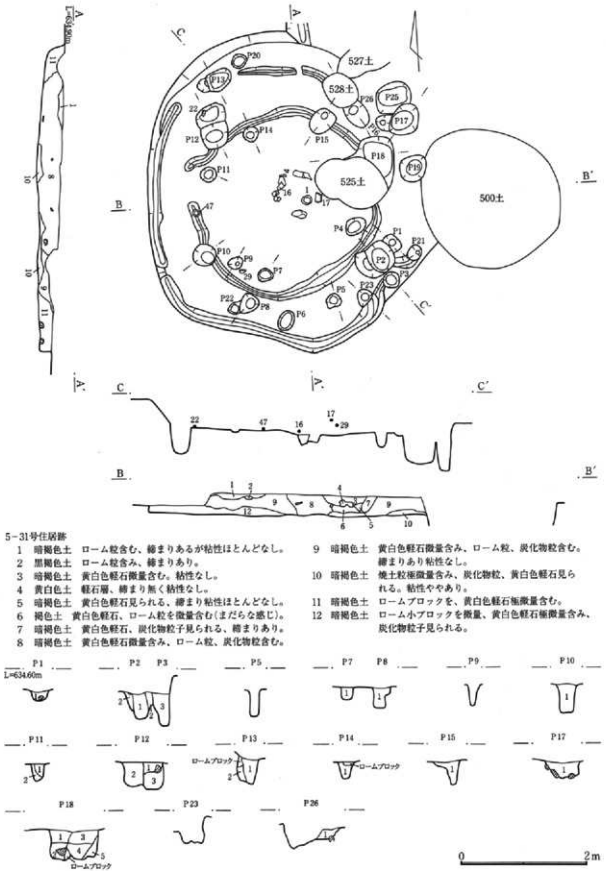


第41図　5－30号住居跡出土遺物(4)



第42図　5－30号住居跡出土遺物(5)

太い沈線による楕円文。11は幅広の隆帯により横S字区画文と楕円文を重層か。区画内には縄文が充填、円形の凹圧文も見られる。12は口縁に沈線が巡りこれに沿って連続の刺突文、以下縄文施文し、沈線による文様が描かれる。13は口唇部に沈線、刻みを有し以下、縄文施文後に縦長波状文を沈線で描く。14・23は同一個体片、沈線による重弧状文平行線文が描かれる。15は垂下沈線による縦区画を構成、縄文が施文される。16は沈線による磨り消し曲線文様、器面光沢あり。17は平行する懸垂隆帯文とやや太い沈線による縦位綾杉文。18は縦の集合沈線上に隆線による波状垂下文。19は刻みを持つ垂下隆帯、地文には沈線による曲線、綾杉状文が見られる。20・21は同一個体片、厚手で隆線による文様が見られる。22は横位併行線上に8字貼付文を持ち、以下重弧状文、平行線文による文様が描かれる。24は短頸の壺型土器か、口縁部はやや外傾気味に短く立ち上がる。肩部には沈線による渦巻き、重楕円・三角・四角文様が組み合わされて描かれる。地文には細縄文が見られる。25は集合斜条線後に複数の横位併行沈線文。26は縄文施文後横位沈線、円形刺突文。27・29は口縁部片、無文で口唇部わずかに内傾。28は無文で口唇下に沈線が巡る。赤彩土器。30は口縁部小波状部に円孔、8字貼付文を持つ、胴部には磨り消し縄文による平行線文、組合せの三角文が描かれる。31はくの字に開く口縁部片、口唇部角頭状で刻みを有す、外面には無節Lが縦位施文される。32は幅広となる口唇部に沈線が見られる。33・34・35は横位隆帯上に凹圧文、34はやや間隔が粗い。36はやや内屈する口縁部片。口唇部には渦巻き状の突起と両側には円形文、口唇に沈線が付される。37は外面は頸部に横位沈線、口縁部内面に同心円文、横位沈線が見られる。38は爪形刺突文。39は無文口縁部片。40は口唇部が肥厚する無文の口縁部片。41は底部片縦位の併行線文、波状文が見られる。42は併行縦位沈線が見られ、わずかに縄文も施文。43は底部片、わずかに縦位の沈線文端部が看取される。44は直立気味に立ち上がる底部片。45は無文の底部片。46は鉢形土器の底部片、底部に網代痕。47～51は土製円盤である。52～57・59～64は石錘である。54・55は平基無茎鏃。58はミニチュアの石匙と見られる。62は凸基無茎鏃で他は凹基無茎鏃である。65～67は石錐である。65・67は完形の棒状錐、67は中央部分が太く両端が細くなる。68～73は打製石斧である。70は短冊形、他は撥形である。刃部の摩耗が見られる。74～83は磨石である。楕円礫、円礫を利用しており、いずれも両面を使用、側縁部に打痕を持つものが多い。84は大型石棒の破片で火を受けている。85は軽石製品、長方形で、円孔を持つ。

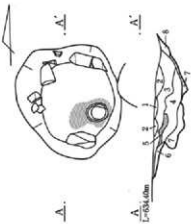


5－31号住居跡

1　暗褐色土　ローム粒含む、締まりあるが粘性ほとんどなし。
2　黒褐色土　ローム粒含み、締まりあり。
3　暗褐色土　黄白色軽石微量含む。粘性なし。
4　黄白色土　軽石層、締まり無く粘性なし。
5　暗褐色土　黄白色軽石見られる、締まり粘性ほとんどなし。
6　褐色土　黄白色軽石、ローム粒を微量含む（まだらな感じ）。
7　暗褐色土　黄白色軽石、炭化物粒子見られる、締まりあり。
8　暗褐色土　黄白色軽石微量含み、ローム粒、炭化物粒含む。
9　暗褐色土　黄白色軽石微量含み、ローム粒、炭化物粒含む。締まりあり粘性なし。
10　暗褐色土　焼土粒極微量含み、炭化物粒、黄白色軽石見られる。粘性ややあり。
11　暗褐色土　ロームブロックを、黄白色軽石極微量含む。
12　暗褐色土　ローム小ブロックを微量、黄白色軽石極微量含み、炭化物粒子見られる。

第43図　5－31号住居跡(1)

31住ピット1
　1　暗褐色土　黄白色軽石、炭化物粒が見られる。
31住ピット2、3
　1　暗褐色土　ロームブロック、黄白色パ軽石極微量含む。
　2　褐色土　ロームブロックを含み、締まりあり。
　3　暗褐色土　黄白色軽石、炭化物粒が見られる。
31住ピット7
　1　暗褐色土　黄白色軽石、炭化物粒が見られる。
31住ピット8
　1　暗褐色土　黄白色軽石、炭化物粒が見られる。
31住ピット10
　1　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石見られる。
31住ピット11
　1　暗褐色土　黄白色軽石見られる、締まりあり。
　2　暗褐色土　ローム粒を少量含み、締まりあり。
31住ピット12
　1　暗褐色土　ローム粒を少量含む、粘性はとんどなし。
　2　褐色土　ロームブロックを多く含む。
　3　褐色土　ローム粒を含む。
31住ピット13
　1　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石見られる。
　2　褐色土　ローム粒微量含み、黄白色軽石見られる。
31住ピット14
　1　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石見られる。
31住ピット15
　1　暗褐色土　黄白色軽石、炭化物粒が見られる。
31住ピット17
　1　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石含む。
31住ピット18
　1　暗褐色土　黄白色軽石見られる。
　2　暗褐色土　ローム粒を微量含み、黄白色軽石含む。粘性ややあり。
　3　褐色土　黄白色軽石見られる、締まりあり。
　4　褐色土　ローム粒、黄白色軽石極微量含む。
　5　褐色土　ロームブロックを微量含む。
31住ピット26
　1　暗褐色土　黄白色軽石、ローム粒含む。



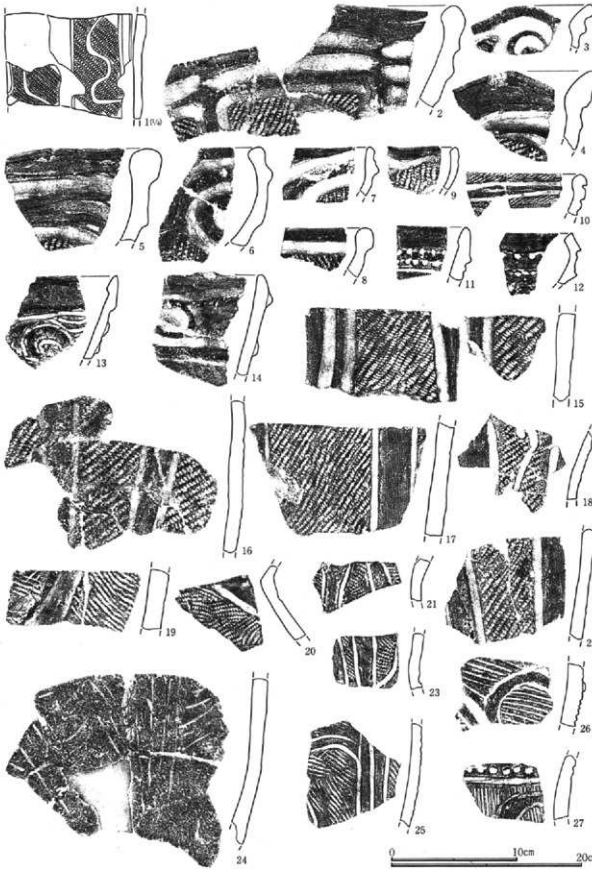
5－31号住居跡炉
　1　黒褐色土　黄白色軽石、炭化物粒が見られる。
　2　黒褐色土　焼土粒を微量、炭化物粒含む。
　3　黒褐色土　炭化物含み、締まりあり。
　4　黒褐色土　炭化物粒を極微量、焼土粒含む。
　5　焼土層
　6　褐色土　黄白色軽石含む。
　7　暗褐色土　黄褐色ローム粒多く含む、黒色土粒を層中央付近に混入する。
　8　暗褐色土　焼土をやや多く含み赤味がかる、白色軽石少量含む。

0 ―― m

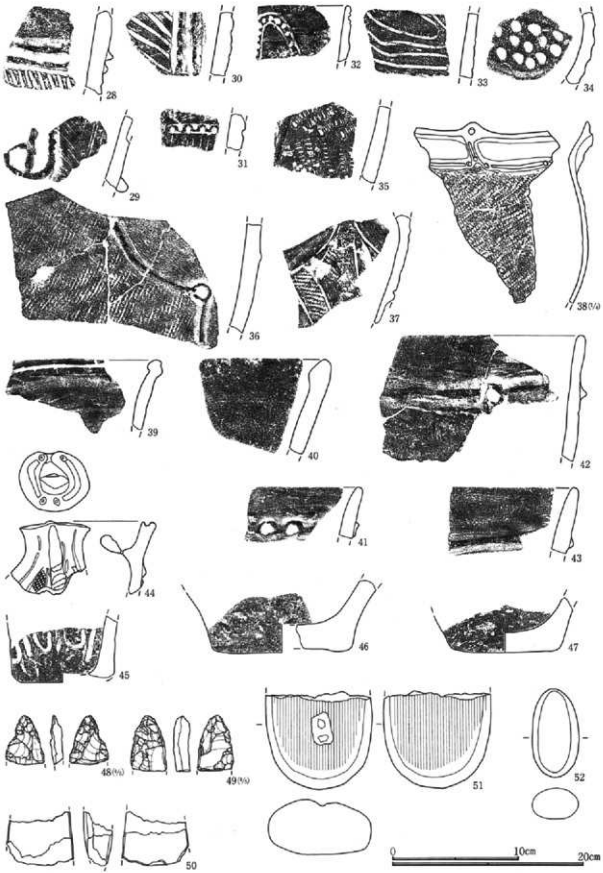
第44図　5－31号住居跡(2)

5－31号住居跡（第43・44図：ＰＬ9）

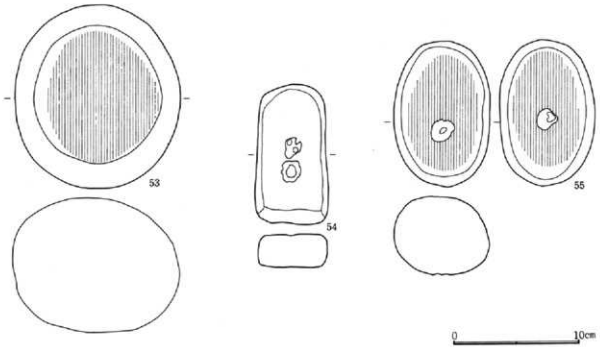
位置　5Ｅ・Ｆ－10・11グリッドに位置する。　**重複**　西側に5－29号住居(平安)が、北東部で5－30号住居が重複さらに、東に5－500号土坑が炉の直ぐ脇には5－525号土坑が重複している。　**形状**　ほぼ円形と考えられるが南側がわずかに張り出す。　**規模**　径約500cm、深さ25cm。　**方位**　Ｎ－3°－Ｅ　**床面**　周溝が2重に廻る、内側周溝の径はおよそ3ｍで、周溝内はレベル的にやや下がっている。床面全体はやや凹凸があるものの比較的平坦で締まりもある。　**炉**　住居の中央に作られている、おそらく方形に作られた石囲い炉と見られるが、北側の角礫がほぼ元位置を留めている他は抜き取られている。炉内東寄りに、深鉢の胴部を利用した埋設土器が検出されている。土器の周囲、および炉の内壁は良く焼けている。　**柱穴**　拡張前の住居跡の柱穴は周溝内に廻る6本か、拡張後の柱穴は両周溝の間に検出された6ないしは7本と思われる。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　貼り床や土坑等の検出は無かった。　**遺物出土状態**　土器は破片類を中心としており、あまり多くはなかった。覆土中に点在する状況である。　**時期・所見**　住居の壁は重複している部分以外は比較的残りは良い。2重に周溝が検出されている事から、拡張住居と考えられる。炉については作り替え等の明確な痕跡は認められなかったが、堀方調査時に埋設土器の脇に小ピットが検出されている、炉作り替え前の埋設土器を据えたピットの可能性もある。



第45図　5－31号住居跡出土遺物(1)



第46図　5－31号住居跡出土遺物(2)



第47図　5－31号住居跡出土遺物(3)

5－31号住居跡出土遺物（第45・46・47図：ＰＬ54・55）

１は炉体土器、火熱を受け脆弱、沈線による懸垂帯、縄文部には波状の懸垂文が描かれる。２は口縁部片、口縁に沿って太い２段の沈線をいくつかの単位で施文、単位間から縦に隆帯が垂下するものと見られ、隆帯で画された内部には縄文が施文される。３は波頂部片、隆帯による渦巻き文。４・６は口縁部片、隆帯により渦巻き文ないしは楕円文を構成か、４は波状口縁。５は口縁部片隆帯による口縁部区画文を持つと見られる。７・９は沈線、隆線による区画文を構成、区画内には縄文が施文される。８は沈線下に縄文。10は縄文地に口縁に沿って深い併行沈線を持ち、沈線間は縄文を磨り消す。11は内側が肥厚する口縁部片、横位隆線、沈線が併行し隆線上下に連続刺突文。12は横位に太い沈線、以下縄文。13は内側に折り返しを有す口縁部片、口縁部無文帯を持ち隆帯による渦巻き文が見られる。14は隆帯による平行線、円形文が見られる。

15・16は縄文地文に沈線による無文懸垂帯。15は沈線幅広である。17は磨り消し懸垂帯、地文はRL縄文を縦位施文。18は磨り消し懸垂帯と蕨手文様。19は縄文地文に微隆起無文帯を持つ。20は沈線による磨り消し文様帯を持つ。21・23は平行沈線による磨り消し縄文。24は縦位の懸垂沈線と綾杉状の縦位沈線。

25は沈線による懸垂文、楕円文が描かれ地文に縄文を持つ。26は隆帯文様と集合沈線文。27は横位沈線間に刺突文、以下縦の集合条線地に沈線による曲線文。28は２本の隆帯で画された無文帯を持ち、以下斜位の集合沈線。29は隆帯による懸垂文、地文には綾杉状の集合沈線文。30は２本の隆帯懸垂文と斜位の集合沈線。31は平行沈線間に交互刺突列。以下縦位の平行細沈線文。32は薄手の口縁部片、平行線で∩状文を描き、間に連続の円形刺突文を付す。33は沈線による重楕円文様。34は沈線による円形文内に凹圧文を充填。35は磨り消し懸垂文と刻み状刺突文を横位綾杉状に施す。36は地文に細縄文を施し、断面三角の隆帯で文様を描く、隆帯交点に円形文。38は口縁部外傾し無文、頸部に横位隆帯を巡らし、口縁に向かって縦の隆帯が伸び端部がやや突起し円形刺突文を有す。隆帯上には沈線、円形刺突文が見られる。隆帯下位には縄文LRが全面施文される。薄手で硬質な土器である。39はくの字に内屈する波状口縁部片、口縁に沿って隆線が見ら

れ、その間の帯部分の上部には円形、下部には列点状の刺突文が巡る。40は無文で口縁内側がやや肥厚する。41は口縁部片、凹圧文を持つ横位隆帯文。42は口縁部片、口縁部に無文帯を有し、横位隆帯を持ちこの隆帯から下に走る隆帯との交点には円形文。43は横位隆帯を持つ。44は口縁部の環状突起、上面には両端に円形文を持つ弧状沈線。さらに中央から刻みを持った隆帯が垂下し両側には併行沈線文が描かれる。45は底部片。沈線によるＵ地文、懸垂文の端部が見られる。46・47は無文の底部片である、厚手の作り。48・49は石鏃であるが、49は石錐の先端部片の可能性あり。50は定角式の磨製石斧であるが基・刃部を欠いている。51・52・54・55は磨石である、52・55は卵形、54は扁平な礫を利用している。51は両面に複数の凹み穴を持つ。53は丸石である。全面平滑に磨かれている。

５－33号住居跡（第48図：ＰＬ10）

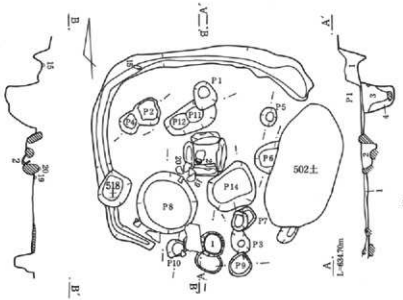
位置　調査区の南寄り、５Ｅ・Ｆ－９・10グリッドに位置する。　**重複**　北西部に５－29号住居のカマドが重複、東壁部分には５－502号土坑が重複している。　**形状**　隅丸方形を呈す。　**規模**　長軸380cm、短軸320cm、深さ25cm。　**方位**　Ｎ－２°－Ｅ　**床面**　平坦で良く締まる。　**炉**　細長い川原石を方形に組み、南西部分に小振りの土器が据えられている。　**柱穴**　７本と考えられる。住居奥に３本、手前に２本（後世の土坑により壊されている）、入り口部に２本の対になるピットが検出されている。　**埋甕**　炉からの主軸線上、入り口部に胴部以下を欠いた深鉢が口縁部を下にした状態で埋設されていた。また埋甕上の西側には平石が置かれていた。　**掘方**　炉の南西に径１ｍ程の土坑が検出されているが、本遺構に伴うかどうかは不明である。　**出土遺物**　覆土中より土器、石器等検出されたが、あまり多くはない。　**時期・所見**　本住居は、南側入り口部と考えられる部分に埋甕、若干の扁平な敷石などが検出されている。構造的に南側がわずかに張り出した構造と考えられる。埋甕、炉体土器等から中期後半と判断される。

５－33号住居跡出土遺物（第49・50図：ＰＬ55・56）

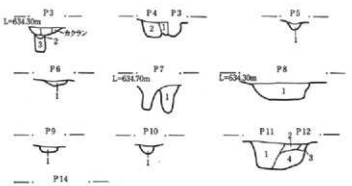
１は大形の深鉢口縁部分、口径37.9cmである。沈線により縄文が充填された∩状文と蕨手懸垂文が交互に12単位見られる。２は小形の深鉢、口径11.7cm。口縁部は直立気味で胴部のくびれは弱い。文様は口縁部に２本の沈線を巡らし、沈線下に上向きの２重連弧文を７単位、胴下位には重∩状文をやはり７単位沈線で描く。３は炉体土器。胴部片、２本の隆線で鉤状文と平行線文を交互に垂下、間には縦位綾杉文。火を受け劣化が著しい。４は波頂部から垂下する３本の隆線でＪ字文を描き、さらに左右および下に２本の隆線が延び、隆線に沿って円形刺突文。５は口縁部片、口縁部隆帯文の連結部、区画内に沈線文。６は胴部片、縦位LR縄文を施文後波状沈線文を垂下させている。胎土中に雲母目立ち硬質な感じである。７は横隆線を持つ口縁部片。８は肥厚する口縁部片。９は無文。10は沈線で矩形の磨り消し縄文文様。11は先端部を欠く石鏃である。12は打製石斧で両面に自然面残す。13～17は磨石、側縁部に打痕を持つものが目立つ。18は敲石か、端部に打痕。19・20は石皿である。両者共に縁がしっかりとしている。

５－34号住居跡（第51図：ＰＬ11）

位置　５Ｃ－10グリッドに位置する。　**重複**　住居内中央には５－522号土坑が、また東側に５－499号土坑が重複、本址を切る。　**形状**　ほぼ円形を呈す。　**規模**　長軸336cm、短軸295cm、深さ30cm。　**方位**　不明　**床面**　平坦であるが明確な硬化面としては確認できなかった。貼床も認められない。　**炉**　５－522号土坑により壊されていた。　**柱穴**　壁に沿って廻る６本を検出、東側にあったと考えられる１本は５－499号土坑



5－33号住居跡・ピット1
1　黒褐色土　黄褐色軽石を含む。
2　黒褐色土　黄褐色軽石、炭化物粒含む。
3　黒褐色土　黄白色軽石微量含む。
（ピット1覆土）
4　褐色土　ロームブロック含む。
（ピット1覆土）

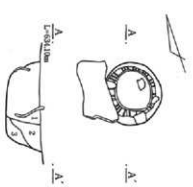


33住ピット2、4
1　黒褐色土　黄褐色軽石、炭化物粒、ローム粒を極微量含む。
2　暗褐色土　黄白色軽石、ローム粒含む。

33住ピット3
1　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石見られる。
2　褐色土　ロームブロック含む。
3　褐色土　ロームブロック多く含む。
33住ピット5・6・7
1　黒褐色土　黄褐色軽石少量含む。
33住ピット8
1　暗褐色土　黄白色軽石、ローム粒を極微量含む。
33住ピット9・10
1　黒褐色土　黄褐色軽石見られる。粘性ほとんどなし。
33住ピット11、12
1　黒褐色土　黄白色軽石、炭化物粒含む。
2　褐色土　ロームブロック、黄白色軽石微量含む。
3　暗褐色土　ローム粒含み、締まり良い。
4　褐色土　ローム粒を多く含む、黄白色軽石見られる。
33住ピット14
1　暗褐色土　ローム粒含み締まりあり。
2　褐色土　焼土粒少量含む。粘性なし。
3　褐色土　ローム粒を多く含む。粘性ややあり。

0　2m

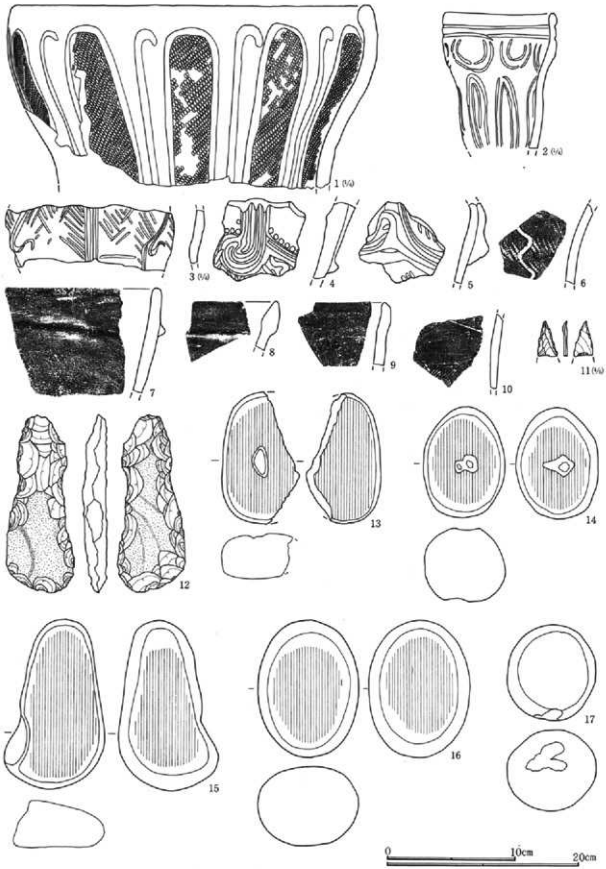
5－33号住居跡炉
1　黒褐色土　黄褐色軽石含む。
2　黒褐色土　黄褐色軽石、炭化物粒含む。
3　褐色土　黄褐色軽石極微量含み、炭化物粒見られる。
4　褐色土　焼土粒を微量含む。



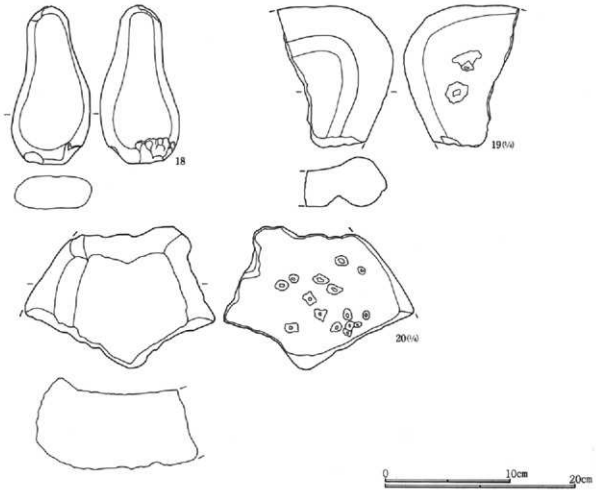
5－33号住居跡煙道
1　黒色土　極少量の軽石混入。
2　黒色土　1より締まり良く細粒。
3　黒褐色土　地山ローム小ブロック若干含む。

0　1m

第48図　5－33号住居跡



第49図　5－33号住居跡出土遺物(1)

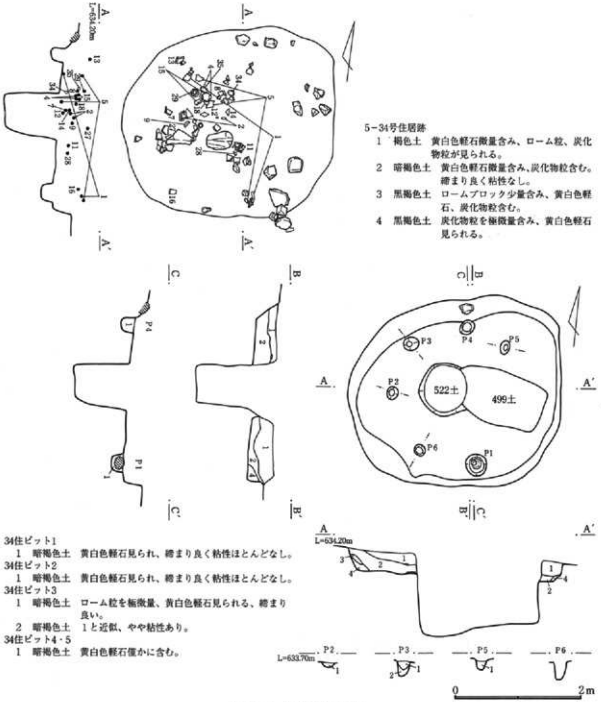


第50図　5－33号住居跡出土遺物(2)

内にあったものと思われる。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　床面下には土坑等は検出されなかった。**遺物出土状態**　住居の中央部にかなり集中して土器・石器類が出土しているが、後世の土坑の遺物と思われるものも混入している。　**時期・所見**　住居の中央部に5－522号土坑および5－499号土坑が重複しており、炉も壊されている。時期は中期後半と見られる。

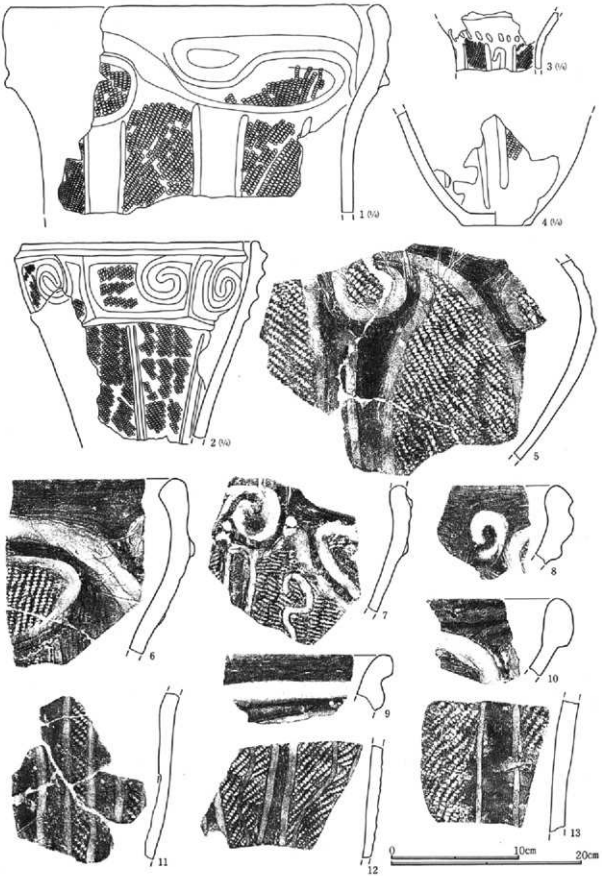
5－34号住居跡出土遺物（第52・53・54図：ＰＬ56・57）

1・6は大形の深鉢口縁部片である。口縁部文様帯は隆線と沈線による楕円文と横Ｓ字状文の組合せ、胴部は磨り消し懸垂帯と縄文帯。縄文はRL縦位施文。口径(39.4)cm。２は２本の隆帯による横位区画内を縦の隆線で区画し、上位隆線から繋がる渦巻き文と縄文施文部が埋めている。胴部は縄文が充填され沈線による幅狭の無文帯が見られる。口径(25.0)cm。３は口縁部が開く、横連続刺突列を巡らし沈線により縦位無文帯と縄文帯を交互に表出し、無文帯には蕨手懸垂文を描く。４は底部片、縄文地に併行沈線による縦位無文帯。５は隆帯による蕨手状懸垂文を描き、縦位無文帯を構成、上端円文部、両側には縄文LRが充填される。７は口縁部片、口縁部突起を有し隆線による渦巻き文、楕円区画文を描く。胴部は地文縄文で磨り消し懸垂帯を有し、蕨手懸垂文を描く。８は口縁部片、隆帯による区画文を構成か。９は肥厚する口縁部片太い横位沈線を持つ。10は端部が渦巻きとなる。11は胴部片、４と同様の文様構成。12は27と同様の文様構成で、地文は縄文。13は縦位磨り消し帯を持つ。14は内湾する口縁部片、沈線による∩状区画文を描き縄文を充填す

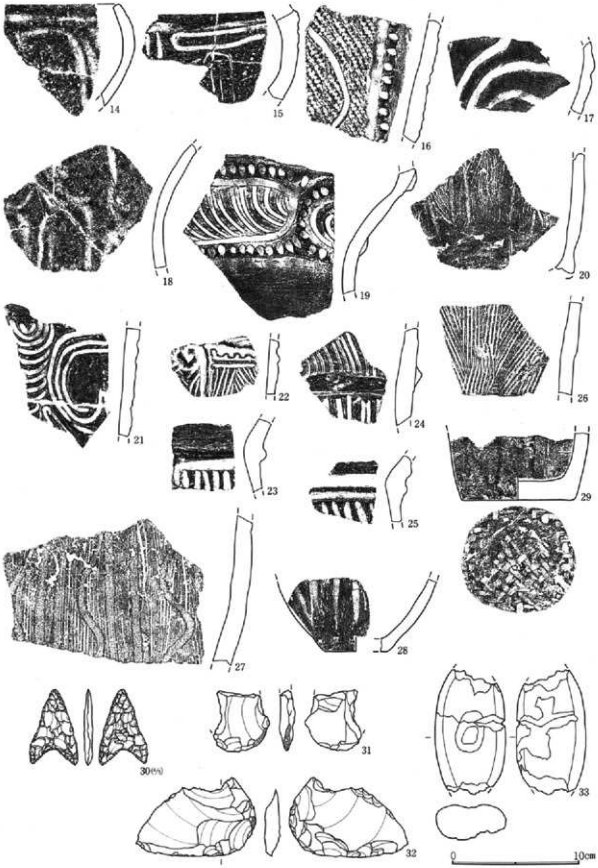


第51図　5－34号住居跡

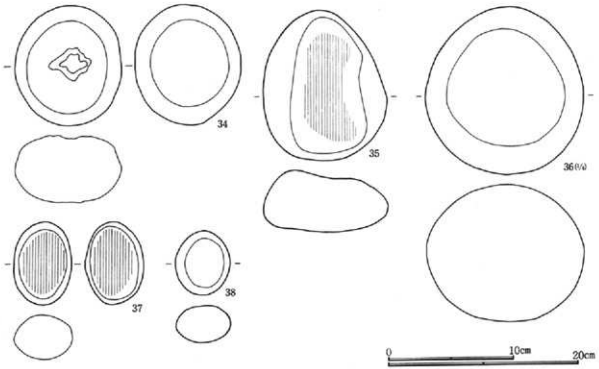
る。15は沈線による横位、縦位長楕円文。16は刺突列を有す垂下隆帯、波状垂下沈線を描く、地文は複節のLR。17は沈線による渦巻き文様を描く、表裏に赤彩痕。18は上位U字、下位∩状文。14と同一個体か。19は刻みを有す隆帯で横楕円区画文を描き区画内には集合弧状線文。20は底部片縦位の波状集合条線地に併行沈線による無文帯。21は沈線による渦巻き文、重弧文を描く。22は横位、縦位の隆線と渦巻き文を描き隆線下に交互刺突列、以下綾杉状の集合沈線。23・25は横位併行隆線と縦位の集合沈線、赤彩痕。24は横位隆線を有し上下には縦位の集合沈線文。26は櫛状工具による綾杉状集合沈線。前期か27は胴部片、縦位集合条線上に縦位併行、波状沈線を描く。28は縦位併行沈線文。



第52図　5－34号住居跡出土遺物(1)



第53図　5－34号住居跡出土遺物(2)



第54図　5－34号住居跡出土遺物(3)

29は無文底部片、底面に網代痕。30は抉りの深い凹基無茎鏃である。31は打製石斧の刃部片。32は木の葉形を呈すスクレイパー、1側縁に刃部を作出。33・34凹石である。34はやや扁平、33は被熱による劣化が著しい。35～38は磨石である。38は表面の風化が著しい。36は大形の丸石で表面平滑。

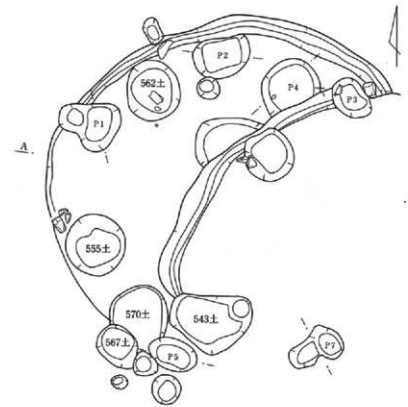
5－35号住居跡（第55図：ＰＬ11）

位置　G・H－13・14グリッドに位置する。　**重複**　南東側半分以上を5－36号住居跡によって切られている。　**形状**　ほぼ円形を呈すと思われる。　**規模**　推定径約530cm、壁高は約12cmである。**方位**　不明。

床面　やや凹凸が見られ、それほど堅く締まった状況は見られなかった。　**炉**　住居中央やや北寄りに構築されている。南側半分ほど5－36号住居によって壊されていた。炉石等は検出されなかった。　**柱穴**　主柱穴は6本と考えられる、南東部の1本は5－36号住居の炉の位置にあったと推定される。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　貼り床や床下土坑等は検出されなかった。　**出土遺物**　比較的大型の破片、7や8なども見られたが、後期の土器片なども伴出。　**時期・所見**　南東部分ほぼ半分を5－36号住居に切られている、炉も半分以上削られていた状況である。一連の重複した住居の中では最も古いものと考えられる。掘り込みも比較的浅く、床面のレベルも高い。

5－35号住居跡出土遺物（第56・57図：ＰＬ57・58）

1は口縁部片、口径(19.0)cm。口縁部沈線で無文帯を画す。以下無節Ｌを横位全面施文。口唇端部平らに整形。2は口縁部沈線で無文帯を画し、以下縄文施文。口唇部内側に肥厚。3は口縁部折り返し有段とし、以下胴部は細縄文全面施文後、細沈線で曲線文様を描く。4は波頂部が環状となる口縁部片、口縁部に沿って縄文が施文され、把手下には沈線で∧状に無文部が画される。5は口縁部片、弧状の隆線で口縁部区画文、縦位の集合短沈線を配し、中央に交互刺突文を横走。以下胴部には縦位集合沈線。6は口縁部片、横位

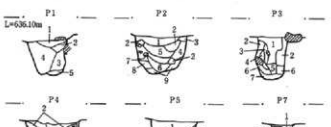


5－35号住居跡
1　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石含む。

5－35号住居跡ピット1
1　黒色土　ローム粒含む。
2　黒色土　ローム粒（軽石）含む。
3　黒色土　ローム粒含み、やや黄味を帯びる。
4　黒色土　3と似るがやや黒味を帯びる。
5　黒褐色土　地山ロームブロック含む。

35住ピット2
1　黒褐色土　若干の黄色軽石粒含む。
2　黄褐色土　ロームブロック主体とする。
3　黒褐色土　1と似るがローム分若干含む。
4　淡褐色土　地山ローム多く含む。
5　黒褐色土　小礫ローム粒多く含む。
6　黒褐色土　5と似るが礫は含まない。
7　黒褐色土　黒色土主体。
8　黒褐色土　ロームブロック含む黒色土、礫を含む。
9　黒褐色土　ロームブロック多く含む。

35住ピット3
1　黒褐色土　黄褐色軽石やや多く含み、ローム塊もわずかに混入。締まりやや強く粘性ややあり。
2　黒褐色土　黄褐色軽石少量含み、ローム塊少量含む、締まりやや弱く粘性ややあり。
3　黄褐色ローム土　締まりやや強く、ぱさつく。
4　黒褐色土　ローム土混入し、やや白味がかる、黄褐色軽石わずかに含む。
5　黒褐色土　ローム土多く混入し黄味がかる、締まり弱く粘性あまりない。
6　暗褐色土　黄褐色軽石少量含む、締まりやや弱く粘性あまりなし。
7　地山の黄褐色ローム



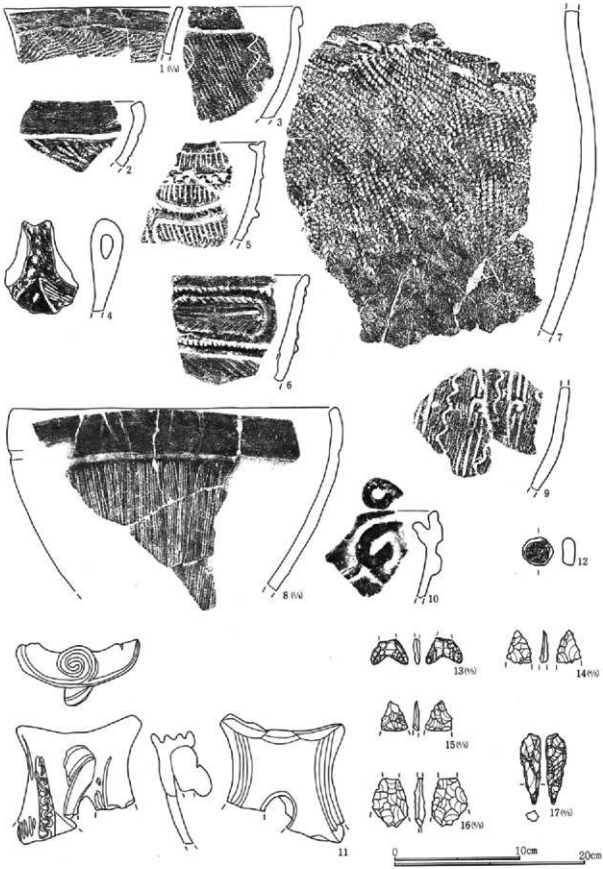
35住ピット4
1　黒色土層
2　黒色土　ローム粒、焼土粒微量含む。
3　黒色土　ローム粒微量含む。
4　黒色土　小礫多く含み、黄褐色軽石微量に含む。

35住ピット5
1　黒褐色土　軽石、小礫混入、若干のロームブロック含む。
2　黄褐色土　ロームと黒色土の混土層。
3　黄褐色土　ローム分主体とする地山崩落土。

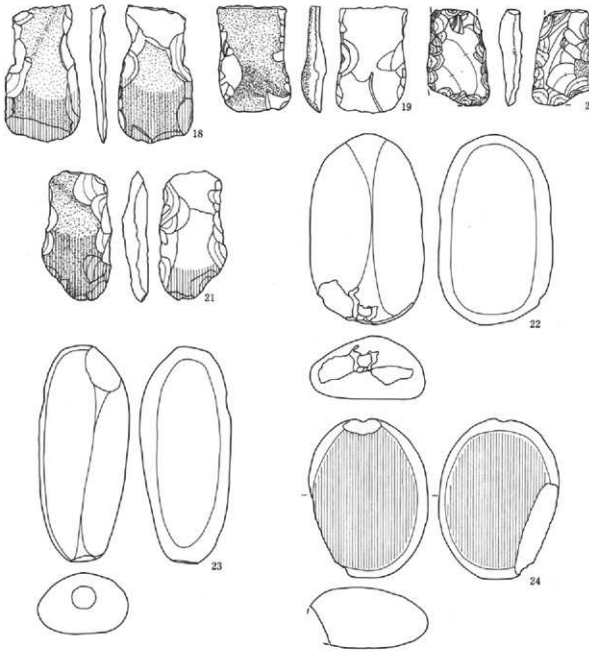
35住ピット7
1　黒色土　軽石多く含む。
2　暗褐色土　ロームブロック不均質に多く含み、軽石多く含む。
3　黒褐色土　ローム土全体に混入しやや白味がかる、軽石少量含む。
4　黒色土　ロームブロックわずかに含み、軽石わずかに含む。

0　2m

第55図　5－35号住居跡

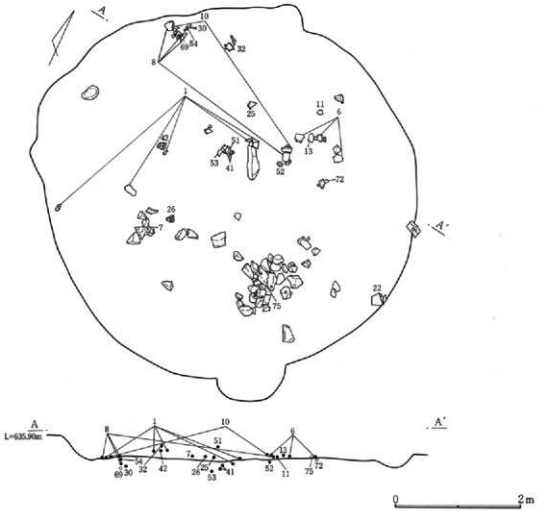


第56図　5－35号住居跡出土遺物(1)



第57図　5－35号住居跡出土遺物(2)　0　10cm

隆帯で口縁部文様帯を画す、区画内には楕円文を描き、隆帯に沿って刺突状の短沈線を巡らす。楕円文の中は横位併行線の上下に矢羽根状の沈線文を描く。区画文下位には集合斜沈線。7は胴部片、複節RLが全面に施文、炭化物の付着が顕著。8は鉢形土器、口径(34.5)cm。沈線で口縁部に無文帯を画す、以下縦位の集合条線を充填。9は胴部片、沈線で縦位の平行線、連続山形文が描かれ、平行線は渦巻き状に連結する。地文は撚糸Rか。10は波頂部片、波頂部に円形文を描いた隆線が垂下しC字文を描きその下部から左右に隆線が延びる。11は扇状の口縁部突起部分、中央から抉りを加えた棒状の橋状把手が延び、円形の透かし孔を持つ。文様は縦位の交互刺突文、集合短沈線文。突起上面には外縁から繋がる隆線による渦巻き文、内面両側には側縁に沿って隆線が見られる。12は小形の土製円盤。13～16は石鏃で総て欠損品。17は石錐の錐部片。18～21は打製石斧。18は刃部摩耗顕著。22・24は磨石で24は火を受けた欠損品。23は敲石。

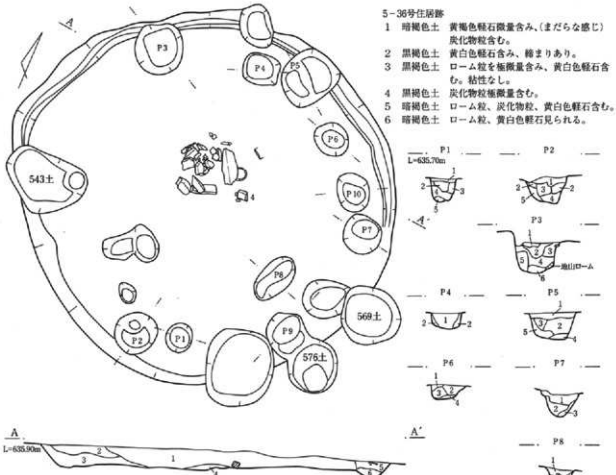


第58図　５－36号住居跡(1)

５－36号住居跡（第58・59・60図：ＰＬ11・12）

位置　Ｆ・Ｇ－12～14グリッドに位置する。　**重複**　南西部分は５－35号住居に重複し、東側は５－37号住居とわずかに重複する。　**形状**　ほぼ円形を呈す。　**規模**　径約620cm、壁高は最大で約40cmである。

方位　Ｎ－24°－Ｗ　**床面**　やや凹凸が見られるものの、ほぼ平坦で、炉の周辺は比較的締まりがある。周溝は北側に半分ほどが確認されている。　**炉**　中央やや北寄りに作られている。新旧２基が東西に重なって検出されている。西側の炉（１号炉）は方形に石を組んだ石組み炉である。南および東側に石が残るが西、北側の石は抜かれた状況であった。規模は一辺約120cmで中央底には炉体土器が検出されている。旧い炉（２号炉）は西側半分を１号炉に壊されている。炉石は抜かれており、２号炉は人為的に埋められたものと見られる、やはり中央には炉体土器が検出されている。　**柱穴**　拡張が行われたものと見られ、拡張前が６本、拡張後は５本の柱穴が検出されている。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　炉の周辺において、貼り床状の痕跡を認めたが極めて部分的であった。拡張時のものか。他に土坑等の施設は確認されなかった。　**遺物出土状態**　遺物は住居の北寄りに比較的多く見られた。また炉の手前覆土中より礫がまとまって出土している。　**時期・所見**　本址は新旧２基の炉を有すことから、拡張が行われたと考えられる。炉の位置から、住居は主として南西側に拡張されたものと見られる。時期は出土土器から中期後半である。



5－36号住居跡

1　暗褐色土　黄褐色軽石微量含み、(まだらな感じ)炭化物粒含む。
2　黒褐色土　黄白色軽石含み、締まりあり。
3　黒褐色土　ローム粒を極微量含み、黄白色軽石含む。粘性なし。
4　黒褐色土　炭化物粒極微量含む。
5　暗褐色土　ローム粒、炭化物粒、黄白色軽石含む。
6　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石見られる。

5－36号住居跡ピット1

1　黒色土　黄褐色軽石少量含む、締まり強く粘性ややあり。
2　黒褐色土　ロームブロック上半分に含む、締まり強く粘性あり。
3　黒褐色土　微量の黄褐色軽石、ローム塊混入、粘性なく締まりやや強い。
4　黒褐色土　黄褐色軽石少量含む、粘性なく締まりやや強い。
5　暗褐色土　ローム塊多く含む、粘性ややあり壁の崩落土か。

36住ピット2

1　黒褐色土　黄褐色軽石少量含み茶色の焼土粒微量混入。
2　暗褐色土　白色軽石わずかに含む。
3　暗褐色土　黄褐色軽石多く含み、黄褐色ローム塊多く混入。
4　暗褐色土　黄褐色軽石わずかに含み、小礫わずかに見られる。
5　黒褐色土　黄褐色軽石、赤褐色焼土粒わずかに混入。

36住ピット3

1　黒褐色土　黄褐色軽石微量含む、締まり弱く粘性あまりない。
2　黒褐色土　黄褐色軽石やや多く含む、わずかに黄褐色ローム塊混入。
3　黒褐色土　ローム塊多く混入、黄褐色軽石わずかに含む。
4　暗褐色土　黄褐色軽石わずかに含む、全体にローム土混入。
5　黒褐色土　黄褐色軽石、ローム少量、礫も少量混入する。
6　黒色土　軽石をほとんど含まず、締まり弱く粘性ややあり。

36住ピット4

1　黒褐色土　黄褐色軽石少量、礫僅かに混入する。
2　黒褐色土　黄褐色軽石僅かに含む。

36住ピット5

1　黒褐色土　黄褐色ロームブロック混入、黄褐色軽石少量含む。
2　黒褐色土　黄褐色ローム塊に多く混入、黄褐色軽石少量含む。
3　暗褐色土　黄褐色軽石やや多く含み、ローム混入、全体に白味がかる。
4　黄褐色土　ローム主体とする。
5　黒褐色土　微量の黄褐色軽石含む、僅かにローム塊含む。

36住ピット6

1　黒色土　小礫含む。
2　黒褐色土　黄褐色軽石少量、黄褐色ローム塊混入。
3　黒褐色土　2より黄味がかり、黄褐色軽石微量含む。
4　暗褐色土　黄褐色ローム塊多く含む。

36住ピット7

1　黒褐色土　黄褐色軽石やや多く、締まり強く粘性あまりなし。
2　黒褐色土　黄褐色軽石少量含む、締まり弱く粘性ややあり。
3　黒褐色土　黄褐色軽石をわずかに含む。

36住ピット8

1　黒褐色土　軽石僅かに、ローム粒含む。
2　黒色土　軽石、ローム粒僅かに含む。

36住ピット9

1　黒褐色土　軽石やや多く含む。
2　黒褐色土　軽石多く含み、軽石わずかに混入。
3　黒色土　軽石、ローム粒やや多く含む。
4　黒色土　ローム塊わずかに混入、軽石は見られず。
5　黒色土　軽石少量含む。

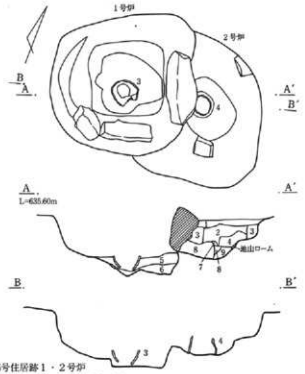
36住ピット10

1　黒褐色土　黄色軽石多く、ロームブロック上層部に混入。
2　黒色土　黄褐色軽石少量含む、ローム僅かに含む。
3　暗褐色土　軽石はほとんど含まず、ローム含み白味がかる。

0　2m

第59図　5－36号住居跡(2)

5－36号住居跡１号炉
1　黒褐色土　黄褐色粒石少量含む、黄褐色ローム塊わずかに混入。炉廃棄後、自然埋没か。
2　黒褐色土　黄褐色粒石わずかに含む。
3　暗褐色土　焼土粒を全体に含みやや赤味がかる。



5－36号住居跡１・２号炉
1　黒色土　ローム粒均質に含む。
2　黄褐色砂質土　ロームを主体とする。
3　暗褐色土　ローム粒僅かに含み、炭化物粒微量に含む。
4　暗褐色土　ローム粒僅かに含む。
5　暗褐色土　焼土粒含む、新炉の掘り方。
6　暗褐色土　ローム粒含む。
7　黄褐色土　焼けて赤味がかったロームブロック。
8　黒褐色土　黄褐色粒石多く含み、黒色の炭化物粒僅かに含む。１号炉掘り方埋土。
9　暗褐色土　ローム全体に混入し白味がかる。

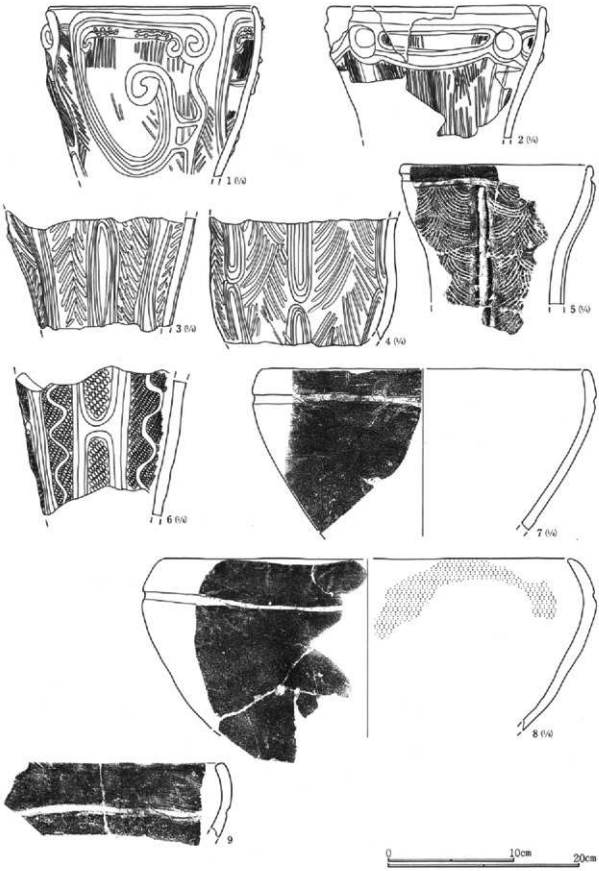
0　1m

第60図　5－36号住居跡(3)

5－36号住居跡出土遺物（第61・62・63・64・65図：ＰＬ58・59・60・61）

１は口縁部がやや内湾する深鉢、口径22.0cm。隆線により４単位の曲線文様を描く、口縁に沿って始まり、下に降りてＪ字状を呈し、端が渦巻き状となる、さらに横に延びて上から下がった隆線に繋がりさらに下に延びる。隆線で画された内側上部には両端が渦巻きとなる沈線が付され両側に交互刺突文が付されている。地文には縦位、斜位の集合沈線が施される。２は口縁部片、口径(23.0)cm。横位沈線を口縁に沿って廻らし、横楕円区画文、円形文を隆線によって表出。楕円区画内、胴部には縦位集合条線を充填施文、また胴部には平行沈線による垂下無文帯を持つ。３は１号炉の炉体土器である。胴部分で、上端部は火を受け劣化している。平行線と∩状の垂下隆線が交互に配され、それらの間には沈線による綾杉文が充填される。

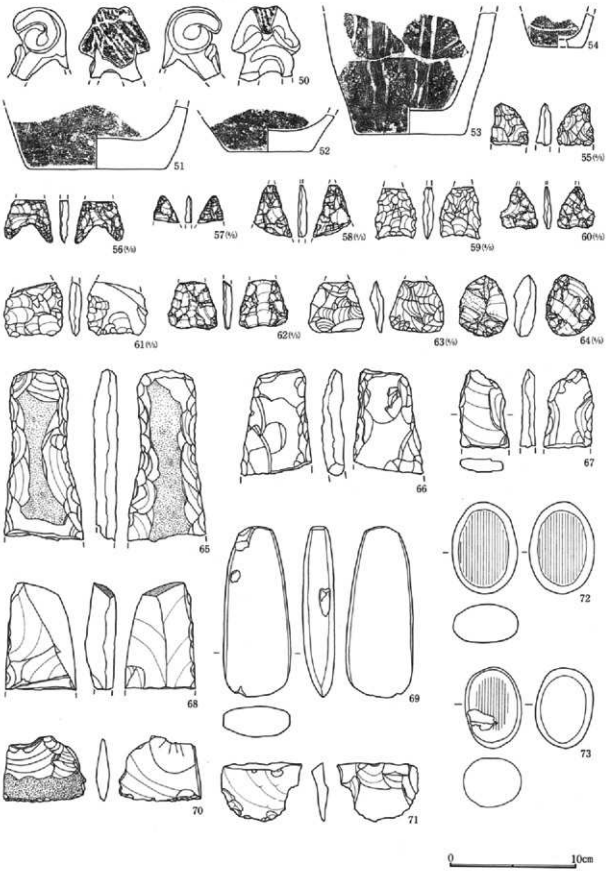
４は２号炉の炉体土器である。胴部のみである、２本の沈線によりＵ字状、∩状文が上下２段に６単位描かれ垂下し、その間には基点をずらした綾杉文が充填されている。５は口縁部やや開く器形、口径22.0cm。口縁に沿って沈線が巡り、以下胴部には縦の平行隆線、垂下隆線間は集合弧状文を綾杉状に施文。６は深鉢の胴部分である。沈線によるＵ字状、∩状文が描かれ、これを挟んで平行沈線が垂下しＨ字状の無文文様を表出。間は波状垂下沈線文が見られる。地文にはRL縄文を縦位施文。７・８・９は無文の浅鉢である。口縁に沿って沈線が廻る。７・８は内外面良く研磨されている。８の内面には赤彩痕が見られる。７は口径(34.5)cm。



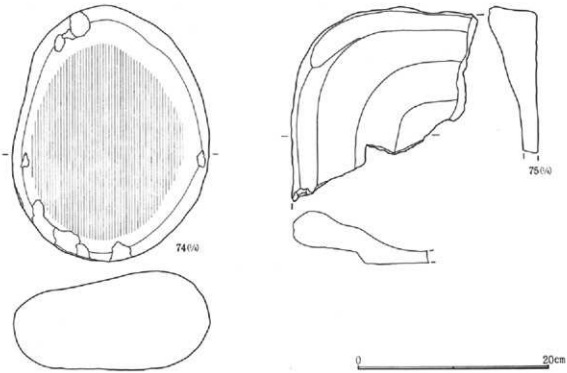
第61図　5－36号住居跡出土遺物(1)

第62図　5－36号住居跡出土遺物(2)

第63図　5－36号住居跡出土遺物(3)



第64図　5－36号住居跡出土遺物(4)

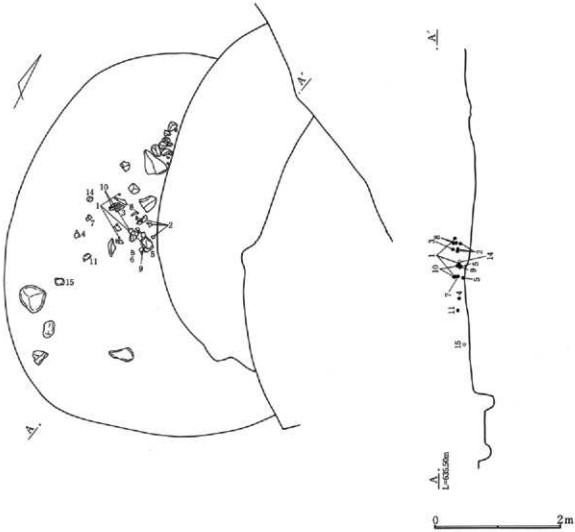


第65図　5－36号住居跡出土遺物(5)

８は口径(43.0)cmである。10は無文の大形浅鉢である、口径46.0cm。口縁部大きく開き、やや屈曲を有す。器面の風化が顕著。11は口縁部片、ややキャリパー状を呈す。隆線による楕円渦巻き文を描くと思われる。以下横位沈線で画された胴部には、沈線による∩状文が垂下し、間には縄文が充填施文される。

12は口縁部片、口縁に沿って沈線を廻らす、以下沈線による∩状文蕨手文様を描く。13は小波状の口縁部片、隆帯による楕円、渦巻き文で文様帯を表出、楕円文内には縄文を充填。14は口縁部片、口縁部肥厚し以下縄文施文。15は口縁部片隆帯による楕円・渦巻き文。16は折り返し口縁部片、肥厚部下に沈線を廻らす、胴部には縄文LRを横位充填施文。17は口縁部片、口唇部内側に肥厚、隆帯による渦巻き文様。18は環状に廻る胴部片で外に大きく開く。３本の平行縦位沈線が８単位見られる、地文は縄文。19はやや薄手の土器、隆線による渦巻き文か。地文は縄文。20は口縁部片隆帯による口縁部文様を有す、文様内に平行沈線。21は波状部分２本の沈線が口縁に沿って廻り、波頂下部には隆帯による円形文。22は深鉢の口縁部片、隆線による横楕円文を配し、接点部分には小円形文。胴部は円形文を中心に上下、左右に沈線を伴う隆線が延びる。隆線以外の部分は縦の集合沈線で埋めている。23は口縁部片、隆帯による横楕円区画文を描く、区画文連結部から平行沈線が垂下、区画内胴部には縦位、斜位の集合沈線。24は同一個体片。25は深鉢口縁部、口縁部に隆帯が廻り、胴部には∩状の隆帯懸垂文を付す、隆帯文間には集合弧状沈線が充填される。

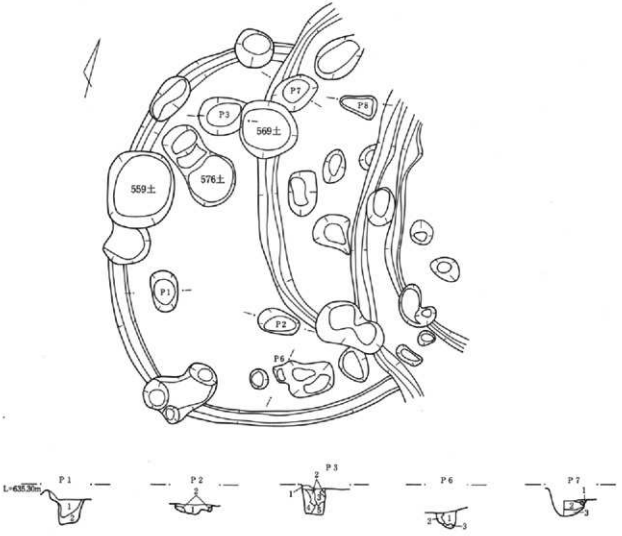
26・27は平行垂下隆帯から左右に平行沈線が延びその間に交互刺突文を配す。地には縦位、斜位の集合沈線。28は刻みを有す縦位隆帯文、沈線による波状文、平行垂下文。29・38は同一個体片か、隆帯による平行線文、沈線による曲線文、平行線文を描く。30は縦位平行沈線と斜位集合沈線。31は縦位の併行沈線と綾杉集合沈線文。32は垂下隆帯を有し、縦矢羽根状の沈線文が部分的に見られる。33は２本の隆線による鈎状文、地文は縦位集合沈線。34は横位隆線と粘土紐の渦巻き文、地文に斜位集合沈線。35は縦位、斜位の沈線文。36は縦位の併行・波状隆線文を描き、地文は綾杉沈線文。37は平行隆線が曲線文を描く、地文は集合沈線。39は渦巻き隆帯文。40は爪形刺突文。41は突起を有す口縁部片、突起部分は円孔を有し、橋状の把手が付く。



第66図　５－37号住居跡(1)

把手の左右に隆線で描いた渦巻き文が多段に描かれ、把手下から２本の隆線が平行して垂下する。垂下隆線間には集合平行沈線が描かれる。42は深鉢片で上部は突起様となると思われ、円孔を有す。眼鏡状に隆帯を突起させ、そこから２本の隆帯が垂下する。左右には平行集合沈線を施す。43は口縁部突起部に隆帯によるＳ字状文が描かれ、突起部分は渦巻き文となる。44は隆線文による渦巻き文から２本の隆線が垂下、地文は集合沈線文。45は隆線による曲線文、地文は集合沈線。46は２本の隆線の連結部が渦巻き文となる。地文には沈線文。47も49と同様の文様構成。49は頸部が屈曲する器形、沈線による渦巻き、Ｊ字文の磨り消し縄文を描く。48は平行隆線文による撫で消し帯で曲線文様を表出、地文は縄文。

50は飾り状把手、三角形に整形された粘土板を内側に丸め、正面から見るとフクロウの様に見える。頭頂部分から後ろに小突起が延び、上面に縄文が施文される。口縁との接合部には円孔を有す。51・52無文の底部片である。51は極めて厚手の作り、52は底部の摩滅が見られる。53は底部片、縦位平行沈線と部分的に縄文が観察される。54は小形の底部片、沈線文が見られる。55～64は石鏃である。いずれも覆土中からの出土で、すべて破損品である。70・71はスクレイパーである、71は曲刃、70は直刃である。65～68は打製石斧である。いずれも刃部を欠損している。67は炉内出土である。69は磨製石斧である。ピット出土、完形の定角式磨製石斧。72・73は磨石である。74は台石、75は破損した石皿で、使用面は大きく凹む。



5－37号住居跡ピット1
1　黒色土　黄褐色軽石僅かに含む、締まりやや弱い。
2　暗褐色土　ローム粒、軽石僅かに含む、締まりやや弱く粘性なし。

37住ピット2
1　黒色土　締まり弱く軽石ほとんど見られない。
2　暗褐色土　締まり弱く、粘性なし。

37住ピット3
1　黒色土　黄色軽石少量含む、37住床面にあたる土。
2　黄褐色土　ローム主体でまばらに黒色土含む。
3　黒褐色土　軽石をやや多く含み、ローム不均質に含む。
4　暗褐色土　軽石やや多く含み、ローム含む。
5　暗褐色土　軽石やや多く含む。

37住ピット6
1　黒色土　黄褐色軽石やや多く含む、ローム上層に若干混入。
2　暗褐色土　ローム多く斑状に混入。
3　黒色土　ロームブロック混入する。

37住ピット7
1　黒色土　ローム、軽石やや多く含む。
2　黒褐色土　黄褐色軽石含み、ローム粒多く含む。
3　黄褐色土　2とロームの混土。

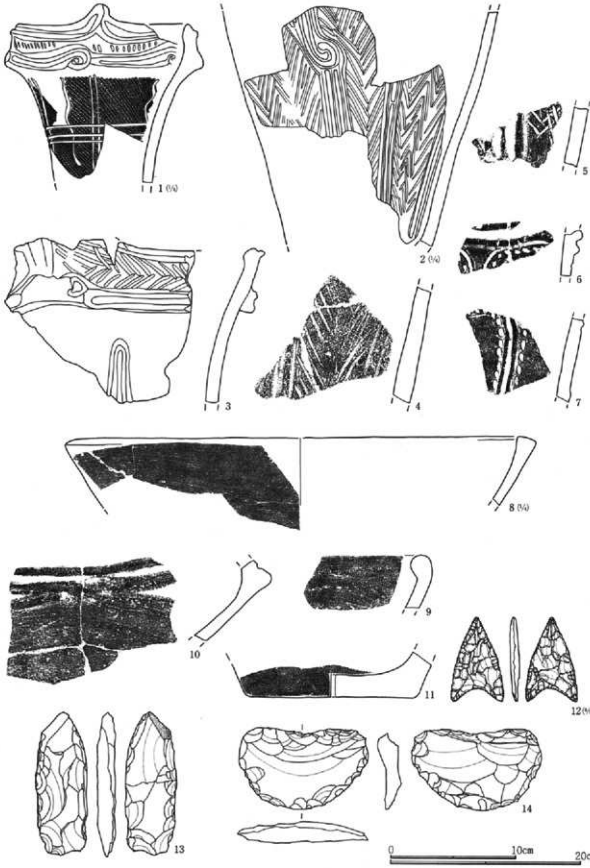
37住ピット8
1　黒褐色土　ローム粒多く含み、ローム塊わずかに混入。
2　黄褐色土　ロームに1がわずかに混入。
3　黄褐色土　ロームに1を混入、黒味強く礫、軽石わずか混入。
4　暗褐色土　軽石はほとんど含まない。

0　2m

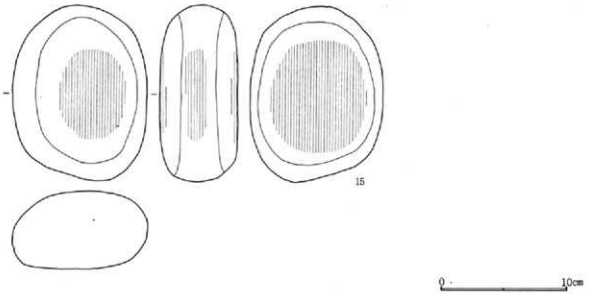
第67図　5－37号住居跡(2)

5－37号住居跡（第66・67図：ＰＬ12）

位置　Ｅ－12・Ｆ－12・13グリッドに位置する。　**重複**　北西部で5－36号住居に北東部分は5－38号住居によって半分ほど壊されている。　**形状**　検出された西側および南側のラインがやや緩やかではあるが、ほぼ円形を呈すものと思われる。　**規模**　径約580cmである。　**方位**　不明。　**床面**　住居全体の南西部分約



第68図　5－37号住居跡出土遺物(1)



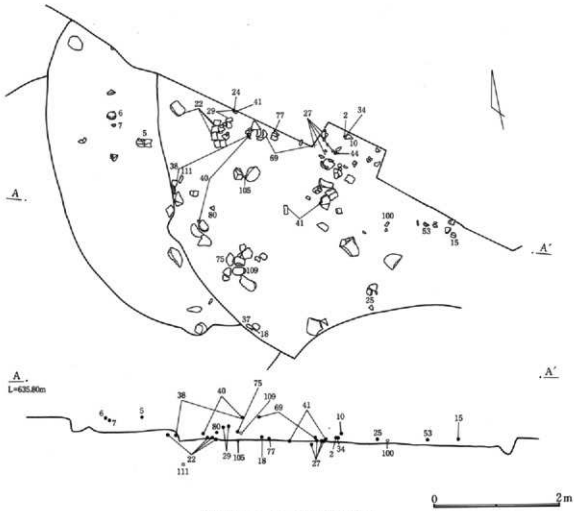
第69図　5－37号住居跡出土遺物(2)

半分ほどが残る、全体に比較的しっかりとしていたが、凹凸が見られた。　**炉**　東側に重複した5－38号住居跡によって壊されてしまったものと考えられ、検出されなかった。　**柱穴**　8本と思われるが、重複する部分の柱穴についてはやや明確さを欠く。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　明瞭な貼り床は見られなかったが、堀方面には凹凸が認められる。　**遺物出土状態**　土器、石器共に出土数はあまり多くはなかった。住居の中央部にまとまって見られ、床面からやや浮いた状態で出土したものが多い。　**時期・所見**　東側を5－38号住居によって壊されていたため全容は不明であるが、残った部分は周溝等も明瞭に検出されている。時期は出土土器から中期後半に比定される。

5－37号住居跡出土遺物（第68・69図：ＰＬ61）

1は口径18.5cm。口縁部に2カ所の突起を有す。突起部から左右に分かれた隆帯が口縁に沿って一周し、下位にも2本の隆帯が6カ所に渦巻き突起を作って廻る。上下の隆帯間には縦位の短沈線が施文される。胴部には3本の平行沈線による矩形文が描かれ、それぞれの区画内は縄文が充填施文され、波状沈線が垂下する。2・5は胴部片、同一個体か。2本および3本の隆線が上下から垂下し、3本の連結部は渦巻きとなる。地文は集合沈線による綾杉文。3は突起状の口縁を有するものと思われる。口縁下に沿って廻る隆帯から横状の把手が付いていたと考えられる。隆帯および口縁端部には沈線が付される。口縁部文様帯部には横位矢羽根状の集合沈線、胴部は縦位隆帯による∩状文が見られる。地文は無文で、胎土中に金雲母が目立つ。

4は縦位撫で隆線、斜位集合沈線。6は横位2本隆帯下に沈線による曲線文、刺突文。7は2本隆線の両側に沿って連続刺突列。8は大形鉢の口縁部、無文で内外面丁寧な研磨が施される。口径(50.0)cm。9は無文の口縁部片、口唇部内湾し丸みを持って肥厚する。10は浅鉢の肩部屈曲部片、横位沈線が廻る。11は大形土器の底部片である、厚手で無文。12は完形の凹基無茎鏃である。ピットからの出土である。13は完形の打製石斧である。基部端部が三角を呈し、一縁に自然面。14はスクレイパーでハート形を呈す。15は磨石で、側縁部に打痕あり。



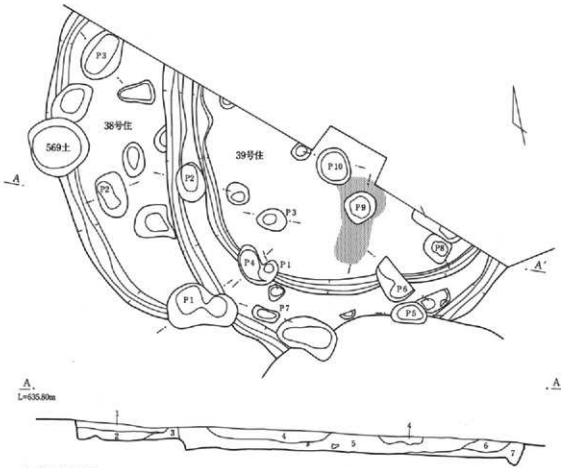
第70図　5－38・39号住居跡(1)

5－38号住居跡（第70・71・72図：ＰＬ12・13）

位置　Ｅ・Ｆ－12・13グリッドに位置する。　**重複**　東側を５－39号住居に大きく切られ、住居の西側を三日月状に検出した。また、５－569号土坑が西壁部分に重複している。　**形状**　おそらく円形を呈するものと考えられる。　**規模**　推定径約550cmである。　**方位**　不明。　**床面**　検出された西壁下に沿って幅20～30cm、深さ15cm程の周溝が検出されている。床面は比較的硬化し、全体に緩やかな凹凸が見られた。　**炉**　５－39号住によって壊されたものと思われる。　**柱穴**　確認されたのは西側Ｐ１～３の３本で、いずれもやや長円形で深さは50～60cmを測る。　**壁溝**　検出されなかった。　**掘方**　土坑等の検出は無かった。　**遺物出土状態**　検出した面積が狭く極めて少なかった。若干の土器片と、石器類である。　**時期・所見**　検出された範囲は少なく全容は不明である。内側に部分的ではあるが、周溝が検出されていることから、拡張された可能性もある。時期は出土土器等から、中期後半に比定される。

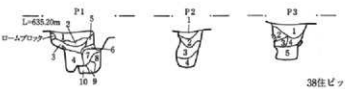
5－39号住居跡（第70・71・72図：ＰＬ13）

位置　Ｄ・Ｅ－13・14グリッドに位置する。　**重複**　西側に位置する５－38号住居跡を切り、南の一部を５－30号住居に切られている。また北東約半分は未調査である。　**形状**　南側の周溝の形状から、入り口部がわずかに外に張り出す形状であった可能性がある。　**規模**　推定径約580cm。　**方位**　不明。　**床面**　平坦



5－38・39住居跡

1　暗褐色土　ローム粒極微量含み、黄白色軽石、炭化物粒見られる。
2　暗褐色土　ローム粒極微量含み、黄白色含む。
3　暗褐色土　ローム粒極微量に含み黄白色軽石混入。
4　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石、炭化物見られる。
5　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石含む。
6　褐色土　黄白色軽石を微量含み、ローム粒、炭化物粒含む。
7　暗褐色土　ロームブロック含み、黄白色軽石、炭化物粒見られる。



38住ピット1

1　黒褐色土　白色粒子多く含み締まりやや強い。
2　黒褐色土　黄褐色軽石少量含み、炭化物あり。
3　黒褐色土　黄褐色軽石少量含み、締まりよく粘性ややあり。
4　黒褐色土　軽石、ローム粒見られるがほとんど含まない。
5　黒褐色土　軽石、ローム粒わずかに含む。
6　黒褐色土　ローム粒含む。
7　暗褐色土　黄色軽石、ロームの混土。
8　暗褐色土　黄色軽石を含む
9　暗褐色土　ローム小粒含む
10　黄褐色土　ローム小粒とロームの混土層

38住ピット2

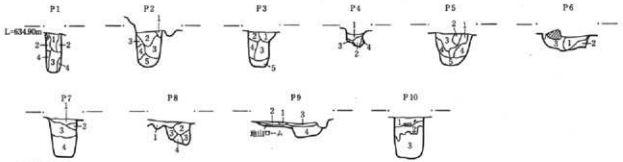
1　黒褐色土　黄褐色軽石、ローム粒極僅か含む。
2　黒褐色土　黄褐色軽石少量含み締まり弱く粘性ややあり。
3　黒褐色土　黄褐色軽石わずかに含む　ローム塊混入。
4　黒褐色土　軽石ほとんどないがローム粒微量混入。

38住ピット3

1　黒褐色土　黄褐色軽石やや多く含む、締まりやや弱く粘性。
2　黒褐色土　黄褐色軽石やや多く含む、ローム混入するため白味がかる。
3　暗褐色土　ローム多く混入、軽石はほとんど見られない。
4　暗褐色土　ロームやや多く混入、3よりやや黒味あり黄褐色軽石やや多く含む。
5　黄褐色土　ロームに黒褐色土わずかに混入、黄褐色軽石混入。

0　2m

第71図　5－38・39号住居跡(2)



39住ピット1
1　黒褐色土　黄褐色軽石わずかに含む。
2　黒褐色土　黄褐色ローム多く混入。
3　黒褐色土　黄褐色軽石含む、締まりやや弱く粘性なくぱさぱさ。
4　黒褐色土　ローム含むが２より少ない。

39住ピット2
1　黄褐色ロームブロック
2　黒色土　黄褐色小軽石含む。
3　黒色土　軽石はとんど含まない。
4　暗褐色土　ローム土混入、軽石はとんど含まない。
5　黒褐色土　軽石はとんど含まず、締まり弱く粘性ややあり。

39住ピット3
1　黒褐色土　黄褐色軽石含む。
2　黒褐色土　黄褐、白色小軽石含む。
3　暗褐色土　１を含みまだらに見える、黄軽石わずかに含む。
4　黒褐色土　黄褐色軽石、ローム塊わずかに含む。
5　黒褐色土　黄褐色ローム多く混入。

39住ピット4
1　黒褐色土　黄褐色軽石含む。
2　黒褐色土　白色、黄褐色軽石含む。
3　暗褐色土　ローム混入、締まり強く粘性あり。
4　黒褐色土　ローム塊含む。

39住ピット5
1　黒色土　被乱。
2　暗褐色土　黄褐色軽石含む。
3　黒褐色土　黄褐色軽石含み、締まり強く粘性なし。
4　黒褐色土　黄褐色軽石わずかに含み、ローム少量混入。
5　黒褐色土　黄褐色小軽石含む。

39住ピット6
1　39住周溝埋土　黒色土、軽石やや多く含む。
2　黒褐色土　赤味の強い黒褐色土不均質に含む。
3　暗褐色土　軽石やや多く、ローム粒を全体に含む。

39住ピット7
1　黒褐色土　ロームブロック混入、軽石含まない。
2　黒褐色土　ローム不均質に多く含む。
3　黒色土　黄褐色軽石多く含みローム わずかに混入。
4　暗褐色土　軽石少量、ローム均質に混入また、ローム ブロックわずかに混入。

39住ピット8
1　黒色土　黄褐色ローム粒少量含む。
2　暗褐色土　ローム不均質に大量に混入。
3　黒褐色土　ローム粒少量含む。
4　黒色土　軽石、ローム含まない。

39住ピット9
1　黒褐色土　焼土粒含む。
2　ロームの焼土化したもの
3　ロームの焼土化したもの地山が焼土化した可能性高い。
4　褐色土　焼土漸移層。

39住ピット10
1　黒褐色土　住居埋土と同じ。
2　暗褐色土　１と３の混土。
3　褐色土　漸移層に近い土でやや黒味を帯る。

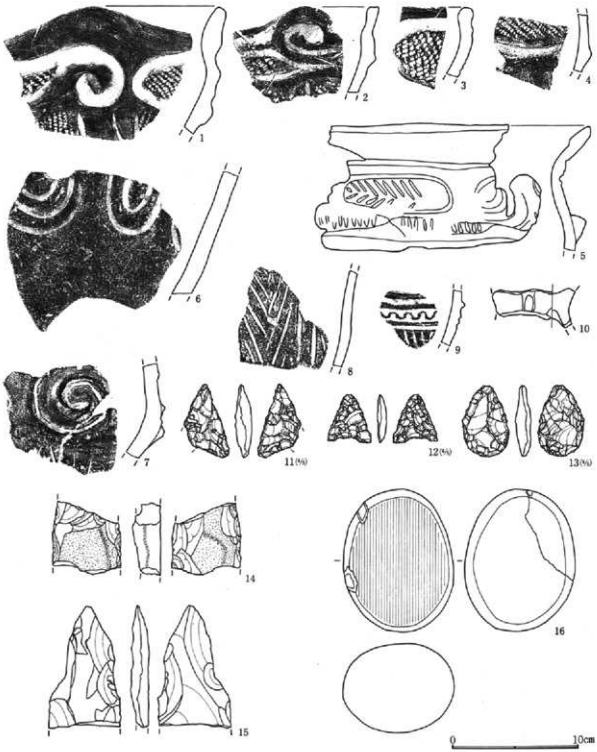
0　2m

第72図　5－38・39号住居跡(3)

で比較的締まっていた。　**炉**　ほぼ中央に地床炉が検出されている。　**柱穴**　壁に沿って南側に３本を検出したのみである。　**埋甕**　検出されていない。**掘方**　貼り床、土坑等は検出されなかった。　**遺物出土状態**　上層から多くの遺物が出土している。　**時期・所見**　周溝が２重に検出されており、建て替えないしは拡張が行われたものと考えられる。時期は中期後半と見られる。

５－38号住居跡出土遺物（第73図：ＰＬ62）

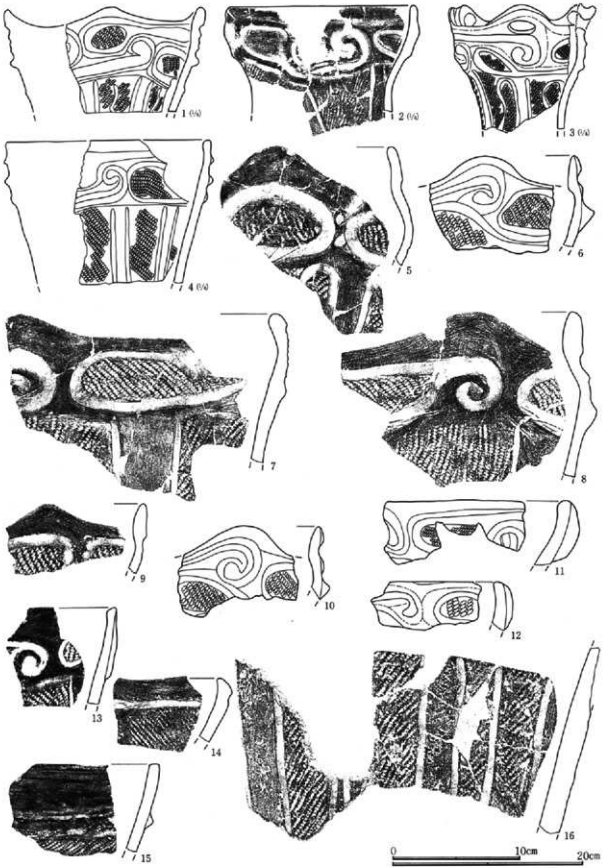
１は小波状を持つ深鉢口縁部片、横位楕円、渦巻き区画文を持ち縄文が充填される。胴部には沈線で画された垂下無文帯、他は縄文が充填される。内外面良く磨かれる。２は小波状の口縁部片、波頂下に口縁部区画文様から流れた隆帯による渦巻き文。区画内には縄文充填。３は口縁部片、縄文が充填された楕円区画文。４は凹線で画され、縄文充填された区画文と胴部には縦位集合沈線が見られる。５は深鉢片、頸部で屈曲し、口縁部が開く。口縁部無文で横位沈線が廻らされ、沈線で画された楕円区画文、渦巻き文が見られる。楕円文内には横位綾杉沈線文。口縁部文様帯下の屈曲部には所々突起する隆帯が廻り、刻み列が施される。６は胴下部片。沈線による重U字文が見られる。７は隆線で描かれた幅広の渦巻き文。８は縦位平行沈線、斜位沈線文。９は横位隆線下に交互刺突文、以下横位、縦位の沈線。10は底部片、４カ所に透かし孔を有す脚台部。縦位の沈線文。11～13は石鏃である。12は凸基鏃である。14・15は打製石斧である、15は刃部を欠く。16は磨石で火を受けている。



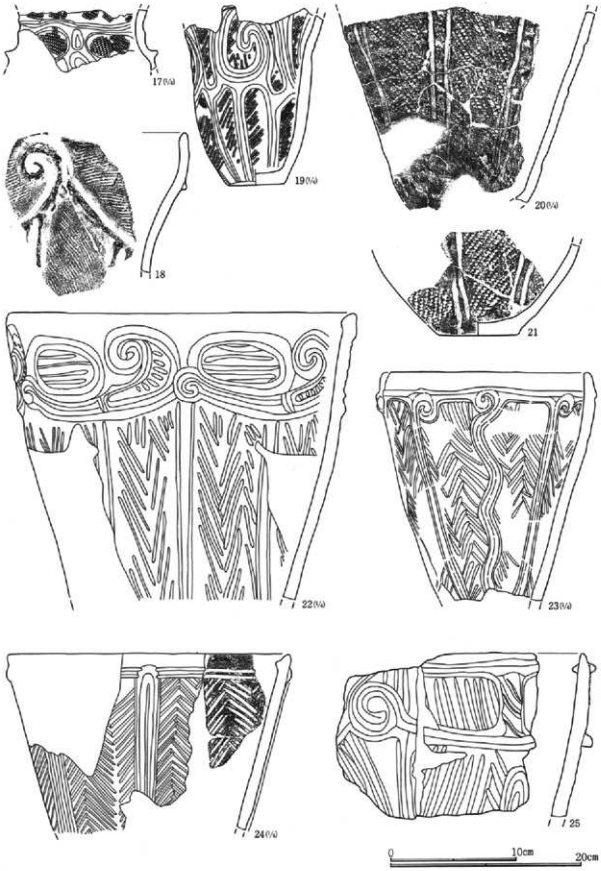
第73図　5－38号住居跡出土遺物

5－39号住居出土遺物（第74・75・76・77・78・79・80・81図：ＰＬ62・63・64・65・66）

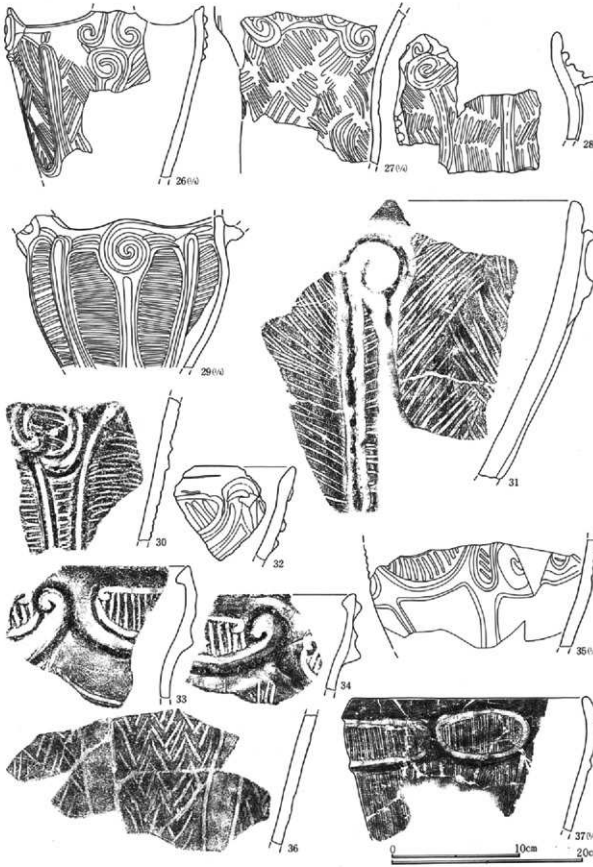
１は波状を呈す口縁部片、口径(20.6)cm。隆帯による横楕円、渦巻き文で２段構成の口縁部文様帯を構成、楕円文内には縄文を充填。胴部は垂下平行沈線で無文帯を表出、間には縄文を縦位施文し、さらに縦位波状沈線。２は口縁部隆帯による楕円文、渦巻き文を口縁部に描き、胴部には平行沈線による垂下無文帯、無文帯間には縄文RLを縦位充填施文。３はやや小形の深鉢で３単位の環状突起を有す。隆帯により横楕円、



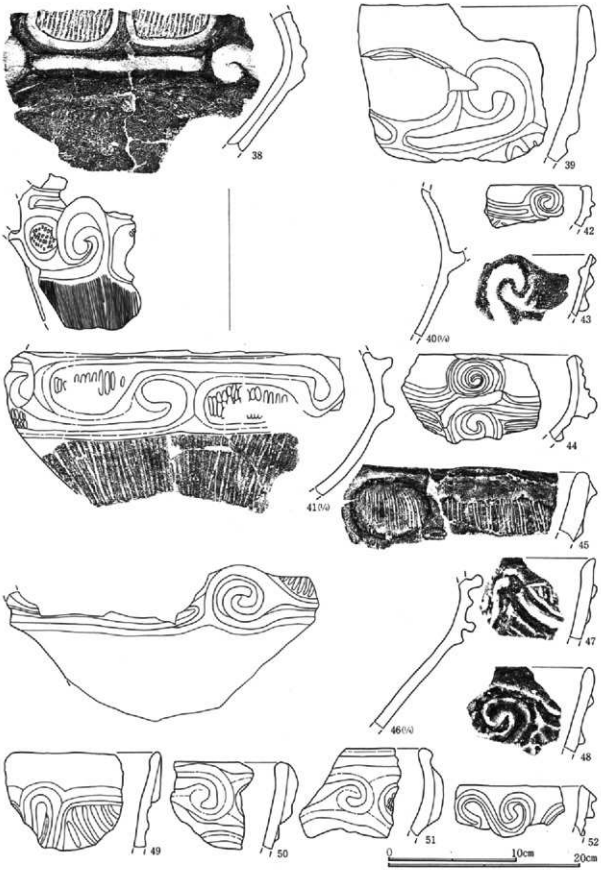
第74図　5－39号住居跡出土遺物(1)



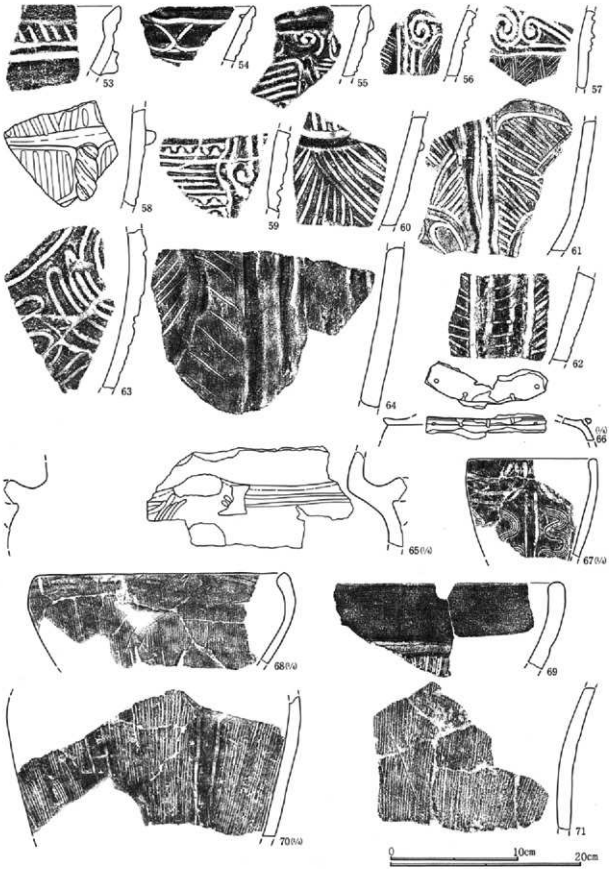
第75図　5－39号住居跡出土遺物(2)



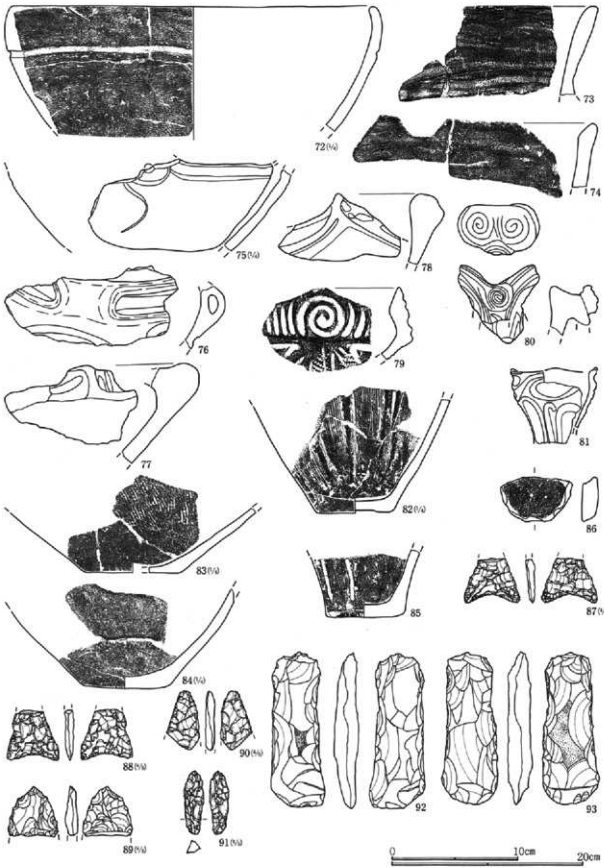
第76図　5－39号住居跡出土遺物(3)



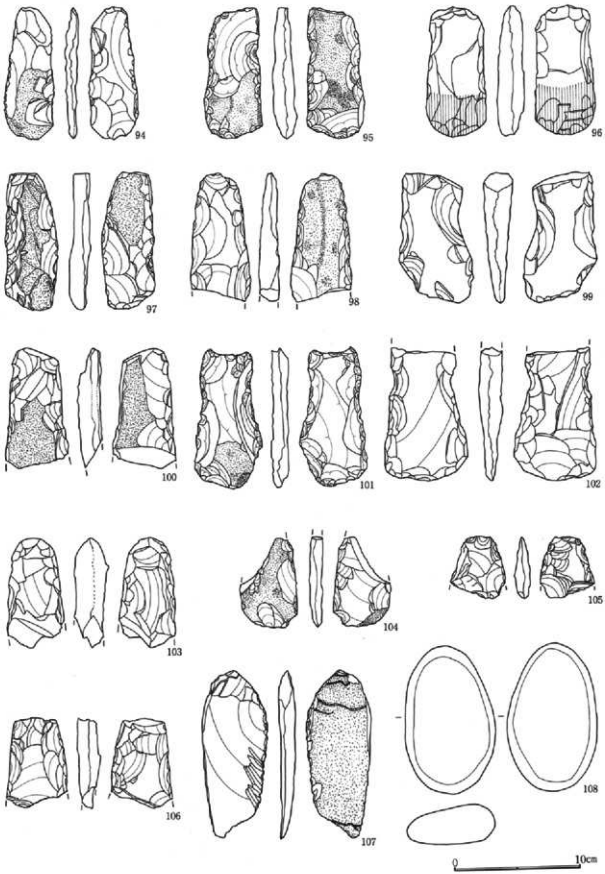
第77図　5－39号住居跡出土遺物(4)



第78図　5－39号住居跡出土遺物(5)



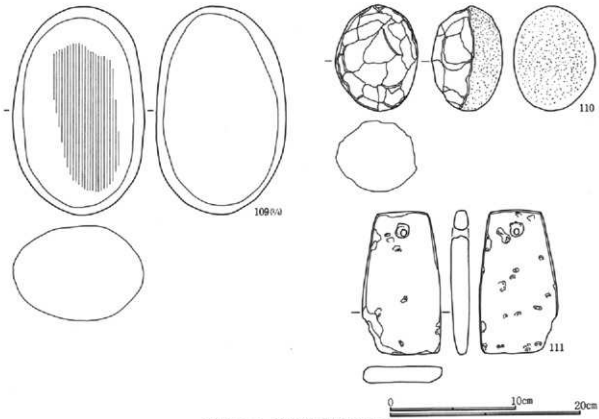
第79図　5－39号住居跡出土遺物(6)



第80図　5－39号住居跡出土遺物(7)

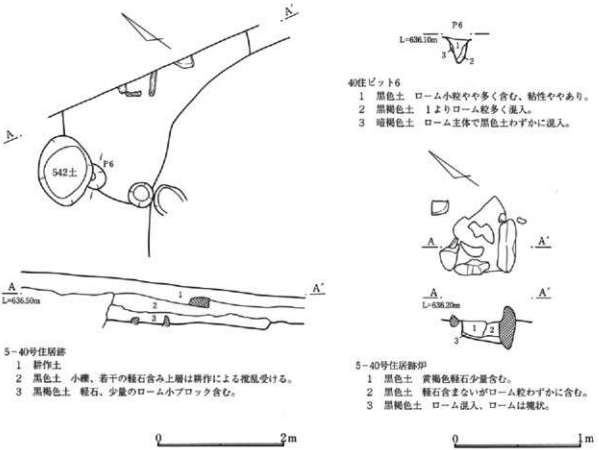
渦巻き文で口縁部文様帯を構成、胴部は沈線による縦位磨り消帯、蕨手文が垂下し、縄文を充填する。口径（15.0）cm。４は隆帯により楕円、渦巻き文の口縁部文様帯を構成。胴部には平行沈線を垂下させ無文帯とし、間には縄文が縦位施文されるが、施文はまばらである。５は波頂下に沈線による楕円文を描き、胴部垂下無文帯。７・８は波状口縁を呈す口縁部片、楕円、渦巻き文による口縁部文様を隆帯で表出。胴部には沈線で幅広の垂下無文帯。６・９～13・39・43・50・52は隆帯により楕円文あるいは渦巻き文、横Ｓ字文などの口縁部文様を描く楕円区画内には縄文を施文する。14は横位沈線を廻らし以下縄文を充填施文。15は横位隆帯で口縁部無文部を画し、以下縄文を充填施文。16・20は胴下部片、沈線による垂下併行無文帯でによる縦区画、16は縄文RLを20はLRを充填施文。17は横位沈線を廻らし上部には縄文LRを施文し、下位は隆帯により楕円文、曲線文を組み合わせたモチーフを描く。楕円文内には縄文を充填している。18は口縁部に隆帯で端部に渦巻文を持つ弧状区画文を描き、この隆帯から所々２本の平行隆線が垂下する。地文には細い縄文LRが充填施文される。胎土中に金雲母片が目立つ。19は胴～底部、胴部上位には横位に4単位の渦巻き文、下位に８単位の∩状文を沈線で描き、縄文を充填。21はやや小形の底部片、縦位併行沈線。器面良く研磨されている。22は大形の口縁から深鉢胴部片、隆帯による楕円文と渦巻き文を隆帯で描き、渦巻文の隆帯は楕円文下段に延び、端部が渦巻きとなる。楕円文内には横位平行沈線、渦巻き文内には短沈線文が付される。胴部は渦巻き隆帯下からの平行垂下沈線で縦位区画し間には粗い縦位綾杉沈線文。口径（37.0）cm。23は底部から直線的に立ち上がる深鉢である。口径22.0cm。口縁部は隆帯で画された無文部を持つ、横位隆帯から上端が渦巻き文の波状、直線２種類の垂下隆帯が下がり、器面を縦位に８分割し、各区画内には縦綾杉状の沈線が充填される。24は口縁部に２本の沈線を廻らし、さらにここから上端部が繋がる２本の隆線を垂下させて胴部を縦位区画する。区画内には縦位の綾杉文を充填する。25は口縁部片、隆帯で楕円文、渦巻き文を表出、楕円文間の隆帯は拋り隆帯、胴部には平行する隆帯、∩状の隆帯を垂下させる。地文には縦位の集合沈線。26は４単位の波状を呈し、１対の波状部はやや高まりを持つ、この波頂部から２本の隆帯が垂下し下端部が渦巻きとなる、さらにその下位に渦巻き文を描き２本の隆帯が垂下する。他の波頂部にも渦巻き文を描き隆帯を垂下させる。これらの垂下文間にも∩状の隆帯が垂下し左右の垂下隆帯と繋がっている。地文には起点をずらした綾杉文を充填させている。27は口縁部文様帯下部に隆帯で渦巻きを描き出す、胴部には不定方向の斜位集合沈線を充填。28は波状口縁を呈すと思われる深鉢口縁部片、波頂下部に隆帯が高まった渦巻き文を付し、そこから隆帯を垂下、また口縁部から延びた隆帯には凹圧文を加え、ほぼ平行して垂下させる。地文には鈍角に描く横綾杉文を多段施文する。29は口縁部やや内湾し、４単位の波状を呈し一対の突起を有す、口径20.0cm。突起部分は欠損、下位に隆帯による眼鏡文を描き2本の隆帯が垂下、突起部分を除く波状部下位には渦巻き文から２本の隆帯が垂下する。間にもやはり隆帯による∩状文が見られる。それぞれの隆帯に沿って沈線が廻り、地文には横位の集合沈線が充填されている。

30は２本の隆線がＹ字状に伸び、間に渦巻き文。文様内外は横位の集合沈線を充填する。31は口縁部がわずかに内傾する深鉢、口縁直下から、隆帯で上端が渦巻き文となる∩状文が垂下し隆帯間には横位、その他は斜位の集合沈線が施文される。62は同一片。32・39・42・44・48・50は隆帯により楕円文、渦巻き文を描く。33は口縁部片、口唇部内側に肥厚、隆帯による楕円、渦巻き文で口縁部文様帯を構成、区画内には縦の沈線文。34は口縁部片、隆帯による横楕円、渦巻き文による口縁部文様帯を画し、縦沈線を充填する。35は幅広の隆帯で楕円、渦巻き文を基調とする文様帯を持ち縦位、斜位の集合沈線が充填される。また文様帯から胴部に隆線が垂下、胴部地文は無い。36は平行沈線で垂下無文帯を構成、地文には縦位の綾杉沈線文。37は口径（25.0）cm。口縁部に隆帯による横楕円区画文、楕円内および胴部には縦位の集合条線を充填。38は隆帯により横楕



第81図　5－39号住居跡出土遺物(8)

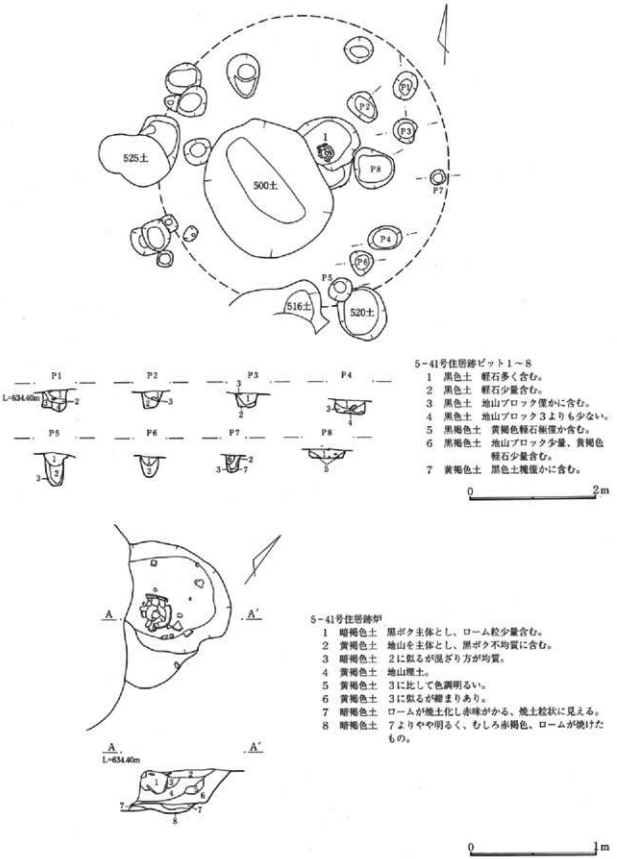
円区画を配し中に沈線で２つの楕円文を横に描く。楕円内には縦位の撚糸文Lを施文。屈曲部には太い沈線を廻らし楕円区画線下で渦巻きとする。以下胴部は無文。40は大形土器の胴部上位片、隆帯により楕円文、渦巻き文で口縁部文様帯を構成、楕円文間には３脚の橋状把手が付いていたものと見られる。楕円文内は刺突文が充填される。胴部は縦位の集合条線で充填されている。41は口縁部隆帯で楕円、渦巻き文区画文様を構成、楕円文及び胴部に縦位の集合沈線。口径(37.0)cm。45は隆帯で横楕円文を描き中に縦位条線文を充填。46は大形の鉢形土器、隆帯により楕円文、渦巻き文を描き文様帯を構成するものと思われる。区画内には縦位の沈線が見られる。胴部は無文である。47は口縁部片、２本隆線による弧状文、連結部が隆起、区画内には縦の沈線。49は口縁部に無文帯を設け、隆帯による∩状文が垂下、両側には楕円区画を配すと思われ、区画内には縦位沈線が見られる。51は口縁に沿って沈線を廻らし隆帯による楕円、渦巻き文区画を構成、区画内には縄文を施文。53は屈曲部に横位隆帯を巡らし口縁部間に縦の連続沈線文。54は沈線により横位平行線文を描きその間にX状文。55は口縁に沿って横位隆帯を廻らし、以下沈線による渦巻き文、平行線文を充填。56・57は同一個体片、隆線による渦巻き文を組み合わせた横位、縦位文様を描き地文部は沈線による縦位の区画と斜位沈線文。58は横位隆帯と垂下する拘り隆帯、地文には縦位の沈線文。59は垂下隆帯の連結部が渦巻き文、左右には横位沈線、交互刺突文が配される。60は口縁部の弧状隆帯と綾杉状の集合沈線文。61は垂下平行隆線、斜位の集合沈線地文とし沈線による曲線文様。63は2本沈線による渦巻き文、弧状文を組み合わせる。64は低い幅広の隆帯により平行線文、波状文を垂下、平行線間は無文、波状文部分には棒状工具施文の斜位沈線。金雲母片目立つ。65は肩部に隆線が廻り、口縁部すぼまって立ち上がる。隆線から延びる橋状把手が付され、隆線下２本の沈線による平行線文、曲線文が描かれる。66は有孔鍔付き土器である。口縁部は短く立ち上がるものと思われ、肩部から平らに延びた鍔の張り出しは短い。穴は鍔に対して斜めに２～



第82図　５－40号住居跡

2.5cmの間隔で穿孔されている。

67は口縁部に２本の浅い沈線による弧状文を描き、接点部分から２本の沈線を垂下させ、胴部を縦区画、区画内には櫛歯状工具による波状文を縦施文。68は口縁部内湾して肥厚、縦位の集合条線文が施文される。口径(27.0)cm。69は沈線で口縁部にやや幅広の無文帯、以下集合条線を施文、外面良く研磨されている。70は垂下平行沈線による垂下無文帯で胴部を縦区画し、間には櫛歯状工具による縦位集合条線文。71は櫛歯状工具による縦位条線文。72は口径(39.0)cm。無文の鉢形土器である。口縁部やや内湾し、口縁部外面に沈線を一本廻らす。胎土中に砂粒が目立つ。73・74は口縁無文部片。75は口縁部に小波状を有す鉢形土器である。口縁部に沈線が廻り、波状部に円孔。円孔下に弧状の沈線及び波状沈線が垂下する。胴部は無文。76は口縁部に２本の隆帯が廻り、隆帯を繋ぐ幅広の橋状把手が付く。胴部、沈線による曲線文、赤彩痕あり。77は浅鉢の屈曲部片、突起を有し区画内に縦位沈線。78は三角形を呈す波頂部片、隆帯によって口唇部両端を肥厚させる。79は内屈する小波状部片。波状部に渦巻き文を描き左右に縦位沈線、屈曲部下に沈線による矩形文、縄文施文される。80はＹ字状の突起片である。側面、上面に細沈線で渦巻き文様描く。81は小形土器、口径(9.0)cm。口縁部に楕円文を基調とした曲線文で口縁部文様を構成、胴部に沈線による∩状文、蕨手文を垂下。82・84は底部片、82は低い垂下隆線上を撫で、併行隆線様とし、間には縦位条線文。83は浅鉢の底部片、縄文LRが施文される。85は底部片、平行垂下沈線の下端部が見られる。欠けロが磨られる。86は土製円盤か。87～90は石錘、欠損品である。91は棒状の石錐である。92～106は打製石斧。刃部摩耗したものが多い。103は基部も摩耗。107はスクレイパーで木の葉型を呈す。108・109は磨石、109は大形。110は敲石である。111は板状の軽石製品、片側がやや広がる長方形で、一端に紐通しの穴を有す。



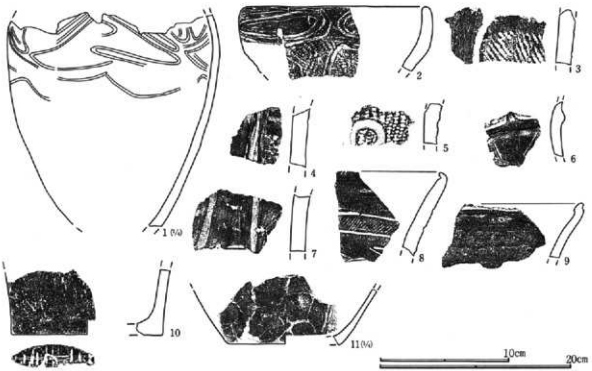
5－41号住居跡ピット１～８

1　黒色土　軽石多く含む。
2　黒色土　軽石少量含む。
3　黒色土　地山ブロック僅かに含む。
4　黒色土　地山ブロック３よりも少ない。
5　黒褐色土　黄褐色軽石極僅か含む。
6　黒褐色土　地山ブロック少量、黄褐色軽石少量含む。
7　黄褐色土　黒色土微僅かに含む。

5－41号住居跡炉

1　暗褐色土　黒ボク主体とし、ローム粒少量含む。
2　黄褐色土　地山を主体とし、黒ボク不均質に含む。
3　暗褐色土　2に似るが混ぎり方が均質。
4　黄褐色土　地山焼土。
5　黄褐色土　3に比して色調明るい。
6　黄褐色土　3に似るが硬まりあり。
7　暗褐色土　ロームが焼土化し赤味がかる、焼土粒状に見える。
8　暗褐色土　7よりやや明るく、むしろ赤褐色、ロームが焼けたもの。

第83図　５－41号住居跡



第84図　5－41号住居跡出土遺物

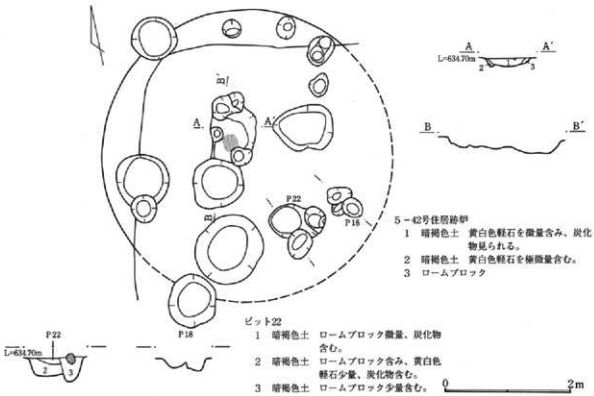
5－40号住居跡（第82図：ＰＬ13）

位置　Ｇ－14グリッドに位置する。　**重複**　南側に5－35号住居が重複し、本址を切り、北東側約半分は水道管敷設坑により壊されている。　**形状**　円形と思われる。　**規模**　径約4.0mと推定される。　**方位**　Ｎ－60°－Ｅ　**床面**　平坦で炉の周囲は比較的締まりがある。　**炉**　南側半分ほどを検出、石を方形に配す構造であろう。炉内に焼土はほとんど見られなかった。　**柱穴**　壁に沿って推定されるピット３本を検出したが明確な配置は不明である。　**埋甕**　検出されていない。　**掘方**　構築時の掘り込みは認められなかった。

遺物出土状態　遺物はほとんど見られなかった。　**時期・所見**　南側を壊され、全体の約半分ほどを検出したのみで、全容は不明である。掘り込みも浅く、出土遺物もほとんど見られず、時期も不明である。

5－41号住居跡（第83図：ＰＬ13・14）

位置　Ｄ・Ｅ－10・11グリッドに位置する。　**重複**　北に5－30号、西に5－31号住、南に5－44号住居が重複し、中央には5－500号土坑が重複している。　**形状**　円形を呈すと思われるが立ち上がりは不明である。　**規模**　径4.2mと推定される。　**方位**　不明。　**床面**　上面削平を受け、また重複遺構も多く、凹凸が著しい。明確な床面は確認されなかった。　**炉**　南西部分約半分を5－500号土坑によって壊されていた。炉石は確認されなかったが、炉床面の中央に深鉢の胴部を転用した炉体土器が検出されている。　**柱穴**　10本程が壁内側に廻るが対応関係ははっきりしない。径も小さく比較的掘り込みも浅いものが多い。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　凹凸顕著。　**遺物出土状態**　炉体土器以外は破片が多く点数も少なかった。5－500号土坑の覆土中より多くの土器片が出土しているが、本址に帰属していた可能性が高い。　**時期・所見**　重複が多く、明確な範囲・形状はつかめなかった。炉および柱穴の位置等から推定される住居である。時期は出土土器から後期前半(堀之内１式期)と考えられる。



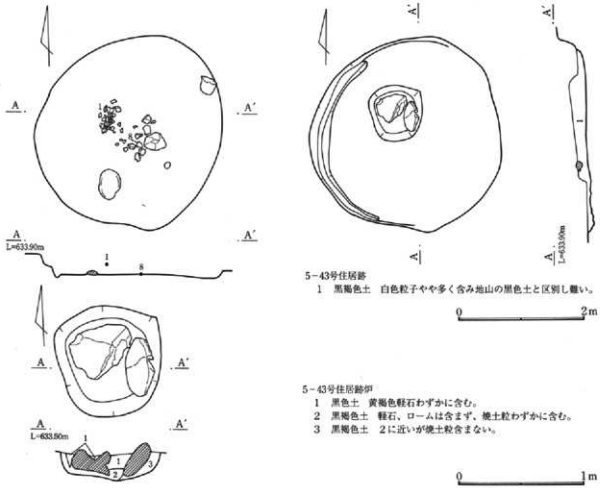
第85図　5－42号住居跡

5－41号住居跡出土遺物　（第84図：ＰＬ66）

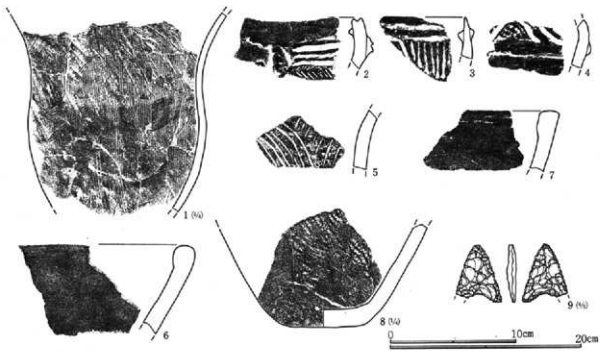
１は炉体土器である、肩部からやや丸みを持って内湾する胴部である。肩部に併行沈線による三角文、弧状文を横に４単位施文、以下胴部は無文。器面被熱により風化。２は小形深鉢の口縁部片である、口径(13.8)cm。やや内湾し、口縁部に沈線による重楕円文区画文を横に配す。以下沈線による縦位∩文を描き、地文は縄文を充填している。器肉は比較的薄く、器内外面はやや風化している。３は沈線で画された無文帯と縄文。４・７は縦位併行沈線文。５は縄文地紋に蕨手沈線文の頭端部か。７は縦位の沈線文。６は横位隆帯から縦に延びる隆帯。８は口縁部片、口唇端部内側に丸みを持つ。沈線による矩形磨り消し縄文。９は口唇部端部に沈線が廻る無文口縁部片。10は直立気味に立ち上がる無文底部片である、底面に網代痕。11は炉内出土の底部片、無文でやや薄手である。

5－42号住居跡（第85図：ＰＬ14）

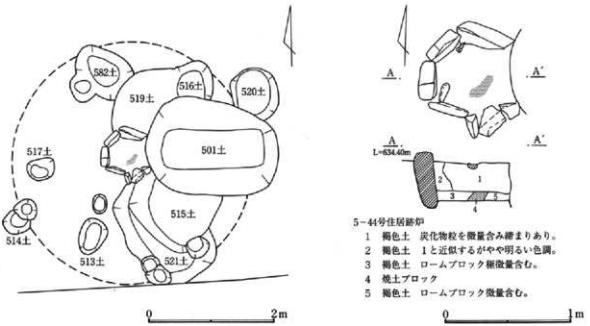
位置　Ｇ－11グリッドに位置する。　**重複**　大半を５－29号住居によって壊されている。　**形状**　おそらく円形を呈するものと思われる。　**規模**　推定径4.4mである。　**方位**　不明。　**床面**　５－29号住居によって壊されているために、明瞭な面は確認できなかった。またそれ以外の部分についても土坑等によって壊されている状況であった。　**炉**　５－29号住居の掘方調査時に検出されたもので、やや南北に長い長方形の掘方が確認できたが、炉石は残っていなかった。下面に若干の焼土が確認されている。　**柱穴**　主柱穴と判断される５本が検出された。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　５－29号住居跡の掘方とも重複しており凹凸が著しい。　**遺物出土状態**　ほとんど見られなかった。　**時期・所見**　大部分は後世の遺構によって壊されているために、全容は不明である。出土遺物がほとんど見られず時期は不明である。



第86図　5－43号住居跡



第87図　5－43号住居跡出土遺物



5－44号住居跡炉
1　褐色土　炭化物粒を微量含み締まりあり。
2　褐色土　1と近似するがやや明るい色調。
3　褐色土　ロームブロック極微量含む。
4　焼土ブロック
5　褐色土　ロームブロック微量含む。

第88図　5－44号住居跡

5－43号住居跡（第86図：ＰＬ14）

位置　Ａ－11グリッドに位置する。　**重複**　なし。　**形状**　ほぼ円形か。　**規模**　310×300×30cm　**方位**　Ｎ－10°－Ｗ　**床面**　平坦であるが、締まりはあまり強くない。　**炉**　中央やや北寄りに作られている。方形の石組み炉と考えられる。東側に長円形の川原石が１石のみ検出されている。掘方は方形で１辺約80cm、深さは20cm程である。火床面に焼土が確認された。　**柱穴**　検出されなかった。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　貼り床、土坑は検出されなかった。　**遺物出土状態**　中央部分に礫と土器がまとまって出土している。　**時期・所見**　調査区の東寄り、やや低くなった場所に位置する。遺物は中央の覆土上層中に集中している。時期は中期後半か。

5－43号住居跡出土遺物（第87図：ＰＬ67）

１は深鉢の胴部、全面に櫛歯状工具による縦位集合条線文。２は口縁部片、沈線を有す横位隆帯が廻り、上に横位矢羽根状沈線を施文。隆帯下は無文。３は口縁部片、口縁部内外に隆帯が廻る、沈線による楕円区画文と縦位の沈線。４は口縁部に隆帯による弧状文か、区画内には縄文。５は縦位の綾杉沈線。６は無文鉢の口縁部片、口縁部肥厚し角頭状。内外面赤彩痕。７は口唇部が肥厚する無文口縁部片。８は大形の底部片、底端部丸みを持つ、縄文施文。９は石鏃で脚を欠損する。

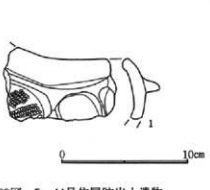
5－44号住居跡（第88図：ＰＬ14・15）

位置　Ｄ・Ｅ－９・10グリッドに位置する。

重複　住居東部分に複数の大型土坑が重複し本址を切る。

形状　円形と推定される。　**規模**　(3.8)ｍ

方位　不明。　**床面**　不明瞭であった。　**炉**　川原石を６角形に組んだ石囲い炉である。東側を５－501号土坑によって一部壊されている。



第89図　5－44号住居跡出土遺物

柱穴　６本と考えられるが東側の1本は後世の土坑によって壊されたものと思われる。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　凹凸が顕著である。　**遺物出土状態**　極めて少なく図示したのは1点のみである。　**時期・所見**　重複する土坑が多く、炉部分が検出された当初、屋外炉として調査したが、周辺部がやや落ち込むことや、柱穴と判断されるピットが炉の周りに配されていることから住居と認定した。時期は出土土器等から中期後半か。

５－44号住居跡出土遺物（第89図：ＰＬ67）

１は口縁部片、波状口縁と思われる。口縁部に無文部を持ち隆帯により円形区画文を構成、部分的に区画内に縄文が施文される。

５－53号住居跡（第90図：ＰＬ15）

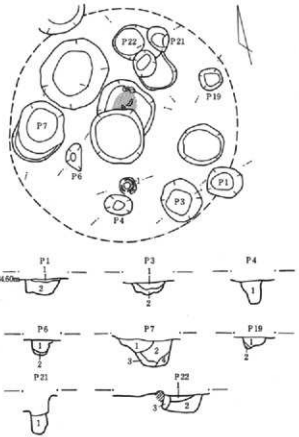
位置　Ｆ・Ｇ－10・11グリッドに位置する。　**重複**　５－29号住居跡(平安)によって上部を削られている。　**形状**　壁、周溝等は検出されず、明らかではないが、柱穴の配置からほぼ円形と推定される。　**規模**　推定径360cm。　**方位**　Ｎ－32°－Ｅ　**床面**　全体を大きく削平されており、凹凸が著しい、生活面は確認されず。　**炉**　５－29号住居跡(平安時代)Ｐ５に南側半分を壊されている。北側の炉石の一部と炉体土器の一部が検出されている。　**柱穴**　炉の周囲に数本を検出したが他の遺構のものとの重複が多く明確な関係は判断できなかった。　**埋甕**　住居の南側に深鉢の胴部分が検出されている。　**掘方**　不明である。　**遺物出土状態**　埋甕以外にはほとんど見られない。　**時期・所見**　５－29号住居跡の堀方検出時に炉(旧５－３号炉)を確認、また炉の南側には埋甕(旧５－５号埋甕)が検出された。炉を中心に形4.5m程の範囲がやや低くなり、柱穴と思われるピットが何本か廻ることから住居と認定した。削平が著しく床面の状況、周溝、壁の立ち上がりなどは確認できなかった。埋甕などから時期は中期後半と見られる。

５－53号住居跡出土遺物（第90図：ＰＬ67）

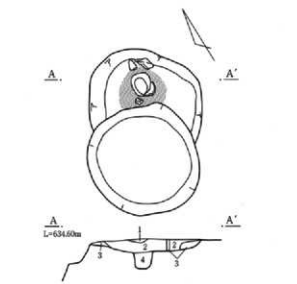
１は炉体土器、深鉢の胴部である。沈線による無文懸垂帯、Ｕ字状文が見られる。縄文RLが施文される。火を受け器面劣化している。

６－９号住居跡（第91・92図：ＰＬ7・15・16）

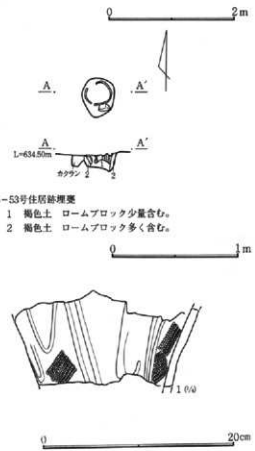
位置　Ａ－7グリッドに位置する。　**重複**　南東部を５－25号住居跡に切られ、北壁部分に６－161号土坑がさらに中央部には６－167号土坑があり炉の西側を大きく壊している。　**形状**　やや南北に長い隅丸方形を呈す。　**規模**　長軸400cm、短軸390cm、深さ25cm。　**方位**　Ｎ－7°－Ｅ。　**床面**　ほぼ平坦でやや縁まっている。幅15cm程の周溝がほぼ全周している。　**炉**　中央に位置するが、大部分を６－167号土坑によって壊されている。わずかに北側の堀方を確認したのみで、炉石等も確認されなかった。　**柱穴**　コーナー部分に４本を検出、深さは40cm程である。　**埋甕**　検出されなかった。　**掘方**　掘り込んだ面を地床としており貼り床、土坑等は見られなかった。　**遺物出土状態**　ほぼ全面から土器・石器類が出土しているが、炉の西側にやや大型品が多い傾向が伺える。比較的床面近くで出土したものが多い。　**時期・所見**　南東部分を一部壊され、炉についても大部分を失っているが、掘り込み等も良く残っており遺存状態は良い。時期は中期後半である。



53住ピット1
1　暗褐色土　炭化物(材) 少量含む、灰色土(灰)粒見られる。
2　暗褐色土　ローム粒、炭化物(材)を微量含む。
53住ピット3
1　暗褐色土　ローム粒、炭化物(材)を微量含む。
2　暗褐色土　ローム粒含む。
53住ピット4
1　暗褐色土　ローム粒、炭化物(材)を極微量含む。
53住ピット6
1　暗褐色土　ローム粒含む。
2　暗褐色土　ロームブロックをわずかに含む。
53住ピット7
1　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石含む。
2　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石含み疎まりあり。
3　暗褐色土　ローム粒を微量含み疎まりあり。
4　褐色土　ロームブロック少量、黄白色軽石を含む。
53住ピット19
1　暗褐色土　ロームブロック、黄白色軽石含む。
2　暗褐色土　ロームブロック多く含む。
53住ピット21
1　褐色土　黄白色軽石、炭化物を極微量含む。
53住ピット22
1　暗褐色土　ロームブロック微量、炭化物含む。
2　暗褐色土　ロームブロック含み、黄白色軽石少量、炭化物含む。
3　暗褐色土　ロームブロック少量含む。



5－53号住居跡炉
1　黒色土と灰の混土層
2　暗褐色土　炭化物粒僅かに含む
3　ロームを主体とし、2を不均質に僅かに含む
4　暗褐色土　2に似るが炭化物粒とローム粒僅かに含む。
(煙突抜き取り穴)

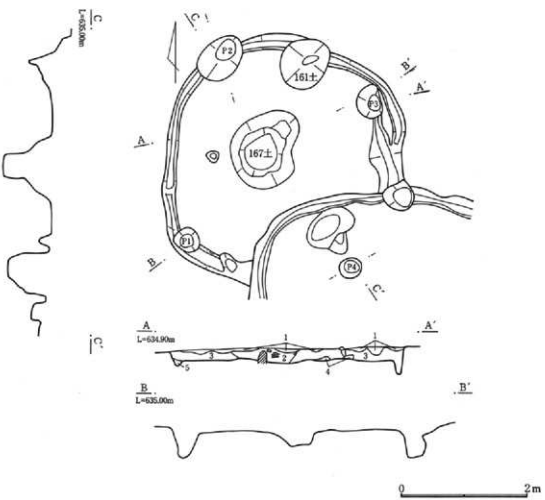


5－53号住居跡埋甕
1　褐色土　ロームブロック少量含む。
2　褐色土　ロームブロック多く含む。

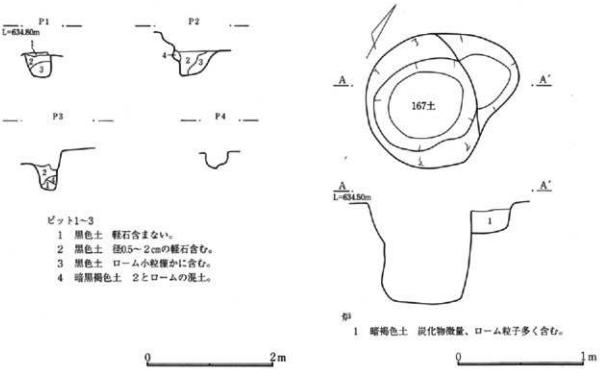
第90図　5－53号住居跡

6－9号住居

1	黒色土	ローム、軽石ほとんど含まず締まりは弱い。
2	黒色土	黄褐色軽石僅かに含み、均質、礫を少量混入。
3	黒褐色土	軽石、礫を含む、締まり弱く若干の炭化物混入。
4	黒褐色土	3に似るが軽石含まず締まりあり。
5	黒褐色土	3と同質だが、黄褐色軽石僅かに含み締まりあり。



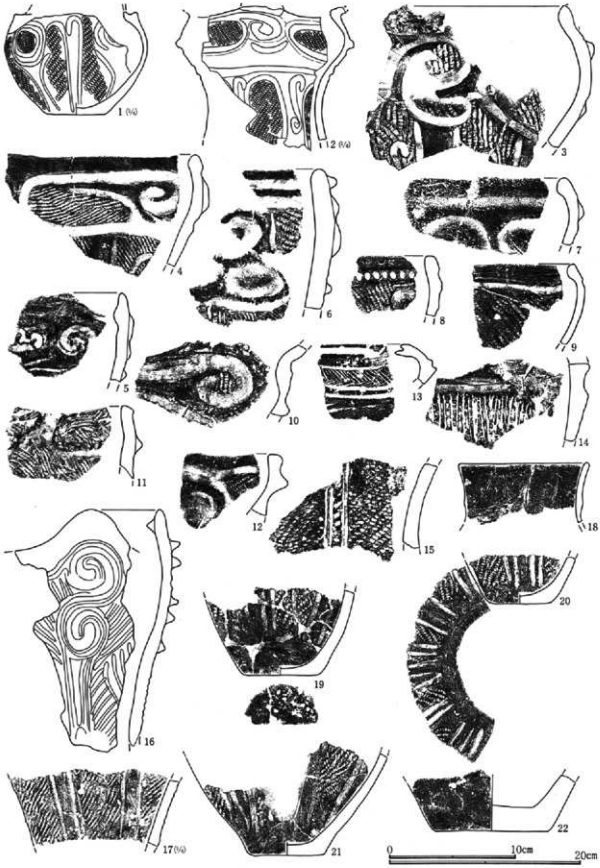
第91図　6－9号住居跡（1）



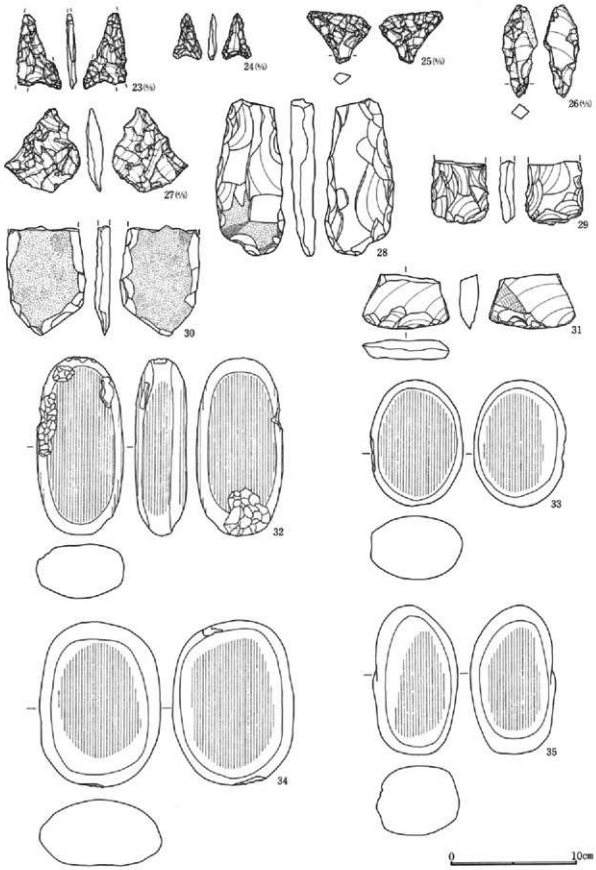
第92図　６－９号住居跡（２）

６－９号住居跡出土遺物（第93・94・95図：ＰＬ67・68）

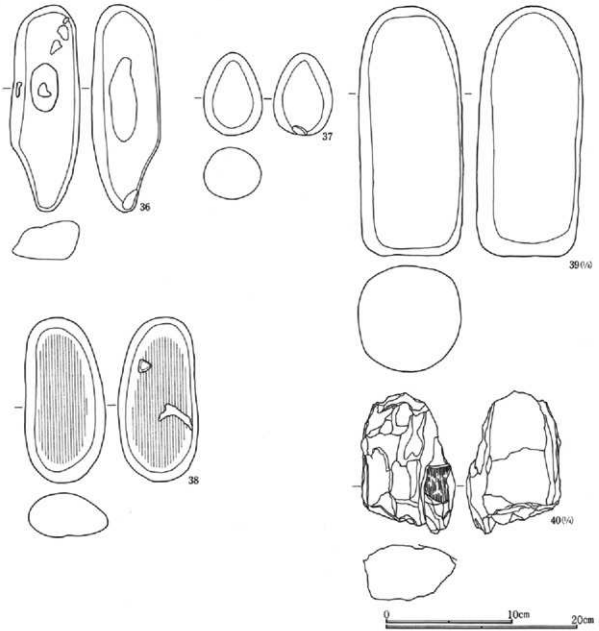
１は胴部に最大径を持つ小形鉢形土器。口縁部に幅狭のテラス状平坦部を有し、口縁部は短く立ち上がるものと思われる。胴部文様は、沈線により上部に二重円文、その下にＹ字文、この間には無文帯を為す２本の蕨手垂下文を描く。文様間、円形文内には縄文RLが施文される。器内面風化し荒れている。２は口縁部に隆帯による楕円、渦巻き文区画を構成、頸部に沈線で画した無文帯を有し以下胴部は沈線による垂下∩状文、Ｓ字文が描かれる。口縁部楕円文、胴部∩状内にはそれぞれ横位・縦位の縄文RLが充填される。また口縁部は小突起状の波状を呈す。３は隆帯による楕円、渦巻き文を描き縄文を充填、下位には沈線による平行無文帯による縦位区画、区画内には縄文施文後沈線による蕨手垂下文。４は口縁部に楕円文、隆帯による渦巻き文を描く。口縁部文様下位には沈線を横に廻らし、同じく沈線による垂下無文帯、曲線文を垂下、地文には縄文LRが充填される。５は小波状を呈す口縁部片、隆帯による横位の区画文を描き大小の渦巻き文が見られる。６は口縁部片、口唇部に隆帯と沿って浅く沈線が廻る。口縁部は隆帯により楕円、渦巻き文を２段構成に描く。７は口縁部に沿って沈線を廻らし隆帯による楕円区画文。８は口縁部に沿って刺突文列を伴う沈線、以下地文縄文とし沈線による渦巻き文様か。９は内湾する口縁部片、口縁部沈線で無文帯を画す、以下縄文施文。10はやや外反する波状口縁部片、隆帯による渦巻き文。中心部に縄文。11は隆帯による横位楕円文区画、区画内、胴部に無節縄文Lを充填施文する。12は渦巻き隆帯を持つ口縁部片。13は「く」の字に内屈する口縁部片、口唇部に深い沈線を持つ。屈曲部に隆帯が廻り口縁部に横位矢羽根状集合沈線文の文様帯を画す。14は横位の幅広沈線下に縦位に施状工具による集合沈線。15は胴部片、刻みを持つ垂下隆帯、隆帯に沿って沈線が見られる、地文には縄文RLが縦位施文される。16は4単位となる小波状口縁、波頂部下に縦Ｓ字状文を隆帯で描く。口縁部は無文帯を画す隆帯がＳ字文に繋がり、下位にも2本の隆帯が垂下し、途中肥厚し日状文となる。地文は斜位の集合沈線文。17・19~21は縄文地文に沈線による縦位磨消無文帯。17は熱を受けている。19・21は底部片。21は器面良く研磨される。18は口径（10.5)cm。



第93図　6－9号住居跡出土遺物(1)



第94図　６－９号住居跡出土遺物（２）



第95図　６－９号住居跡出土遺物（３）

小形土器の無文口縁部片。炭化物付着。楕円内には縄文施文。以下縦位の集合条線文。22は無文の底部片。23・24・27は石鏃、24は小形品、27は大型品の欠損品か。25・26は石錐。26は棒状、25は三角形のつまみ部を持つ。28～31は打製石斧、28は撥形を呈す完形品で刃部摩耗。29・30は基部欠損。30は板状の礫を利用。32～35・37・38・39は磨石である。36は凹石、棒状礫を利用。40は大型石棒の破片、火を受ける。

２．柱穴列

５－１号円形柱穴列（第96図：ＰＬ16）

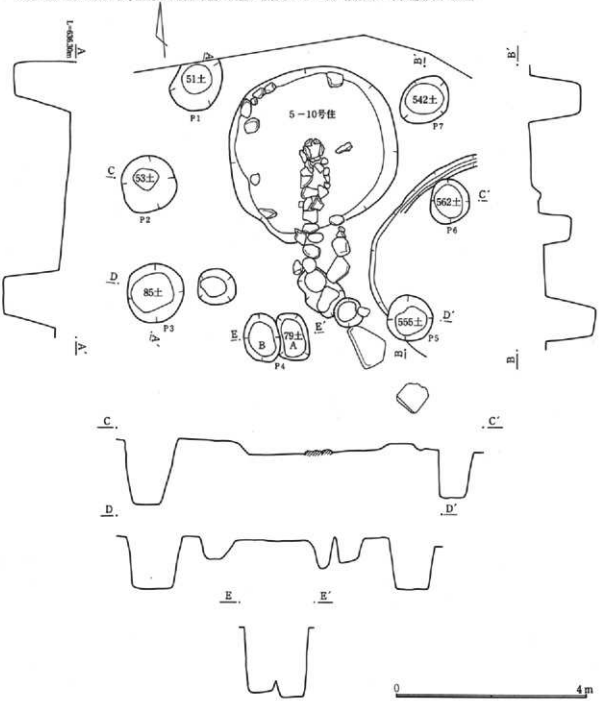
Ｈ・Ｉ－13・14グリッドに位置する。径約１ｍ深さ１～1.5ｍの柱穴が円形ないしは８角形に並んで検出された。１～５号柱穴は平成６年度に調査を行い、今回の調査で東側にほぼ対になる形で3本の柱穴を確認、北側にさらに伸びると思われるが調査区外となる。５－10号住居跡を取り囲む様に作られており、住居に付

帯した施設とも考えられる。柱穴間の距離は2.3～2.5mである。またP４は２本が接する。各ピットは当初単独の土坑として調査を行っている。

PIT計測値および土坑番号対照表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
径　(m)	1.1	1.2	1.2	A1.0 B1.1	1.0	0.95	1.1
深さ (m)	1.4	1.2	1.1	A1.0 B0.75	1.0	0.9	1.1
土坑番号	51号土坑	53号土坑	85号土坑	79A・B号土坑	555号土坑	562号土坑	542号土坑
備　考	柱痕あり			柱痕あり			

※51・53・85・79A・B号土坑は平成８年度に調査、報告されている。(長野原一本松遺跡(1) 2002)



第96図　５－１号円形柱穴列

３．埋甕

埋甕は総数７基を検出した。内訳は５区６基、96区１基である。このうち５区の２・３号埋甕、５号埋甕についてはそれぞれ、５－23号住居跡、５－53号住居跡に伴うものと思われ、それぞれの住居内施設として記載を行っている。他の埋甕については単独の遺構として以下に記述を行う。いずれも、単独の埋甕に伴うようなピットなどは確認されず、礫等も見られない。時期はいずれも中期後半である。

５－１号埋甕（第97図：ＰＬ17）

Ｘ－１グリッドに位置する。調査区の南東壁寄りに検出された。掘り込み面は黒色土中にあったと考えられ、胴上部が浮いた状態で確認した。正位状態で胴下半部がほぼ一周している。

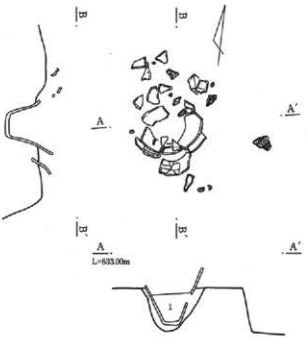
口縁部は欠損し北側部分は割れて散らばった状態であった、南側には２が添えられた状態で出土している。堀方は土器の形状に掘りこんでおり、やや粘性を持つ覆土である。周囲にピット等は確認されなかった。

５－１号埋甕出土遺物（第98図：ＰＬ68）

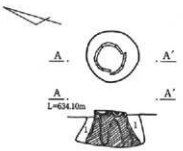
１は口縁部を欠いている。胴部がほぼ直線的に開く器形を呈す。断面三角の隆帯による渦巻き文が並んで垂下し、その間から剣先状文を垂下させている。地文には篦状工具による集合斜沈線文。底径10.8cm。２は深鉢の口縁部片でほぼ直線的に立ち上がる。口縁端部がやや肥厚する。隆帯による楕円渦巻き文の口縁部区画文を持つ、区画内には縦の集合沈線を充填、胴部は端部がつながる２本の平行沈線による垂下文で縦区画し、その間に縄文を充填する。縄文LRで条が縦方向に走る。口径24.0cm。

５－６号埋甕（第97図：ＰＬ17）

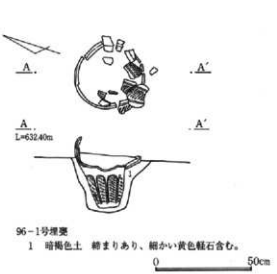
Ｄ－10グリッドに位置する。調査区の南端で検出された。５－44号住居跡の東側に近接、また東



5－1号埋甕
1　暗褐色土　黄色軽石含みやや粘質。

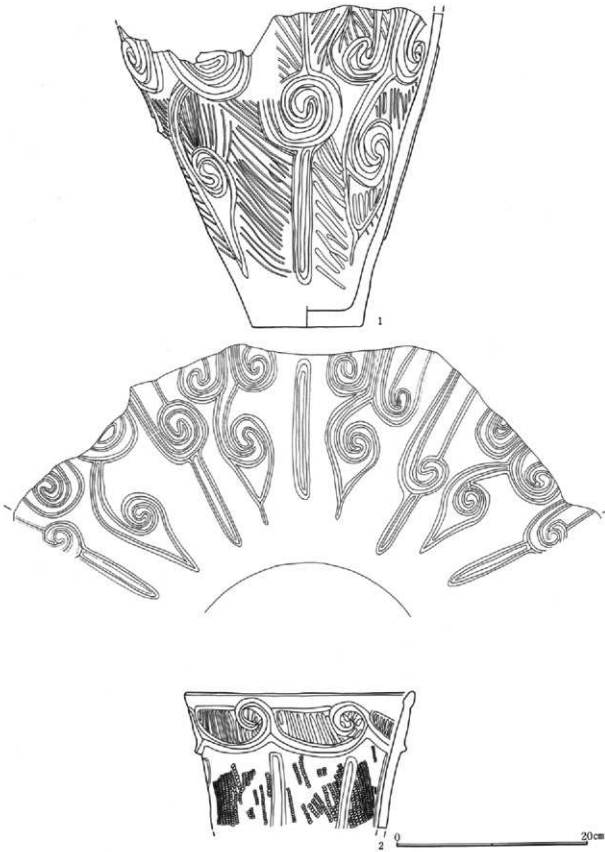


5－6号埋甕
1　暗褐色土　黄白色軽石を微量、ローム粒を極微量含む。

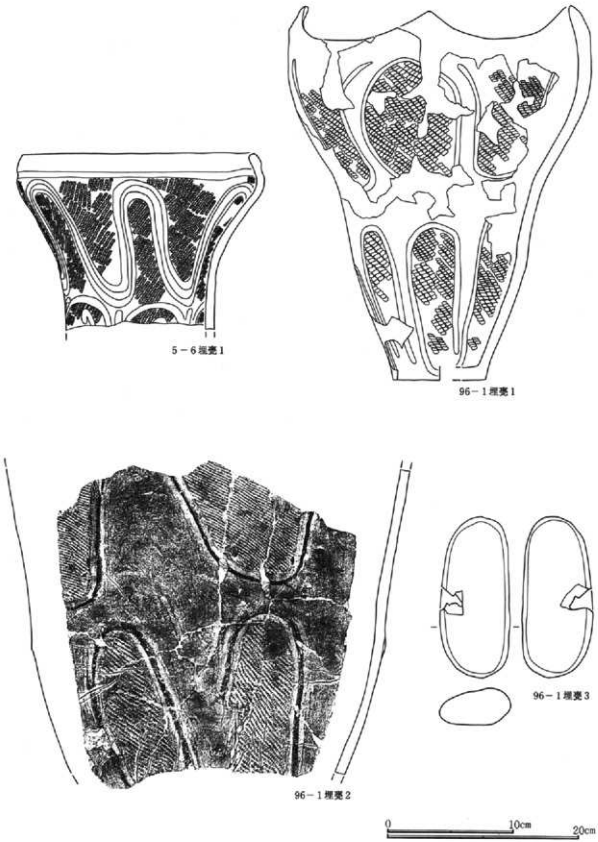


96－1号埋甕
1　暗褐色土　締まりあり、細かい黄色軽石含む。

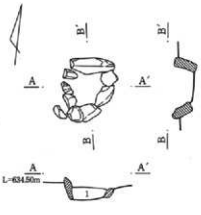
第97図　５・96区埋甕



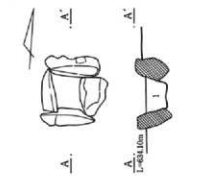
第98図　5－1号埋甕



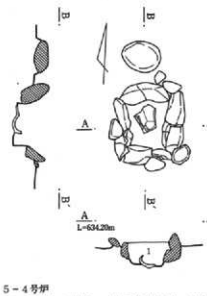
第99図　5－6号埋甕・96－1号埋甕



４－１号炉
１　黒色土　白色、黄白色軽石少量含む。



５－２号炉
１　暗褐色土　黄白色軽石微量含まれる。



５－４号炉
１　黒色土　黄褐色、小軽石粒少量含む、粘性ややあり。

第100図　５区　炉

側には５－２号炉が位置する。口縁部を下にして据えられていた。胴下半部を欠いている。欠け口は丁寧に面取りが施されている。堀方は底部がやや大きいフラスコ形で、土器の口縁部が底に着く状態で置かれている。周囲にピット等の施設は検出されていない。

５－６号埋甕出土遺物（第99図：ＰＬ68）

１はキャリパー形を呈す深鉢で胴下半部を欠く。口径24.8cmである。口縁部に沈線で画される無文帯を有し、文様は上下２段構成で上段部は２本の沈線による縦長波状文を描く、下段は∩状文、蕨手文様を描く。地文には縄文RLが縦位施文される。

96－１号埋甕（第97図：ＰＬ17）

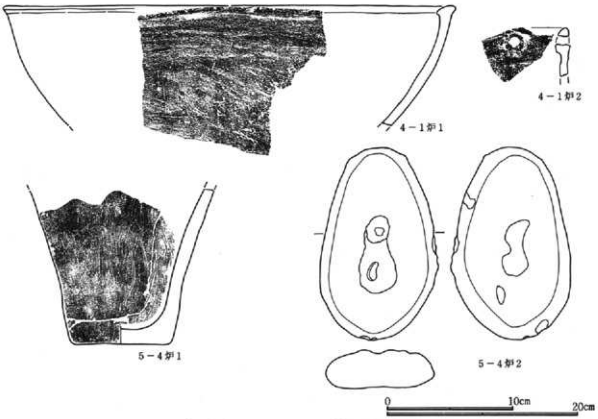
Ａ－22グリッドに位置する。96区の北東隅、谷地の傾斜変換地点に検出されている。正位に据えられた深鉢で、ほぼ完形品が据えられていたと考えられるが、口縁部分は一部欠損している。また、２が１の上位に出土しており、蓋の様な状態であった可能性もある。

96－1号埋甕出土遺物（第99図：ＰＬ68）

１は４単位の波状口縁を持つ深鉢である。口縁部に無文帯を有し、文様は２段構成で沈線による円形文、Ｕ字状文を交互に配し、下段は幅狭となる。文様内には縦位LR縄文充填。２は１の外側に廻るように出土している。大形の深鉢胴部である。隆帯による縄文充填のＵ字、逆Ｕ字状文を上下に描き他は無文。96－1号埋甕３は埋甕中より出土した磨石である、火を受けひび割れが目立つ。

４．炉

単独の屋外炉である。当初５－１号炉、５－３号炉としたものは、周囲のピットの配置、遺物の出土状態などからそれぞれ５－44号住居跡、５－53号住居跡とした。他の炉は周囲にピット等の施設は無く、遺物も見られないことから単独の屋外炉と判断した。その配置を見ると、５区の東端でやや南東に傾斜する場所に取り巻くように作られている。



第101図　４－１号・５－４号炉跡出土遺物

４－１号炉（第100図：ＰＬ16）　後期

Ｙ－12グリッドに位置する。南東にやや下がる谷地部分に位置する。規模は南北長50cm、東西長45cmである。大小の礫をやや崩れた矩形に配置しており炉内に焼土は見られなかった。

４－１号炉出土遺物（第101図：ＰＬ69）

１は無文のボール状を呈す浅鉢口縁部片である。口径(48.0)cm、口唇部が内外に肥厚し口唇部やや丸みを帯びる。２は小波状を呈す口縁部片である。口唇内側が肥厚、波頂部に円孔を有す。

５－２号炉（第100図：ＰＬ16）

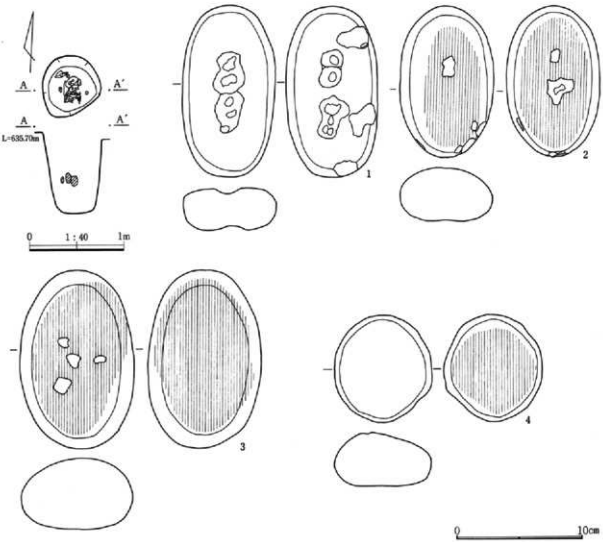
Ｃ－10グリッドに位置する。調査区の南壁寄り、５－34号住居跡の南にあり、５－６号掘窪が２ｍ程西に位置する。長さ40～50cmの石４個を四角に組んでおり、炉石はかなり埋め込まれた状況であった。大きさは一辺約50cmである。炉内に焼土は見られない。

５－４号炉（第100図：ＰＬ17）

Ａ－12グリッドに位置する。５－498号土坑の東に近接する。大小10個ほどの石をほぼ四角形に配す。北側には円礫が据えられている。炉内に若干の炭化物が認められる。

５－４炉出土遺物（第101図：ＰＬ69）

１は深鉢の底部である、やや外傾して立ち上がる器形を呈す。無文で厚手である。底径10.8cm。２は凹石である、やや扁平ななすび形で両面に一対づつの凹み穴を有す。側縁に打痕あり。



第102図　5－2号配石

5．配石

5－2号配石（第102図：ＰＬ17・18）

Ｉ－13グリッドに位置する。平成８年度に配石として調査を実施したものである。５－45号住居跡と重複し住居を切って構築されている。上部の調査はすでに行われていたものであるが、精査の結果、配石下土坑の底面が50cm程下がり、石器および骨片が出土した。骨片は白く焼けた状態で10片程が中位で出土している。石器は底から数十センチ浮いた位置から磨石が３点、凹石が１点まとまって出土している。いずれも火を受けた状態である。

5－2号配石出土遺物（第102図）

１は凹石である。やや扁平な長円礫を利用、凹み穴が表裏に複数見られる。２・３は完形の磨石である、両面使用し共に長円礫を利用する。２は端部に打痕が見られる。使用面は平滑で特に３は極めて磨り面が平滑である。４は円礫を利用しており、側縁部に敲打による欠損が見られる。いずれの石器も火を受けた状況が窺え、かなりの煤が付着している。

６．土坑・ピット

土坑（第103～137図：ＰＬ18～44）

検出した総数は293基である。各区毎の内訳は３区４基、４区14基、５区216基、６区47基、95区４基、96区８基となる。以下、区別に時期や特徴などを概述する。

３・４区

３区は南に落ちる谷部分の谷頭にあたる。検出された土坑は３基でいずれも上部はかなり削平されていた。長方形を呈す陥し穴と見られる、６・７号土坑は等高線とほぼ直交し、５号土坑は平行する。

４区については調査区が西と東に離れており、調査区の西部に位置する32・44号は陥し穴である。東側の調査区ではやや集中して検出されている。39・41号は傾斜方向と主軸を一にしていることから陥し穴の可能性もあるが、極めて浅い掘り込みである。他は円形を呈し、規方は一定せずややり浅いものが多い。出土遺物も少ない。

５区

平成９年度に調査を行った西側部分と平成10年度に調査を行った東側とで様相を異にする。西側はやはり陥し穴と見られる381・383・384・386号などがある。主軸は等高線と同方向のものと直交するものに分けられる。他にも多くの土坑が検出されたが性格を確定できるものは少ない、そうした中で461号土坑は南北に主軸を持つ長円形の土坑で、中央部が深く両端が浅くなる形状を呈し、南端に大型の深鉢半分が口縁部を南に伏せた状態で出土している。土器は底面からやや浮いた状態である。土器の時期は後期前半で、土坑墓と思われる。

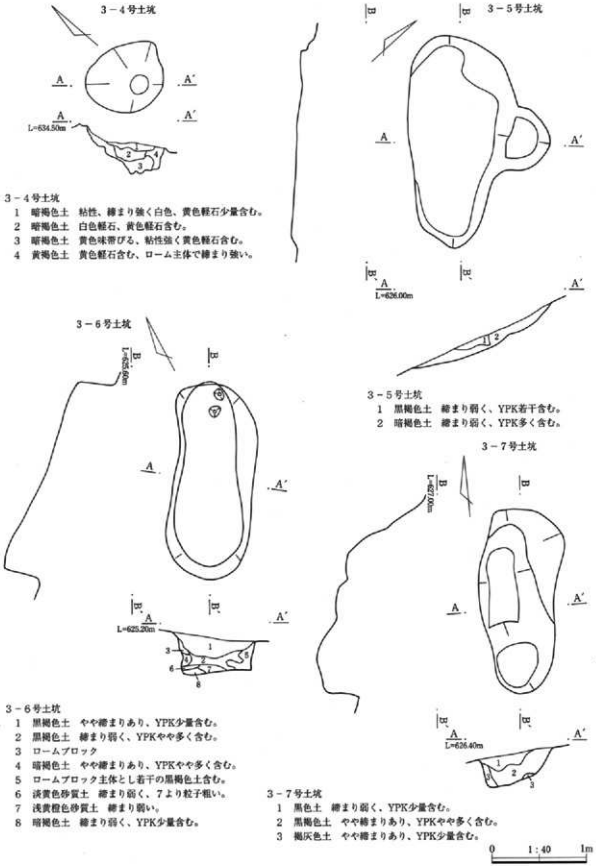
東側の調査区では陥し穴と思われる土坑が７基検出されている。いずれも平面は長円形で、底部は長方形を呈す。長形2.0～3.0m、短径1.0～2.0m、深さは1.5m～2.0mと大形で、縄文の遺構を切って作られ、埋め土も軟質でロームブロックを上層に混入する。縄文時代の土坑も多く礫や土器を多く出土しているものが目立つ。また円形で深さ１m以上ある土坑も見られる。１号柱穴列との関連もあり、検討したが円形または方形に配置されたものは確認できなかった。559土坑は径1.2m程の円形で深さ約40cmを測る。土坑南端に完形の鉢形土器が斜めに伏した状態で出土している。461号土坑同様土坑墓と見られる。また、覆土の上層又は脇に大型の礫を伴うものもあり墓坑の可能性がある。これらの土坑墓は後期前半に比定され、中期後半の住居埋没後に作られている。なお、542・555・562号土坑は調査を進める中でその形状や配置から１号柱穴列とされたものである。また490・491号土坑は中世に帰属することから、遺構図は中・近世の項に記載を行った、但し遺物については他の土坑遺物と併載した。

６区

６区においては、調査区東側で縄文時代の土坑がやや集中して検出されている。いずれも中期後半の住居跡と重複するものや周囲に配置されるものである。150・155号土坑は比較的大型で底が平らである。

167号土坑は９号住居跡の炉を切って作られており、土器片や石器類がまとまって廃棄された状況で出土している。

陥し穴と思われる土坑も多く検出され、調査区ほぼ全域に10基ほどが点在する。調査区の西側半分については住居跡も見られず、ほとんどが陥し穴である。規模は長径1.5m、短径１m前後で深さも１m前後のものが多い。主軸は傾斜方向にとるものが多く、等高線に沿うものは少ない。これらの陥し穴からも縄文時代の土器が出土しているが流れ込みと判断される。



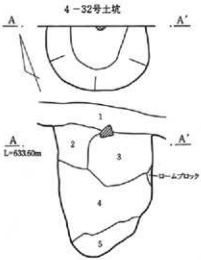
3－4号土坑
1　暗褐色土　粘性、締まり強く白色、黄色軽石少量含む。
2　暗褐色土　白色軽石、黄色軽石含む。
3　暗褐色土　黄色味帯びる、粘性強く黄色軽石含む。
4　黄褐色土　黄色軽石含む、ローム主体で締まり強い。

3－5号土坑
1　黒褐色土　締まり弱く、YPK若干含む。
2　暗褐色土　締まり弱く、YPK多く含む。

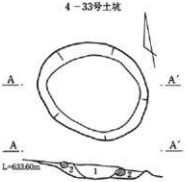
3－6号土坑
1　黒褐色土　やや締まりあり、YPK少量含む。
2　黒褐色土　締まり弱く、YPKやや多く含む。
3　ロームブロック
4　暗褐色土　やや締まりあり、YPKやや多く含む。
5　ロームブロック主体とし若干の黒褐色土含む。
6　淡黄色砂質土　締まり弱く、7より粒子粗い。
7　浅黄橙色砂質土　締まり弱い。
8　暗褐色土　締まり弱く、YPK少量含む。

3－7号土坑
1　黒色土　締まり弱く、YPK少量含む。
2　黒褐色土　やや締まりあり、YPKやや多く含む。
3　褐灰色土　やや締まりあり、YPK少量含む。

第103図　土坑(1)

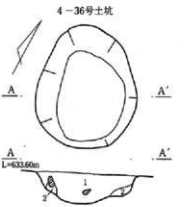


4－32号土坑
1　黒色土　軽石わずかに含む。
2　暗褐色土　黄色軽石含み粘性あり。
3　暗褐色土　黄色軽石わずかに含む。
4　暗褐色土　ローム粒僅かに含み粘性あり。
5　黒褐色土　ロームブロック少量混入。

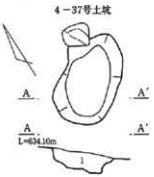


4－33号土坑
1　暗褐色土　締まり粘性あり。
2　暗褐色土　締まり粘性あり、白色軽石少量含む。

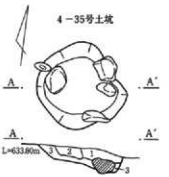
4－34号土坑
1　暗褐色土　締まり、粘性あり白色軽石含む。
2　黄褐色土　締まり、粘性あり白色軽石、黄色軽石含む。
3　黄褐色土　２より黄色味強く締まりやや欠ける。
4　黄褐色土　地山土主体とする。



4－36号土坑
1　黒褐色土　締まり、粘性あり白色、黄色軽石含む。
2　黄褐色土　締まり、粘性あり白色、黄色軽石若干含む。



4－37号土坑
1　黄褐色土　締まり、粘性あり白色、黄色軽石含む。

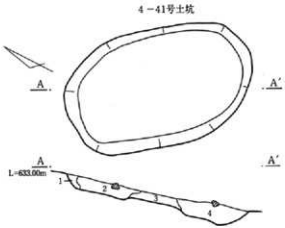


4－35号土坑
1　黒褐色土　締まり、粘性あり白色軽石含む。
2　黄褐色土　締まり、粘性あり白色、黄色軽石を含む。
3　黄褐色土　２より黄色味あり白色、黄色軽石含む。

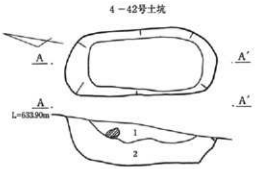
4－38号土坑
1　黒褐色土　粘性あり、黄褐色土ブロック、黄色軽石含む。
2　暗褐色土　地山土主体とする。

4－39号土坑
1　黒褐色土　締まり、粘性あり白色、黄色軽石含む。
2　暗褐色土　締まり、粘性あり白色、黄色軽石含む。

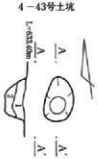
第104図　土坑（２）



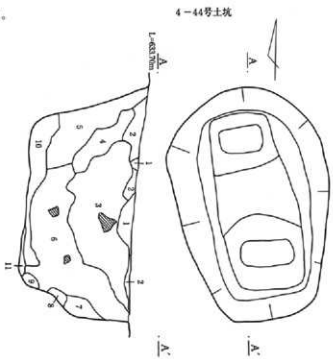
4－41号土坑
1　暗褐色土　締まり弱い。
2　黒褐色土　黄色軽石、白色軽石含み粘性、締まりあり。
3　暗褐色土　黄色軽石、白色軽石含み粘性あり。
4　暗褐色土　３より黒味強く粘性、締まりあり。



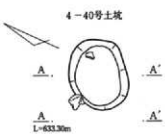
4－42号土坑
1　黒褐色土　炭化物少量含み締まり弱い、軽石、ローム含まず。
2　黒色土　黄褐色軽石わずかに含む、細粒でローム含まず。



4－43号土坑
1　黒褐色土　締まり弱くローム粒を少量含む。
2　暗褐色土　締まり中　ロームブロック多く含む。



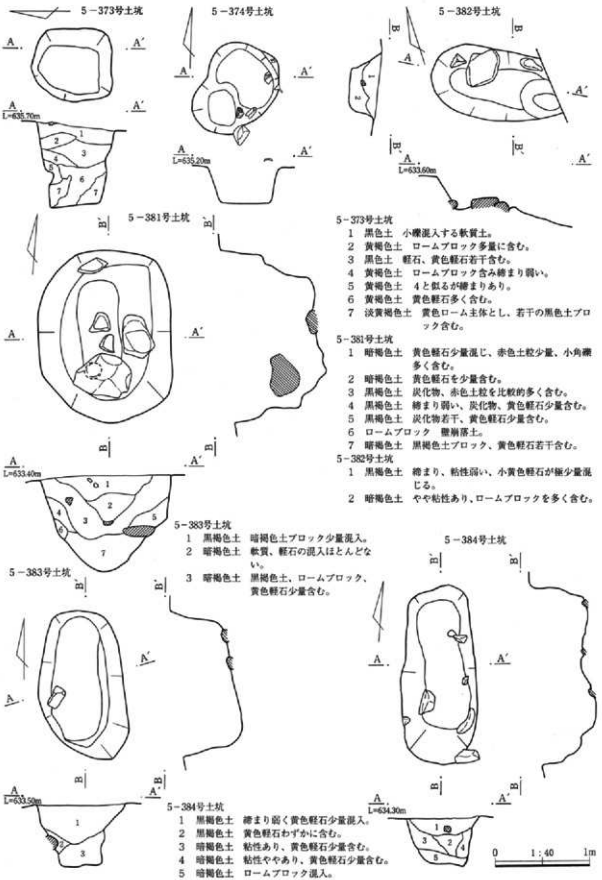
4－44号土坑
1　黒褐色土　炭化物少量含み締まり弱い、軽石、ローム含まず。
2　黒色土　黄褐色軽石わずかに含む、細粒でローム含まず。
3　黒褐色土　黄褐色軽石わずかに含む、ローム含まず均質。
4　黒色土　２よりやや赤味あり、黄褐色軽石わずかに含む。
5　黒褐色土　黄白色軽石わずかに含む。
6　黒色土　４と似るがローム粒わずかに含む。
7　黒褐色土　黄褐色の軽石少量含む。
8　黒褐色土　ローム土均質に混入し、黄色味がかり軽石わずかに含む。
9　黒色土　ローム土不均質に20%程混入。
10　黒色土　ローム粒少量混入、黄褐色軽石僅かに含む。
11　黒色土　10よりやや多くローム混入、ブロック状混に含む。



4－40号土坑
1　暗褐色土　締まり、粘性中、白色黄色軽石含む。
2　黄褐色土　締まり、粘性中、白色軽石含む。

0　1:40　1m

第105図　土坑（３）



5－373号土坑
1　黒色土　小礫混入する軟質土。
2　黄褐色土　ロームブロック多量に含む。
3　黒色土　軽石、黄色軽石若干含む。
4　黄褐色土　ロームブロック含み締まり弱い。
5　黄褐色土　4と似るが締まりあり。
6　黄褐色土　黄色軽石多く含む。
7　淡黄褐色土　黄色ローム主体とし、若干の黒色土ブロック含む。

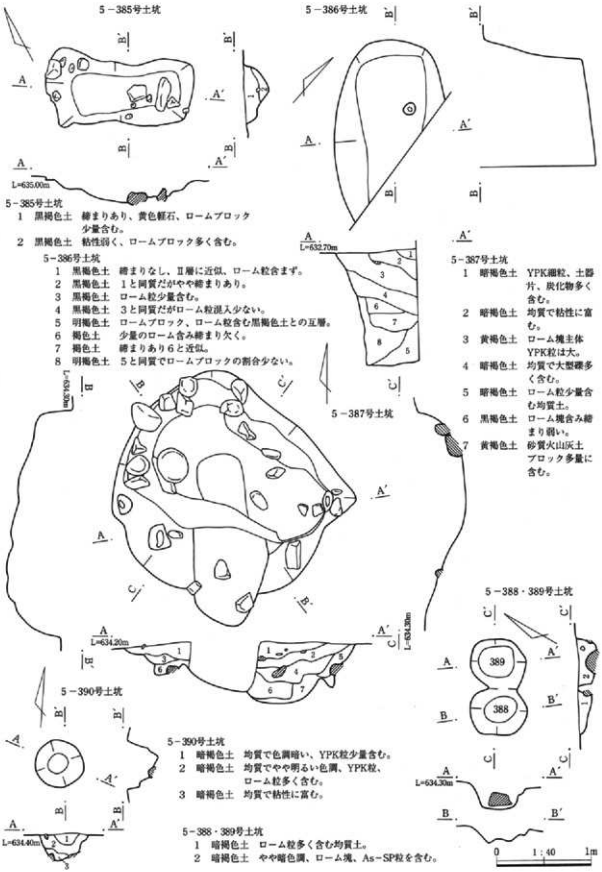
5－381号土坑
1　暗褐色土　黄色軽石少量混じ、赤色土粒少量、小角礫多く含む。
2　暗褐色土　黄色軽石を少量含む。
3　黒褐色土　炭化物、赤色土粒を比較的多く含む。
4　黒褐色土　締まり弱い、炭化物、黄色軽石少量含む。
5　黒褐色土　炭化物若干、黄色軽石少量含む。
6　ロームブロック　壁崩落土。
7　暗褐色土　黒褐色土ブロック、黄色軽石若干含む。

5－382号土坑
1　黒褐色土　締まり、粘性弱い、小黄色軽石が極少量混じる。
2　暗褐色土　やや粘性あり、ロームブロックを多く含む。

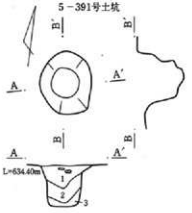
5－383号土坑
1　黒褐色土　暗褐色土ブロック少量混入。
2　暗褐色土　軟質、軽石の混入ほとんどない。
3　暗褐色土　黒褐色土、ロームブロック、黄色軽石少量含む。

5－384号土坑
1　黒褐色土　締まり弱く黄色軽石少量混入。
2　黒褐色土　黄色軽石わずかに含む。
3　暗褐色土　粘性あり、黄色軽石少量含む。
4　暗褐色土　粘性ややあり、黄色軽石少量含む。
5　暗褐色土　ロームブロック混入。

第106図　土坑（4）


5－385号土坑
5－386号土坑
5－385号土坑
1　黒褐色土　締まりあり、黄色軽石、ロームブロック少量含む。
2　黒褐色土　粘性弱く、ロームブロック多く含む。
5－386号土坑
1　黒褐色土　締まりなし、Ⅱ層に近似、ローム粒含まず。
2　黒褐色土　1と同質だがやや締まりあり。
3　黒褐色土　ローム粒少量含む。
4　黒褐色土　3と同質だがローム粒混入少ない。
5　明褐色土　ロームブロック、ローム粒含む黒褐色土との互層。
6　褐色土　少量のローム含み締まり欠く。
7　褐色土　締まりあり6と近似。
8　明褐色土　5と同質でロームブロックの割合少ない。
5－387号土坑
1　暗褐色土　YPK細粒、土器片、炭化物多く含む。
2　暗褐色土　均質で粘性に富む。
3　黄褐色土　ローム塊主体YPK粒は大。
4　暗褐色土　均質で大型礫多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒少量含む均質土。
6　黒褐色土　ローム塊含み締まり弱い。
7　黄褐色土　砂質火山灰土ブロック多量に含む。
5－387号土坑
5－390号土坑
5－388・389号土坑
5－390号土坑
1　暗褐色土　均質で色調暗い、YPK粒少量含む。
2　暗褐色土　均質でやや明るい色調、YPK粒、ローム粒多く含む。
3　暗褐色土　均質で粘性に富む。
5－388・389号土坑
1　暗褐色土　ローム粒多く含む均質土。
2　暗褐色土　やや暗色調、ローム塊、As－SP粒を含む。
0　1:40　1m

第107図　土坑（5）



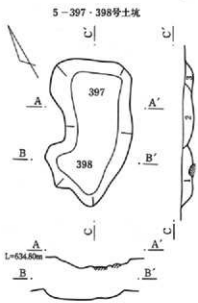
5－391号土坑
1　暗褐色土　大粒のYP粒を少量含む。
2　暗褐色土　やや明るい色調、小ローム塊を少量含む。
3　黒褐色土　ローム粒多く含みやや軟質。

5－392号土坑
1　暗褐色土　やや暗い色調、少量のYPK粒含む。
2　暗褐色土　少量のローム塊を含み締まり弱い。
3　暗褐色土　粘性強く締まり良い。
4　暗褐色土　ローム粒を多く含み締まり乏しい。
5　黄褐色土　小礫含むローム塊。
6　黄褐色土　YPKを主体とする。

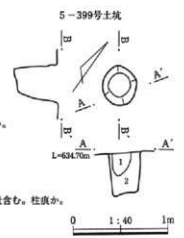
5－394号土坑
1　黒褐色土　均質で締まり乏しい。
2　暗褐色土　YPK細粒多く含む。
3　暗褐色土　ローム塊を多く含み、締まり乏しい。
4　褐色土　大形ローム塊を多く含み締まり乏しい。

5－393号土坑
1　暗褐色土　ローム塊を含み粘性、締まり乏しい。
2　純黄褐色土　小ローム塊主体とし、小礫、炭化物含む。
3　純黄褐色土　小ローム塊主体とし、締まり乏しい。
4　黄褐色土　ローム粒主体で締まり乏しい。

5－395・396号土坑
1　暗褐色土　やや明るく、少量のYPKを含み、締まりあり。
2　暗褐色土　小ローム塊を少量含む。
3　黒色土　大型のローム塊を含む、軟質、締まり乏しい。



5－397・398号土坑
1　暗褐色土　暗い色調、均質で包含物も少ない。
2　暗褐色土　やや明るい色調、YPK少量含むやや軟質土。
3　褐色土　ローム粒を多く含む。



5－399号土坑
1　暗褐色土　YPK、ローム粒少量含む。柱痕か。
2　褐色土　ローム粒を多く含む。

第108図　土坑（6）

5－400・401号土坑

5－400・401号土坑
1　暗褐色土　やや暗く白色粒子少量含む。
2　暗褐色土　均質でローム粒少量含む。
3　黒色土　軟質でYPK少量含む。
4　暗褐色土　暗色、YPK少量含み締まり良い。
5　暗褐色土　暗色、YPK含まず締まり良い。
6　褐色土　ローム粒多く含み締まり弱い。
7　暗褐色土　ローム粒少量含み締まり良い。

5－402号土坑

5－402号土坑
1　暗褐色土　白色粒子を少量含み均質。
2　暗褐色土　ローム粒子を含みやや軟質。

5－403号土坑

5－403号土坑
1　暗褐色土　ローム塊、YPK少量含む。
2　褐色土　ローム粒を多く含む。

5－404号土坑

5－404号土坑
1　褐色土　大型ローム塊含む。
2　黄褐色土　ローム塊を主体とする。
3　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
4　暗褐色土　白色粒、礫を含む。

5－405号土坑

5－405号土坑
1　暗褐色土　やや暗い、白色粒を含み均質。
2　暗褐色土　暗色、大粒のYPK少量含む。
3　暗褐色土　暗色、白色粒少量含む。

5－406号土坑

5－406号土坑
1　暗褐色土　YPK、ローム粒を少量含む、柱痕か。
2　褐色土　ローム粒多く含む。

5－407号土坑

5－407号土坑
1　暗褐色土　ローム粒、YPKを少量含む、均質で締まり良い。
2　暗褐色土　ロームブロックを多く含み締まり良い。
3　黄褐色土　ローム粒、YPKをやや多く含む、締まり良い。

5－408号土坑

5－408号土坑
1　黒褐色土　YPK少量含み締まり良い。
2　暗褐色土　YPK少量含み軟質。
3　暗褐色土　ローム塊を多く含む。

5－409号土坑

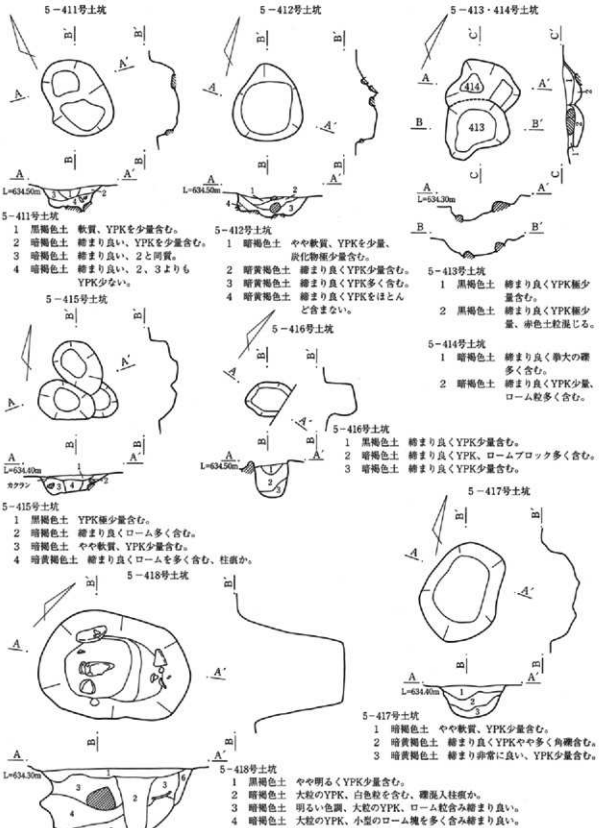
5－409号土坑
1　黒褐色土　YPKを少量含む、柱痕か。
2　暗褐色土　YPKを少量含み締まり良い。
3　黒褐色土　ローム塊を若干含む。

5－410号土坑

5－410号土坑
1　黒褐色土　やや軟質、YPK少量含む。
2　黒褐色土　締まり良い、YPKをやや多く含む。

0　1:40　1m

第109図　土坑（7）



5－411号土坑
1　黒褐色土　軟質、YPKを少量含む。
2　暗褐色土　締まり良い、YPKを少量含む。
3　暗褐色土　締まり良い、2と同質。
4　暗褐色土　締まり良い、2、3よりもYPK少ない。

5－412号土坑
1　暗褐色土　やや軟質、YPKを少量、炭化物極少量含む。
2　暗黄褐色土　締まり良くYPK少量含む。
3　暗黄褐色土　締まり良くYPK多く含む。
4　暗黄褐色土　締まり良くYPKをほとんど含まない。

5－413号土坑
1　黒褐色土　締まり良くYPK極少量含む。
2　黒褐色土　締まり良くYPK極少量、赤色土粒混じる。

5－414号土坑
1　暗褐色土　締まり良く巻大の礫多く含む。
2　暗褐色土　締まり良くYPK少量、ローム粒多く含む。

5－415号土坑
1　黒褐色土　YPK極少量含む。
2　暗褐色土　締まり良くローム多く含む。
3　暗褐色土　やや軟質、YPK少量含む。
4　暗黄褐色土　締まり良くロームを多く含む、柱痕か。

5－416号土坑
1　黒褐色土　締まり良くYPK少量含む。
2　暗褐色土　締まり良くYPK、ロームブロック多く含む。
3　暗褐色土　締まり良くYPK少量含む。

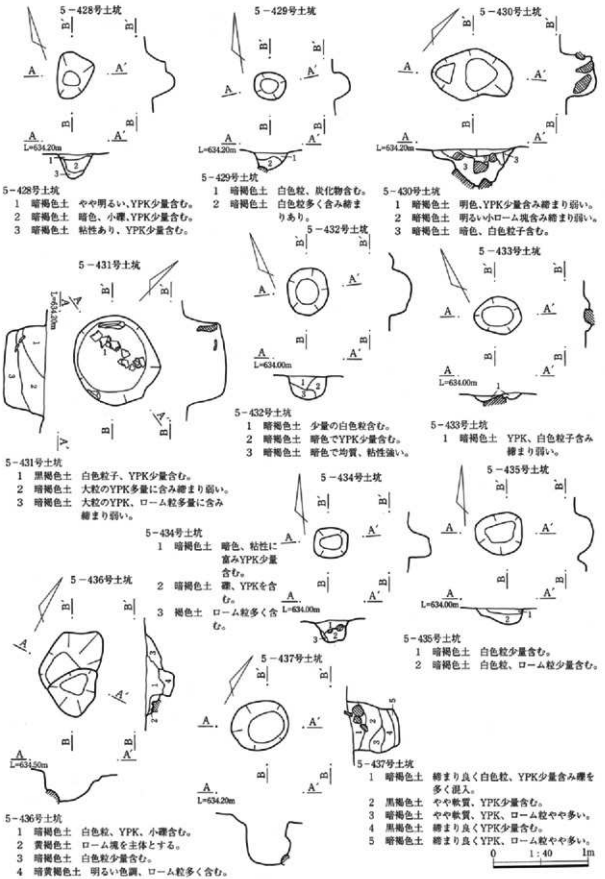
5－417号土坑
1　暗褐色土　やや軟質、YPK少量含む。
2　暗黄褐色土　締まり良くYPKやや多く角礫含む。
3　暗黄褐色土　締まり非常に良い、YPK少量含む。

5－418号土坑
1　黒褐色土　やや明るくYPK少量含む。
2　暗褐色土　大粒のYPK、白色粒を含む、礫混入柱痕か。
3　暗褐色土　明るい色調、大粒のYPK、ローム粒含み締まり良い。
4　暗褐色土　大粒のYPK、小型のローム塊を多く含み締まり良い。
5　暗褐色土　暗色、小粒YPK、ローム粒少量含み締まり良い。
6　暗褐色土　ローム塊、YPKを多く含み締まり良い。
7　暗褐色土　ローム塊を多く含み締まり弱い。
8　暗褐色土　大ローム塊、YPK多く含み締まり弱い。

第110図　土坑（8）

5－420号土坑
1　暗褐色土　締まり良くYPK少量含む。
2　暗黄褐色土　締まり良くロームブロック多く含む。
5－421号土坑
1　黒褐色土　締まり良くYPK少量含む。
2　暗黄褐色土　締まり良くロームブロック多く含む。
5－420・421号土坑
5－419号土坑
5－419号土坑
1　暗黄褐色土　YPK、ローム塊やや多く含み締まり良い。
2　暗褐色土　締まり良くYPKを多く含む。
3　暗褐色土　締まり良く径1cm程度のYPK多く含む。
4　暗褐色土　締まり良く小粒YPK少量含む。
5－422号土坑
5－422号土坑
1　黒褐色土　締まり良くYPKの混入少ない。
2　暗褐色土　締まり良くローム粒少量。
3　暗褐色土　締まり良くローム多く含む。
5－423号土坑
5－423号土坑
1　黒褐色土　やや軟質、YPK少量。
2　暗褐色土　締まり良くローム粒多く含む。
5－424号土坑
5－424号土坑
1　黒褐色土　締まり良くYPK少量含む。
2　黒褐色土　締まり良くYPK若干多い。
3　黒色土　締まり良くYPKを極少量含む。
5－425・426号土坑
5－425号土坑
1　暗褐色土　YPK少量含み暗色。
2　暗褐色土　YPKを多く含みやや明るい。
5－426号土坑
1　暗褐色土　暗色、白色粒含む。
2　暗褐色土　白色粒少量含む。
3　褐色土　小ローム塊、YPK含む。
5－427号土坑
5－427号土坑
1　黒褐色土　YPK少量含み締まり良い。
2　暗褐色土　YPKを多く含みやや軟質。
3　暗褐色土　ロームブロックを多く含み締まり良い。
4　暗褐色土　ロームブロック若干多く、締まり良い。
0　1:40　1m

第111図　土坑（9）



5－428号土坑
1　暗褐色土　やや明るい、YPK少量含む。
2　暗褐色土　暗色、小礫、YPK少量含む。
3　暗褐色土　粘性あり、YPK少量含む。

5－429号土坑
1　暗褐色土　白色粒、炭化物含む。
2　暗褐色土　白色粒多く含み締まりあり。

5－430号土坑
1　暗褐色土　明色、YPK少量含み締まり弱い。
2　暗褐色土　明るい小ローム塊含み締まり弱い。
3　暗褐色土　暗色、白色粒子含む。

5－431号土坑
1　黒褐色土　白色粒子、YPK少量含む。
2　暗褐色土　大粒のYPK多量に含み締まり弱い。
3　暗褐色土　大粒のYPK、ローム粒多量に含み締まり弱い。

5－432号土坑
1　暗褐色土　少量の白色粒含む。
2　暗褐色土　暗色でYPK少量含む。
3　暗褐色土　暗色で均質、粘性強い。

5－433号土坑
1　暗褐色土　YPK、白色粒子含み締まり弱い。

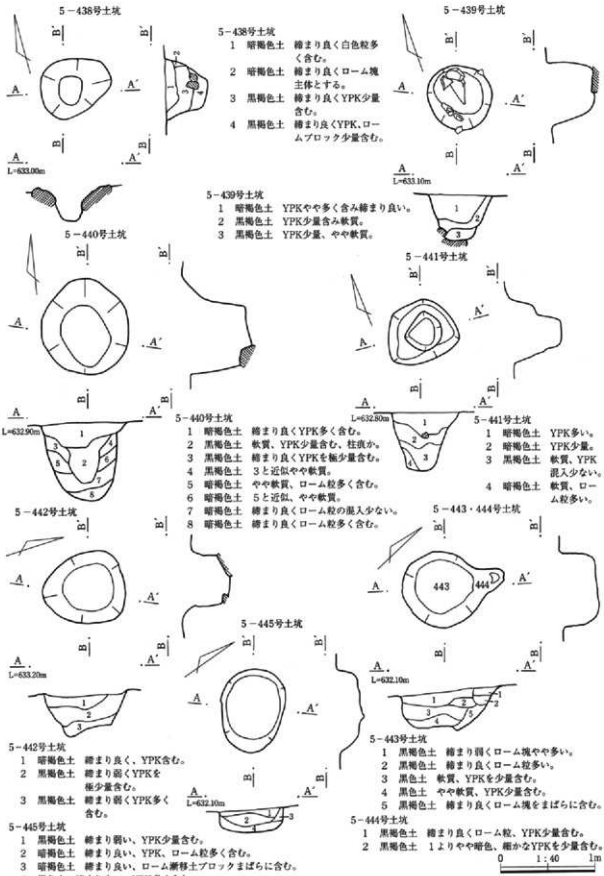
5－434号土坑
1　暗褐色土　暗色、粘性に富みYPK少量含む。
2　暗褐色土　礫、YPKを含む。
3　褐色土　ローム粒多く含む。

5－435号土坑
1　暗褐色土　白色粒少量含む。
2　暗褐色土　白色粒、ローム粒少量含む。

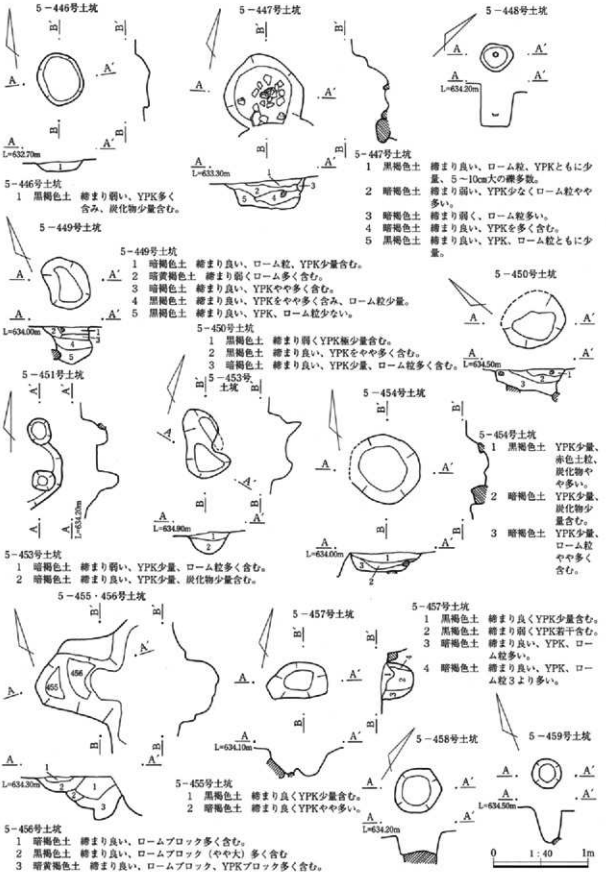
5－436号土坑
1　暗褐色土　白色粒、YPK、小礫含む。
2　黄褐色土　ローム塊を主体とする。
3　暗褐色土　白色粒少量含む。
4　暗黄褐色土　明るい色調、ローム粒多く含む。

5－437号土坑
1　暗褐色土　締まり良く白色粒、YPK少量含み礫を多く混入。
2　黒褐色土　やや軟質、YPK少量含む。
3　暗褐色土　やや軟質、YPK、ローム粒やや多い。
4　黒褐色土　締まり良くYPK少量含む。
5　暗褐色土　締まり良くYPK、ローム粒やや多い。

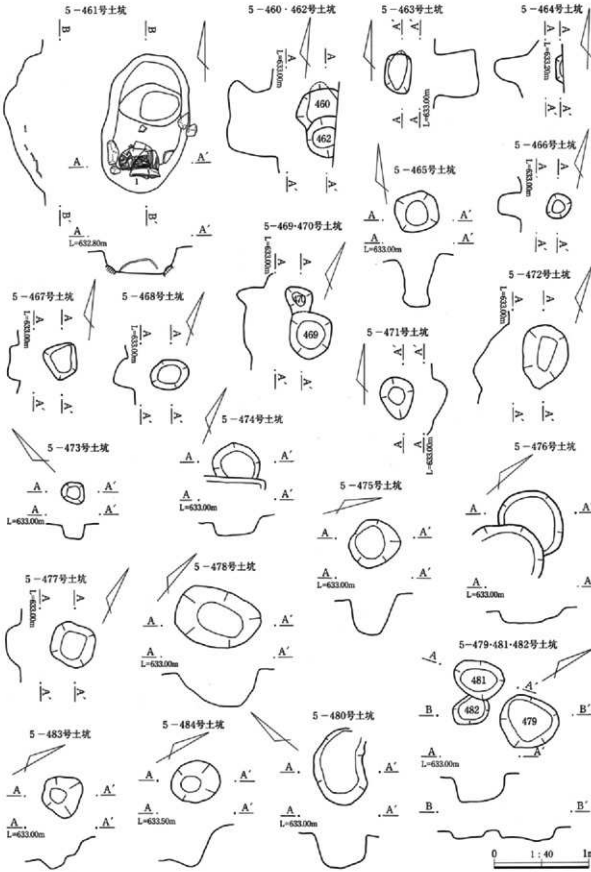
第112図　土坑（10）


5－438号土坑
A
A′
B
B′
L=633.00m
5－438号土坑
1　暗褐色土　締まり良く白色粒多く含む。
2　暗褐色土　締まり良くローム塊主体とする。
3　黒褐色土　締まり良くYPK少量含む。
4　黒褐色土　締まり良くYPK、ロームブロック少量含む。
5－439号土坑
L=633.10m
5－439号土坑
1　暗褐色土　YPKやや多く含み締まり良い。
2　黒褐色土　YPK少量含み軟質。
3　黒褐色土　YPK少量、やや軟質。
5－440号土坑
L=632.90m
5－440号土坑
1　暗褐色土　締まり良くYPK多く含む。
2　黒褐色土　軟質、YPK少量含む。柱痕か。
3　黒褐色土　締まり良くYPKを極少量含む。
4　黒褐色土　3と近似やや軟質。
5　暗褐色土　やや軟質、ローム粒多く含む。
6　暗褐色土　5と近似、やや軟質。
7　暗褐色土　締まり良くローム粒の混入少ない。
8　暗褐色土　締まり良くローム粒多く含む。
5－441号土坑
L=632.80m
5－441号土坑
1　暗褐色土　YPK多い。
2　暗褐色土　YPK少量。
3　黒褐色土　軟質、YPK混入少ない。
4　暗褐色土　軟質、ローム粒多い。
5－442号土坑
L=633.20m
5－442号土坑
1　暗褐色土　締まり良く、YPK含む。
2　黒褐色土　締まり弱くYPKを極少量含む。
3　黒褐色土　締まり弱くYPK多く含む。
5－443・444号土坑
443
444
L=632.10m
5－443号土坑
1　黒褐色土　締まり弱くローム塊やや多い。
2　黒褐色土　締まり良くローム粒多い。
3　黒色土　軟質、YPKを少量含む。
4　黒色土　やや軟質、YPK少量含む。
5　黒褐色土　締まり良くローム塊をまばらに含む。
5－444号土坑
1　黒褐色土　締まり良くローム粒、YPK少量含む。
2　黒褐色土　1よりやや暗色、細かなYPKを少量含む。
5－445号土坑
L=632.10m
5－445号土坑
1　黒褐色土　締まり弱い、YPK少量含む。
2　暗褐色土　締まり良い、YPK、ローム粒多く含む。
3　暗褐色土　締まり良い、ローム漸移土ブロックまばらに含む。
4　黒色土　締まり良い、YPK多く含む。
0　1:40　1m

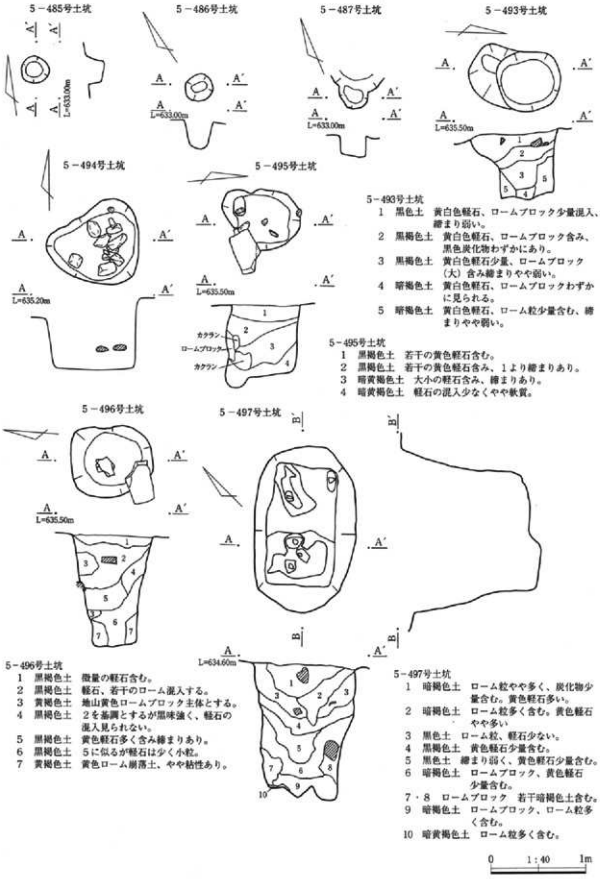
第113図　土坑（11）


5－446号土坑
A
A′
B
B′
L=632.70m
5－446号土坑
1　黒褐色土　締まり弱い、YPK多く含み、炭化物少量含む。
5－447号土坑
L=633.30m
5－447号土坑
1　黒褐色土　締まり良い、ローム粒、YPKともに少量、5～10cm大の礫多数。
2　暗褐色土　締まり弱い、YPK少なくローム粒やや多い。
3　暗褐色土　締まり弱く、ローム粒多い。
4　暗褐色土　締まり良い、YPKを多く含む。
5　黒褐色土　締まり良い、YPK、ローム粒ともに少量。
5－448号土坑
L=634.20m
5－449号土坑
L=634.00m
5－449号土坑
1　暗褐色土　締まり良い、ローム粒、YPK少量含む。
2　暗黄褐色土　締まり弱くローム多く含む。
3　暗褐色土　締まり良い、YPKやや多く含む。
4　黒褐色土　締まり良い、YPKをやや多く含み、ローム粒少量。
5　黒褐色土　締まり良い、YPK、ローム粒少ない。
5－450号土坑
L=634.50m
5－450号土坑
1　黒褐色土　締まり弱くYPK極少量含む。
2　黒褐色土　締まり良い、YPKをやや多く含む。
3　暗褐色土　締まり良い、YPK少量、ローム粒多く含む。
5－451号土坑
L=634.20m
5－453号土坑
1　暗褐色土　締まり弱い、YPK少量、ローム粒多く含む。
2　暗褐色土　締まり良い、YPK少量、炭化物少量含む。
5－453号土坑
L=634.90m
5－454号土坑
L=634.00m
5－454号土坑
1　黒褐色土　YPK少量、赤色土粒、炭化物やや多い。
2　暗褐色土　YPK少量、炭化物少量含む。
3　暗褐色土　YPK少量、ローム粒やや多く含む。
5－455・456号土坑
455
456
L=634.30m
5－456号土坑
1　暗褐色土　締まり良い、ロームブロック多く含む。
2　黒褐色土　締まり良い、ロームブロック（やや大）多く含む
3　暗黄褐色土　締まり良い、ロームブロック、YPKブロック多く含む。
5－455号土坑
1　黒褐色土　締まり良くYPK少量含む。
2　暗褐色土　締まり良くYPKやや多い。
5－457号土坑
L=634.10m
5－457号土坑
1　黒褐色土　締まり良くYPK少量含む。
2　黒褐色土　締まり弱くYPK若干含む。
3　暗褐色土　締まり良い、YPK、ローム粒多い。
4　暗褐色土　締まり良い、YPK、ローム粒3より多い。
5－458号土坑
L=634.20m
5－459号土坑
L=634.50m
0　1:40　1m

第114図　土坑（12）


5－461号土坑
5－460・462号土坑
5－463号土坑
5－464号土坑
5－466号土坑
5－465号土坑
5－469-470号土坑
5－467号土坑
5－468号土坑
5－472号土坑
5－471号土坑
5－474号土坑
5－473号土坑
5－476号土坑
5－475号土坑
5－477号土坑
5－478号土坑
5－479-481-482号土坑
5－483号土坑
5－484号土坑
5－480号土坑
460
462
469
470
481
482
479
L=632.80m
L=633.00m
L=633.50m
0
1:40
1m

第115図　土坑（13）



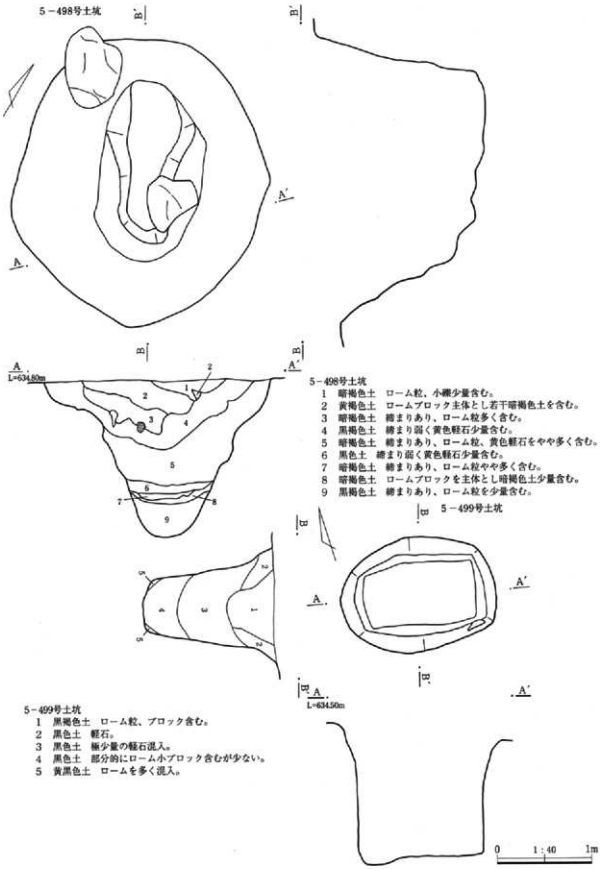
5－493号土坑
1　黒色土　黄白色軽石、ロームブロック少量混入、締まり弱い。
2　黒褐色土　黄白色軽石、ロームブロック含み、黒色炭化物わずかにあり。
3　黒褐色土　黄白色軽石少量、ロームブロック（大）含み締まりやや弱い。
4　暗褐色土　黄白色軽石、ロームブロックわずかに見られる。
5　暗褐色土　黄白色軽石、ローム粒少量含む、締まりやや弱い。

5－495号土坑
1　黒褐色土　若干の黄色軽石含む。
2　黒褐色土　若干の黄色軽石含み、1より締まりあり。
3　暗黄褐色土　大小の軽石含み、締まりあり。
4　暗黄褐色土　軽石の混入少なくやや軟質。

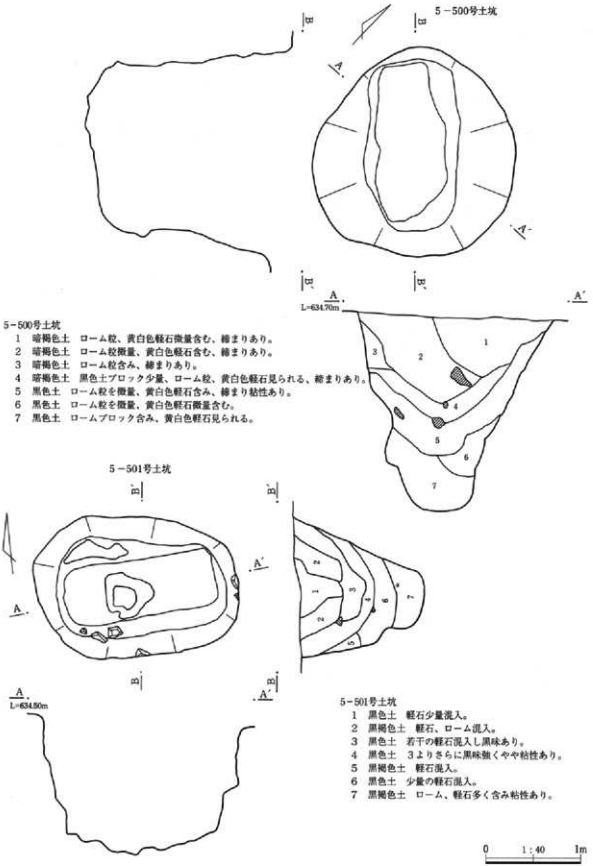
5－496号土坑
1　黒褐色土　微量の軽石含む。
2　黒褐色土　軽石、若干のローム混入する。
3　黄褐色土　地山黄色ロームブロック主体とする。
4　黒褐色土　2を基調とするが黒味強く、軽石の混入見られない。
5　黒褐色土　黄色軽石多く含み締まりあり。
6　黒褐色土　5に似るが軽石は少く小粒。
7　黄褐色土　黄色ローム崩落土、やや粘性あり。

5－497号土坑
1　暗褐色土　ローム粒やや多く、炭化物少量含む。黄色軽石多い。
2　暗褐色土　ローム粒多く含む。黄色軽石やや多い。
3　黒色土　ローム粒、軽石少ない。
4　黒褐色土　黄色軽石少量含む。
5　黒色土　締まり弱く、黄色軽石少量含む。
6　暗褐色土　ロームブロック、黄色軽石少量含む。
7・8　ロームブロック　若干暗褐色土含む。
9　暗褐色土　ロームブロック、ローム粒多く含む。
10　暗黄褐色土　ローム粒多く含む。

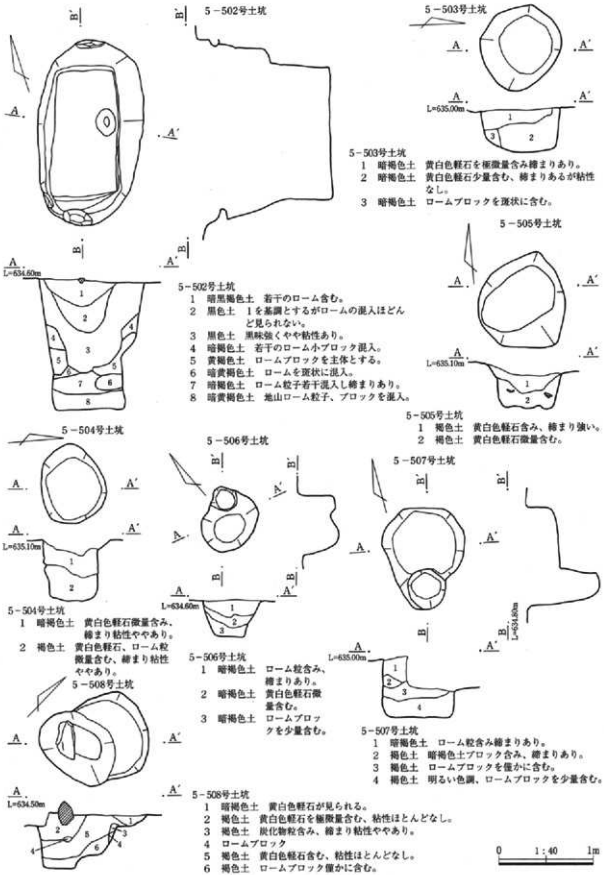
第116図　土坑（14）


5－498号土坑
A
A'
B
B'
L=634.80m
5－498号土坑
1　暗褐色土　ローム粒、小礫少量含む。
2　黄褐色土　ロームブロック主体とし若干暗褐色土を含む。
3　暗褐色土　締まりあり、ローム粒多く含む。
4　黒褐色土　締まり弱く黄色軽石少量含む。
5　暗褐色土　締まりあり、ローム粒、黄色軽石をやや多く含む。
6　黒色土　締まり弱く黄色軽石少量含む。
7　暗褐色土　締まりあり、ローム粒やや多く含む。
8　暗褐色土　ロームブロックを主体とし暗褐色土少量含む。
9　黒褐色土　締まりあり、ローム粒を少量含む。
5－499号土坑
L=634.50m
5－499号土坑
1　黒褐色土　ローム粒、ブロック含む。
2　黒色土　軽石。
3　黒色土　極少量の軽石混入。
4　黒色土　部分的にローム小ブロック含むが少ない。
5　黄黒色土　ロームを多く混入。
0　1:40　1m

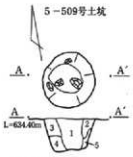
第117図　土坑（15）

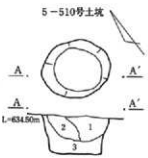

5－500号土坑
A
A′
L=634.70m
5－500号土坑
1　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石微量含む、締まりあり。
2　暗褐色土　ローム粒微量、黄白色軽石含む、締まりあり。
3　暗褐色土　ローム粒含み、締まりあり。
4　暗褐色土　黒色土ブロック少量、ローム粒、黄白色軽石見られる、締まりあり。
5　黒色土　ローム粒を微量、黄白色軽石含み、締まり粘性あり。
6　黒色土　ローム粒を微量、黄白色軽石微量含む。
7　黒色土　ロームブロック含み、黄白色軽石見られる。
5－501号土坑
A
A′
L=634.50m
5－501号土坑
1　黒色土　軽石少量混入。
2　黒褐色土　軽石、ローム混入。
3　黒色土　若干の軽石混入し黒味あり。
4　黒色土　3よりさらに黒味強くやや粘性あり。
5　黒褐色土　軽石混入。
6　黒色土　少量の軽石混入。
7　黒褐色土　ローム、軽石多く含み粘性あり。
0　1：40　1m

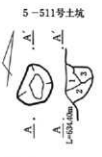
第118図　土坑（16）

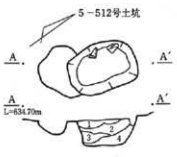

5－502号土坑
5－503号土坑
L=635.00m
5－503号土坑
1　暗褐色土　黄白色軽石を極微量含み締まりあり。
2　暗褐色土　黄白色軽石少量含む、締まりあるが粘性なし。
3　暗褐色土　ロームブロックを斑状に含む。
5－505号土坑
L=635.10m
5－505号土坑
1　褐色土　黄白色軽石含み、締まり強い。
2　褐色土　黄白色軽石微量含む。
L=634.60m
5－502号土坑
1　暗黒褐色土　若干のローム含む。
2　黒色土　1を基調とするがロームの混入ほどんど見られない。
3　黒色土　黒殻強くやや粘性あり。
4　暗褐色土　若干のローム小ブロック混入。
5　黄褐色土　ロームブロックを主体とする。
6　暗黄褐色土　ロームを斑状に混入。
7　暗褐色土　ローム粒子若干混入し締まりあり。
8　暗黄褐色土　地山ローム粒子、ブロックを混入。
5－504号土坑
L=635.10m
5－504号土坑
1　暗褐色土　黄白色軽石微量含み、締まり粘性ややあり。
2　褐色土　黄白色軽石、ローム粒微量含む、締まり粘性ややあり。
5－506号土坑
L=634.60m
5－506号土坑
1　暗褐色土　ローム粒含み、締まりあり。
2　暗褐色土　黄白色軽石微量含む。
3　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。
5－507号土坑
L=634.80m
L=635.00m
5－507号土坑
1　暗褐色土　ローム粒含み締まりあり。
2　褐色土　暗褐色土ブロック含み、締まりあり。
3　褐色土　ロームブロックを僅かに含む。
4　褐色土　明るい色調、ロームブロックを少量含む。
5－508号土坑
L=634.50m
5－508号土坑
1　暗褐色土　黄白色軽石が見られる。
2　褐色土　黄白色軽石を極微量含む、粘性ほとんどなし。
3　褐色土　炭化物粒含み、締まり粘性ややあり。
4　ロームブロック
5　褐色土　黄白色軽石含む、粘性はとんどなし。
6　褐色土　ロームブロック僅かに含む。
0　1:40　1m

第119図　土坑（17）







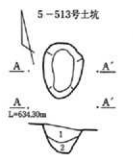


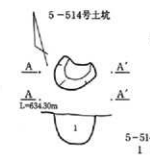
5－509号土坑
1　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石含む。柱痕か。
2　暗褐色土　ローム粒含み、粘性ほとんどなし。
3　褐色土　ロームブロック、黄白色軽石を微量含む、
4　褐色土　ロームブロック、黄白色軽石極微量含む、3に比して夾雑物少ない。
5　褐色土　ロームブロックを極微量含む。

5－510号土坑
1　褐色土　ロームブロック微量含み、黄白色軽石が見られる、締まり強い。
2　褐色土　ロームブロック、黄白色軽石含む。
3　褐色土　ロームブロック、黄白色軽石含む、締まり粘性ややあり。

5－511号土坑
1　黒褐色土　黄白色軽石、ローム粒が見られる、締まりあり。
2　黒褐色土　黄白色軽石、ローム粒微量含む。
3　暗褐色土　ローム粒少量含み締まり、粘性あり。

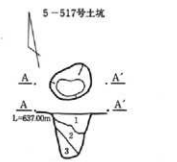
5－512号土坑
1　褐色土　暗色、ローム粒、黄白色軽石が見られ、締まり強い。
2　暗褐色土　黄白色軽石を微量、黄白色軽石が見られる。
3　暗褐色土　黄白色軽石を極微量含む　かたく締まり粘性なし。
4　暗褐色土　黄白色軽石、ローム粒、炭化物粒含む。



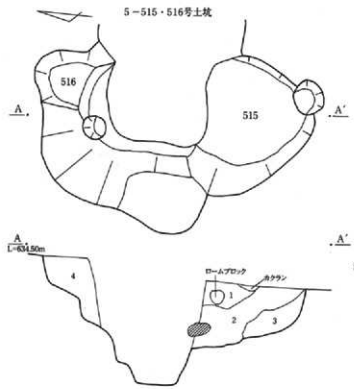


5－514号土坑
1　黒褐色土　軽石含む、ローム粒を底部付近に多く含む。

5－513号土坑
1　黒褐色土　黄白色軽石含む。
2　黒褐色土　黄白色軽石、ローム粒含む。(壁の崩落による)



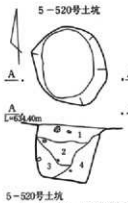
5－517号土坑
1　暗褐色土　ローム粒少量、黄白色軽石含む。粘性ややあり。
2　黒褐色土　黄白色軽石が見られる。
3　黒褐色土　黄白色軽石微量含む。



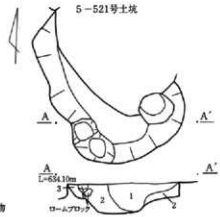
5－515・516号土坑
1　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石を極微量含む。
2　暗褐色土　ロームブロック、ローム粒、黄白色軽石、灰色砂質土微量含む。
3　暗褐色土　ロームブロック少量含む。
4　暗褐色土　黄白色軽石微量、炭化物粒が見られる。

0　1:40　1m

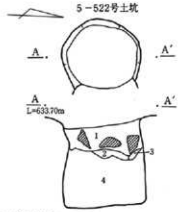
第120図　土坑（18）



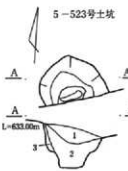
5－520号土坑
1　黒褐色土　黄白色軽石含み、炭化物粒が見られる。
2　暗褐色土　黄白色軽石を極微量含み、ローム粒の炭化物粒含む。
3　暗褐色土　黄白色軽石を極微量含み、ローム粒が見られる。
4　暗褐色土　黄白色軽石、ローム粒が見られる。



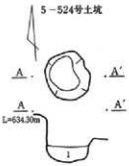
5－521号土坑
1　黒褐色土　黄白色軽石を微量含み、ローム粒が見られる。
2　暗褐色土　黄白色軽石、ローム粒含む。
3　暗褐色土　ローム粒微量含み締まりあり。



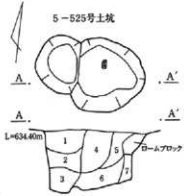
5－522号土坑
1　暗褐色土　ローム粒、炭化物粒含む。
2　暗褐色土　ローム粒含み、黄白色軽石見られる。
3　暗褐色土　ローム粒少量、焼土粒を微量含む。
4　黄褐色ローム　ローム小ブロック混在、黄白色軽石見られる。



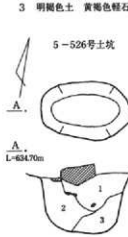
5－523号土坑
1　暗褐色土　黄褐色軽石極微量含む。
2　褐色土　黄褐色軽石見られる。
3　明褐色土　黄褐色軽石見られ、締まり、粘性あり。



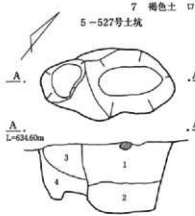
5－524号土坑
1　暗褐色土　黄白色軽石微量含む。



5－525号土坑
1　暗褐色土　ロームブロック少量、黄白色軽石極微量含む。
2　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石が見られる。
3　暗褐色土　ローム粒多く含む。
4　暗褐色土　黄白色軽石微量含む。
5　暗褐色土　黄白色軽石微量、ローム粒が見られる。
6　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石が見られ、締まりあり。
7　褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石が見られる。



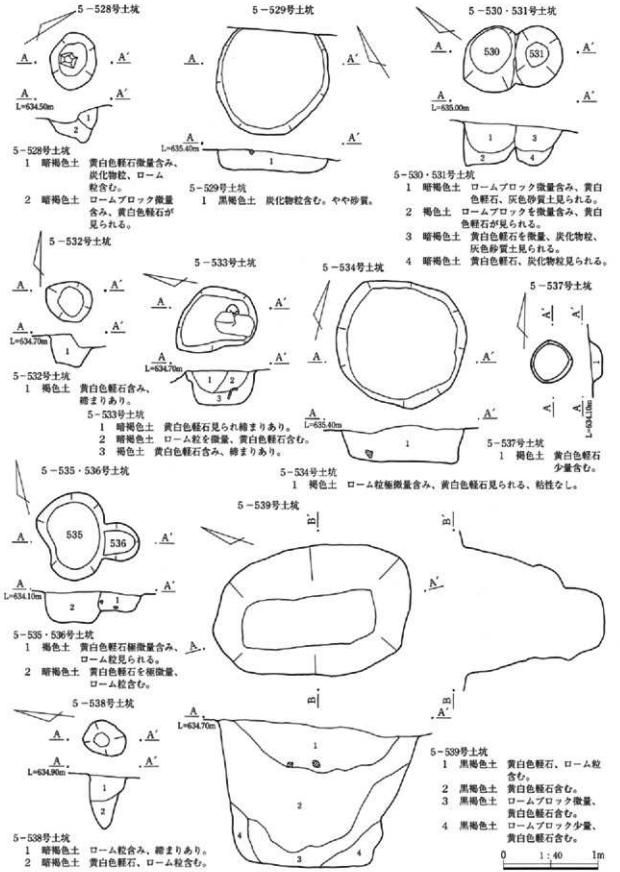
5－526号土坑
1　暗褐色土　黄白色軽石を微量、締まりあり。
2　暗褐色土　黄白色軽石、ローム粒極微量含む。
3　褐色土　ロームブロック少量、黄白色軽石を極微量含む。



5－527号土坑
1　暗褐色土　黄白色軽石を微量含む。
2　暗褐色土　ロームブロックを微量含む。
3　暗褐色土　黄白色軽石を極微量、ローム粒が見られる。
4　暗褐色土　ローム粒含む。

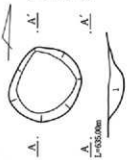
0　1:40　1m

第121図　土坑（19）

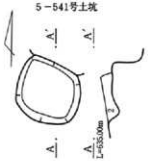

5－528号土坑
A
A′
L=634.50m
1
2
5－528号土坑
1　暗褐色土　黄白色軽石微量含み、炭化物粒、ローム粒含む。
2　暗褐色土　ロームブロック微量含み、黄白色軽石が見られる。
5－529号土坑
L=635.40m
1
5－529号土坑
1　黒褐色土　炭化物粒含む。やや砂質。
5－530・531号土坑
530
531
L=635.00m
1
2
3
4
5－530・531号土坑
1　暗褐色土　ロームブロック微量含み、黄白色軽石、灰色砂質土見られる。
2　褐色土　ロームブロックを微量含み、黄白色軽石が見られる。
3　暗褐色土　黄白色軽石を微量、炭化物粒、灰色砂質土見られる。
4　暗褐色土　黄白色軽石、炭化物粒見られる。
5－532号土坑
L=634.70m
1
5－532号土坑
1　褐色土　黄白色軽石含み、締まりあり。
5－533号土坑
L=634.70m
1
2
3
5－533号土坑
1　暗褐色土　黄白色軽石見られ締まりあり。
2　暗褐色土　ローム粒を微量、黄白色軽石含む。
3　褐色土　黄白色軽石含み、締まりあり。
5－534号土坑
L=635.40m
1
5－534号土坑
1　褐色土　ローム粒極微量含み、黄白色軽石見られる、粘性なし。
5－537号土坑
L=634.40m
5－537号土坑
1　褐色土　黄白色軽石少量含む。
5－535・536号土坑
535
536
L=634.10m
1
2
5－535・536号土坑
1　褐色土　黄白色軽石極微量含み、ローム粒見られる。
2　暗褐色土　黄白色軽石を極微量、ローム粒含む。
5－538号土坑
L=634.90m
1
2
5－538号土坑
1　暗褐色土　ローム粒含み、締まりあり。
2　暗褐色土　黄白色軽石、ローム粒含む。
5－539号土坑
B
B′
L=634.70m
1
2
3
4
5－539号土坑
1　黒褐色土　黄白色軽石、ローム粒含む。
2　黒褐色土　黄白色軽石含む。
3　黒褐色土　ロームブロック微量、黄白色軽石含む。
4　黒褐色土　ロームブロック少量、黄白色軽石含む。
0　1:40　1m

第122図　土坑（20）

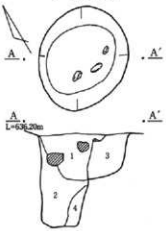
5－540号土坑



5－541号土坑



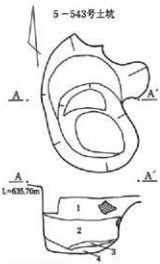
5－542号土坑



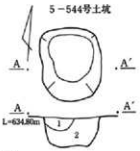
5－540・541号土坑
1　暗褐色土　黄白色軽石見られ締まりあり。
2　暗褐色土　ローム粒含む。

5－542号土坑
1　黒褐色土　小礫、極少量のローム粒子含む。
2　黒褐色土　ローム小ブロック、小砂礫多く含む。
3　黄褐色土　砂質のローム二次堆積土。
4　黄褐色土　3と似るがやや黒味帯びる。

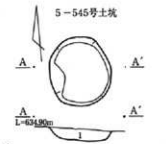
5－543号土坑



5－544号土坑



5－545号土坑

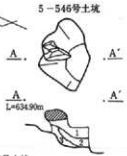


5－543号土坑
1　黒色土　黄色軽石混入。
2　黒色土　1と似るが軽石やや大粒。
3　黄褐色土　軽石、ロームブロック主体。
4　黄色土　地山ローム主体としやや軟質。

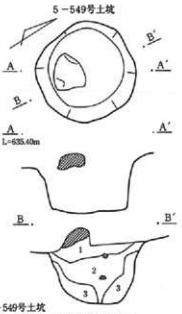
5－544号土坑
1　暗褐色土　黄白色軽石が見られ、締まりなし。
2　褐色土　黄白色軽石を微量含み小ローム粒見られる。

5－545号土坑
1　暗褐色土　黄白色軽石、ローム粒見られる。

5－546号土坑

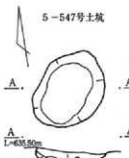


5－549号土坑

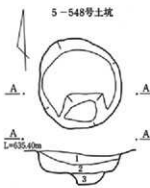


5－546号土坑
1　黒色土　混入物少ない。
2　黒褐色土　若干の黄色軽石混入。
3　黒褐色土　軽石、ロームブロック混入。

5－547号土坑



5－548号土坑



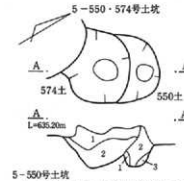
5－547号土坑
1　黒色土　細粒でやや軟質。
2　黒色土　若干のローム小ブロック混入。
3　黄褐色土　ロームブロック主体とする。

5－548号土坑
1　黒褐色土　ロームブロック含む撹乱。
2　黒褐色土　ローム粒子若干含む1より黒味あり。
3　黒褐色土　ローム分多く含み締まりあり。

5－549号土坑
1　黒色土　細粒で締まり弱い。
2　黒色土　黄色軽石、小礫含む。
3　黒色土　2と近似、軽石の混入少なく、若干のローム小ブロック含む。

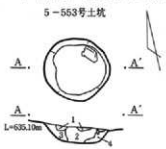
0　1:40　1m

第123図　土坑（21）

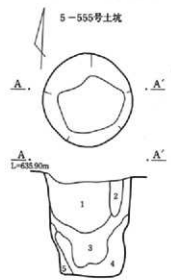


5－550号土坑
1　褐色土　ロームブロック多量に含み、黄白色軽石多く見られる。
2　暗褐色土　黄白色軽石、炭化物粒が見られる。
3　暗褐色土　黄白色軽石が見られ、縞まりあり。

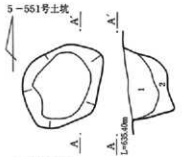
5－574号土坑
1　黒色土　軽石含まず均質。
2　黒褐色土　黄褐色軽石わずかに含む。



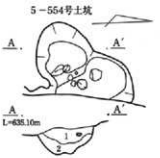
5－553・554・556号土坑
1　黄褐色土　ロームブロック混入。
2　黒色土　微石粒混入。
3　黒色土　微石粒混入、若干のローム含む。
4　黒色土　ローム分多く含む。

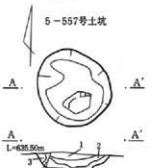


5－555号土坑
1　黒褐色土　若干の礫、軽石含む。
2　黄褐色土　ロームブロック主体とする。
3　黒褐色土　1と似るがローム粒子含む。
4　黒褐色土　地山ロームブロック多く含む。
5　黄褐色土　地山ローム崩落土。

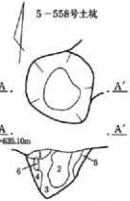


5－551号土坑
1　暗褐色土　ローム粒、黄白色軽石見られる。
2　暗褐色土　ローム粒含む。

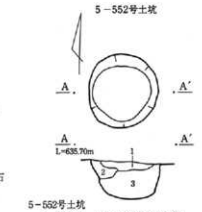




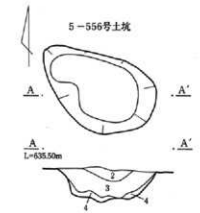
5－557号土坑
1　暗褐色土　軽石ほとんど含まない。
2　暗褐色土　黄色軽石少量含む。
3　暗褐色土　1と地山の均質な混土層。

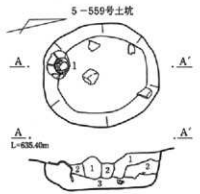


5－558号土坑
1　黒色土　黒ボク土。
2　黒色土　黄色軽石少量含む。
3　暗褐色土　ローム粒含む。
4　暗褐色土　ローム粒不均質に含む。
5　暗褐色土　ローム粒僅かに含む。
6　ローム塊



5－552号土坑
1　黒色土　いわゆる黒ボク主体。
2　暗褐色土　地山小粒含む。
3　暗褐色土　地山小粒均質に含む。

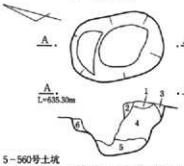




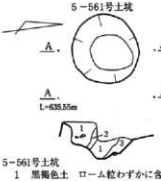
5－559号土坑
1　黒褐色土　軽石、ローム小ブロック混入。
2　黒褐色土　1よりもやや大きいロームブロック多く含む。
3　黒褐色土　ローム粒、軽石、少量の炭化物含む。

0　1：40　1m

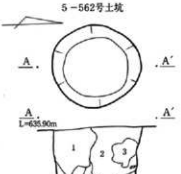
第124図　土坑（22）



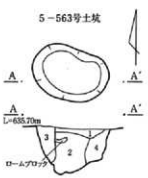
5－560号土坑
1　黒色土　やや明るい色調の黒ボク土。
2　黒色土　黒ボク土（軟質）。
3　ローム塊
4　暗褐色土　ローム粒、黄色軽石含む。
5　暗褐色土　ローム粒はとんど含まない。
6　暗褐色土　５とロームの混土。



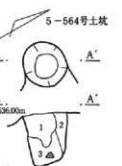
5－561号土坑
1　黒褐色土　ローム粒わずかに含む。
2　黒褐色土　ローム粒、軽石わずかに含む。
3　暗褐色土　若干のロームブロック含む。



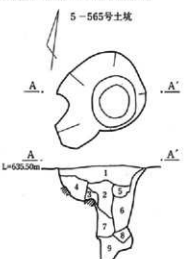
5－562号土坑
1　黒褐色土　黄褐色軽石少量、玉砂利わずかに混入。
2　黄褐色土　ロームを主体とし黄褐色軽石多く含む、全体に黒褐色土混入。
3　黄褐色土　ローム主体、黄褐色軽石少量混入。
4　黒褐色土　ローム土混入しやや黄味がかる、黄褐色軽石わずかに含む。
5　黒褐色土　軽石はほとんど含まず、均質。
6　黒褐色土　軽石、ローム粒少量含む。



5－563号土坑
1　黒褐色土　黄褐色軽石、黒色炭化物わずかに含む。
2　黒褐色土　黄褐色軽石、黄褐色ローム土わずかに混入、黒色炭化物わずかに含む。
3　暗褐色土　黄褐色軽石やや多く含む、黒褐色土塊混入し、まだらに見える。
4　黒褐色土　黄褐色軽石、暗褐色土塊多く混入しまだらに見える。

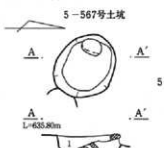


5－564号土坑
1　暗褐色土　ローム粒わずかに含む。
2　黄褐色土　黒色土とロームの混土。
3　暗褐色土　ローム粒わずかに含む。



5－565号土坑
1　黒色土　黄褐色軽石、炭化物粒、焼土粒わずかに含む。
2　黒褐色土　黄褐色軽石、炭化粒わずかに含む。
3　黒褐色土　２より赤味強い、軽石含む。
4　黒褐色土　軽石、炭化物わずかに含む。
5　黒色土　軽石、ローム含まず。
6　黒褐色土　軽石わずかに含む。
7　黒褐色土　軽石、ローム少量含む。
8　黒色土　黄褐色ローム不均質に含む。
9　黒色土　軽石、ローム含まず粘性あり。

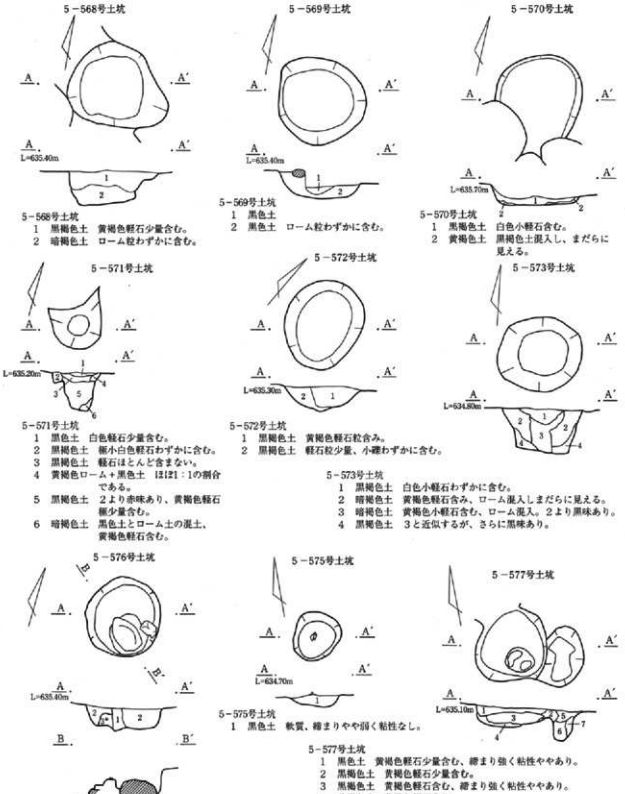
5－566号土坑
1　黒色土　黄褐色軽石わずかに含む。締まり弱く粘性ややあり。
2　黒褐色土　軽石ほとんど含まず、締まり弱く粘性ややあり。
3　黄褐色土　黒色ブロックわずかに混入、締まり強く粘性ややあり。
4　黒褐色土　１より赤味強く混入物はとんどなし、締まりやや弱く粘性あり。
5　黒褐色土　１より赤味強い、黄褐色軽石わずかに含む。
6　黒色土　黄褐色軽石わずかに含む、締まりやや強い。
7　黒褐色土　ロームブロックわずかに混入、粘性ややあり。



5－567号土坑
1　黒色土　軽石含み締まりあり。
2　黒褐色土　軽石、礫を含み、若干ローム混入。
3　黒褐色土　２を基調とするがやや軟質。
4　淡褐色土　地山ローム多く含み粗粒。

0　1:40　1m

第125図　土坑（23）



5－568号土坑
1　黒褐色土　黄褐色軽石少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒わずかに含む。

5－569号土坑
1　黒色土
2　黒色土　ローム粒わずかに含む。

5－570号土坑
1　黒褐色土　白色小軽石含む。
2　黄褐色土　黒褐色土混入し、まだらに見える。

5－571号土坑
1　黒色土　白色軽石少量含む。
2　黒褐色土　極小白色軽石わずかに含む。
3　黒褐色土　軽石はとんど含まない。
4　黄褐色ローム＋黒色土　ほぼ1：1の割合である。
5　黒褐色土　2より赤味あり、黄褐色軽石極少量含む。
6　暗褐色土　黒色土とローム土の混土、黄褐色軽石含む。

5－572号土坑
1　黒褐色土　黄褐色軽石粒含み。
2　黒褐色土　軽石粒少量、小礫わずかに含む。

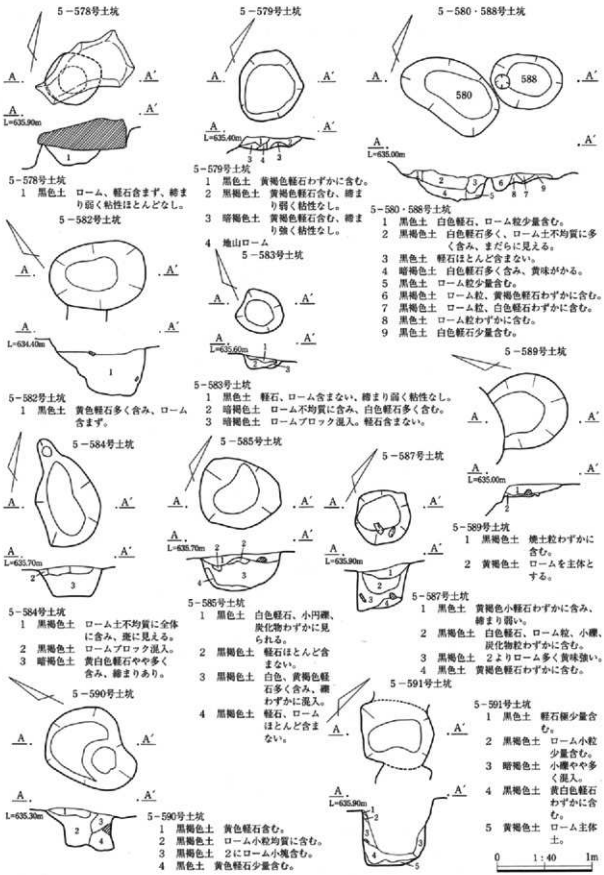
5－573号土坑
1　黒褐色土　白色小軽石わずかに含む。
2　暗褐色土　黄褐色軽石含み、ローム混入しまだらに見える。
3　暗褐色土　黄褐色小軽石含む、ローム混入。2より黒味あり。
4　黒褐色土　3と近似するが、さらに黒味あり。

5－575号土坑
1　黒色土　軟質、締まりやや弱く粘性なし。

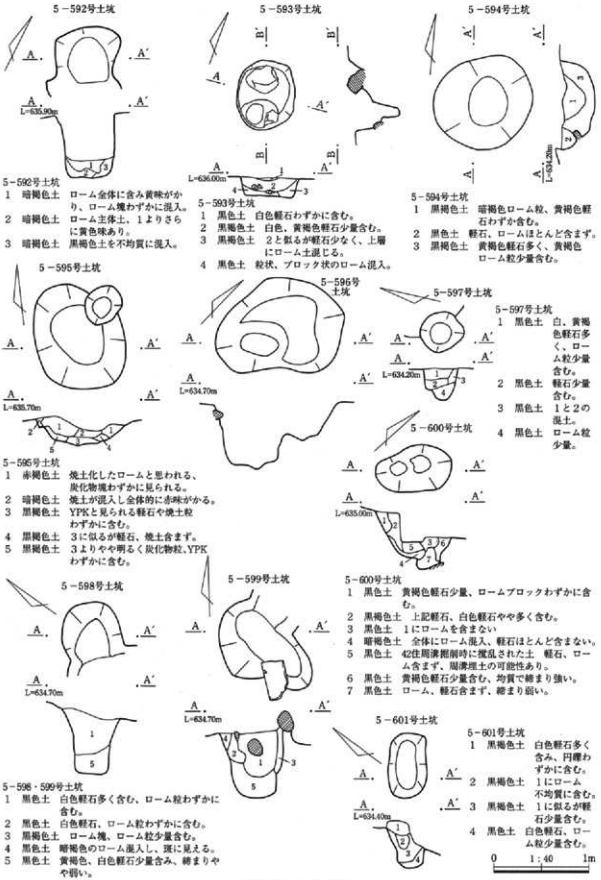
5－576号土坑
1　黒色土　黄褐色軽石少量含む、締まり強く粘性ややあり。
2　黒褐色土　黄褐色軽石含む、締まり強く粘性あり。
3　黒褐色土　1、2より赤味強い、軽石わずかに含み締まり強い。

5－577号土坑
1　黒色土　黄褐色軽石少量含む、締まり強く粘性ややあり。
2　黒褐色土　黄褐色軽石少量含む。
3　黒褐色土　黄褐色軽石含む、締まり強く粘性ややあり。
4　黄褐色土　黄褐色軽石含む。
5　黒色土　黄褐色軽石わずかに含む、締まり粘性ややあり。
6　黒色土　黄褐色軽石わずかに含み、締まりやや弱く粘性ややあり。
7　黒色土　小軽石わずかに含む、締まり弱く粘性ややあり。

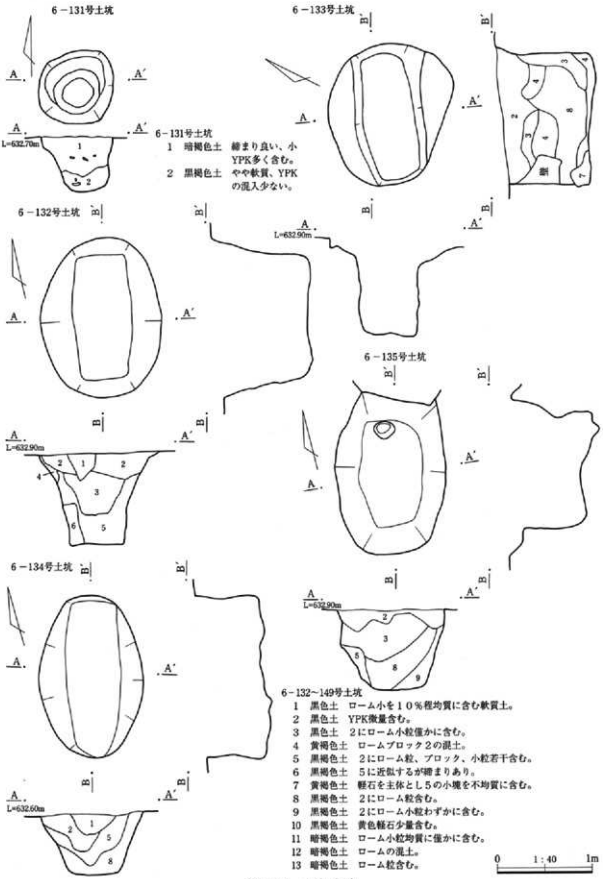
第126図　土坑（24）


5－578号土坑
A
A′
L=635.90m
1
5－578号土坑
1　黒色土　ローム、軽石含まず、締まり弱く粘性ほとんどなし。
5－579号土坑
L=635.40m
3
4
3
5－579号土坑
1　黒色土　黄褐色軽石わずかに含む。
2　黒褐色土　黄褐色軽石含む、締まり弱く粘性なし。
3　暗褐色土　黄褐色軽石含む、締まり強く粘性なし。
4　地山ローム
5－580・588号土坑
580
588
L=635.00m
2
3
6
4
5
8
7
9
5－580・588号土坑
1　黒色土　白色軽石、ローム粒少量含む。
2　黒褐色土　白色軽石多く、ローム土不均質に多く含み、まだらに見える。
3　黒色土　軽石ほとんど含まない。
4　暗褐色土　白色軽石多く含み、黄味がかる。
5　黒色土　ローム粒少量含む。
6　黒褐色土　ローム粒、黄褐色軽石わずかに含む。
7　黒褐色土　ローム粒、白色軽石わずかに含む。
8　黒色土　ローム粒わずかに含む。
9　黒色土　白色軽石少量含む。
5－582号土坑
L=634.40m
1
5－582号土坑
1　黒色土　黄色軽石多く含み、ローム含まず。
5－583号土坑
L=635.60m
3
5－583号土坑
1　黒色土　軽石、ローム含まない。締まり弱く粘性なし。
2　暗褐色土　ローム不均質に含み、白色軽石多く含む。
3　暗褐色土　ロームブロック混入。軽石含まない。
5－589号土坑
L=635.00m
2
5－589号土坑
1　黒褐色土　焼土粒わずかに含む。
2　黄褐色土　ロームを主体とする。
5－584号土坑
L=635.70m
2
3
5－584号土坑
1　黒褐色土　ローム土不均質に全体に含み、斑に見える。
2　黒褐色土　ロームブロック混入。
3　暗褐色土　黄白色軽石やや多く含み、締まりあり。
5－585号土坑
L=638.70m
2
2
3
4
5－585号土坑
1　黒色土　白色軽石、小円礫、炭化物わずかに見られる。
2　黒褐色土　軽石ほとんど含まない。
3　黒褐色土　白色、黄褐色軽石多く含み、礫わずかに混入。
4　黒褐色土　軽石、ローム ほとんど含まない。
5－587号土坑
L=635.90m
1
2
3
4
5－587号土坑
1　黒色土　黄褐色小軽石わずかに含み、締まり弱い。
2　黒褐色土　白色軽石、ローム粒、小礫、炭化物粒わずかに含む。
3　黒褐色土　2よりローム多く黄味強い。
4　黒色土　黄褐色軽石わずかに含む。
5－590号土坑
L=635.30m
3
2
4
5－590号土坑
1　黒褐色土　黄色軽石含む。
2　黒褐色土　ローム小粒均質に含む。
3　黒褐色土　2にローム小塊含む。
4　黒色土　黄色軽石少量含む。
5－591号土坑
L=635.90m
1
2
3
4
5
5－591号土坑
1　黒色土　軽石微少量含む。
2　黒褐色土　ローム小粒少量含む。
3　暗褐色土　小礫やや多く混入。
4　黒褐色土　黄白色軽石わずかに含む。
5　黄褐色土　ローム主体土。
0　1:40　1m

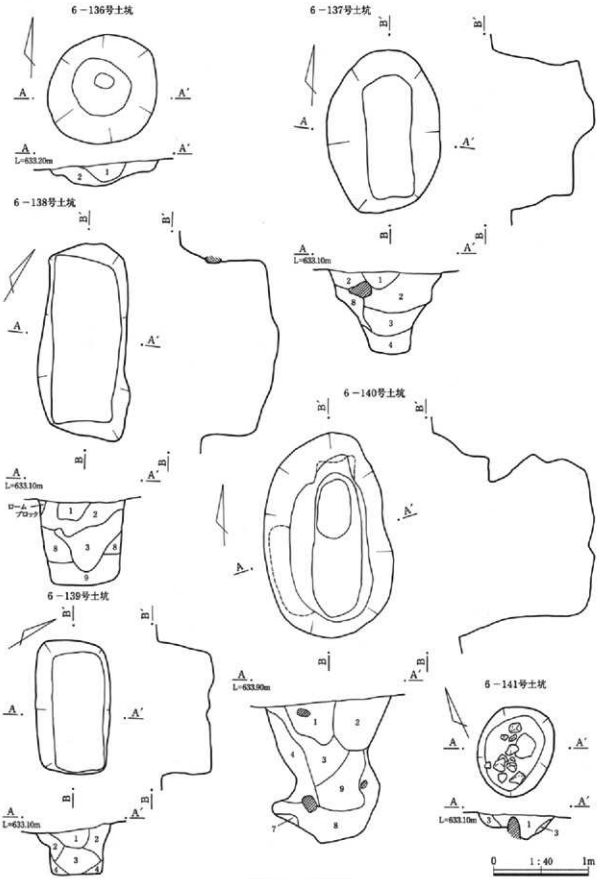
第127図　土坑（25）


5－592号土坑
A
A′
L=635.90m
5－592号土坑
1　暗褐色土　ローム全体に含み黄味がかり、ローム塊わずかに混入。
2　暗褐色土　ローム主体土。1よりさらに黄色味あり。
3　暗褐色土　黒褐色土を不均質に混入。
5－583号土坑
m
m′
A
A′
L=636.00m
5－593号土坑
1　黒色土　白色軽石わずかに含む。
2　黒褐色土　白色、黄褐色軽石少量含む。
3　黒褐色土　2と似るが軽石少なく、上層にローム土混じる。
4　黒色土　粒状、ブロック状のローム混入。
5－594号土坑
A
A′
L=636.20m
5－594号土坑
1　黒褐色土　暗褐色ローム粒、黄褐色軽石わずか含む。
2　黒色土　軽石、ロームほとんど含まず。
3　黒褐色土　黄褐色軽石多く、黄褐色ローム粒少量含む。
5－595号土坑
A
A′
L=635.70m
5－595号土坑
1　赤褐色土　焼土化したロームと思われる、炭化物微わずかに見られる。
2　暗褐色土　焼土が混入し全体的に赤味がかる。
3　黒褐色土　YPKと見られる軽石や焼土粒わずかに含む。
4　黒褐色土　3に似るが軽石、焼土含まず。
5　黒褐色土　3よりやや明るく炭化物粒、YPKわずかに含む。
5－596号土坑
A
A′
L=634.70m
5－597号土坑
A
A′
L=634.20m
5－597号土坑
1　黒色土　白、黄褐色軽石多く、ローム粒少量含む。
2　黒色土　軽石少量含む。
3　黒色土　1と2の混土。
4　黒色土　ローム粒少量。
5－600号土坑
A
A′
L=635.00m
5－600号土坑
1　黒色土　黄褐色軽石少量、ロームブロックわずかに含む。
2　黒褐色土　上記軽石、白色軽石やや多く含む。
3　黒色土　1にローム を含まない
4　暗褐色土　全体にローム混入、軽石ほとんど含まない。
5　黒色土　42住周溝掘削時に攪乱された土　軽石、ローム含まず、隣濃埋土の可能性あり。
6　黒色土　黄褐色軽石少量含む、均質で締まり強い。
7　黒色土　ローム、軽石含まず、締まり弱い。
5－598号土坑
A
A′
L=634.70m
5－598・599号土坑
1　黒色土　白色軽石多く含む、ローム粒わずかに含む。
2　黒色土　白色軽石、ローム粒わずかに含む。
3　黒褐色土　ローム塊、ローム粒少量含む。
4　黒色土　暗褐色のローム混入し、斑に見える。
5　黒色土　黄褐色、白色軽石少量含み、締まりやや弱い。
5－599号土坑
A
A′
L=634.70m
5－601号土坑
A
A′
L=634.40m
5－601号土坑
1　黒褐色土　白色軽石多く含み、円礫わずかに含む。
2　黒褐色土　1にローム不均質に含む。
3　黒褐色土　1に似るが軽石少量含む。
4　黒色土　白色軽石、ローム粒少量含む。
0　1:40　1m

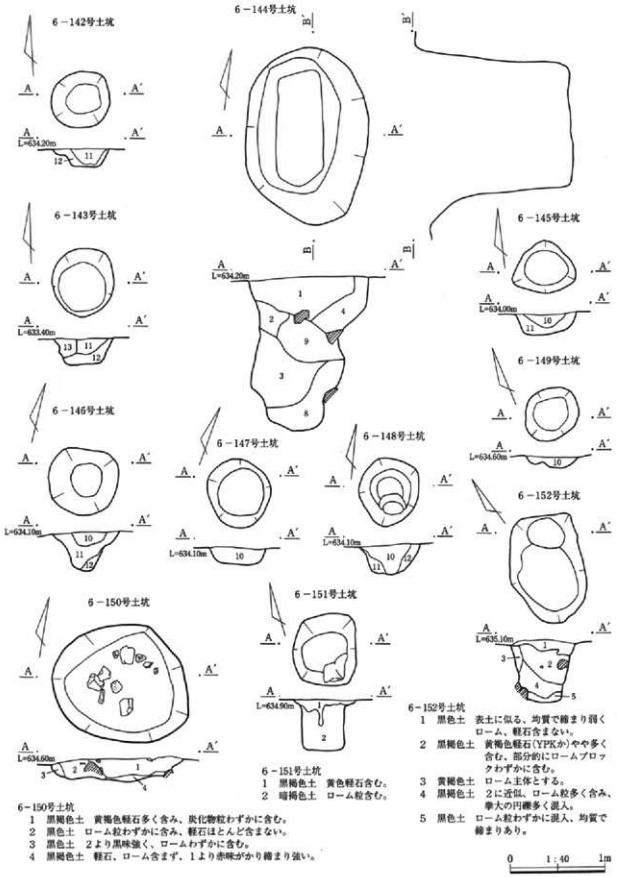
第128図　土坑（26）


6－131号土坑
A
A′
L=632.70m
1
2
6－131号土坑
1　暗褐色土　締まり良い、小YPK多く含む。
2　黒褐色土　やや軟質、YPKの混入少ない。
6－132号土坑
B
B′
L=632.90m
1
2
3
4
5
6
6－133号土坑
L=632.90m
6－134号土坑
L=632.60m
6－135号土坑
L=632.90m
6－132～149号土坑
1　黒色土　ローム小を１０％程均質に含む軟質土。
2　黒色土　YPK微量含む。
3　黒色土　２にローム小粒僅かに含む。
4　黄褐色土　ロームブロック２の混土。
5　黒褐色土　２にローム粒、ブロック、小粒若干含む。
6　黒褐色土　５に近似するが締まりあり。
7　黄褐色土　軽石を主体とし５の小塊を不均質に含む。
8　黒褐色土　２にローム粒含む。
9　黒褐色土　２にローム小粒わずかに含む。
10　黒褐色土　黄色軽石少量含む。
11　暗褐色土　ローム小粒均質に僅かに含む。
12　暗褐色土　ロームの混土。
13　暗褐色土　ローム粒含む。
0　1：40　1m

第129図　土坑（27）


6－136号土坑
A
A'
L=633.20m
6－137号土坑
B
B'
L=633.10m
6－138号土坑
L=633.10m
ローム
ブロック
6－139号土坑
L=633.10m
6－140号土坑
L=633.90m
6－141号土坑
L=633.10m
0
1:40
1m

第130図　土坑（28）

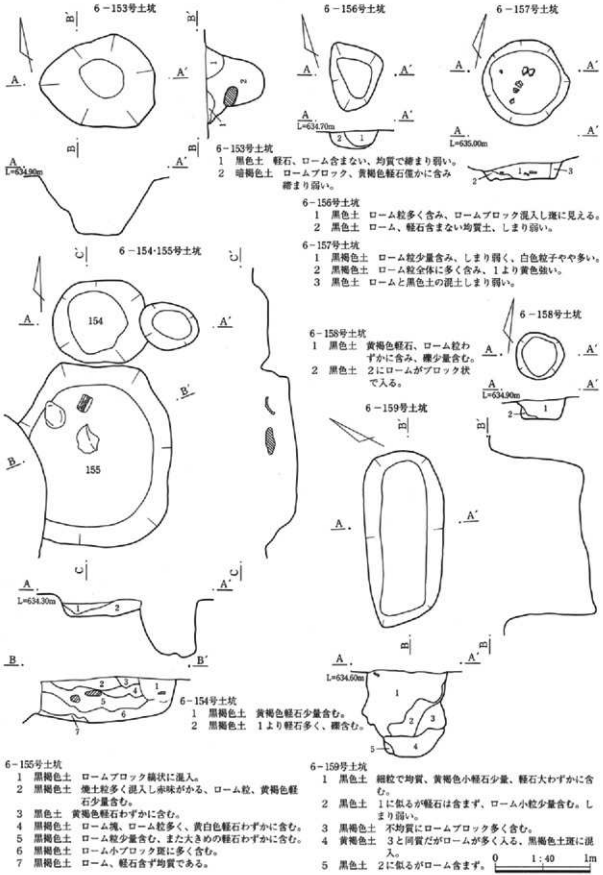


6－150号土坑
1　黒褐色土　黄褐色軽石多く含み、炭化物粒わずかに含む。
2　黒色土　ローム粒わずかに含み、軽石はとんど含まない。
3　黒色土　2より黒味強く、ロームわずかに含む。
4　黒褐色土　軽石、ローム含まず、1より赤味がかり締まり強い。

6－151号土坑
1　黒褐色土　黄色軽石含む。
2　暗褐色土　ローム粒含む。

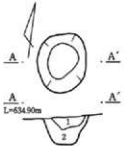
6－152号土坑
1　黒色土　表土に似る、均質で締まり弱くローム、軽石含まない。
2　黒褐色土　黄褐色軽石（YPKか）やや多く含む、部分的にロームブロックわずかに含む。
3　黄褐色土　ローム主体とする。
4　黒褐色土　2に近似、ローム粒多く含み、拳大の円礫多く混入。
5　黒色土　ローム粒わずかに混入、均質で締まりあり。

第131図　土坑（29）


6－153号土坑
6－153号土坑
1　黒色土　軽石、ローム含まない、均質で締まり弱い。
2　暗褐色土　ロームブロック、黄褐色軽石僅かに含み締まり弱い。
6－156号土坑
1　黒色土　ローム粒多く含み、ロームブロック混入し撹に見える。
2　黒色土　ローム、軽石含まない均質土、しまり弱い。
6－157号土坑
1　黒褐色土　ローム粒少量含み、しまり弱く、白色粒子やや多い。
2　黒褐色土　ローム粒全体に多く含み、1より黄色強い。
3　黒色土　ロームと黒色土の混土しまり弱い。
6－154･155号土坑
6－158号土坑
1　黒色土　黄褐色軽石、ローム粒わずかに含み、炭少量含む。
2　黒色土　2にロームがブロック状で入る。
6－159号土坑
6－154号土坑
1　黒褐色土　黄褐色軽石少量含む。
2　黒褐色土　1より軽石多く、炭含む。
6－155号土坑
1　黒褐色土　ロームブロック縞状に混入。
2　黒褐色土　焼土粒多く混入し赤味がかる、ローム粒、黄褐色軽石少量含む。
3　黒色土　黄褐色軽石わずかに含む。
4　黒褐色土　ローム塊、ローム粒多く、黄白色軽石わずかに含む。
5　黒褐色土　ローム粒少量含む。また大きめの軽石わずかに含む。
6　黒褐色土　ローム小ブロック斑に多く含む。
7　黒褐色土　ローム、軽石含ず均質である。
6－159号土坑
1　黒色土　細粒で均質、黄褐色小軽石少量、軽石大わずかに含む。
2　黒色土　1に似るが軽石は含まず、ローム小粒少量含む。しまり弱い。
3　黒褐色土　不均質にロームブロック多く含む。
4　黄褐色土　3と同質だがロームが多く入る、黒褐色土斑に混入。
5　黒色土　2に似るがローム含まず。
0　1:40　1m

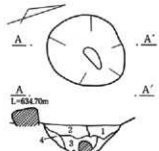
第132図　土坑（30）

6－160号土坑

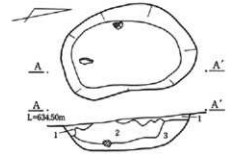


6－160 号土坑
1　黒色土　軽石、ローム含まず撹乱を受ける
2　黒褐色土　軽石若干含み締まりあり

6－161号土坑

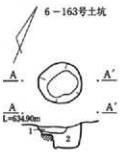


6－162号土坑

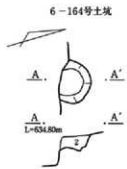


6－161・162号土坑
1　黒色土　白色軽石やや多く、ローム粒少量含む。
2　黒褐色土　1に似るが赤味強い、ローム粒わずかに含む。
3　暗褐色土　ローム混入し黄味がかる、軽石含まない。
4　黒色土　白色軽石少量、ローム粒わずかに含み、径2～10cmの礫多く含む。
5　黒色土　均質で軽石、ローム含まず。

6－163号土坑

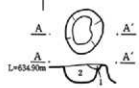


6－164号土坑

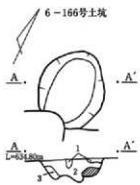


6－163～165号土坑
1　黒色土
2　褐色土　ロームと黒ボクの漸移層。

6－165号土坑

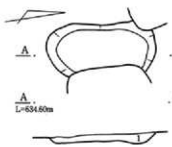


6－166号土坑



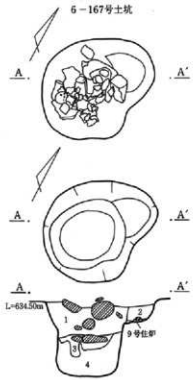
6－166号土坑
1　暗褐色土　耕作土。
2　暗褐色土　ローム小粒僅かに含む。
3　暗褐色土　ローム粒含む。

6－168号土坑



6－168号土坑
1　暗褐色土　ローム小粒僅かに含む

6－167号土坑

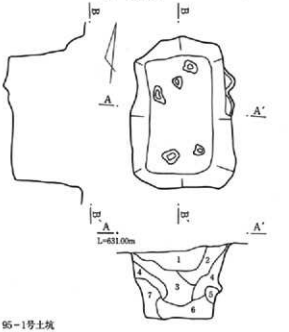


6－167号土坑
1　暗褐色土　炭化物微量に含む。
2　暗褐色土　1に比してローム粒多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒均質に含む。
4　黄褐色土　ローム漸移層を主体とし、部分的に３をブロック状に含む。

0　1：40　1m

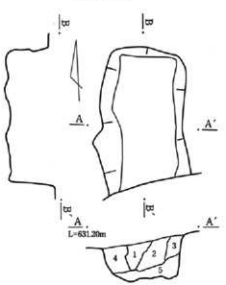
第133図　土坑（31）

95－1号土坑



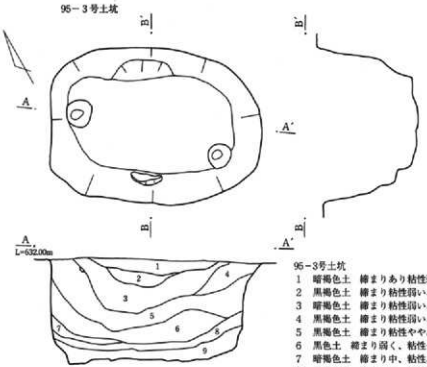
95－1号土坑
1　黒褐色土　白色軽石の小粒を多く混入し、締まり弱い。
2　黒色土　白色軽石を少量混入し、締まり弱い。
3　黒色土　白色軽石粒及びロームブロックを微量混入する。
4　暗褐色土　黒色土を主体とするローム土との混土。
5　ロームブロック
6　黒褐色土　軽石粒、ロームブロックを多く混入する。
7　黄褐色土　ローム土を主体とし、黒色土を少量混入する崩落土。

95－2号土坑



95－2号土坑
1　暗褐色土　締まり弱い、粘性あり黄色軽石を若干含む。
2　黒褐色土　締まり弱い、非常に軟質、やや粘性あり黄色軽石を比較的多く含む。
3　黒褐色土　締まり弱い、粘性ありロームブロック若干含む。
4　黒褐色土　締まり弱い、粘性あり、ロームブロックを多く含む。
5　黒褐色土　締まり粘性あり、ロームブロック、黄色軽石多く含み赤色粒子わずか含む。

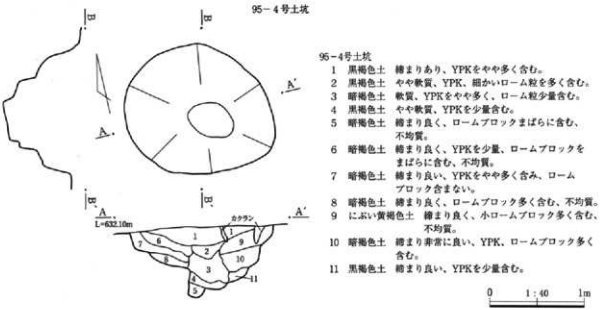
95－3号土坑



95－3号土坑
1　暗褐色土　締まりあり粘性弱く細粒の黄色軽石、炭化物多く含む。
2　黒褐色土　締まり粘性弱い、黄色軽石少量含む。
3　暗褐色土　締まり粘性弱い、黄色軽石が多く混じ炭化物含む。
4　黒褐色土　締まり粘性弱い、黄色軽石若干混入、炭化物多く含む。
5　黒褐色土　締まり粘性ややあり、黄色軽石、炭化物も少量含む。
6　黒色土　締まり弱く、粘性ややあり、黄色軽石はとんど含まず。
7　暗褐色土　締まり中、粘性あり、黄色軽石少量含む。
8　黒褐色土　締まり中、粘性あり、黄色軽石はとんど含まず。
9　黒褐色土　締まり中、粘性あり、ロームブロック多く含む。

0　1：40　1m

第134図　土坑（32）



第135図　土坑（33）

95・96区

95区は96区の北東部分に接するわずかな部分であることから、同一の調査区として概説する。検出された土坑11基中10基が陥し穴である。両調査区は南に落ちる谷地部分を広げた形である。調査区のもっとも高い部分と谷部分の最も下がった場所の比高差は７ｍを測る。

95区部分に入る調査区の北側は傾斜の変換点部分でもあり、数基の小土坑、ピットが検出されている。陥し穴は、谷地に堆積した黒色土面から掘り込まれていたものと考えられ、上面を削られてはいるが比較的遺存状態は良好である。谷部分においては陥し穴以外の土坑は検出されていない。

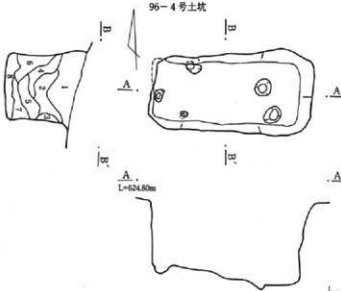
陥し穴の分布を見ると、谷を上がった場所に3基がまとまってあり、谷へ向かう傾斜の変換点部分には見られず、さらに下った谷地部に７基ほどが確認されている。なお、96－７号土坑は調査時に崩落してしまったために規模、形状は不明である。

形や規模は６区において検出されているものとほぼ同様であるが、その主軸方向について見ると、６区において検出されたものは等高線とほぼ直交するものが半分以上であるのに対し、谷地部である当区で検出された陥し穴の主軸は、等高線方向に作られたものがほとんどである。

台地部に作られたものと谷に作られたものに軸方向が異なるという作り方に明らかな違いが見られ、さらに、その配置についても６区では西端に見られるように、ほぼ等高線に沿って弧状に作るという傾向に対して、谷部分では50から１ｍの比高差を持って階段状に配置されているのが分かる。

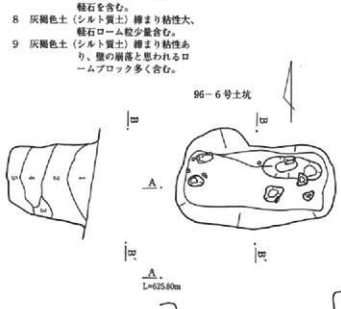
以上のように、両区で検出された土坑については陥し穴と判断されたものがほとんどである。このため、出土遺物については遺構に帰属すると判断されたものはほとんど見られず、前代の遺物が混入したものと判断される。

長野原一本松遺跡における陥し穴の構築時期については、現時点では確認できていないが、多くが縄文時代後期以降であることは、遺構の切り合い、埋土の状況等から明らかである。八ッ場ダム関連の遺跡では多くのこうした陥し穴の検出例があり、平安時代の遺構との切り合い関係なども報告されている。今後調査、整理を進める中で時期の絞り込みが行えるものと考えている。



96－４号土坑
1　黒褐色土　締まり弱く粘性あり、黄色軽石を比較的多く含む。
2　黒褐色土　締まり弱く粘性あり、黄色軽石をまばらに含む。
3　極暗褐色土　締まり弱く粘性あり、軽石の混入ほとんど見られず。
4　暗褐色土　締まり粘性あり、ローム漸移と思われる暗黄褐色のブロック多く含む。
5　暗褐色土　締まり粘性あり、黄色軽石若干含む。
6　暗褐色土（シルト質土）粘性あり、地山ローム崩落土ブロック含む。
7　暗褐色土（シルト質土）締まり、粘性あり、崩落ロームブロックを幾ぶわに含むが軽石はほとんどなし。
8　黒褐色土（シルト質土）締まり、粘性強い、軽石の混入ほとんどなし。

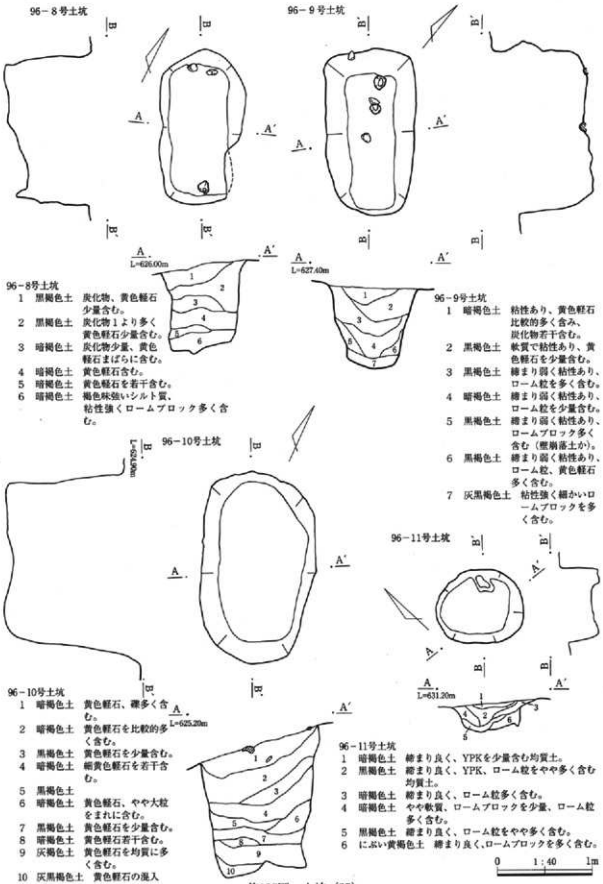
96－５号土坑
1　黒褐色土　締まり粘性弱い、黄色軽石を少量含む。
2　黒褐色土　締まり粘性弱い、ローム粒を非常に多く含む。
3　黒褐色土　粘性あり、軽石少量含む。
4　黒褐色土　粘性あり、３より大径の軽石少量含む。
5　暗褐色土　粘性あり、軽石少量、大粒の軽石もまれに含む。
6　暗褐色土　粘性あり、軽石をわずかに含む。
7　褐色土（シルト質土）締まり粘性あり、軽石を含む。
8　灰褐色土（シルト質土）締まり粘性大、軽石ローム粒少量含む。
9　灰褐色土（シルト質土）締まり粘性あり、壁の崩落と思われるロームブロック多く含む。



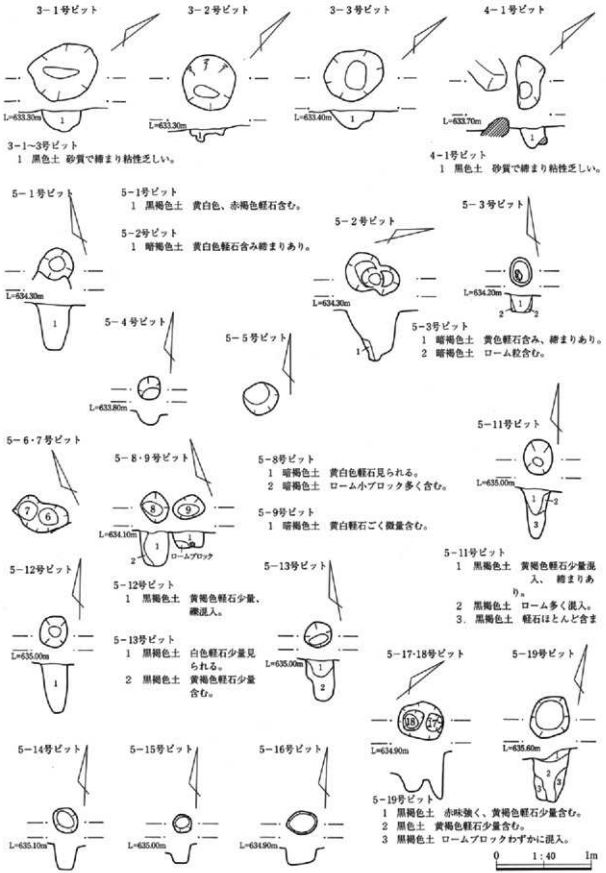
96－６号土坑
1　黒褐色土　締まり粘性弱い、黄色軽石を多く含む。
2　黒褐色土　締まり粘性弱い、黄色軽石を比較的多く含むが１より少ない。
3　暗褐色土（シルト質土）粘性強い、黄色軽石をわずかに含む、地山崩落土。
4　黒褐色土　粘性あり、黄色軽石をわずかに含む。
5　灰褐色土（シルト質土）粘性強い、軽石をわずかに含む。

0　1：40　1m

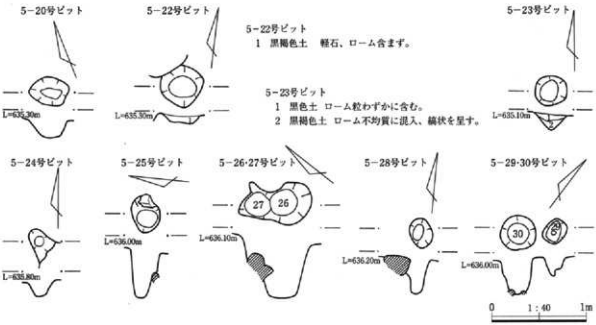
第136図　土坑（34）


96－８号土坑
96－９号土坑
96－10号土坑
96－11号土坑
A
A'
B
B'
L=626.00m
L=627.40m
L=625.20m
L=631.20m
96－８号土坑
1　黒褐色土　炭化物、黄色軽石少量含む。
2　黒褐色土　炭化物１より多く黄色軽石少量含む。
3　暗褐色土　炭化物少量、黄色軽石まばらに含む。
4　暗褐色土　黄色軽石含む。
5　暗褐色土　黄色軽石を若干含む。
6　暗褐色土　褐色味強いシルト質、粘性強くロームブロック多く含む。
96－９号土坑
1　暗褐色土　粘性あり、黄色軽石比較的多く含み、炭化物若干含む。
2　黒褐色土　軟質で粘性あり、黄色軽石を少量含む。
3　黒褐色土　締まり弱く粘性あり、ローム粒を多く含む。
4　暗褐色土　締まり弱く粘性あり、ローム粒を少量含む。
5　黒褐色土　締まり弱く粘性あり、ロームブロック多く含む（壁崩落土か）。
6　黒褐色土　締まり弱く粘性あり、ローム粒、黄色軽石多く含む。
7　灰黒褐色土　粘性強く細かいロームブロックを多く含む。
96－10号土坑
1　暗褐色土　黄色軽石、礫多く含む。
2　暗褐色土　黄色軽石を比較的多く含む。
3　黒褐色土　黄色軽石を少量含む。
4　暗褐色土　橙黄色軽石を若干含む。
5　黒褐色土
6　暗褐色土　黄色軽石、やや大粒をまれに含む。
7　黒褐色土　黄色軽石を少量含む。
8　暗褐色土　黄色軽石若干含む。
9　灰褐色土　黄色軽石を均質に多く含む。
10　灰黒褐色土　黄色軽石の混入少なく、黒味強い。
96－11号土坑
1　暗褐色土　締まり良く、YPKを少量含む均質土。
2　黒褐色土　締まり良く、YPK、ローム粒をやや多く含む均質土。
3　暗褐色土　締まり良く、ローム粒多く含む。
4　暗褐色土　やや軟質、ロームブロックを少量、ローム粒多く含む。
5　黒褐色土　締まり良く、ローム粒をやや多く含む。
6　にぶい黄褐色土　締まり良く、ロームブロックを多く含む。
0　1:40　1m

第137図　土坑（35）


3－1号ピット
L=633.30m
3－2号ピット
L=633.30m
3－3号ピット
L=633.40m
4－1号ピット
L=633.70m
3－1～3号ピット
1　黒色土　砂質で締まり粘性乏しい。
4－1号ピット
1　黒色土　砂質で締まり粘性乏しい。
5－1号ピット
L=634.30m
5－1号ピット
1　黒褐色土　黄白色、赤褐色軽石含む。
5－2号ピット
1　暗褐色土　黄白色軽石含み締まりあり。
5－2号ピット
L=634.30m
5－3号ピット
L=634.20m
5－3号ピット
1　暗褐色土　黄色軽石含み、締まりあり。
2　暗褐色土　ローム粒含む。
5－4号ピット
L=633.80m
5－5号ピット
5－6・7号ピット
5－8・9号ピット
L=634.10m
ロームブロック
5－8号ピット
1　暗褐色土　黄白色軽石見られる。
2　暗褐色土　ローム小ブロック多く含む。
5－9号ピット
1　暗褐色土　黄白軽石ごく微量含む。
5－11号ピット
L=635.00m
5－11号ピット
1　黒褐色土　黄褐色軽石少量混入、締まりあり。
2　黒褐色土　ローム多く混入。
3．黒褐色土　軽石ほとんど含ま
5－12号ピット
L=635.00m
5－12号ピット
1　黒褐色土　黄褐色軽石少量、繊混入。
5－13号ピット
L=635.00m
5－13号ピット
1　黒褐色土　白色軽石少量見られる。
2　黒褐色土　黄褐色軽石少量含む。
5－17・18号ピット
L=634.90m
5－19号ピット
L=635.60m
5－19号ピット
1　黒褐色土　赤味強く、黄褐色軽石少量含む。
2　黒色土　黄褐色軽石少量含む。
3　黒褐色土　ロームブロックわずかに混入。
5－14号ピット
L=635.10m
5－15号ピット
L=635.00m
5－16号ピット
L=634.90m
0　1：40　1m

第138図　ピット（1）



第139図　ピット(2)

ピット（第138・139図）

調査時において、検出時にある程度の規模を持つ掘り込みを土坑として付番したが、規模が小さくかつ形状もあまり明確でないものをピットとして調査を行った。

検出したピットの数は３区３基、４区１基、５区30基（内２基は欠番）である。３・４区において検出したピットはいずれも掘り込みが浅く、埋土も荒れていたことから、近・現代に比定されるものか、木の根などによる撹乱坑と思われる。

５区においては平成11年度の調査において多く見られた。遺構の重複が著しい場所において集中して検出されたものもある。径に比して深さを有するものもあり、柱穴と考えられるものも存在すると考えられるが、掘立柱建物や住居跡の柱穴と判断されたものは見られなかったが、土坑や削平された住居等の柱穴下部の残存部の可能性もある。6・95・96区においては検出されなかった。またピット出土の遺物についてもほとんど見られなかった。

土坑出土遺物

各土坑より出土した遺物を以下に図示する。陥し穴などのように構築時期と出土遺物の時期に差が見られるものも多く、さらに重複関係のある遺構についても、混入と思われる遺物も多い。しかしながら、調査時、整理実施後においても時期の確定できない土坑も多かった。このため出土遺物に関してはそれぞれの土坑出土遺物として記載を行った。５区においては後期前半の土坑墓と思われる遺構が、ややまとまって存在していた場所も見られ、ほぼ完形の土器を伴った長円形の土坑が検出されている。

多くの土坑から遺物が出土しているが前述したように明らかに流れ込みと判断される物も多かった。しかしながら、遺構の時期も明確に判断されるものも少ないため出土遺物に関しては基本的に、総てを取り上げ記載することに務めた。石器についても同様である。

また、5−490・491号土坑は掘り込みが確認できなかったことと、時期は中世と考えられるものである。このため、遺構図は第4節中・近世の項で記載を行っている。但し遺物は他の土坑遺物と併載した。

４区

４－34号土坑（第140図：ＰＬ69）

１は後期後半の組成土器口縁部片、整形時の浅い曲線の磨き痕が観察される。

５区

５－374号土坑（第140図：ＰＬ69）

１は幅広隆帯による楕円文区画を描き中には縦位集合沈線、また肥厚した隆帯文を持つ。２は完形の打製石斧である、短冊形でやや反り、刃部摩耗。

５－381号土坑（第140図：ＰＬ69）

１は朝顔形の深鉢、口径30.0cm。口縁部刻み隆帯で画された無文帯を有す。以下矩形文、渦巻き文様を磨り消し縄文で描く。２は無文口縁部帯、赤彩痕見られる。３は口縁部片、やや外傾して終わる。横位沈線下に円形文、刺突文。口縁内側にも刺突文見られる。4は縄文地文、縦の８字貼付文。５は横位の隆帯および隆帯による楕円文区画構成か、区画内には縄文施文。６は３本の平行垂下沈線による無文帯、および縄文施文。７は胴部屈曲部片、併行沈線による曲線文か。８は沈線による曲線文、蛇行垂下文および斜位集合沈線文。９は上下対になる蕨手文およびＵ縄文を沈線で描く。10はやや小形の打製石斧である。11は磨石、小判形を呈す。

５－382号土坑（第140図：ＰＬ69）

１はやや内湾する口縁部片、隆帯による波状文、波頂部に刺突文。地文は無い。２は口縁部片、口縁部断面三角を呈し、口唇外面に刺突文。３は沈線による曲線文様。４は底部片、薄手で無文。５は被熱した石棒の破片。

５－383号土坑（第140図：ＰＬ69）

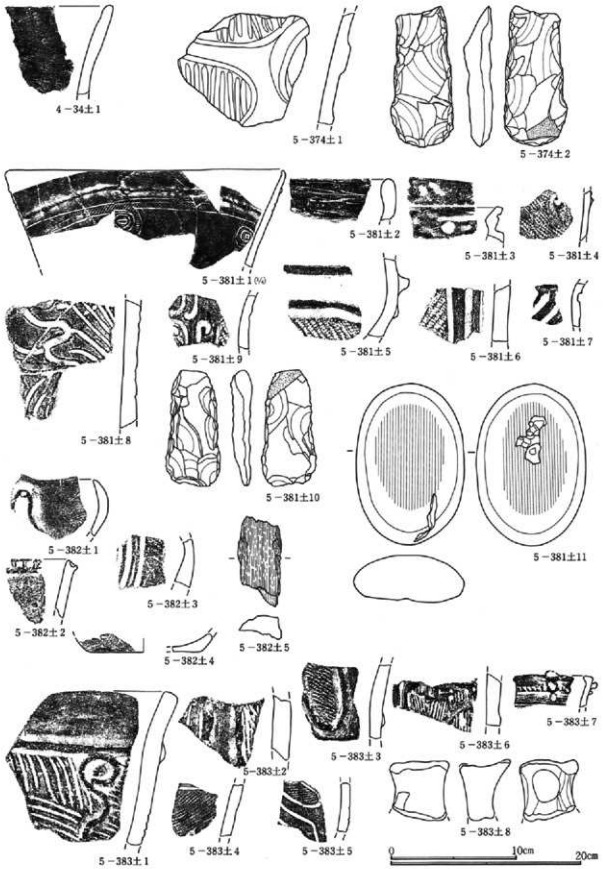
１は口縁無文帯を隆帯により画し、以下隆帯から垂下する蛇行隆線文を付し、斜位の集合沈線。２は複数本の縦位隆帯、隆帯間は無文、他は斜位の集合沈線か。３はＵ状文を隆帯で描き中は縄文Ｌ縦位施文。４は地文に細縄文施文後沈線。５は沈線による磨り消し曲線文。６は縦位の隆帯、地文には櫛状工具による集合条線文。７は口縁部片、口唇部内屈、口縁部に隆帯による８字文を付し横位の刻みを持つ隆帯が廻る。８字文下位には両面からの円形凹圧文。８は上端が広がる口縁部把手片。

５－384号土坑（第141図：ＰＬ69）

１は肥厚隆帯による曲線文。２は隆帯による曲線文様。３は途中で切れる横位平行沈線、曲線文。４は地文に細縄文、平行沈線による曲線文。５は細沈線による磨り消し曲線文様。６は完形の打製石斧である、小形の銀杏形を呈す。

５－386号土坑（第141図：ＰＬ70）

１は口縁に無文帯、以下併行沈線を重走させ、間に交互刺突文様を複数段に施文。２は口縁下に凹圧隆帯が廻る。３は口縁部片、８字貼付文有す。４は口縁部片、丸く波状を呈す口縁部片、内面に沈線による同心



第140図　土坑出土遺物（1）

円文を描く、一部に８字状刺突文。５は隆帯を垂下させ間にも蛇行隆帯、地文には斜位の集合沈線。６は無文。７は平行沈線による横位磨り消し縄文。

５－387号土坑（第141・142図：ＰＬ70）

１・２は沈線で口縁無文部を画し以下縄文施文。１は沈線による曲線文様を描く。３は口縁下に隆帯が廻る。４は口縁波頂部に付く環状把手、把手下位には沈線に曲線文を描き縄文充填。５はほぼ直立する無文口縁部片。６は口唇部内側に肥厚、無文。器面風化顕著。７は小形土器の内湾する胴部片、隆帯によるＣ・Ｊ状曲線文を描き、上位連結部には横８字文を意匠、中央部突起状に肥厚し、８字文内は瘤状に隆起。外面赤彩痕。８は併行沈線による円形曲線文を描き中には綾杉集合沈線。９は垂下沈線、蛇行文。縄文地文。10は沈線による渦巻き文か。11は磨り消し無文帯を垂下、間には縦位縄文施文。12は胴部垂下、蛇行沈線の下端部。13は片面に自然面を残す礫器である。14は磨石である、大形で主に一面を使用。15は被熱した石棒片。16は石皿である。下半を欠く、作業面は深く凹む。

５－388号土坑（第142図：ＰＬ70）

１は口縁部片、隆帯による楕円区画文、区画文内には斜位の集合沈線。

５－391号土坑（第142図：ＰＬ70）

１は幅狭の磨り消し無文帯を垂下、間には縦位縄文施文。

５－392号土坑（第142図：ＰＬ70）

１は隆帯による楕円区画文、楕円文内には重弧状文。２は垂下沈線、蛇行文。3は縦位集合条線文。

５－393号土坑（第142図：ＰＬ70）

１は肥厚する口縁部、沈線で楕円文を画すと思われる。２は隆帯による楕円文を横位構成、以下縄文地文に沈線文。３は縄文施文の胴部。４は口縁部下の連弧状隆帯、以下縦位、斜位の沈線文。５は平行垂下沈線による無文帯、地文には縄文RLを縦位施文。

５－403号土坑（第142図：ＰＬ70）

１は口縁部片、口唇部は薄く内屈。隆帯による渦巻き状の把手か。

５－411号土坑（第142図：ＰＬ70）

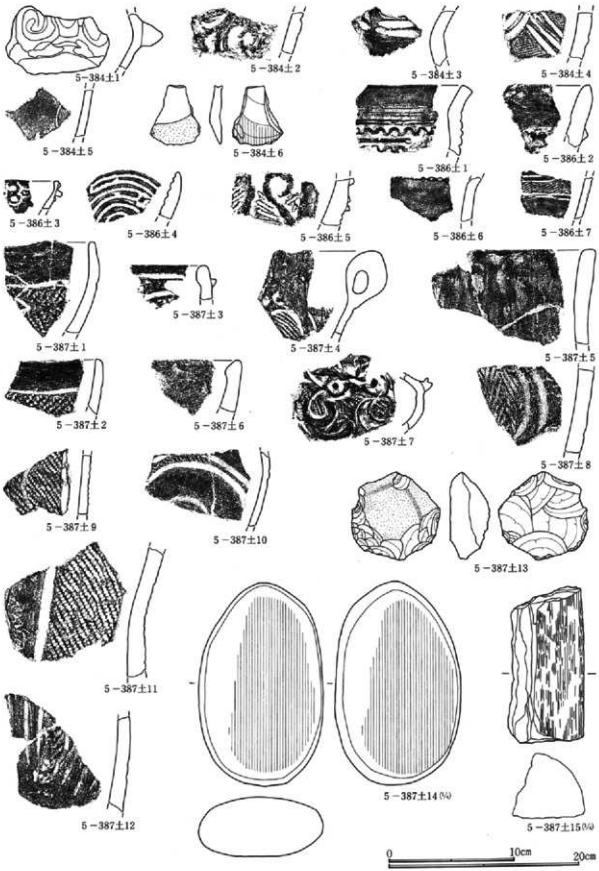
１は隆帯による楕円渦巻き文。

５－412号土坑（第142図：ＰＬ70）

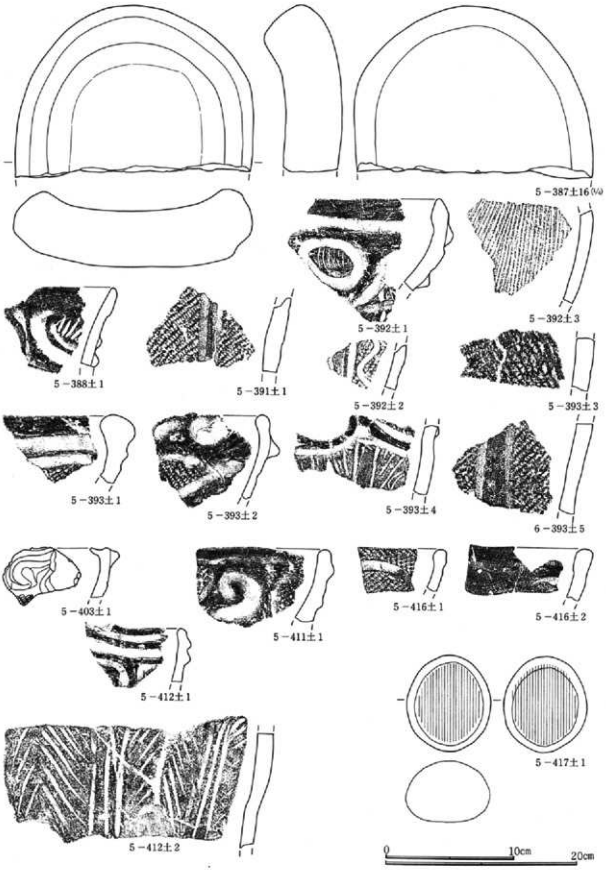
１は口縁部片、〒状の隆帯が見られる。２は胴部片、３本の垂下沈線、縦位綾杉沈線文。

５－416号土坑（第142図：ＰＬ70）

１は地文縄文、沈線による曲線文。２は無文口縁部片。



第141図　土坑出土遺物（2）



第142図　土坑出土遺物（3）

５－417号土坑（第142図：ＰＬ70）

１は磨石、使用面は平滑。

５－418号土坑（第143図：ＰＬ71）

１は垂下併行沈線、地文縄文RL。（５－419土の５が接合）２は口縁部文様帯直下の胴部片、全面に縄文RL縦位施文。３は垂下隆線、および斜位の集合沈線。４は横位隆帯下に縦位の集合条線文。５は無文口縁部片、研磨され、内外面赤彩。６は無文の底部片、外面良く研磨される。７は肉厚の打製石斧である、刃部を欠く。８は磨石、火を受けて表面に剥離。

５－419号土坑（第143図：ＰＬ71）

１は隆帯による楕円区画文、隆帯接点部に円形凹圧文、区画内には縄文施文。２は横位併行隆帯、口縁部区画文。区画文内には刺突文。３は縦位併行沈線無文帯、地文はRL縦位施文。４・５は併行垂下沈線。地文に縄文。６は胴部縄文施文。

５－427号土坑（第143図：ＰＬ71）

１は深鉢の胴部片、平行沈線による垂下無文帯、地文は縄文RLを縦位施文。２は胴部片、縦位条線文。３は横位沈線の上下に縦位の集合条線文。４は縦位の綾杉沈線文か。

５－431号土坑（第144図：ＰＬ71）

１はほぼ完形の深鉢である。口径17.7cm、器高25.8cm、底径7.2cmである。胴上位がややふくれ、頸部のくびれは弱く口縁はやや広がる。口縁部は２本の隆帯による６単位の楕円、渦巻き文。楕円文内には横位矢羽根状沈線文。胴部は縄文地文に３本の沈線による細長楕円文を縦列させ、胴部を縦に４分割する。縦列楕円文の接点部に沈線によるＸ状、渦巻き文、弧状文を配し、中央には垂下蛇行文を描く。

５－438号土坑（第144図：ＰＬ71）

１は併行沈線間が一部隆起、縦位の刻み状の集合沈線。２は石鏃である、先端部を欠く。

５－439号土坑（第144図：ＰＬ71）

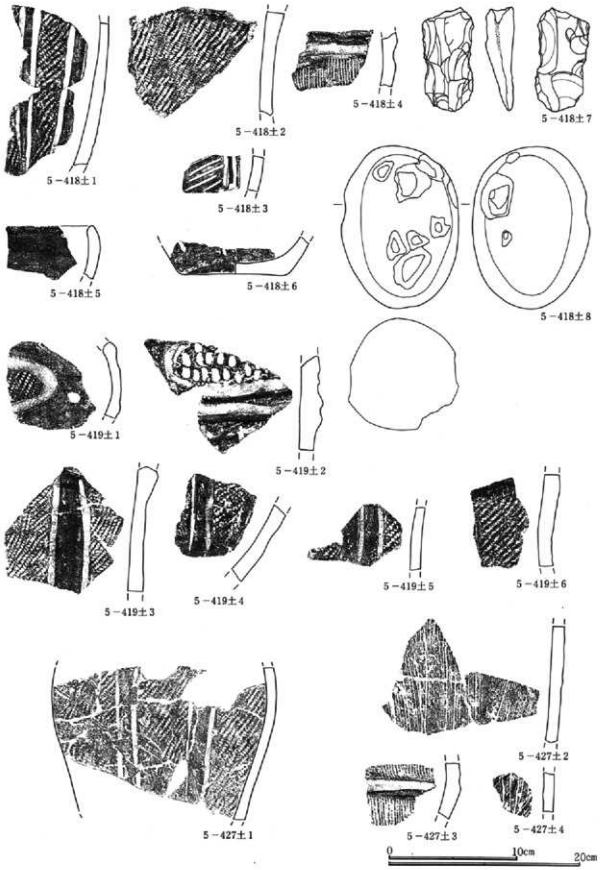
１は蛇行垂下沈線文および、縦位集合沈線文。２は平行沈線による曲線文を描き、文様内に刺突文。３は横位隆帯下に縄文。４は沈線による蕨手文を描き縄文充填。５は沈線による縦位磨り消し帯、及び縄文。６は沈線による曲線文。２と同一個体か。７は沈線による無文帯および縄文。

５－441号土坑（第144図：ＰＬ71）

１は頸部に隆帯による横８字文、下位に沈線による弧状文。２は隆帯による楕円文か、以下斜位集合沈線。３は沈線による磨り消し帯、地文縄文。４は縦の隆帯。

５－442号土坑（第144図：ＰＬ71）

１は口縁下の横位沈線および隆帯、地文縄文上に沈線による曲線文か。



第143図　土坑出土遺物（4）

５－447号土坑（第144図：ＰＬ71）

１は上端部渦巻きとなる３本の垂下隆線、地には渦巻き文左右に３本の平行沈線が横に廻り、さらに沈線による矩形区画とし、区画内には集合綾杉沈線文を充填。横位沈線上には縦の集合沈線。２は縦位集合沈線。３は無文土器片、内外面良く研磨。４は底部片。

５－448号土坑（第144図：ＰＬ72）

１は底部片、３本の垂下沈線で縦位区画、間には縄文が充填施文。

５－449号土坑（第145図：ＰＬ72）

１は口縁部片、隆帯による口縁部区画文を構成、区画文連結部には隆帯を拗り文様とし、隆帯は下位に繋がる。区画内には沈線による横波状文を描く。２は台石、扁平礫利用、使用面平滑。

５－451号土坑（第145図：ＰＬ72）

１は口縁部片、口縁下に沈線が廻り、以下隆帯による楕円区画。

５－452号土坑（第145図：ＰＬ72）

１は沈線による∩字文か、間は横位集合短沈線をやや粗く施文、口縁部には斜位に施文する。

５－453号土坑（第145図：ＰＬ72）

１は口縁部直立し、肩部に短く鍔状を呈す低い隆線が廻り、(4)箇所に橋状の把手を有す、外面研磨され、赤彩。口径(14.0)cm。

５－459号土坑（第145図：ＰＬ72）

１は垂下沈線と斜位の集合沈線文。

５－461号土坑（第145図：ＰＬ72）

１は大形土器の口縁から胴部、胴部は丸みを持ち、頚部で屈曲し口縁部はやや外反。口縁部には沈線を廻らし、一部肥厚し楕円形の環状突起となる、突起部には沈線、円形凹圧文を付す。突起から刻みを有す隆帯が垂下、し頚部に廻らされた隆帯に繋がり、接合部は肥厚し８字状文となる。さらに隆帯は下位に向かって垂下する。胴部は平行沈線により三角形、渦巻き文を組み合わせた文様を描く。長方形の土坑南端に器外面を上向きに出土している。口径(39.4)cm。２は頚部屈曲部片、隆帯による楕円文区画か、区画内に連続する弧状沈線文。３は刃部を欠く打製石斧である。

５－472号土坑（第145図：ＰＬ72）

１は縦位の併行沈線文。

５－490号土坑（第146図：ＰＬ72）

１は台石、使用面は平らで平滑。２は開元通宝。

第144図　土坑出土遺物（5）

第145図　土坑出土遺物（6）

５－491号土坑（第146図：ＰＬ72）

１は口縁部片、口唇部指頭押圧により内側に折り返し、外面に垂下押圧隆線文、口縁内面には沈線文。２・３は磨石、２は磨石棒状を呈し、下端に打痕。３は被熱。

５－493号土坑（第146図：ＰＬ72）

１は大珠である、やや暗い青緑色を呈す、穴はやや大きく両側より空けられる。

５－494号土坑（第146図：ＰＬ72）

１は口縁部下に２本の横位隆線。２は斜位の集合沈線上に隆帯による蛇行垂下文。

５－495号土坑（第146図：ＰＬ72）

１は石鏃である。先端、基部共に欠いている。２はスクレイパー、肉厚で粗い作り。３・４は打製石斧である、両者とも薄手の作りである。５は磨製石斧である、定角式で刃部を欠く。６は凹石。

５－496号土坑（第146図：ＰＬ72）

１は無文の口縁部片。２は注口土器片、沈線文。３は隆線文を持つ。４は打製石斧、完形の短冊形。

５－497号土坑（第147図：ＰＬ72）

１・２は石鏃である、１は未製品か。３・４は打製石斧である、３は刃部片、４ともに刃部摩耗。

５－498号土坑（第147図：ＰＬ72）

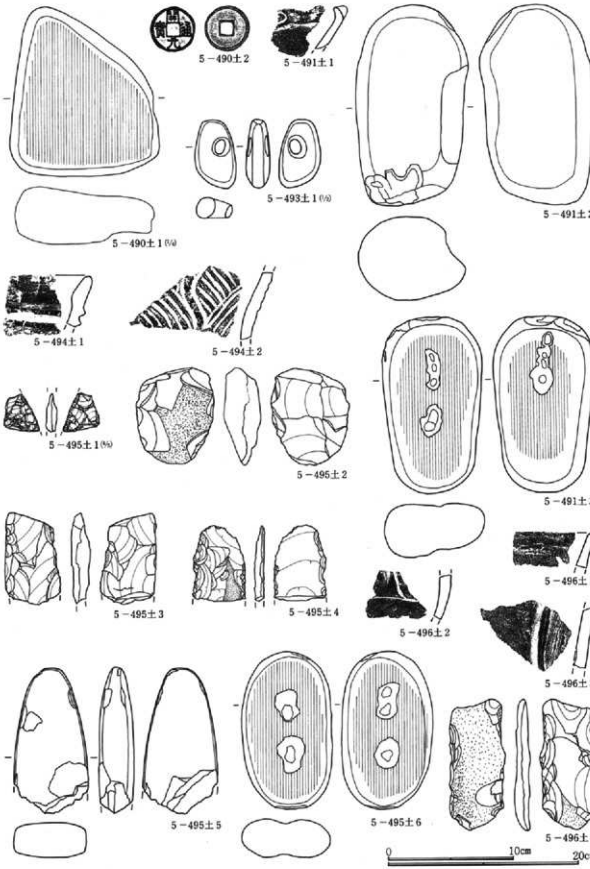
１は口縁部片、隆帯による楕円文。２は垂下渦巻き文持つ隆帯と縦位沈線。３は縦、横の沈線文。４は縦位の集合条線文。

５－499号土坑（第147図：ＰＬ73）

１は口縁部片、隆帯で口縁部無文部を画し以下無節縄文Ｌを縦位充填施文。２は口縁部に隆帯による楕円、渦巻き文を描き、区画内には縦位沈線文、以下横位隆帯と沈線で画し胴部には縄文施文。３は沈線による平行線文、曲線文を描き、短い弧状文を集合施文。４は縦位の磨り消しおよび縄文帯。５は横位沈線に瘤状突起有し、下位に重弧文、縦位沈線文を描く。６は隆帯によるＳ字文、曲線文を描き、Ｓ字文下には沈線による蕨手文、他は斜位の沈線文。７は端部がやや外に張る無文底部片。

５－500号土坑（第147図：ＰＬ73）

１は口縁部片、沈線による楕円文、蕨手文。２は口縁部に環状突起有す、口唇上部に沈線、円形文、内屈した内側にも円形文、口縁以下垂下隆帯文。３・６は口唇部肥厚、横位沈線、隆線を持ち、以下無文。４は口縁部片、口唇部内屈、小孔持ち、内側に刺突文。５は口縁部片、口縁部刻みを有す横位隆線、口唇部と繋ぐ８字文。以下横位の磨り消し縄文。７は無文、口縁内側に横位沈線。８は口唇部肥厚する無文口縁部片。９は無文、口縁部肥厚。10は沈線による渦巻き縄文。11は口縁部に横位矢羽模状沈線文、以下横位平行沈線を配す。12・13は底部片、13は厚手で風化著しい。14は棒状の石錐。15は磨石、扁平な礫用い使用面平滑。



第146図　土坑出土遺物（7）

第147図　土坑出土遺物（8）

５－501号土坑（第148図：ＰＬ73）

１は肩部でくの字に折れ、口縁部大きく広がる器形の鉢形土器、胴部は無文で、頚部に２本の刻みを持つ隆帯が平行して廻り、これらを繋ぐ８字文を有し、８字文からＶ字に口縁に向かって隆線が延びる。口唇部は短く内屈して終わるが口唇内側の一部に沈線、円形刺突文が見られる。黒色で内外面研磨されている。口径20.4cm、底径(6.0)cm。２は中位でくの字に屈曲した胴部。折屈曲部まで３本の押圧を持つ隆線が垂下し、３分割された区画内には沈線による三角形と菱形文の組み合わせ文様を磨り消し縄文で描く。３は小形の土器、口径12.8cm、器高16.2cm、底径6.0cm。底部からやや開きながら直線的に立ち上がり、口縁部やや内湾して終わる。口唇部に施状工具による連続刻み文、沈線に画された無文帯を有す。胴部は細い縄文ＬＲが密接施文されるが、胴の下位には施文されない。口縁部、内面良く研磨されている。底面に網代痕。

４は口縁部に刻み有す隆線が廻り、沈線による矩形磨り消し縄文。５は口唇部内屈する無文口縁部片。６は無文口縁部片、口唇部内側に肥厚。７は口縁部片、口唇部肥厚しやや突起する部分に３本の短沈線、両側端部に刺突持つ沈線が延びる。８は沈線による併行、渦巻き文。９は刺突文。10は口縁部片、刻み有す横位隆線上に８字文、以下磨り消し縄文様。11は口縁部片、沈線による重弧文、三角文様を描く。12は口唇部から押圧文有す隆帯が垂下。13は口縁部片、口唇部に沈線、胴部は縄文地文に縦位の平行沈線。14は磨り消し縄文による曲線文様。15は口縁部やや内屈し浅い凹線が廻る。16は口唇部外側に肥厚する無文土器。17は磨り消し縄文による矩形文。18は薄手胴部片、三角形、菱形を組み合わせた磨り消し縄文に文様を描く。

19は胴部片、肩部の屈曲上部で沈線文有す。20は縄文施文、多方向からの施文。21は大形の無文の底部片である、外面良く研磨され、底面には網代痕。22・23は無文底部片、良く研磨されている。24は磨石、側縁に打痕。25は断面三角の礫を利用した敲石。

５－502号土坑（第149図：ＰＬ73・74）

１は口縁部に隆帯による渦巻き区画文、中には斜位の沈線。２は３本の隆線垂下し左右に斜位の集合沈線。３は３本の沈線が垂下し両側は斜位の併行集合沈線。内面に赤彩痕。４は垂下隆帯に、斜位・横位の集合沈線。５は隆帯によるＵ地文と蛇行垂下文か中には沈線による集合弧状文。６は縦位沈線と斜位集合沈線文。７・８は打製石斧、７はほぼ完形で分銅形を呈す。

５－505号土坑（第149図：ＰＬ74）

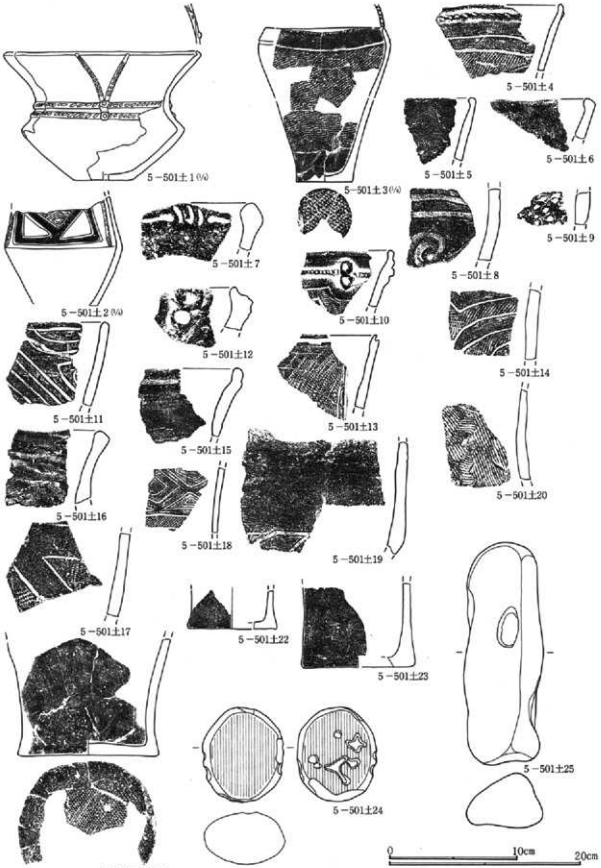
１はやや内傾する口縁部片、幅広の橋状把手を有す、把手面には沈線によるＳ地文を描き文様両端部、および内に円形文を付す。胴部は沈線による区画文描き縄文を充填か。器内外面良く研磨される。２は口縁部片、口縁下に押圧文を持つ薄い隆帯が廻る。３は大形土器の無文胴部片。４は無文の底部片、器面風化。

５－508号土坑（第149図：ＰＬ74）

１は縄文地文に平行沈線文。２は縄文地文で沈線による磨り消し円形文。

５－510号土坑（第149図：ＰＬ74）

１は沈線で楕円基調の文様を描き中は縄文を施文、また大きめの浅い円形押圧文有す、外面研磨されている。



第148図　土坑出土遺物（9）

５－514号土坑（第149図：ＰＬ74）

１は口縁部環状突起、外面に縄文ＬＲを施文、欠落しているが環の下部から橋状把手が付くものと思われる。

５－515号土坑（第149図：ＰＬ74）

１は口径（13.0）cm。口唇端部内側に短く折れて終わる。口縁部下に刻み有す隆帯が廻り、隆帯上に８字文が貼付される。以下胴部は無文。薄手で良く研磨されている。２は胴部片、縄文地文、垂下磨り消し無文帯。３は平行沈線による渦巻き文縄文帯文様。４は横位平行沈線を持つ。５は円孔を持つ小波頂部。６は口縁部無文で、頸部に凹圧文を伴う隆帯か。

５－516号土坑（第150図：ＰＬ74）

１は無文口縁部片。

５－520号土坑（第150図：ＰＬ74）

１は口縁部片、隆帯による楕円区画文を構成、区画内には縄文施文。２は垂下無文帯、地文は縦位ＬＲ多条縄文。３は下位ですぼまる縦位の複数沈線種文。４は突起状の口縁部片、肥厚し上端部に円形文、その横にも隆帯を口縁部に回す、また円孔を有し周辺に沈線による文様を描く。５は口縁部片、口唇部短く内傾、口縁部に刻み有す隆帯を廻らし、以下沈線による磨り消し縄文。６は隆帯を有し、沈線による磨り消し文様を描く。７は矩形の磨り消し縄文文様。

５－524号土坑（第150図：ＰＬ74）

１は無文口縁部片。２はやや肥厚する無文隆帯に縄文地文。３は３本の併行沈線が垂下、地文無文。４は平行沈線文による曲線文。

５－525号土坑（第150図：ＰＬ74）

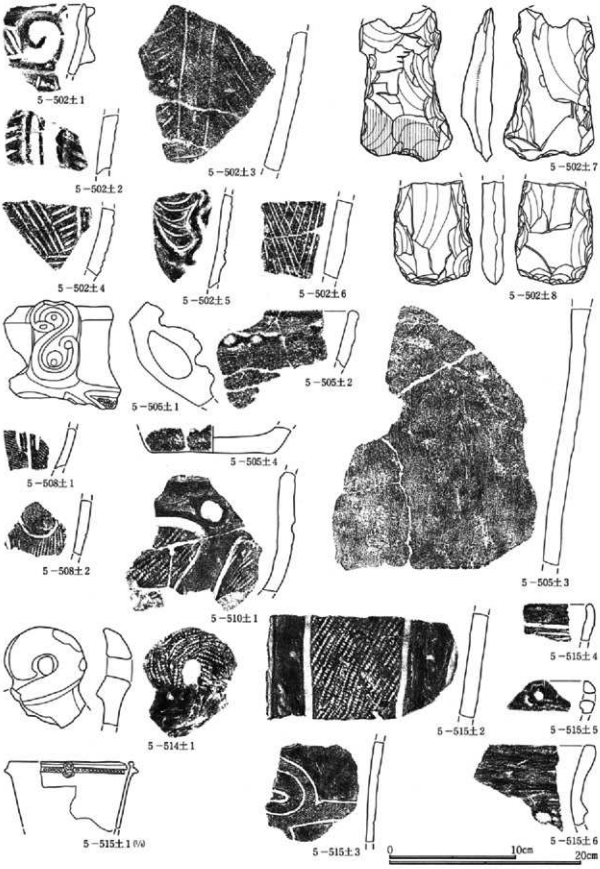
１は口縁部が大きく開き、口唇部幅広で上面に沈線を廻らす、また口縁の一部は肥厚し円孔有す小突起となる。頸部は沈線で画された無文帯、以下横位縄文帯。口径（18.4）cm。２は口縁部片、集合条線による横位、縦位文。３・４は幅広の沈線で曲線文を描き、地文には縄文施文。５は併行沈線による曲線文を描く。６は大形の鉢形土器、口縁部無文でくの字に外傾、肩部には隆線による曲線文。内外面赤彩痕。

５－526号土坑（第150図：ＰＬ75）

１は口径18.0 cm。球形の胴部から口縁が大きく開く、口縁部は無文、胴部には４本の沈線による弧状文様を重層させ、沈線の連結部には円形文を付し、下に短いＪ状文が垂下。沈線の区画内には縄文ＬＲを充填する。２は彫器、厚みあり。

５－527号土坑（第150図：ＰＬ75）

１は口縁部片、口唇部薄く尖り、外側に折り返され有段となる、以下斜めの集合沈線。２は口唇部が肥厚する口縁部片、器面良く研磨される。３は壺形土器か、薄手で頸部締まり口縁部わずかに外傾し立ち上がる。沈線による楕円文を描き中に縄文を充填施文。外面黒色で磨かれる。４は底部片、無文で良く磨かれている。



第149図　土坑出土遺物（10）

５－529号土坑（第150図：ＰＬ75）

１は無文口縁部片、くの字に外傾し口唇部は角頭状を呈す。２・３は石鏃、２は基部厚みあり、３は先端部片。

５－533号土坑（第150図：ＰＬ75）

１は無文底部片、浅鉢形と思われる、輪積み接合部分で欠損、外面良く研磨され、底部は摩滅している。２は小形の土製円盤か。

５－534号土坑（第150図：ＰＬ75）

１は内傾する屑部片か、刻みを持つ隆線が横走し、細沈線で画された無文帯と縄文帯。２は小形だがやや厚みのある底部片、無文。

５－539号土坑（第151図：ＰＬ75）

１は厚手の無文口縁部。２は無文の口縁部片、口唇部内側がやや肥厚する、胎土中に砂粒が目立つ。３は２本のＵ状隆線が並んで垂下し地文には斜めの集合沈線文。４は磨石、磨り面平滑。

５－542号土坑（第151図：ＰＬ75）

１は頸部片、隆線による曲線文か。２は小形の磨製石斧。３・４は表面磨かれた蛇紋岩の紡錘状小礫。５～10は磨石、９は表面に微細な研磨痕。11は敲石、断面方形の棒状。

５－543号土坑（第152図：ＰＬ75）

１は隆帯による口縁部区画文と縄文ＬＲ。２は２本の垂下隆線、地文は斜位の集合沈線文。

５－547号土坑（第152図：ＰＬ75）

１は沈線による磨り消し縄文。

５－549号土坑（第152図：ＰＬ75）

１は鉢形土器の胴部無文片、内外面良く研磨されている。２は打製石斧の基部片である。

５－550号土坑（第152図：ＰＬ75）

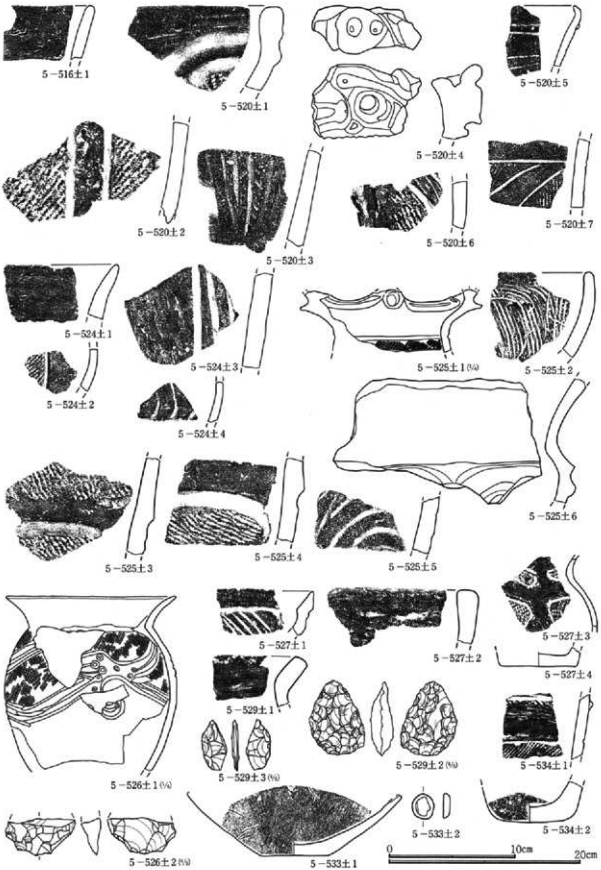
１は石鏃の基部片。

５－554号土坑（第152図：ＰＬ75）

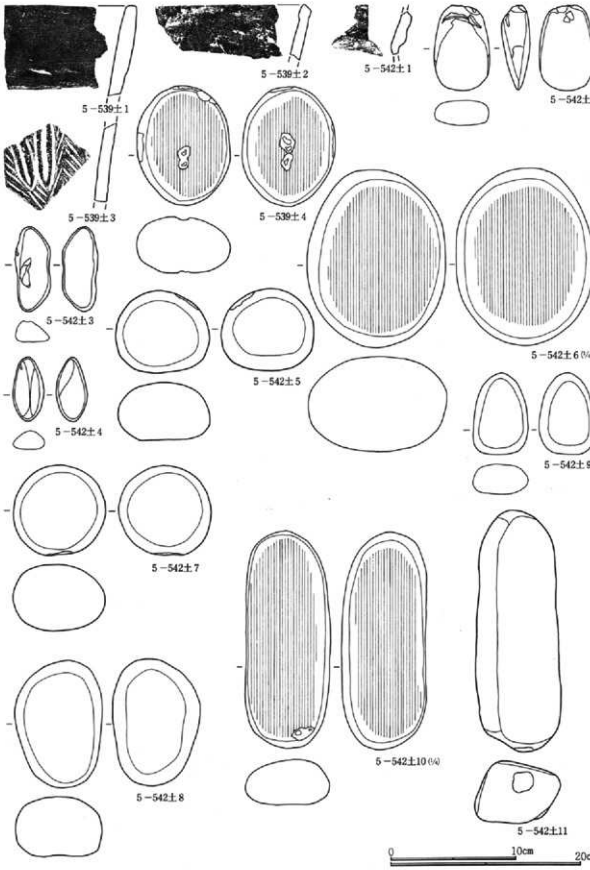
１は鉢形土器の底部片と思われる、黒色を呈し内面剥落している。

５－555号土坑（第152図：ＰＬ75）

１は内屈する無文口縁部片。２は内屈しやや肥厚する口縁部。３は沈線による磨り消し曲線文様、地文縄文。



第150図　土坑出土遺物（11）



第151図　土坑出土遺物（12）

５－556号土坑　（第152図：ＰＬ75）

１は三角形の磨り消し帯文様。縄文は無節Ｌ。

５－559号土坑　（第152図：ＰＬ76）

１は口縁部が大きく開く完形の鉢形土器である。口径30.0cm、器高10.2cm、底径10.1cm。胴中位に刻み有す隆線を横に廻らし、ここから口縁部に向かって６本の隆線が延び、隆線と口縁の接点部分を外側から押し内側に肥厚させ、内側に円形竹管文または円形刺突文を付す。これら６カ所の円形文を繋いで沈線による横長楕円文様を描きその下に沈線一周させる。胴部文様は沈線による縦位10単位の磨り消し縄文による区画文を描く。胴下部に沈線が一周し、やや大きめの底部となる。内外面良く研磨された黒褐色の土器で、外面に炭化物の付着が目立つ。２は横位沈線を有す無文口縁部。３は上部が渦巻きとなる平行垂下隆帯、地文は綾杉沈線文。

５－562号土坑　（第152図：ＰＬ76）

１は横位隆帯下に縦位集合沈線、および波状沈線。２は渦巻き隆帯文様、地文には集合短沈線、縦波状沈線文。３は小形垂飾品、両面から穿孔。

５－564号土坑　（第152図：ＰＬ76）

１は口縁に沿って平行沈線が廻り、以下縄文施文。

５－565号土坑　（第152図：ＰＬ76）

１は口縁部片、隆帯による縦８字文、器内外面研磨。２は口縁部環状突起片、１と同一個体片の可能性あり。

３は磨石、使用面平滑。

５－566号土坑　（第153図：ＰＬ76）

１は打製石斧の欠損品。

５－567号土坑　（第153図：ＰＬ76）

１は沈線による区画文を描くものと思われる。２は打製石斧、撥形の欠損品。３は磨石、火を受けている。

５－572号土坑　（第153図：ＰＬ76）

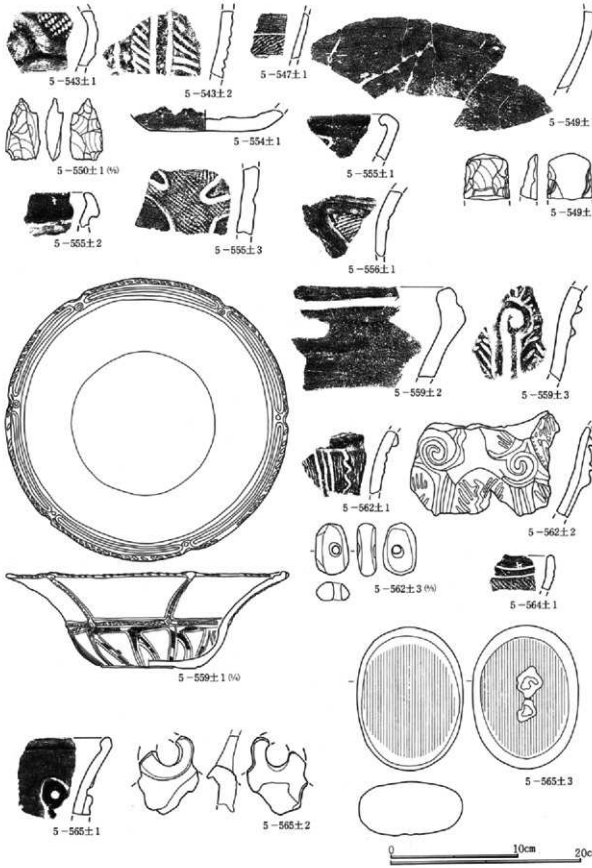
１は連結部が円形文となる隆線文。

５－578号土坑　（第153図：ＰＬ76）

１は凹石、裏表に一対づつの凹穴を持つ。

５－581号土坑　（第153図：ＰＬ76）

１は石鏃、先端部片である。２は小形の磨石。



第152図　土坑出土遺物（13）

５－585号土坑（第153図：ＰＬ76）

１は粗い調整痕。２は掻器か、縁辺部に刃部作出。

５－587号土坑（第153図：ＰＬ76）

１は完形の打製石斧、刃部薄く作られている。

５－589号土坑（第153図：ＰＬ76）

１は石錐、棒状で丁寧な作り。

５－591号土坑（第153図：ＰＬ76）

１はスクレイパー、三角形を呈し、刃部弧状。

５－599号土坑（第153図：ＰＬ76）

１は台石、扁平礫利用、使用面は平滑。

６区

６－131号土坑（第154図：ＰＬ76）

１は甕型土器で、２単位の小波状口縁、口縁部に沿って沈線を巡らし波頂部の沈線端に円形文、裏側にも円形文。沈線下部は隆帯状に肥厚し、連続の丸棒状工具による刻み目文、頸部以下ＬＲ縄文地文上に三角又は円形文を２本単位の沈線で磨り消し文様を描く。６－412号土坑、グリッド出土の破片と接合。２はやや小形の甕型土器で、２単位の小波状口縁、波頂部に円形文、口縁部に沿って沈線を巡らす。頸部に巡らした２条の沈線部にも円形文を配す。胴部は縄文地文とし２本単位の沈線で渦文を描き、これらを直線で連結している。沈線間は無文。３は肩部片、２本の併行沈線を横走させ無文帯と縄文部を画す。４は２本の沈線で幅広の無文帯を画し、以下無節Ｌ縄文施文。５は基部を欠く打製石斧、表に自然面残し、肉厚で刃部は摩耗。

６－132号土坑（第154図：ＰＬ77）

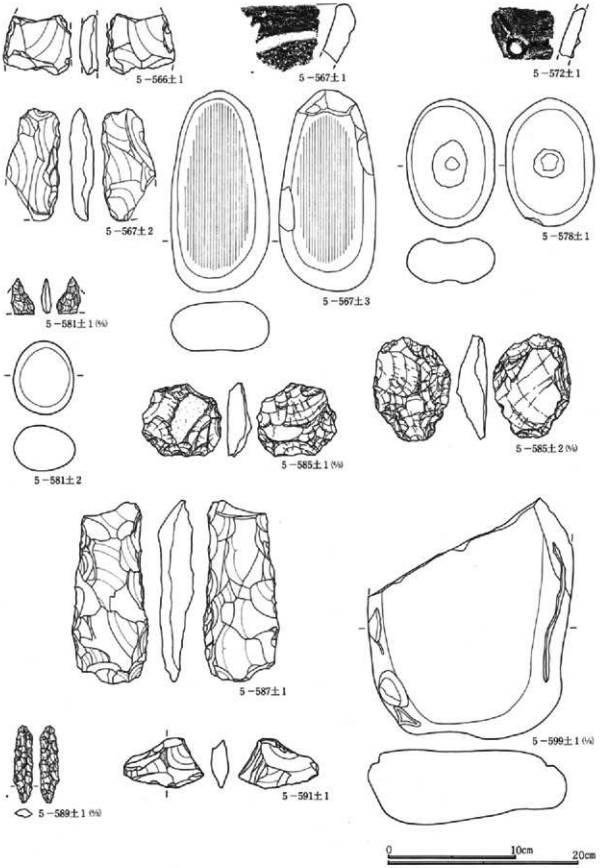
1は長円形の礫を利用した磨石、端部に打痕あり。

６－135号土坑（第154図：ＰＬ77）

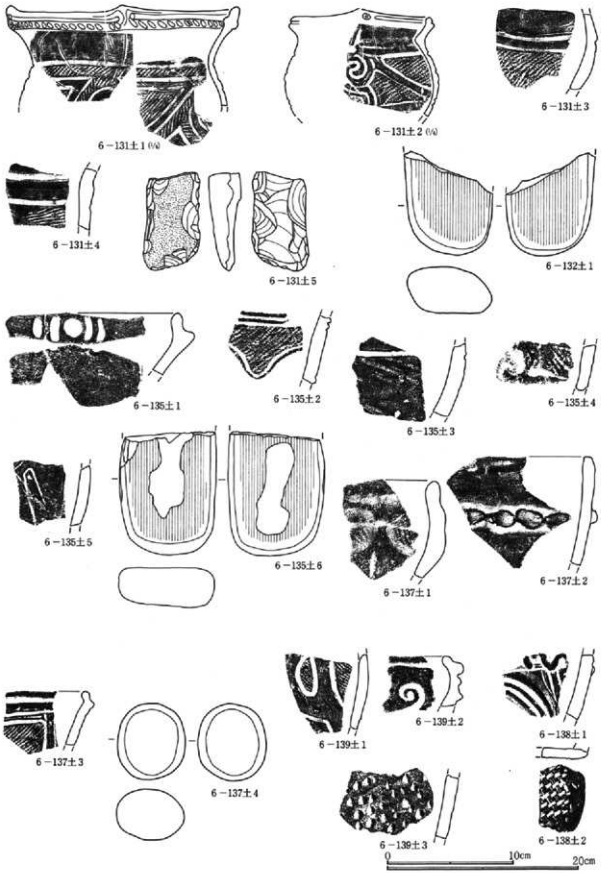
１は口縁部片、やや内屈する小波頂部に円形押圧文、左右に囲うように２本づつの短沈線を配す。２は地文に縄文、２本の平行沈線を横に描き、上位に曲線文様。３は丸棒状工具による沈線。４は隆線による曲線文を持ち、地には縄文が施文。５は沈線による∩状文が描かれる、地文の縄文は細かい。６は磨石である、半分に割れている使用面平滑。

６－137号土坑（第154図：ＰＬ77）

１は口縁部片口縁部に隆線による楕円区画文を持つと思われる、区画内は縄文が施文、胴部は縦位の磨消帯と見られる。２は粗製土器の口縁部片口縁部に沿って押圧隆帯が巡る。３は口縁部片、口唇部くの字に内屈し端部に丸み、沈線により矩形文を描き中は縄文ＬＲが充填施文される。４は小形磨石。



第153図　土坑出土遺物（14）



第154図　土坑出土遺物（15）

６－138号土坑（第154図：ＰＬ77）

１は複数の隆線により横位または曲線文を描き、縦位の平行沈線も見られる。また波状の隆線文が貼り付けられている。２は底部片、網代痕あり。

６－139号土坑（第154図：ＰＬ77）

１は沈線による磨り消し曲線文様。２は口縁部片、隆帯による渦文様。３は刺突文施文

６－140号土坑（第155図：ＰＬ77）

１は口縁部片、隆帯による縦Ｓ字文、横には縦位の沈線文。２は沈線による２重円形文様を描き内側に縄文施文、横に撫でによる凹線。３は隆線および沈線による曲線文様を描き、沈線文様内に連続刺突文。４は縦位の隆線文。５は無文口縁部片口唇部内屈し外面に横位沈線。６は口縁部片、口縁部下に横位、縦位の隆線が付され、交点に凹圧。７は口縁部片、口唇部外側へ三角に肥厚、無文部下の隆帯上に円形押圧文。８は口縁部内側に肥厚する無文土器。９は∩状の取っ手片、頂部両面に渦文を作り、沈線、刺突文を有す。

10は橋状取っ手片、頂部に円形刺突文。11は刃部を欠く打製石斧、全体に風化が著しい。12は磨製石斧の破片。基部、刃部を欠いている。13は磨石である、円形礫利用し表面は使用により極めて平滑。

６－144号土坑（第155図：ＰＬ77）

１は沈線区画文内に縄文施文、頸部には連続円形刺突文を有す横位隆帯。２は小形の磨製石斧である、刃部広がり部分的に自然面残す。

６－150号土坑（第155・156図：ＰＬ77）

１は打製石斧である、ほぼ完形で、刃部は薄く仕上げられている。２・３は台石である、２は菱形の大形扁平礫を用い、使用面は平滑である。３は破損しており円礫で使用面は平滑。

６－151号土坑（第156図：ＰＬ77）

１は深鉢底部片、胴部無文で底部に網代痕。

６－155号土坑（第156図：ＰＬ78）

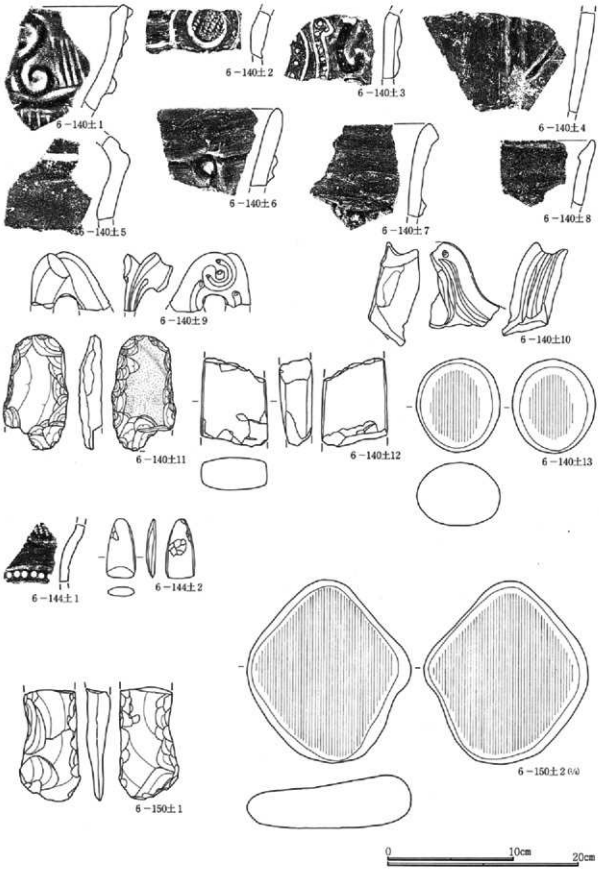
１は大形土器口縁部文様帯片、隆線による楕円、渦文を組み合わせた区画文を持ち区画内にはＲＬ縄文、円形刺突文が交互に見られる。胴部文様は縄文施文。内面に炭化物付着。２は波状口縁部片、口縁外面に幅広の無文部、胴部磨り消し縄文による曲線区画文を描く。３は打製石斧である肉薄の作りで刃部は摩耗している。４はスクレイパーである、刃部の作りは粗い。５は打製石斧、片面が肥厚、刃部を大きく欠損している。

６－156号土坑（第156図：ＰＬ78）

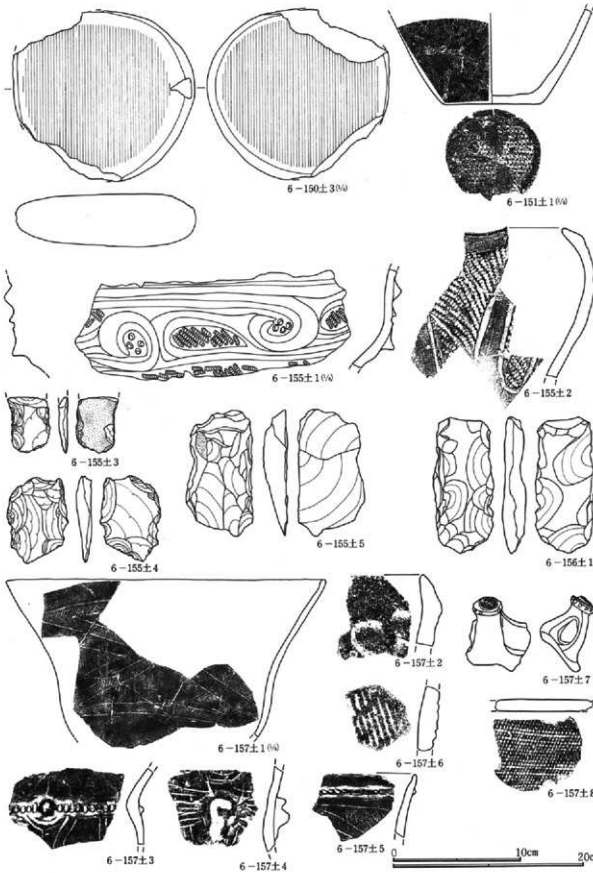
１は打製石斧である、完形で風化著しい。

６－157号土坑（第156図：ＰＬ78）

１は胴上半に三角形を基調とした磨り消し縄文。比較的薄手の作り、口唇部内側に肥厚。口径（34.0）cm。



第155図　土坑出土遺物（16）



第156図　土坑出土遺物（17）

２は口縁部片、隆帯による楕円渦巻き文。３は口縁部無文、頸部に刻み持つ隆帯が付き、以下重弧文、垂下文が沈線で描かれる。また沈線状に円形文。４は上端が渦巻きとなる平行垂下隆線、地文には細沈線による横位、縦位の併行線文様。５は口縁片、刻み有す隆帯が廻り、以下矩形磨り消し縄文。６は途中が切れる集合短沈線文。７は口縁部に付く突起片、板状でＶ状を呈し先端部は周囲に刻みを有す円形の突起となる、先端面は円形に肥厚し細縄文が渦巻き状に施文されている。８は底面に網代痕。

６－159号土坑（第157図：ＰＬ78）

１・２は磨石、１は卵形を呈し、２は不定形である。

6－162号土坑（第157図：ＰＬ78）

１は地文縄文で縦位磨り消し帯を持つ。２は２本の垂下隆帯と、横位集合沈線。３はやや大形の口縁部片、無文で内外面丁寧に研磨されている。

６－167号土坑（第157図：ＰＬ78）

１は口径(14.0)cm。やや内湾する口縁部、口縁部に沿って沈線が廻り以下縄文充填した沈線による円形文、蕨手垂下文を横に配し、円形文下には∩状文か。２は口縁部に隆帯文が配され波状を呈す口縁部片、口縁下には交互刺突文が廻る。３は隆帯下に沈線による重弧文。４は４カ所に円窓を持つ中空把手である。中央に太い沈線を持ち、上端部を欠損し突起の左右上部に円形文。５は口縁部橋状把手片、２枚の耳状突起が上端で開く形を呈す。把手の内面、外面には沈線による渦巻き文、交互刺突文を有す沈線文様が見られる。６は磨石である、表面の剥落が著しい。７は多孔石である、不定型な自然礫の表裏に複数の凹み穴を有す。

６－177号土坑（第157図：ＰＬ78）

１・２は同一個体の胴部片、縄文地文に垂下磨消帯と蛇行垂下文。６－162号土坑の１も同一個体片と見られる。

95区

95－１号土坑（第158図：ＰＬ78）

１は縦位多条線文。２は３本の垂下隆線、左右には横位の沈線文。３は地文に縦位多条線、低い隆線が屈曲して垂下する。４は２本の垂下沈線間に縄文施文。５は縄文地文で３本の垂下沈線、沈線間は無文。６は直立する口縁部片、無文で端部僅かに内屈。７は縦位の集合沈線。８は口縁突起部片、口縁からの隆線がぶつかって盛り上がり先端部に走る、断面円錐状の円形文が表裏に見られる。９はほぼ完形の打製石斧である。撥形を呈し、両面に自然面残す。刃部は摩耗している。

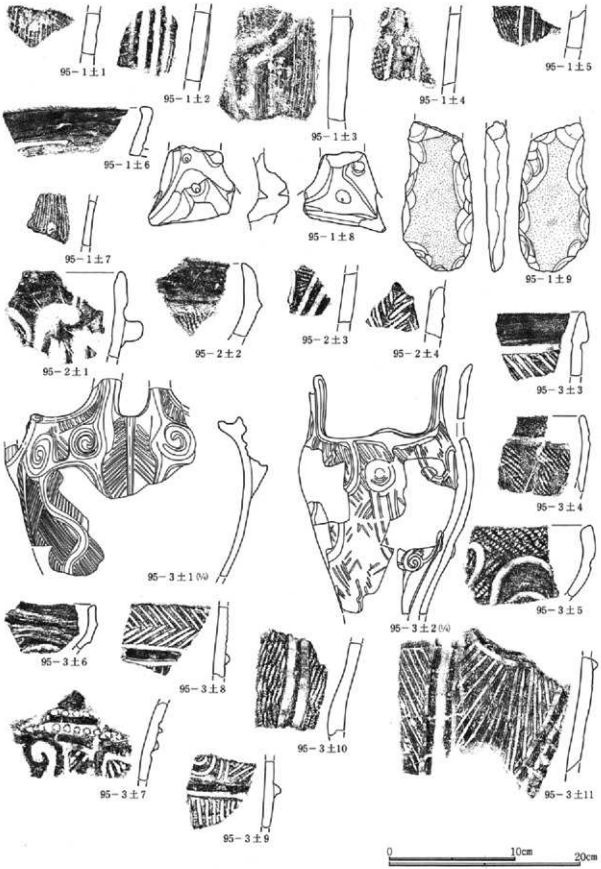
95－２号土坑（第158図：ＰＬ79）

１は隆帯を持つ口縁部片。２は口縁部無文、隆線下に縄文。３は縄文地文に沈線文、４は縦位綾杉状沈線文。

95－３号土坑（第158・159図：ＰＬ79）

１は一対の大きな円孔を持つ突起を有し、口縁部下に隆線により円形渦巻き文を横に配し、各渦巻きから

第157図　土坑出土遺物（18）



第158図　土坑出土遺物（19）

直線または波状の垂下隆線。地文には矢羽根状の集合沈線を充填する。口径（21.0）cm。２は口径14.5cm。

肩部に最大径を持ち、一対の篦状に伸びる取っ手を有す、取っ手下位に円孔。胴部には隆線による曲線文、渦文を描き、地文には乱雑に短沈線文を付す。３は口縁部肥厚し無文、下位には斜沈線文。４は口縁部無文帯、横位沈線巡らし以下ＬＲ縄文を縦位施文。５はＬＲ縄文充填後併行沈線による曲線無文帯。６は幅広の無文隆帯を持つ。７は２本の刺突文ｗｐ有す横位隆帯、下位には沈線による∩状文、蕨手状文、∩文内には斜沈線文。８は横位隆帯持ち上は横羽状沈線文、下は縦沈線か。９は横位隆帯の上に沈線により曲線文、下には縦沈線文。10は地文縄文に２本の垂下沈線。11は２本単位の隆線による弧状、垂下文、地文に斜位、縦位の沈線文。12はやや波打つ４単位の鍔状取っ手を持つ、以下胴部には羽状細縄文。鍔部分に赤彩痕残る。13・14は無文の口縁部片、13は端部僅かに内屈。15は無文の底部片。16は黒曜石製、小形完形の凹基無茎鏃である。17は打製石斧である。基部を欠く撥形と思われる。両面に自然面残し、刃部は摩耗している。
18は黒曜石製の石鏃未製品か。側縁に刃部調整が見られ石錐の可能性もある。

96区

96－５号土坑（第159図：ＰＬ79）

１は縄文、ＬＲ複節地に縦の沈線。２はＬＲ細縄文地に横位に複数の沈線、沈線部に上方向からの刺突が見られる。３は砂粒の目立つ胎土で、細縄文ＬＲが施文される。４は縦位集合沈線で中央に無文帯。５は弱く屈曲する頸部片、横に沈線、隆線、さらに垂下沈線を付す。

96－６号土坑（第159図：ＰＬ79）

１は横位隆帯下にＬＲ縄文施文。

96－８号土坑（第159図：ＰＬ79）

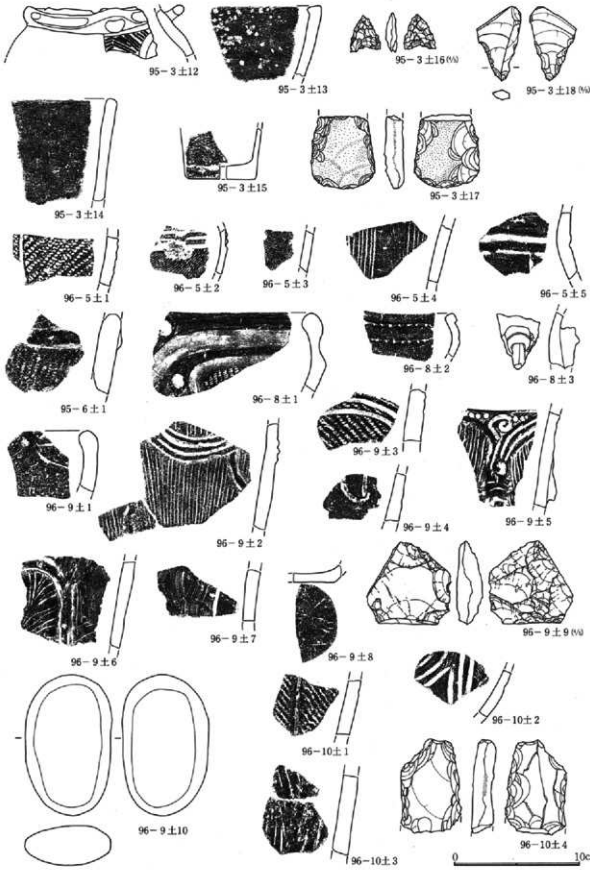
１は口縁部片、隆線による楕円区画文内に縄文施文。２は口縁部片、沈線による楕円文を描き、沈線内に刺突文を巡らす。３は断面三角の縦位隆帯の上端部に２本の隆帯を巻く。

96－９号土坑（第159図：ＰＬ79）

１は波頂部が肥厚。２は３本の隆線を弧状に配し、波状の隆線を垂下させている。地文は縦位集合沈線。３は縄文地文に併行沈線による曲線文を描く。４は沈線による垂下文様。５は隆線によるＹ状の曲線を描き、上部に渦巻き文、刺突文、左右に縦位の集合沈線、また隆線上に瘤状貼り付け文。６は隆線による曲線文、斜状沈線を付す。７は擬歯による（ ）状集合沈線を描き、沈線による文様を描く、沈線内は無文。８は底部片、底に木葉痕。９は二次加工片である、一部に剥離調整。10は磨石、小判形の扁平な礫、表面がざらつく。

96－10号土坑（第159図：ＰＬ79）

１は縦位ＬＲ縄文地に縦の沈線。２は地文に細いＬＲ縄文施文後複数本の沈線で曲線文様。３は２本の縦位隆線、隆線間は無文で、縦位沈線を配す。４は打製石斧。短冊形か、刃部および基部の一部を欠損している。



第159図　土坑出土遺物（20）

表2　住居・柱穴列・土坑・ピット一覧表

5区

番号	位置	形状	規模	壁	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考	図・PLNo.
19	H-13・14	楕円形	453×354×40	N-0°	有無ヽ	12		縄文前期	(1)で一部断面図	第5・9図・P.13
19	W-Y-9	円	630×(400)×－	N-20°-W	有無ヽ、土器			鎌倉内		第12図・P.13
20	EY-6A-6	円	330×300×15	N-50°-W	有無ヽ、土器					第14図・P.14・6・7
21	X-Y-5	円	310×(300)×22	N-5°-W	有無ヽ					第17図・P.15
22	X-Y-3	楕円形？	(530)×(410)×－	N-17°-E	有無ヽ					第20図・P.15
23	G・H-15	楕円形？	(400)×(500)×19	N-10°-E	有無ヽ					第23図
24	EY-6A-2・3	円	(480)×(480)	N-82°-W	有無ヽ					第25図・P.15
25	X-Y-7	円	(530)×(480)×15	N-2°-E	有無ヽ	規模				第27・28図・P.16・7
26	X-9	円	500×(500)×30	－	未検出	規模ヌ				第31図・P.16・7
27	X-3	円か	－	N-10°-W	有無ヽ、炉地土器					第32図・P.17
29	G-10・11	不定方形	290×(89)×48	N-71°-W	カマド		土師器甕、鉄製品	平安末		第37図・P.18
30	D・E-11・12	円	500×559×30	N-15°-W	有無ヽ					第38・39図・P.18・9
31	C・F-10・11	円	495×(395)×25	N-2°-E	有無ヽ					第43・44図・P.19
32	F-G・9・10	方形か	400×(60)×20	N-2°-E	カマド		鉄鏃	平安末		第46図・P.19・44
33	E・F-9・10	隅丸方形	380×(320)×25	N-2°-E	有無ヽ、炉地土器	7				第48図・P.19
34	C・F-10・11	円	530×505×30	－	土器と土師質					第51図・P.19	
35	G・H-13・14	円	580×(515)×12	－	不明					第53図・P.19	
36	F・G-12・14	円	595×(580)×20	N-20°-W	有無ヽ、土器					第56・59・60図・P.19・12	
37	E・12 F-12・13		602×(244)	－						第66・67図・P.19	
38	E・F-12・13		500×(120)	－						第70・71・72図・P.19・13	
39	D・12 E-12・13		620×(300)×50	－						第70・71・72図・P.19	
40	G-14・15		(600)×(400)×30	N-60°-E	有無ヽ					第82図・P.13	
41	E・10・11		(460)×(460)×－	N-83°-E					削平著しい	第83図・P.13・14	
42	F-G-11	円形	(420)×(420)×10	－	有無ヽ中	5			5-29住に削平	第85図・P.14	
43	A-11	円形	305×(305)×24	N-4°-W	有無ヽ					第86図・P.14	
44	D・E-9・10	円形	(360)×(360)×0	N-4°-W	有無ヽ	6		1号炉→変更	削平著しい	第87図・P.14・10	
53	F-G・10・11	円形	(360)×(360)×0	N-82°-E	有無ヽ中	6	規模	3号炉→変更	5-29住に削平	第90図・P.15	

6区位置

番号	位置	形状	規模	方位	炉	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考	図・PLNo.
9	A-7・8	円	600×390×30	N-7°-E	有無ヽ				中期後葉		第96図・図版・PL7・15・16

5区柱穴列

番号	位置	形状	規模	方位	炉	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考	図・PLNo.
1	H・I-13・14	円又は楕円	(74)×7.4			8		無し	縄期	柱痕あり	第96図・P.16

3区土坑

番号	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考	図・PLNo.
4	X・Y-15	楕円形	80×72×33	－		平安以降		第103図・P.18
5	O-13	長円形	213×190×15	N-50°-E		平安以降		第103図・P.18
6	F-13	長円形	200×85×35	N-30°-W		平安以降		第103図・P.19
7	P・Q-14	長円形	194×80×30	N-90°		平安以降		第103図・P.19
8	Y-6	長円形	160×100×65	N-18°-E		平安以降		
9	X-Y-5	長円形	185×128×20	N-10°-W		平安以降		
10	X-5	不整形	172×113×75	N-12°-E		平安以降		
11	X-6・7	長円形	220×165×70	N-5°-W		平安以降		
12	W-7	不整形	180×130×135	N-90°		平安以降		
13	U-7・8	長円形	200×155×115	N-37°-W		平安以降		

4区土坑

番号	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考	図・PLNo.
32	X-12	不円形	(62)×104×161	N-28°-E			平1年度砂寄土坑を変更	第104図・P.19
33	E-10	長円形	120×96×20	N-65°-W				第104図・P.19
34	E-10	円形	100×90×30	－	土師片			第104図・P.20
35	C・D-11	不整形	90×80×	－				第104図・P.20
36	E-11	長円形	130×(86)×30	N-40°-W				第104図・P.20
37	D-11	長円形	100×60×28	N-50°-E				第104図・P.20
38	C-12	円形	95×60×20	－				第104図・P.20
39	D-11	長円形	205×100×58	N-41°-W	縄文六			第104図・P.20
40	A-12	長円形	75×60×17	N-45°-E	土器片			第105図・P.20
41	C・D-10	長円形	200×135×16	N-44°-W	土器片		底面、焼結を持つ	第105図・P.20
42	Y-11・12	長円形	(62)×70×54	N-15°-W		縄文六	平11年度砂寄土坑を変更	第105図・P.21
43	Y-11	長円形	(46)×30×25	N-15°-E				第105図・P.21
44	Y-11	長円形	248×155×143	N-10°-W				第105図・P.21
45	Q-13 R-13・14	長円形	(80)×70×30	N-40°-E			平13	
46	V-W-12	長円形	(113)×86×36	N-8°-W			平13	

5区土坑

番号	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考	図・PLNo.
273	H-2	楕円形	(84)×(66)×45	N-5°-W	セクあり　全あり			第106図・P.21
274	H・I-11・12	不整形	(82)×75×40	N-40°-W	セクあり　全あり			第106図・P.21
275	欠番		28号住P.94に変更					
276	欠番		28号住P.106に変更					
277	欠番							
278	欠番		28号住P.111に変更					
279	欠番		28号住P.121に変更					
280	欠番		28号住P.131に変更					
281	X-Y-3	楕円形	(85)×(40)×100	N-10°-W	大形の自然礫	縄文六		第106図・P.21
282	X-3・4	長円形	(140)×75×35	N-60°-W	底面に礫			第106図・P.21
283	X-3・4	長円形	(42)×(40)×40	N-0°		縄文六		第106図・P.21
284	X-5	長円形	(87)×85×20	N-8°-W	自然礫	縄文六		第106図・P.22
285	X-5	楕円形	(50)×(60)×20	N-50°-W				第106図・P.22
286	X-5	楕円形	(200)×(112)×120	N-80°-E	自然礫	縄文六	東部分未調査	第107図・P.22
287	X-5・6	長円形	(83)×80×45				5-384号土坑（縄文六）に切られる	第107図
287	H-12・13		(83)×52×106				5-40号住セクト3	
288	X-6	円形	(62)×55×14	－			平9	第107図
289	X-6	円形	(58)×(52)×20	－				第107図
290	X-6	円形	(51)×50×26	－				第107図
291	W-X-6	楕円形	(66)×(50)×45	N-10°-W				第108図
292	W-6	楕円形	(60)×(50)×60	N-88°-W				第108図
293	X-9	円形	(90)×(80)×6	－				第108図・P.22
294	W-X-9	長円形	(100)×(85)×43	N-80°-W			舞土中位に礫	第108図・P.22
295	W-9	円形	(63)×(60)×20	N-35°-W				第108図・P.22
296	W-8・9	楕円形	(100)×(83)×22	N-10°-W				第108図・P.22
297	W-7・8	不整形	(70)×75×11	N-40°-E				第108図
298	W-7・8	不整形	(90)×(82)×12	－				第108図
299	W-X-7	円形	(43)×37×45	N-40°-W				第108図
300	X-7・8	不整形	(76)×(56)×18	N-0°				第109図
301	X-7・8	円形	(64)×(62)×40	－				第109図
302	X-7	円形	(33)×31×20	N-10°-E				第109図
303	X-7	不整形	(97)×(78)×25	N-75°-W				第109図
304	X-7	円形	(50)×(43)×35	N-30°-E				第109図
305	W-7	円形	(58)×(56)×25	－				第109図
306	W-7	楕円形	(29)×(26)×20	N-40°-E				第109図
307	X-7	不整形	(65)×(54)×16	N-80°-W				第109図

番号	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考	図・PL No.
408	X－6	楕円形	67×48×22	N－80°－W				第109図
409	X－7	円形	55×52×17	N－0°				第109図
410	X－6	楕円形	48×22×10	N－5°－E				第109図
411	X・Y－7	楕円形	63×40×56	N－5°－W				第110図
412	W・Z－7	楕円形	82×73×22	N－20°－W				第110図
413	Y－6	不整形	70×70×25	N－60°－E				第110図
414	Y－6	不整形	73×47×30	N－70°－E				第110図
415	X－6	不整形	87×83×20	－				第110図
416	W－6	円形	90×36×32	N－55°－E				第110図
417	W－6	長円形	107×80×30	N－35°－E				第110図
418	W－6	長円形	(140)×110×115	N－50°－E	礫、土器片	縄文前	竪穴	第110図；P L.22
419	W－6	円形	120×118×58	N－60°－W	礫、土器片		上端に複数の礫	第111図；P L.23
420	W－5	円形	48×46×35				4世紀の竪穴に切られる	第111図
421	W－5・6	長円形	82×55×25	N－5°－W			4世紀竪穴を切る	第111図
422	X－5	長円形	101×70×12	N－80°－W				第111図
423	X－5	円形	55×50×23	N－86°－W				第111図
424	X－5	楕円形	65×50×33	N－10°－E				第111図
425	X－5	楕円形	80×60×17	N－10°－W				第111図
426	X－5	楕円形	110×78×22					第111図
427	W－6	円形	100×100×52		2つある		柱痕か　柱穴の可能性あり	第111図
428	Y－5	長円形	90×30×26	N－80°－E				第112図
429	Y－5	円形	35×30×17	N－70°－W				第112図
430	X・Y－5	不整形	85×52×	N－35°－E				第112図
431	X－5	円形	95×87×45	－	完形土器、礫			第112図
432	X－4	円形	50×43×25	N－80°－E				第112図
433	W－4・5	長円形	50×37×	N－55°－W				第112図
434	Y－5	円形	35×32×23	N－80°－W				第112図
435	Y－5	円形	50×45×28	N－80°－E				第112図
436	X－6	不整形	88×60×30	N－10°－W				第112図
437	W－5	円形	65×58×45	－	礫			第112図
438	X－7	楕円形	60×77	N－85°－W				第113図
439	Y－7	円形	70×68×45	－	礫、土器片			第113図
440	Y－2・3	楕円形	108×92×74	N－0°				第113図
441	Y－2	不整形	65×74×60	N－85°－W				第113図
442	X－3	長円形	85×70×55		2つある			第113図
443	Y－1	円形	60×78×35					第113図
444	Y－1	手円形	88×23×25					第113図
445	Y－1	円形	65×89×35	N－47°－W				第113図
446	X－2	円形	55×46×10	N－20°－W				第114図
447	Y－3	円形	75×85×30	－				第114図
448	X－3	長円形	34×34		土器底部片			第114図
449	W－5	不整形	37×48×43	N－15°－E				第114図
450	X・Y－7	楕円形	25×43×23	N－5°－W				第114図
451	W－6	円形	30×22×－	N－0°				第114図
452	欠番							
453	W－4	不整形	75×56×18	N－35°－W				第114図
454	Y－6	楕円形	75×70×20	円				第114図
455	X－6	不整形	(30)×56×	不整形				第114図
456	X－6	不整形	(22)×46×	不整形				第114図
457	X・Y－5	楕円形	55×38×32	N－70°－E				第114図
458	X－5	円形	50×48×20	N－15°－E				第114図
459	W－6	円形	30×32×32	円				第114図
460	X－3	不整形	(43×(30)	不整形				第116図
461	X－3	長円形	(45×90×60	N－10°－E	大形土器片	縄之円	土坑墓	第116図；P L.23
462	X－3	不整形	43×(30)	円				第116図
463	X－3	楕円形	45×(42)×38	N－20°－E				第116図
464	X－3	半円形	30×(30)	不整形				第116図
465	X－3	円形	42×45	N－80°－E				第116図
466	X－3	円形	20×26	N－22°－E				第116図
467	X－3	不整形	40×37	N－30°－W				第116図
468	X－3	円形	35×38	N－68°－E				第116図
469	X－3	円形	48×43	N－10°－W				第116図
470	X－3	円形	30×31	不整形				第116図
471	X－3	楕円形	41×36	N－20°－W				第116図
472	X・Y－3	不整形	67×50	N－0°				第116図
473	X－3	楕円形	25×23	N－30°－W				第116図
474	X－3	円形	32×30	不整形				第116図
475	X－3	円形	32×30	円				第116図
476	X・Y－3	不整形	43×25	不整形				第116図
477	X－3	円形	45×46	円				第116図
478	X－3	楕円形	62×82	N－70°－E				第116図
479	X－3	円形	60×60	N－35°－E				第116図
480	X－2	楕円形	66×63	N－80°－E				第116図
481	X－2	楕円形	55×45	N－50°－E				第116図
482	X－2	楕円形	40×39	N－15°－E				第116図
483	X－3	円形	43×42	円				第116図
484	X－3	円形	50×45	N－15°－E				第116図
485	Y－3	円形	30×30	円				第116図
486	Y－3	円形	27×30	N－80°－W				第116図
487	Y－3	不整形	25×30	不整形				第116図
488	欠番							
489	欠番							
490	Z－11・12	粗不明			附元埋宅	中世以降	礫集中、掘込み面不明	第241図；P L.44
491	Z－11・12	粗不明				中世以降	礫集中、掘込み面不明	第241図；P L.44
492	欠番						29号埋のカマド	
493	G－12	円形	(25)×45×30	N－0°				第116図；P L.23
494	H－11	円形	86×83×11	N－90°			遺構に礫集中	第116図；P L.23
495	H－11	楕円形	85×65×40	N－20°－E				第116図；P L.23
496	H－11・12	不整形	82×60×112	N－10°－W				第116図；P L.23
497	H－11・12	円形	118×106×135	N－30°－E		平安以降	掘っ穴	第116図；P L.24
498	H－12・13	円形	300×250×182	N－15°－W		平安以降	掘っ穴	第117図；P L.24
499	G－10	楕円形	166×110×145	N－75°－W		平安以降	掘っ穴	第117図；P L.24
500	D・E－10・11	円形	224×200×215.5	N－0°		平安以降	掘っ穴	第118図；P L.24
501	D－10	楕円形	250×133×145	N－80°－W		平安以降	掘っ穴	第118図；P L.24
502	E－9・10	長円形	196×111×136	N－20°－E		平安以降	掘っ穴	第119図；P L.25
503	G－11	楕円形	162×80×45	－				第119図；P L.25
504	H－11	楕円形	85×70×53	N－85°－W				第119図；P L.25
505	H－11	不整形	(53)×116	N－30°－E				第119図；P L.25
506	G－10	不整形	62×62×32	N－30°－E				第119図；P L.25
507	G－11	不整形	75×106×63	N－2°－E				第119図；P L.25
508	G－11	不整形	124×59×31	N－40°－E			掘に太架の礫出土	第119図；P L.25
509	G－10	円形	57×58×30					第120図；P L.26
510	G－10	円形	70×62×40					第120図；P L.26